“Zoom-Zoom”・・・

それは英語で「ブー、ブー」という車の走行音をあらわす、子供言葉です。
誰でも、子供の頃は、動くことに対するあこがれがありました。
車のエンジン音が響くと、ドキドキする感じ。
カラダがビュンビュン流れる時の、快感。
めまいがするようなうれしさ。

きっと、みんな知っていたはずです。
でも、大人になると、ちょっと忘れていたりする。
それを、マツダは忘れません。
それが、私たちの“Zoom-Zoom”の意味。

小さい時に知っていた、
ウズウズするような走る喜びを忘れていない皆様のために、
素晴らしいクルマを作り続けます、という
私たちの新しいブランド・パーソナリティのコア・エッセンスです。

このたびは、AXELAをお買い上げいただき、ありがとうございます。

本書は、安全で快適なドライブをお楽しみいただくために、お車の正しい取り扱いや簡単なお手入れ方法について説明しています。ご使用前に必ずお読みください。
「必読！安全ドライブのために」のところは特に重要ですので、よく読んでおいてください。

安全にお車を使用していただくために守っていただきたいことを、下記の表示で区分して記載しています。これらは重要ですので、必ず読んでお守りください。

⚠ 警告	取り扱いを誤った場合、死亡または重大な傷害を負う可能性のあるもの
⚠ 注意	取り扱いを誤った場合、傷害を負ったり車両の損傷につながる可能性のあるもの

本書内で使用している下記の表示は次の内容を示しています。

知識	知っておいていただきたいこと 知っておくと便利なこと
×	イラストで表現している内容の禁止を意味しています。

お車に表示されている下記のマークは次の内容を示しています。必ず本書の説明を読んでご使用ください。

	詳しい説明を本書に記載しています。

- グレードや仕様により異なる装備については グレード/仕様別装備 をつけています。
- マツダ販売店で取り付けられた装備品は、付属の取扱説明書をご覧ください。
- お車の保証および点検、整備要領については、別冊の「メンテナンスノート」をご覧ください。
- 本書は別冊のメンテナンスノートとともに、いつもお車に保管してください。
- ナビゲーションシステム装備車は別冊の取扱書をあわせてご覧ください。

- お車をゆずられるときは、次のオーナーのために、本書をお車につけておいてください。
- お車の仕様変更などにより、本書の内容の一部が車両と一致しない場合がありますので、あらかじめご了承ください。
- 本書の内容には、Z6-VE型エンジンの情報など、教習車の情報を含んでおります。

目次

ハンドルまわり

車両や仕様変更などにより取り付け位置および装備が異なります。

運転席まわり

車両や仕様変更などにより取り付け位置および装備が異なります。

室内

車両や仕様変更などにより取り付け位置および装備が異なります。

フロント外観 (セダン)

車両や仕様変更などにより取り付け位置および装備が異なります。

リヤ外観 (セダン)

 車両や仕様変更などにより取り付け位置および装備が異なります。

フロントト外観 (ハッチバック)

① ボンネット 140ページ
② フロントワイパー 183ページ
③ ドアロック 126ページ
④ タイヤ 392ページ
⑤ 電球 (バルブ) 390ページ

車両や仕様変更などにより取り付け位置および装備が異なります。

リヤ外観 (ハッチバック)

 車両や仕様変更などにより取り付け位置および装備が異なります。

詳細目次

1 必読！安全ドライブのために

2 安全装備

3 操作と取り扱い

4 快適カーライフのために

5 万一のときは

6 車との上手なつきあいかた

1 必読！安全ドライブのために

安全のために知っておいていただきたいこと、守っていただきたいことをまとめております。よく読んでお守りください。

点検は必ず実施する

安全で快適な運転をするために、日常点検整備および定期点検整備を実施することが法律で義務づけられています。
点検要領については別冊のメンテナンスノートを参照してください。
いつもと違う点に気づいたら、早めにマツダ販売店で点検を受けてください。

日常点検としてバッテリー液の量を定期的に点検する

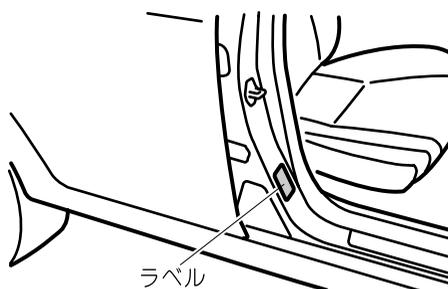
バッテリー液の量が下限 (LOWER LEVEL) より不足している状態でエンジンを始動すると、破裂 (爆発) につながるおそれがあり危険です。バッテリー液が不足しているときは、エンジン始動前に必ず補充液または蒸留水を補充してください。
→42ページ「バッテリーの取り扱いに気をつける」
点検、補充の要領は別冊のメンテナンスノートを参照してください。

日常点検としてタイヤを定期的に点検する

タイヤの点検は法律で義務付けられています。
タイヤは以下の点検をしてください。

- タイヤの空気圧
- タイヤのき裂·損傷
- タイヤの溝の深さ、異常摩耗

点検要領については別冊のメンテナンスノートを参照してください。

タイヤの空気圧は必ず指定空気圧に調整する

タイヤの空気圧が不足したままで走行しないでください。タイヤの空気圧が不足していると車両の安定性を損なうばかりでなく、タイヤが偏摩耗したりします。また、タイヤの空気圧が不足したままで高速走行すると、タイヤがバースト (破裂) するなどして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
適正空気圧は、運転席ドアを開けたボディー側に貼付されているラベルで確認してください。

タイヤの側面などにき裂や損傷のあるタイヤを装着しない

- 異常があるタイヤを装着しないでください。
  - 異常があるタイヤを装着すると、走行中にハンドルがとられたり、異常な振動を感じることがあります。
    また、パンクやバースト (破裂) などにより思わぬ事故につながるおそれがあります。
    走行中、異常な振動を感じた場合はマツダ販売店で点検を受け、正常なタイヤと交換してください。
  - 異常のあるタイヤを装着していると、車の性能 (燃費･走行安定性･制動距離など) が十分に発揮できないばかりでなく、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、部品に悪影響をあたえるなど、故障の原因になるおそれがあります。
- 道路の路肩などにタイヤの側面を接触させたり、凹凸やわだちの乗り越しは避けてください。タイヤの損傷、き裂などをまねくおそれがあります。

摩耗限度をこえたタイヤは装着しない

タイヤの溝の深さが少ないタイヤや摩耗限界表示 (ウェアインジケーター) が現れているタイヤを使用しないでください。そのまま使用すると、制動距離が長くなったり、雨の日にハイドロプレーニング現象※により、ハンドル操作ができなくなったり、タイヤがバースト (破裂) するなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。摩耗限界表示が現れたらすみやかに正常なタイヤと交換してください。

→359ページ「タイヤの点検」

※ぬれた路面を高速で走行すると、タイヤと路面の間に水の膜ができ、タイヤが浮いた状態になり、ハンドルやブレーキが効かなくなる現象。

外気取り入れ口をふさがない

フロントガラス前部の外気取り入れ口が、雪や落ち葉などでふさがっているときは取り除いてください。外気が導入できないため、車内の換気が十分できなくなるおそれがあります。

指定燃料以外の燃料を補給したり、純正以外の燃料添加剤を使用しない

- 指定燃料以外の燃料を補給したり、純正以外の燃料添加剤を使用しないでください。
  →380ページ「燃料」
  有鉛ガソリンや粗悪ガソリン、軽油、アルコール系燃料を補給すると次のような悪影響をおよぼします。
  - エンジンや燃料系部品が損傷したり、最悪の場合車両火災につながるおそれがあります。
  - エンジンの始動性が悪くなるおそれがあります。
  - ノッキングが発生したり、エンジンの出力が低下するおそれがあります。
- バイオ燃料混合ガソリンをお使いになることもできます。
  →137ページ「燃料補給口」
- L3-VDT型エンジン車は、無鉛プレミアムガソリンが入手できない場合、無鉛レギュラーガソリンをお使いになることもできますが、エンジンの性能を十分発揮できないことがあります。
  また、エンジン始動時やアクセルペダルを踏み込んだときに、異音が聞こえることがあります。

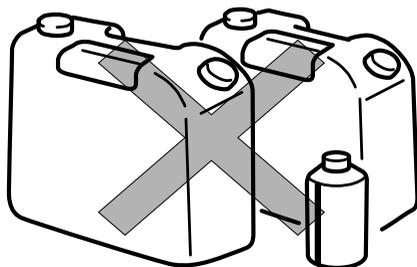
燃料補給時の注意

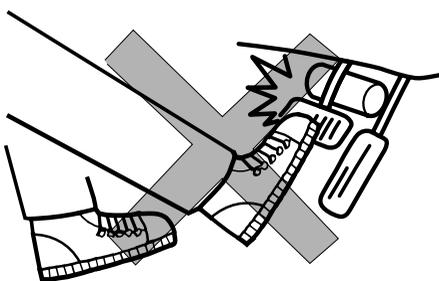
- 必ずエンジンを止めてください。火災につながるおそれがあります。
- 燃料を補給するときは、必ず次の点を守ってください。身体に静電気を帯びたまま作業をすると、放電による火花で燃料に引火、爆発し重大な傷害につながるおそれがあり危険です。
  - 燃料補給作業は必ず一人で行ない、補給口に他の人を近づけないでください。
  - 静電気を除去するため、フューエルキャップを開ける前には、車体または給油機などの金属部分に触れてください。
  - 静電気の放電を防ぐため、フューエルキャップの開閉は必ずツマミ部分を持って行なってください。
  - 再帯電を防ぐため、燃料を補給する人は給油中に車内のシートに座らないでください。
- 補給口にはタバコなどの火気を近づけないでください。火災につながるおそれがあります。
- 給油ノズルは確実に給油口へ差し込んでください。給油ノズルが確実に差し込まれていないと、オートストップの作動が遅れ、燃料が吹きこぼれるおそれがあります。
- 給油ノズルのオートストップ作動後は、追加給油しないでください。オートストップ作動後に追加給油すると、燃料があふれ出るおそれがあります。
- フューエルキャップを開けるときは、ゆっくりとゆるめ、空気の抜ける音が止まってから取りはずしてください。急に開けると、燃料が噴き出すことがあるため火災につながったり、目や皮膚に付着すると傷害につながるおそれがあります。

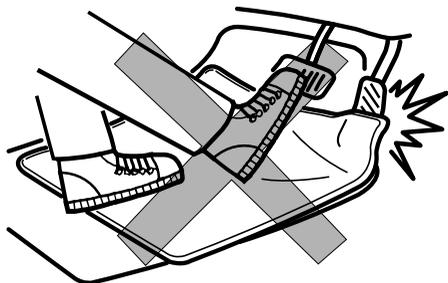
- フューエルキャップは、確実に閉めてください。キャップが確実に閉まっていないと、走行中に燃料がもれ、火災につながるおそれがあります。
- 純正部品以外のフューエルキャップは使用しないでください。燃料装置や排出ガス発散抑止装置などの故障につながるおそれがあります。
- ドアや窓を必ず閉めて燃料を補給してください。火災になった場合、室内に燃え広がるおそれがあります。
- 気化した燃料を吸い込まないよう注意してください。人体に有害な成分を含んでいる燃料があります。特にアレルギー体質の方は、注意してください。

荷物を積むときは固定する

荷物を積むときは、そのまま置いたり積み重ねたりせず、確実に固定してください。走行中に荷物が移動したりくずれたりしてけがや思わぬ事故につながるおそれがあります。
また、シート背もたれの高さを越えないようにしてください。後方、側面の視界が悪くなるため危険です。

可燃物、危険物は積まない

燃料のはいった容器やスプレー缶は積まないでください。爆発、火災につながるおそれがあり危険です。

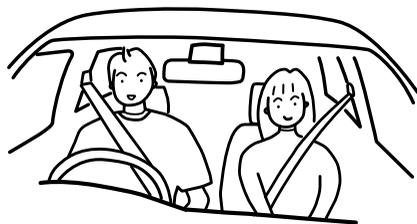
運転席足元には物を置かない

運転席足元にあき缶などの物を置かないでください。ブレーキペダルやアクセルペダルに物がはさまったりすると、ブレーキやアクセルペダルが正しく操作できなくなるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

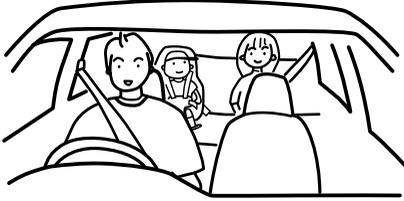
フロアマットは車に合ったものを使用する

車に合ったものを、フロアカーペットの上にしっかり固定して使用してください。
フロアマットを敷くときは次の点を守ってください。フロアマットがすべったり、ブレーキペダルやアクセルペダルにフロアマットが引っかかるなど、ペダル操作のさまたげとなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- 大きすぎるフロアマットは使用しない
- フロアマットは重ねて使用しない

正しい運転姿勢に調節する

走行前には、シート、ヘッドレスト、ハンドルの位置を正しい運転姿勢がとれるように調節してください。
→48ページ「正しい運転姿勢」

シートベルトは全員着用する

走行する前に運転者はもちろん同乗者にも必ずシートベルトを正しく着用させてください。シートベルトを着用していないと、急ブレーキ時や衝突時などに身体が拘束されないため車内の物に打ちつけられたり、車外に放りだされ、重大な傷害につながるおそれがあります。
→59ページ「正しい着用のしかた」

お子さまはリヤシートに乗せる

お子さまはリヤシートに乗せるほうが安全です。助手席に乗せるとお子さまの動作が気になったり、お子さまが運転装置などにさわり、運転のさまたげになることがあります。

お子さまにもシートベルトを着用させる

- お子さまはできるだけリヤシートに座らせ、必ずシートベルトを着用させてください。お子さまを抱いたり、ひざの上に乗せたりすると、急ブレーキ時や衝突時に十分に支えることができず、お子さまが投げ出されたり押しつぶされ、重大な傷害につながるおそれがあります。
- シートベルトが首や顔などにあたったり、腰骨に正しく着用できないお子さまには、別売りのベビーシート、チャイルドシート、ジュニアシートをお使いください。ベビーシート、チャイルドシート、ジュニアシートを使用しないと、万一の場合シートベルトの効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。
- お子さまがエアバッグの前に立っていたり、正しい姿勢で座っていなかったりすると、エアバッグが作動したときに強い衝撃を受け、お子さまの命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

お子さま専用シートは次の表を目安に選択してください。詳しくはマツダ販売店にご相談ください。

マツダ純正品の場合

ISOFIX対応チャイルドシート固定ロアアンカレッジで固定するタイプ

種類	体重	身長	参考年齢
チャイルドシート	9～18kg位まで	約70cm～100cm位まで	8か月～4才位まで

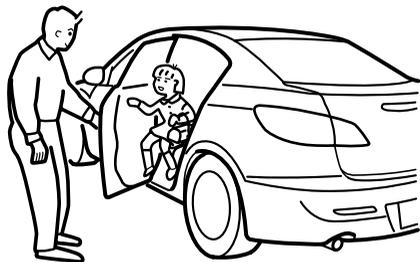
上記タイプ以外

種類	体重	身長	参考年齢
ベビーシート	13kg位まで	約80cm位まで	～18か月位まで
チャイルドシート	9～18kg位まで	約70cm～100cm位まで	8か月～4才位まで
ジュニアシート	15～36kg位まで	約95cm～150cm位まで	3才～12才位まで

チャイルドシートは正しく取り付ける

- 助手席には絶対にベビーシートやチャイルドシートを後ろ向きに取り付けないでください。エアバッグが膨らむと、ベビーシートやチャイルドシートの背面に強い衝撃が加わり、お子さまの命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあり危険です。やむをえず助手席にチャイルドシートを取り付けるときは、必ず前向きに取り付け、シートを最後部まで移動させてください。
  助手席側のサンバイザーに、同内容の警告ラベルが表示されています。合わせてご覧ください。
- ベビーシート、チャイルドシートを取り付けたときは、確実に取り付けられていることを確認してください。取り付けかたは、それぞれの商品に付属している取扱説明書に従って取り付けてください。
  またチャイルドシート固定ロアアンカレッジで固定するタイプのチャイルドシートをお持ちのお客様は70ページの「ISOFIX対応チャイルドシート固定ロアアンカレッジ&トップテザーアンカレッジ」もあわせてお読みください。

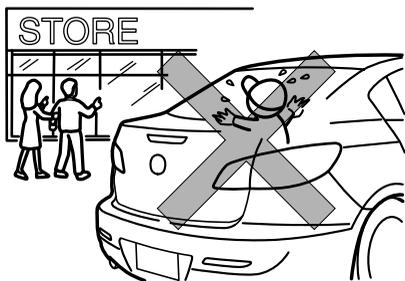
· ISOはInternational Standard Organization (国際標準化機構) の略です。

ドア、窓ガラスの開閉は大人が操作する

お子さまにはドア、窓ガラスの開閉をさせないでください。手、足、首などをはさんだりして重大な傷害につながるおそれがあります。

- パワーウインドーロックスイッチはロックの位置にしてください。
  →134ページ「パワーウインドー」
- ドアを閉めたあとは必ず施錠してください。
- チャイルドプルーフは施錠側にしておいてください。
  →127ページ「チャイルドプルーフ」

窓から手や顔を出させない

走行中はお子さまが窓から手や顔を出さないよう注意してください。車外の物に当たったり、急ブレーキを踏んだとき、重大な傷害につながるおそれがあります。

車から離れるときはお子さまも一緒に連れていく

車から離れるときはお子さまだけを車内に残さないでください。

- お子さまのいたずらにより、装置の作動、車の発進、火災など思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 炎天下の車内はたいへん高温になり、お子さまが脱水症状を起こすおそれがあります。症状がひどくなると脳に障害が残ったり、最悪の場合死に至るなどお子さまの命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

SRSエアバッグシステムの注意

73ページの「SRSエアバッグシステム」をよくお読みください。

お車に乗る前に

SRSエアバッグシステムはシートベルトの働きに加えて乗員を保護する装置であり、シートベルトに代わるものではありません。シートベルトは必ず着用してください。

用品の交換、取り付けなどについて

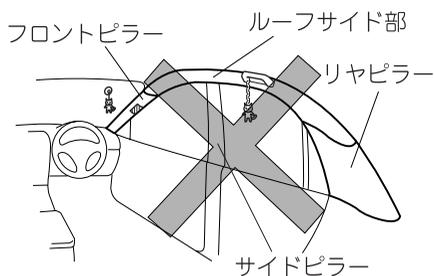
- ハンドルを交換しないでください。また、パッド部にステッカーなどを貼り付けたりしないでください。万一の場合エアバッグが正常に作動しなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。
- インストルメントパネル上部にステッカーを貼り付けたり、芳香剤、アクセサリー用品、手荷物などの物を置いたりしないでください。また、ルームミラーにワイドミラーを取り付けたりしないでください。エアバッグが正常に作動しなくなったり、エアバッグが膨らむときにこれらの物が飛散し、重大な傷害につながるおそれがあります。

サイドエアバッグについて

- フロントシート背もたれの外側部分に手、足、顔を近づけた姿勢で座らないでください。フロントシートに座ったときは、フロントドアにもたれかかったり、窓から腕を出したりしないでください。また、リヤシートに座ったときはフロントシートの背もたれを抱えないでください。サイドエアバッグが作動したときに強い衝撃を受け、重大な傷害につながるおそれがあります。

- フロントシートにシートカバーを使用しないでください。シートカバーを使用するとサイドエアバッグが正常に作動しなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。
- フロントドアやフロントシート付近にカップホルダーなどのアクセサリー用品を取り付けないでください。サイドエアバッグが膨らむときにこれらの物が飛散し、重大な傷害につながるおそれがあります。

カーテンエアバッグについて

- ドアにもたれかかったり、フロントピラー、リヤピラー、ルーフサイド部などに近づかないようにして座ってください。カーテンエアバッグが作動したときに強い衝撃を受け、重大な傷害につながるおそれがあります。
- フロント窓ガラス、リヤ窓ガラス、フロントピラー、サイドピラー、リヤピラー、ルーフサイド部、アシストグリップなどカーテンエアバッグ展開部周辺にアクセサリー、ハンズフリーマイクなどを取り付けたりしないでください。カーテンエアバッグが膨らむときにこれらのものが飛散し、重大な傷害につながるおそれがあります。

- アシストグリップやコートフックなどには重たいものやとがったものをかけないでください。服などをかけるときはハンガーを使わないでください。カーテンエアバッグが膨らむときにこれらのものが飛散し、重大な傷害につながるおそれがあります。

メンテナンスについて

次のような作業が必要なときは、必ずマツダ販売店にご相談ください。これらの作業を行なうとエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤って作動し、重大な傷害につながるおそれがあります。

- SRSエアバッグの取りはずし、取り付け、分解、修理
- ハンドルまたは周辺部品の取りはずし、取り付け、分解、修理
- インストルメントパネルまたは周辺部品の取りはずし、取り付け、分解、修理
- フロントシートの交換、取りはずし、取り付け、分解、修理
- 車両前部または側部の修理
- フロントピラー、サイドピラー、リヤピラー、ルーフサイド部の修理
- オーディオなど用品の取りはずし、取り付け

走行中はエンジンを止めない

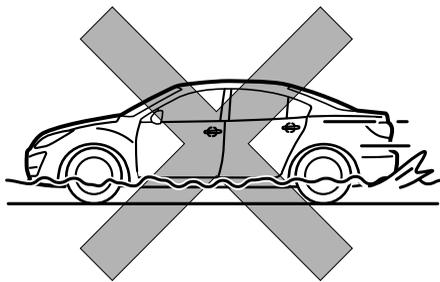
走行中にエンジンを止めると、ブレーキの効きが悪くなり、ハンドルも重くなるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

坂道ではエンジンブレーキを使う

ブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキが過熱し、効きが悪くなることがあります。
下り坂ではフットブレーキとエンジンブレーキを併用してください。また、ぬれた路面や積雪路、凍結路では急激なエンジンブレーキの使用 (シフトダウン) は避けてください。スリップするおそれがあります。
エンジンブレーキとは、走行中アクセルペダルから足を離したときにかかるブレーキ力で低速ギヤほどよく効きます。

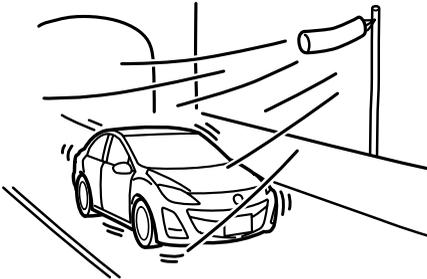
すべりやすい路面では慎重に運転する

ぬれた路面や凍結路、積雪路などのすべりやすい路面では、急加速や急ブレーキ、急ハンドル、急激なエンジンブレーキを避け、スピードをひかえめにして運転してください。ぬれた路面を高速で走行すると、タイヤと路面の間に水の膜ができ、タイヤが浮いた状態 (ハイドロプレーニング現象) になるおそれがあります。

冠水した道路を走行しない

冠水した道路を走行しないでください。冠水した道路を走行すると、エンストするだけでなく、電気部品や電子部品のショート、水を吸い込んでのエンジン破損など、車両に悪影響をおよぼします。万一、水中に浸ってしまったときは、必ずマツダ販売店へご相談ください。

水たまり走行後や洗車後はブレーキの効きを確認する

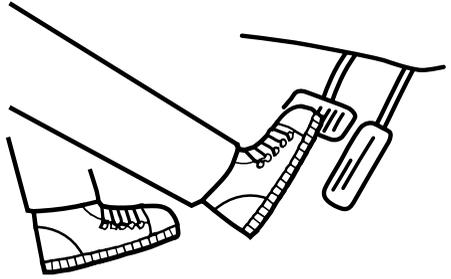
水たまりを走行したあとや洗車後は、ブレーキパッドがぬれているため、ブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方のブレーキだけが効いて、ハンドルをとられるおそれがあり危険です。ブレーキの効きが悪いときは、低速で走りながら、効きが回復するまでブレーキペダルを軽く数回踏んでブレーキを乾かしてください。

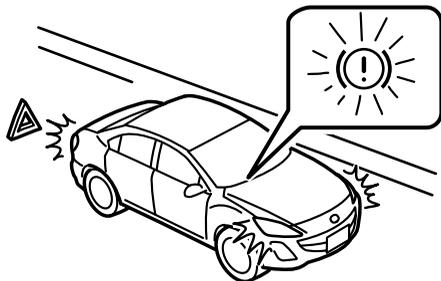
横風が強いときは慎重に運転する

横風が強く、車が横に流されるようなときは、ハンドルをしっかり握り、スピードを徐々に落としてください。トンネルの出口、橋の上、山を削った切り通しなどは特に横風が発生しやすいので注意してください。走行安定性を失い、思わぬ事故につながるおそれがあります。

クラッチペダルやブレーキペダルに足をのせたまま走行しない

クラッチペダルやブレーキペダルに足をのせたまま走行したり、必要以上に半クラッチ操作を行わないでください。

- クラッチやブレーキの部品が早く摩耗します。
- ブレーキが過熱し、効きが悪くなるおそれがあります。

ブレーキ操作は右足で

- ブレーキペダルは必ず右足で踏んでください。慣れない左足でのブレーキ操作は、緊急時の反応が遅れるなど、適切な操作ができないおそれがあります。
- アクセルペダルの操作でブレーキペダルに靴が接触することがないように、運転に適した靴で運転してください。

警告灯が点灯/点滅したら車を止める

走行中に警告灯が点灯/点滅したときは、ただちに安全な場所に停車し、適切な処置を行なってください。警告灯の点灯/点滅を無視して運転を続けるとエンジンなどを損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

→158ページ「警告灯、表示灯」

パンクやバースト (破裂) してもあわてない

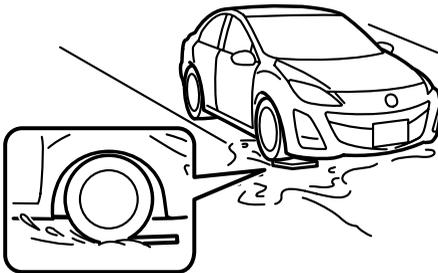
走行中タイヤがパンクやバースト (破裂) したときは、ハンドルをしっかり持ち、徐々にブレーキをかけスピードを落としてください。

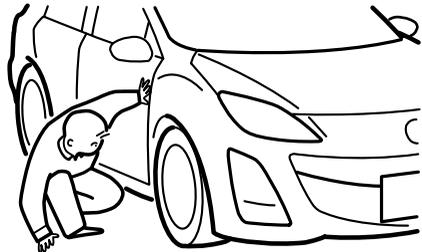
急ブレーキをかけるとハンドルをとられるおそれがあります。

次のようなときはパンクやバースト (破裂) が考えられます。

- ハンドルがとられるとき。
- 異常な振動があるとき。
- 車両が異常に傾いたとき。

スタックした状態から脱出するときは注意する

ぬかるみ、砂地、深雪路などで駆動輪が空転したり、埋まり込んで動けなくなることをスタックといいます。

- 周囲の安全を十分に確認してください。脱出直後に車両が突然動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- タイヤ前後の土や雪を取り除くか、タイヤの下に木や石をあてがい、マニュアル車はチェンジレバーを1またはRに、オートマチック車はセレクトレバーをDまたはRにいれて、アクセルペダルを軽く踏みます。チェンジレバー/セレクトレバー操作中はアクセルペダルを踏まないでください。トランスミッションなどを損傷するおそれがあります。また、車両の周辺に人がいないことを確認してください。あてがった木や石が飛散し、重大な傷害につながるおそれがあります。
- タイヤを高速で回転させないでください。タイヤがバースト (破裂) したり、異常過熱するため思わぬ事故につながるおそれがあります。
- アクセルを過度に空ぶかししたり、タイヤを空転させないでください。トランスミッションなどを損傷するおそれがあります。

床下に衝撃を受けたら下まわりを点検する

安全な場所に停車して、車の下にブレーキ液や燃料の漏れがないか、また各部に損傷がないか確認してください。
異常があったときは、マツダ販売店に連絡してください。
そのまま走行すると故障や思わぬ事故につながるおそれがあります。

異常を感じたときはマツダ販売店で点検を受ける

次のようなときは、車が故障しているおそれがあります。そのまま走行すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。
マツダ販売店で点検を受けてください。

- 普段と違う音や臭い、振動がするとき。
- ハンドル操作に異常を感じるとき。
- ブレーキ液が不足しているとき。
- 車の下に油のあとが残っているとき。

オートマチック車を運転するとき

オートマチック車の特性

オートマチック車は、クラッチ操作とギヤの切り替えを自動化した車で、その分操作の負担が軽くなります。運転は楽になりますが、安易に運転することは禁物です。
オートマチック車の特性を理解し、正しい操作をする習慣をつけてください。
→202ページ「オートマチックトランスミッション」
→209ページ「CVT (コンティニュアスリ·バリアブル·トランスミッション)」

クリープ現象

エンジンがかかっているとき、セレクトレバーがP、N以外にはいっていると、アクセルペダルを踏まなくても車が動き出します。
この現象をクリープ現象といいます。

- 停車中は車が動かないようにブレーキペダルをしっかり踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- エンジン始動直後やエアコン作動時は、エンジンの回転数が高くなりクリープ現象が強くなります。ブレーキペダルをしっかり踏んでおいてください。
- 渋滞や狭い場所での移動は、クリープ現象を利用すると、アクセルペダルを踏まずにブレーキ操作のみで速度を調節できます。

キックダウン

走行中、セレクトレバーがDのときアクセルペダルをいっぱいに踏み込むと、自動的に低速ギヤに切り替わり、急加速させることができます。
この操作をキックダウンといいます。

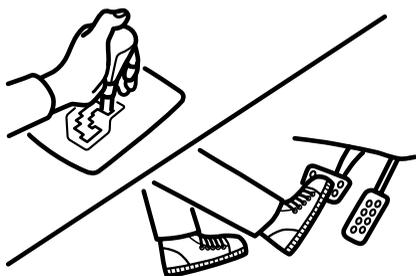
- 追い越しや高速道路での合流など、加速が必要なときに行ないます。
- すべりやすい路面やカーブを走行するときは、急激なアクセル操作はしないでください。

エンジンをかける前に

正しい運転姿勢をとり、右足でアクセルペダルとブレーキペダルが確実に踏めるか確認します。
ペダルの踏み間違いのないように、ペダルの位置を確認しておいてください。

エンジンをかけるときは

安全のため、セレクトレバーは駆動輪が固定されるPにいれ、ブレーキを効かせた状態でエンジンをかけてください。

発進するときは

- アクセルペダルを踏んだままセレクトレバーを操作しないでください。車が急発進し思わぬ事故につながるおそれがあります。
- エンジン始動直後やエアコン作動時は、エンジンの回転数が高くなり、クリープ現象が強くなります。
- マニュアル車では発進時の速度をクラッチ操作とアクセル操作を併用して調節しますが、オートマチック車ではアクセル操作のみで行ないますので、アクセル操作は慎重に行なってください。

走行するときは

- 走行中はセレクトレバーをNにいれないでください。トランスミッションの故障につながります。また、エンジンブレーキが全く効かないため思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 高速走行中、またはぬれた路面や積雪路、凍結路を走行しているときは、急激なエンジンブレーキの使用 (シフトダウン) は避けてください。タイヤがスリップし、思わぬ事故につながるおそれがあります。

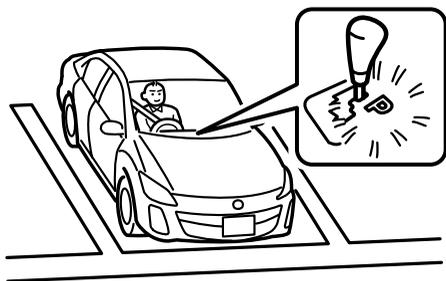
停車するときは

- 停車中、むやみにアクセルペダルを踏まないでください。セレクトレバーがP、N以外にはいっているとき、誤ってアクセルペダルを踏むと急発進するため思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 停車後、再発進するときはセレクトレバーの位置に思い違いがないよう確認してください。意に反して車が動き出すと、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだり、上り坂でセレクトレバーを前進位置にいれ、アクセルをふかしながら停車しないでください。トランスミッションが過熱し、故障につながるおそれがあります。

後退するときは

- 後退時は身体を後ろにひねった姿勢になります。ブレーキペダルを確実に踏めるよう注意してください。
- 少し後退したときなどはセレクトレバーをRにいれたことを忘れてしまうことがあります。後退したあとは、すぐにセレクトレバーをNにもどし、発進時にはセレクトレバーの位置を確認してください。

駐車するときは

- 駐車するときは、セレクトレバーをPにいれ、パーキングブレーキをかけてください。パーキングブレーキをかけただけや、セレクトレバーをPにいれただけで駐車していると、車が勝手に動き出し思わぬ事故につながるおそれがあります。
- エンジンをかけたまま駐車しないでください。万一セレクトレバーがP以外にはいっていた場合、クリープ現象で車が勝手に動き出したり、乗り込むときに誤ってアクセルペダルを踏み、急発進するなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- セレクトレバーをPにいれるときは、車を完全に止めてから行なってください。車が完全に止まる前にセレクトレバーをPにいれると、トランスミッションに無理な力がかかり故障につながるおそれがあります。

そのほかに気をつけること

坂道などで、セレクトレバーを前進位置に入れたまま後退したり、後退位置に入れたまま前進することは行わないで下さい。エンジンが停止してブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりして思わぬ事故につながるおそれがあります。

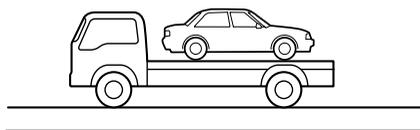
4WD車を運転するとき

4WD車の特性

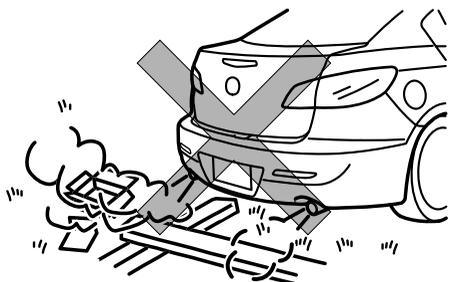
4WDは、積雪路、砂地、ぬかるみ、急な坂などすべりやすい路面ですぐれた走行性を発揮します。
→218ページ「4WD」
オフロード走行やラリー走行を目的に作られた万能車ではありません。凸凹や岩を乗り越えたり、川を渡ったりしないでください。
4WD車であっても、アクセル、ハンドル、ブレーキの操作は一般の車と同じく慎重に行ない、常に安全運転を心がけてください。

タイヤについて

タイヤの状態が車の性能に大きく影響します。また、駆動系部品に悪影響をあたえないために、次の点を守ってください。

- タイヤを交換するときは前後輪を同時に交換してください。
- 前後輪とも指定された同一サイズ、同一種類のものを使用してください。特にスノータイヤなどの冬用タイヤを装着するときは注意してください。
- 摩耗差の著しいタイヤを混ぜて使用しないでください。
- タイヤの空気圧は定期的に点検し、タイヤ間で空気圧の差が著しくならないように規定値に調節してください。
  適正空気圧は運転席ドアを開けたボディー側に貼付されているラベルで確認してください。
- 前後輪とも必ず指定されたサイズの純正ホイールを装着してください。
- タイヤチェーンは前輪に取り付けてください。
- タイヤチェーンを装着したときは、30 km/h以上で走行しないでください。
- 積雪路、凍結路以外では、タイヤチェーンを装着して走行しないでください。

けん引してもらうときは

4WD車のけん引は、前後輪すべてを持ち上げるか、前後輪接地の状態で搬送してください。駆動装置の故障時はトレーラーなどに搭載して搬送してください。
前輪または後輪だけを持ち上げた状態でけん引すると、駆動装置が破損したり、車輪が台車から飛び出すなど思わぬ事故につながるおそれがあります。
→342ページ「けん引してもらうとき」

燃えやすい物のそばに車を止めない

車を止める時には、次の点を守ってください。

- 走行したあとは排気管が高温になっているため、枯れ草など、燃えやすいものがそばにあると火災につながるおそれがあります。
- 壁やベニヤ板などが後方にある場合は、間隔を十分とってから停車してください。排気ガスにより変色、変形したり、そのまま放置しておくと火災につながるおそれがあります。

ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けない

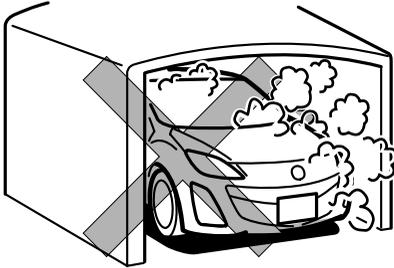
ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けると、パワーステアリング装置を損傷するおそれがあります。

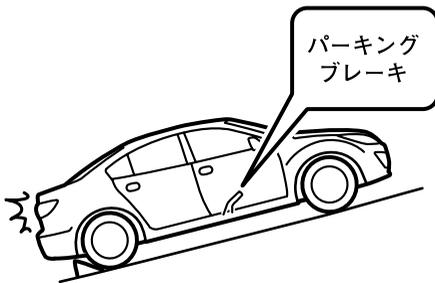
仮眠するときはエンジンを止める

エンジンをかけたままで仮眠しないでください。無意識にチェンジレバー/セレクトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込み車が発進したり、エンジンや排気管の異常過熱による火災など思わぬ事故につながるおそれがあります。
また、排気管が損傷していたり、換気の悪い場所では、知らない間に排気ガスが車内に侵入し、一酸化炭素中毒になるおそれがあり危険です。
→41ページ「一酸化炭素中毒に気をつける」

空調は外気導入にする

エンジンをかけたまま長時間停車するときは、空調を外気導入にしてください。空調を内気循環にすると、車内の圧力が下がり排気ガスが入り易くなるため、一酸化炭素中毒になるおそれがあり危険です。
→41ページ「一酸化炭素中毒に気をつける」
→222ページ「空調」

換気の悪い場所でエンジンをかけたままにしない

換気の悪い場所ではエンジンをかけたままにしないでください。ガレージの中や積雪した場所、その他周囲が囲まれた換気の悪い場所では、排気ガスが行き場を失い車内へはいりやすくなるため、一酸化炭素中毒になるおそれがあり危険です。
→41ページ「一酸化炭素中毒に気をつける」

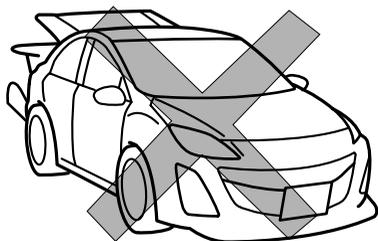
坂道駐車はパーキングブレーキをしっかりかける

坂道での駐車は、パーキングブレーキをしっかりかけ、マニュアル車はチェンジレバーを1またはRに、オートマチック車はセレクトレバーをPにいれてください。
急な坂道ではさらに輪止めをしてください。輪止めをしないと車が動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

車の移動はエンジンをかける

車を少し移動させるときでも、必ずエンジンをかけてください。下り坂などで傾斜を利用して移動させると、ハンドルがロックされたり、ブレーキの効きが悪いため思わぬ事故につながるおそれがあります。

車から離れるときは必ずパーキングブレーキをかけ、施錠する

車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけエンジンを止め、ドアを施錠してください。また、盗難にあわないために、車内には貴重品を置かないでください。

違法改造はしない

車の性能や機能に適さない部品を装着したり、自分でエンジン調整や配線などをしないでください。故障や、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、国土交通省に届け出た部品以外を装着すると違法改造になることがあります。部品の装着をするときは、マツダ販売店にご相談ください。

タイヤ、ホイール、ホイールナットを交換するときはマツダ販売店に相談する

- ホイール、ホイールナットは純正品以外を装着しないでください。純正品以外のものを装着すると車の性能が十分に発揮できないばかりでなく、走行中にナットがゆるみホイールがはずれるなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、駆動系部品に悪影響をおよぼしたり、違法改造になることがあります。

- タイヤの状態が車の性能に大きく影響します。また、駆動系部品に悪影響をあたえないために、次の点を守ってください。

  - 前後輪とも指定された同一サイズ、同一種類のものを使用してください。特にスノータイヤなどの冬用タイヤを装着するときは注意してください。
  - タイヤサイズは、運転席ドアを開けたボディー側に貼付されているラベルで確認してください。
    くわしくはマツダ販売店にご相談ください。
  - 摩耗差の著しいタイヤを混ぜて使用しないでください。

- タイヤはゴム製品のため、長期間使用すると徐々に劣化していきます。安全な走行状態を確保するために、使用開始後5～7年を目安にマツダ販売店で点検を受けてください。

タイヤバルブキャップは純正品を使用する

タイヤバルブキャップは純正品以外を使用しないでください。純正品以外を使用するとバルブの損傷により、適正空気圧にならないおそれがあります。そのまま走行すると空気圧が低下し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

ディスチャージヘッドランプバルブを交換するときはマツダ販売店に相談する

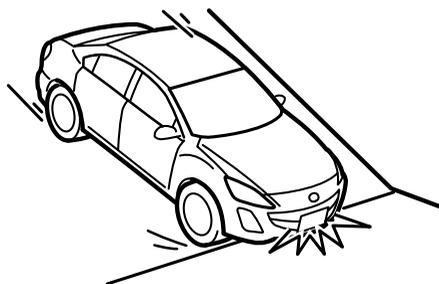
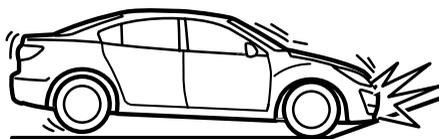
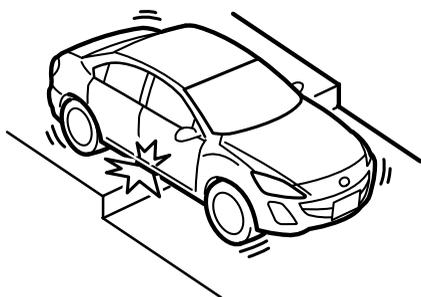
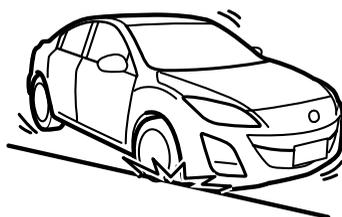
ディスチャージヘッドランプのバルブ·コネクター·電源回路·光軸 (ヘッドランプの照らす方向) 調整部分を分解したり、取りはずしたりしないでください。
ディスチャージヘッドランプは高電圧を使用しているため、取り扱いを誤ると感電するおそれがあります。ディスチャージヘッドランプの交換·修理をするときは、必ずマツダ販売店へご相談ください。

部品の取り付け、交換はマツダ販売店に相談する

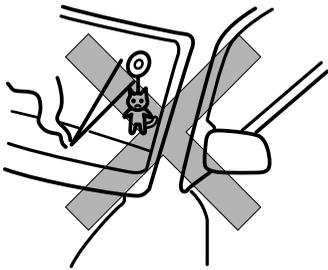
電話、無線、オーディオなど電気部品や電子部品を取り付けるときは、マツダ販売店にご相談ください。
不適当な部品を取り付けたり、取り付け方法を誤ると、ブレーキ (ABS)、エアバッグの誤作動、エンジン不調、車両火災など思わぬ事故につながるおそれがあります。

路面などと車両との干渉に注意する

次のようなとき、バンパーやマフラーなど車体の下部を損傷するおそれがありますので、十分注意してください。

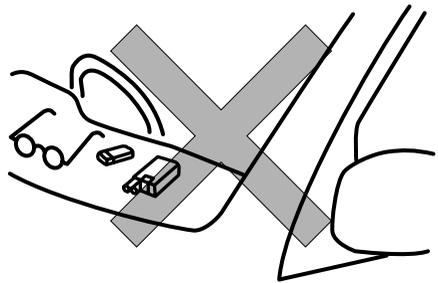
- 車止めのある場所への駐車
- 路肩に沿っての駐車
- 路肩など段差のある場所への乗り降り
- 駐車場など急な坂道への出入り
- 凸凹やわだちのある道路の走行

ナンバープレートは正しい位置に取り付ける

ナンバープレートを勝手に取りはずしたり、位置を変えないでください。
ナンバープレートは正しい位置に確実に取り付けることが義務付けられています。

アクセサリーを取り付けない

窓ガラスやその周辺にアクセサリーを取り付けると、運転のさまたげになったり、吸盤がレンズの働きをして、火災が起こるなど思わぬ事故につながるおそれがあります。

一酸化炭素中毒に気をつける

自動車から出る排気ガスには、一酸化炭素が含まれています。一酸化炭素は、無色/無臭の有毒な気体です。体内に入ると、一酸化炭素中毒を起こします。
一酸化炭素中毒の初期症状は、目まい/吐き気/頭痛などの体調不良ですが、症状が進むと意識不明になって動けなくなります。また、症状によっては死亡に至ることがあります。
万一、排気管などに腐食や損傷があったり、排気音に異常を感じたときは、マツダ販売店で点検を受けてください。また、車内で排気ガスの臭いがしたときは、すべての窓を全開にするか、空調を外気導入にして新鮮な外気をとり入れてください。
そのまま走行すると、排気ガスが車内に侵入し、一酸化炭素中毒になるおそれがあり危険です。

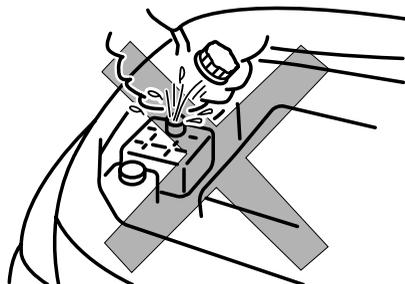
ライターやメガネを車内に放置しない

炎天下に駐車するときは、車内にメガネやライターを放置しないでください。車内が高温になるため、ライターが爆発したり、プラスチックレンズ·プラスチック素材のメガネが変形·ひび割れを起こすことがあります。

エンジンルーム内のファンやベルトに気をつける

エンジンルーム内を点検するときは、ファンやベルトなどの回転部に触れないようにしてください。特に、エンジンルームが高温のときは、エンジンが止まっていてもファンが回転することがあるため、手や指などが巻き込まれるなど、重大な傷害につながるおそれがあります。

エンジンルーム内に物を置き忘れない

エンジンルームの点検をしたときは、工具や布を置き忘れないようにしてください。置き忘れるとエンジンなどを損傷したり、火災につながるなど思わぬ事故につながるおそれがあります。

ラジエーターが熱いときはキャップをはずさない

エンジンが十分に冷えるまではリザーバータンクのキャップを開けないでください。エンジンが熱いときにキャップをはずすと、蒸気や熱湯が噴き出してやけどなど、重大な傷害につながるおそれがあります。

バッテリーの取り扱いに気をつける

正しく安全にバッテリーを取り扱うために、バッテリー使用前または点検前には必ず次の注意事項をお読みください。

- バッテリーを取り扱うときは必ず保護メガネを着用してください。
  バッテリー液には有毒で腐食性の高い希硫酸が含まれており、目に入ると失明など重大な傷害につながるおそれがあります。また、バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあります。

- バッテリーを取り扱うときはバッテリー液をこぼさないでください。
  バッテリー液には有毒で腐食性の高い希硫酸が含まれており、目や皮膚に付着すると重大な傷害につながるおそれがあります。万一付着したときは、すぐに多量の水で洗浄し、応急処置が済んだら、医師の診察を受けてください。
- バッテリーの近くでお子さまを遊ばせないでください。
  バッテリー液には有毒で腐食性の高い希硫酸が含まれており、目や皮膚に付着すると重大な傷害につながるおそれがあります。
- バッテリーを取り扱うときは、絶対に火気を近づけないでください。
  バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険です。火気の発生を防ぐため、＋ 端子や－ 端子に工具などの金属部分が触れないようにしてください。また、ブースターケーブルの接続、取りはずしのときは、＋ 端子がボディーや－ 端子に触れないように十分注意してください。
- 換気の悪い場所では、バッテリーの充電を行なわないでください。
  バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険です。

発進時には安全を十分確認する

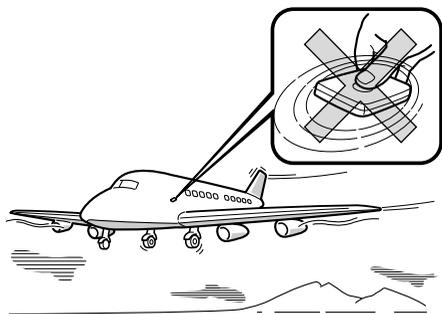
発進時は周囲の状況に十分注意してください。

- 信号待ちなどで停車したときや、駐車後に発進するときは、周囲の安全を十分確認してから発進してください。
- 後退するときに十分な視界を得られないときは、車から降りて後方の安全を確認してください。

運転中は携帯電話を使用しない

運転しながらハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

航空機内ではアドバンストキー/リモートコントローラーを操作しない

航空機内ではアドバンストキー/リモートコントローラーを操作しないでください。アドバンストキー/リモートコントローラーを航空機内へ持ち込むことは可能ですが、操作すると航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。また、かばんやポケットなどで保管する場合は、アドバンストキー/リモートコントローラーのスイッチが容易に押されないように注意して下さい。

ターボ車の特性

ターボ装置は、エンジンに多量の空気を過給することにより大きな出力を得る装置で、非常に精密に作られています。
またその潤滑はエンジンオイル、冷却は冷却水によって行われています。
ターボ装置の故障を防ぐため、次の点を守ってください。

- エンジンオイル、オイルフィルターは必ず指定された期間で交換してください。
- エンジン始動直後の空ふかし、急加速は行なわないでください。
- ターボ装置の冷却のため、高速走行や登坂走行の直後は、エンジンを停止する前にアイドリング運転を行なってください。

運転状況	アイドリング時間
高速走行	約1分
特殊な連続走行または急な登坂走行	約2分

2 安全装備

正しい運転姿勢

正しい運転姿勢がとれるようにシートを調節してください。

警告

■シート各部の調節は、必ず走行前に行なってください。
走行中に行なうと、運転姿勢が不安定になったり、前方不注意になるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■背もたれと背中の間にクッションなどを入れないでください。
正しい運転姿勢が取れないばかりか、衝突時にシートベルトなど拘束装置の効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。

■背もたれは必要以上に倒さないでください。
急ブレーキ時や衝突時に、体がシートベルトの下に滑り込み、シートベルトの効果が十分発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。

■シートの下に物を置かないでください。
物がはさまってシートが固定されず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

シートを調整する際は、調整する人やまわりの人が手や足などをはさまれないように注意してください。

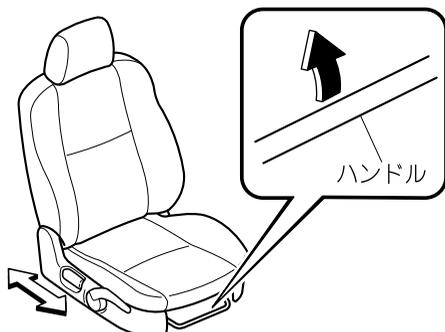
フロントシート

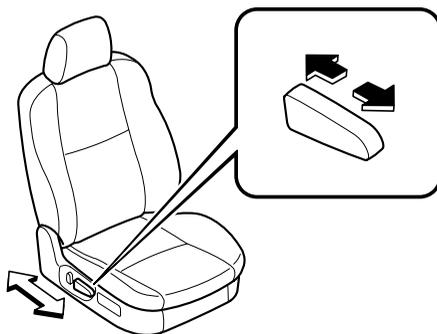
警告

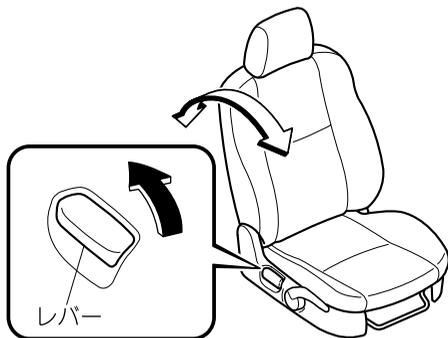
■手動式シートを操作した後は確実にロックされていることを確認してください。

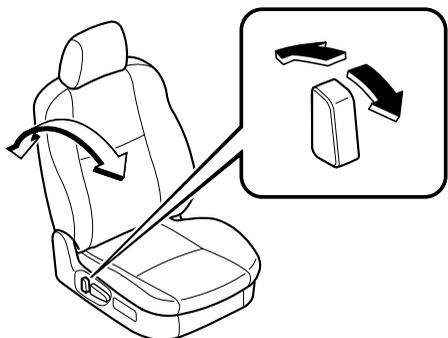
走行中シートが不意に動くと運転姿勢が不安定になるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

前後調節(スライディング)

手動式

調節後はシートを前後に軽くゆさぶって、確実にロックされていることを確認してください。

電動式(運転席のみ)

角度調節 (リクライニング)

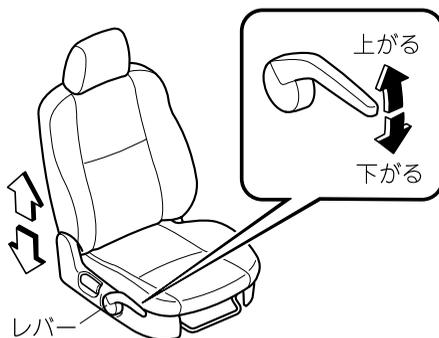
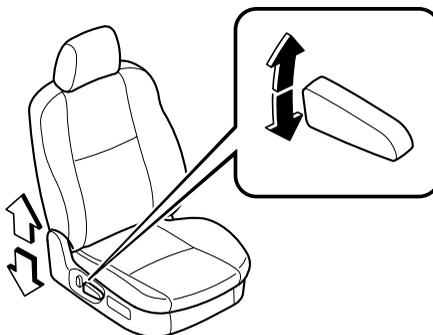
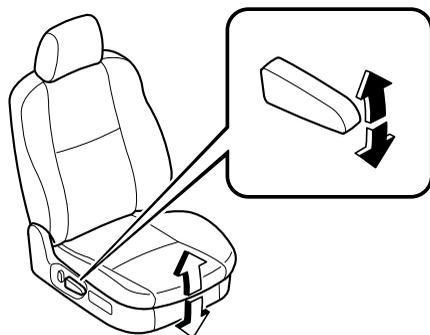
手動式

調節後は背もたれを前後に軽くゆさぶって、確実にロックされていることを確認してください。

> **⚠ 注意**
>
> **後ろに倒した背もたれをもとにもどすときは、必ず背もたれを押さえながら操作してください。背もたれを押さえずに操作すると、背もたれが急にもどり、けがをするおそれがあります。**

電動式 (運転席のみ)

高さ調節 (運転席のみ)

手動式

電動式

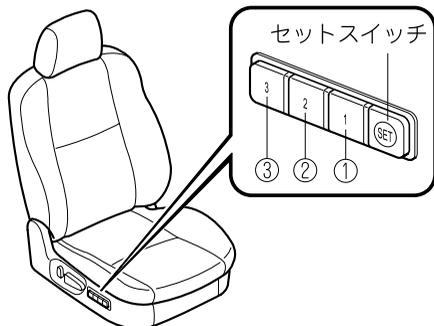
シート

シートメモリー機能(運転席のみ)

グレード/仕様別装備

電動式シート

運転席のシート位置を記憶させ、シート位置を変えても記憶させた位置にセットすることができます。

注意

シートメモリー機能を操作しているときは、シートの下やその周辺に手や指などを近づけないでください。シートメモリー機能を操作しているときは自動的にシートが動くため、手や指などをはさんでけがをするおそれがあります。

シート位置を次の操作で記憶させることができます。

- ①～③のスイッチとセットスイッチの操作
- アドバンストキーの操作

また、次の操作で記憶させた位置にセットできます。

- メモリースイッチ①～③の操作
- アドバンストキーレスエントリーシステムの機能を使った操作

知識

シート位置はシート側スイッチが3パターンと、車両に使用しているアドバンストキーの数だけ記憶させることができます。

シート側スイッチによる操作

記憶させるとき

車両が停止しているとき、シート位置を記憶させることができます。

1 シートを好みの位置に調節します。
→50ページ「前後調節」
→51ページ「角度調節」
→51ページ「高さ調節」

2 セットスイッチを押したまま、①～③のうち記憶させたいスイッチを“ピッ”と音がするまで押し続けます。

知識

車両整備などでバッテリーとの接続が絶たれたときは記憶が消去されます。もう一度記憶させてください。

記憶した位置にセットするとき

車両が停止しているとき、次の二つの方法でセットすることができます。

操作方法1
電源ポジションがOFFで、運転席ドアが開いているとき、①～③のうち呼び出したいシート位置が記憶されているスイッチを押します。

知識

次のような場合、セットは中止されます。

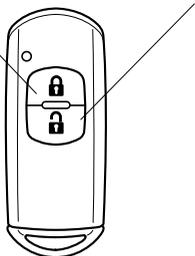
- いずれかのシート調節スイッチを操作したとき
- セットスイッチを押したとき
- ① ～③ のスイッチを押したとき
- 車両が走行状態になったとき
- アドバンストキーを使用してロック/アンロックされたとき

操作方法 2
電源ポジションがONまたは運転席ドアが閉まっている状態でも、① ～③ のスイッチを押し続けることにより、記憶したシート位置にセットできます。

知識

次のような場合、セットは中止されます。

- いずれかのシート調節スイッチを操作したとき
- セットスイッチを押したとき
- 車両が走行状態になったとき

アドバンストキーによる操作

記憶させるとき

アドバンストキーにシート位置を記憶させることができます。
次の条件を満たしてから、操作を行なってください。

- 電源ポジションがOFFのとき
(補助キーが差し込まれていないとき)
- 運転席ドアが開いているとき

1. シートを好みの位置に調節します。
→50ページ「前後調節」
→51ページ「角度調節」
→51ページ「高さ調節」
2. 運転席ドアが閉まっている場合は、開けます。
3. シートのセットスイッチを押したままアドバンストキーのアンロックスイッチを“ピッ”と音がするまで押し続けます。

記憶した位置にセットするとき

電源ポジションがOFFのとき、次のいずれかの操作でドアを解錠し、約40秒以内に運転席ドアを開けると記憶した位置にセットできます。

- アドバンストキーのアンロックスイッチを押す
- アドバンストキーを携帯し、フロントドアのリクエストスイッチを押す

知識

次のような場合、セットは中止されます。

- いずれかのシート調節スイッチを操作したとき
- セットスイッチを押したとき
- ① ～③ のスイッチを再度押したとき
- 車両が走行状態になったとき
- アドバンストキーを使用してロック/アンロックされたとき

記憶した位置を消去するとき

次の条件を満たし、シートのセットスイッチを押したままアドバンストキーのロックスイッチを“ピー”と音がするまで押し続けます。

- 電源ポジションがOFFのとき
(補助キーが差し込まれていないとき)
- 運転席ドアが開いているとき

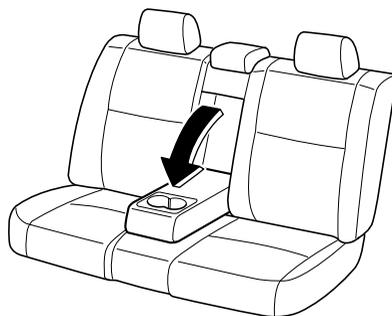
 知識

次のいずれかの操作を行ったときも記憶が消去されます。もう一度記憶させてください。

- アドバンストキーのコードが登録されなおされたとき
→142ページ「イモビライザーシステム (アドバンストキー装備車)」
- 車両整備などでバッテリーとの接続が絶たれたとき

リヤシート

アームレスト

グレード/仕様別装備

荷室を作るとき

リヤシートの背もたれを倒すと荷室として広げることができます。

 警告

■倒した背もたれの上や荷室内に人を乗せて、走行しないでください。

シートベルトが着用できないため、急ブレーキ時や衝突時に重大な傷害につながるおそれがあります。

■背もたれを倒して荷物を運ぶときは、荷物を確実に固定してください。

固定しないで走行すると、急ブレーキ時や衝突時に荷物が動き運転操作のさまたげになるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

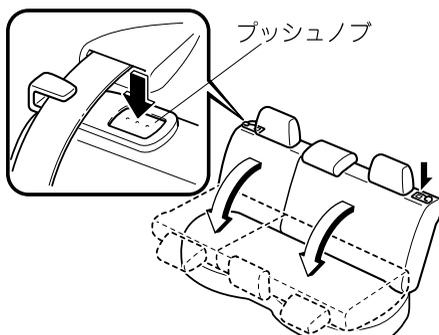
■背もたれを倒した車内でお子さまを遊ばせないでください。

お子さまがトランク/ラゲッジルーム内に入り、背もたれがもどった場合、トランク/ラゲッジルーム内に閉じ込められるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

背もたれを折りたたむとき

 注意

背もたれを前に倒すときは、必ず背もたれを手で支えながら操作してください。背もたれを手で支えずに操作すると、背もたれが急に倒れ、プッシュノブを押す指などにけがをするおそれがあります。

背もたれを手で支えながら、プッシュノブを押して背もたれを前に倒します。

もとにもどすとき

背もたれを後ろに押しつけロックさせます。

背もたれをもとの位置にもどした後は、背もたれを前後に軽くゆさぶって、確実にロックされていることを確認してください。

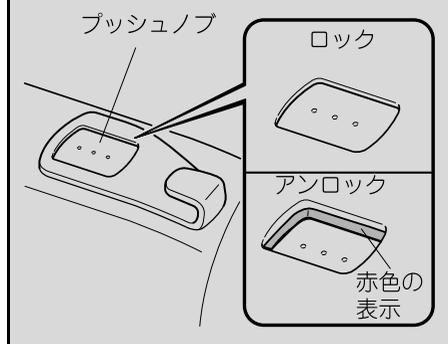
 警告

■背もたれをもとにもどすときは、3点式シートベルトがはさまれていないことを確認してください。

シートベルトが背もたれにはさまれた状態で使用すると、万一の場合シートベルトの効果が十分発揮できないため重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 警告

■背もたれをもとにもどすときは確実にロックし、赤色の表示が見えないことを確認してください。

プッシュノブ後部に赤色の表示が見えているときは、背もたれがロックされていません。ロックしないまま走行すると、背もたれが急に倒れ、思わぬ事故につながるおそれがあります。

ヘッドレスト

すべてのシートには、ヘッドレストが装備されています。
ヘッドレストは、万一のときに、むち打ち症や他のけがから乗員を保護します。

 警告

■ヘッドレストをはずした状態や高さを調整しないままで走行しないでください。

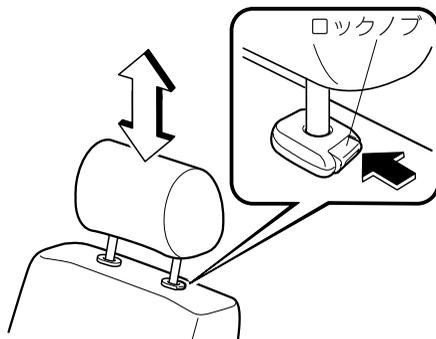
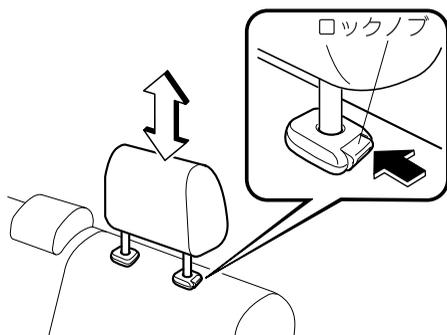
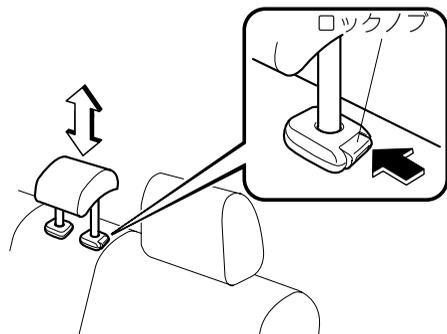
取り外した状態や高さを調整しないまま走行すると、急ブレーキ時や衝突時、頭部への衝撃を防ぐことができなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。

調節するとき

■ 高くするとき
そのまま引き上げます。

■ 低くするとき
ロックノブを押したまま下げます。

ヘッドレストの中央が耳の高さにくる位置に調整します。

フロントシート

リヤシート

リヤシート中央席

脱着するとき

■ ヘッドレストを取り外すとき
ロックノブを押しながら引き上げます。

■ ヘッドレストを取り付けるとき
ロックノブを押しながら差し込みます。

⚠ 警告

■ヘッドレストをはずした状態で走行しないでください。

取り外した状態のまま走行すると、急ブレーキ時や衝突時、頭部への衝撃を防ぐことができなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。

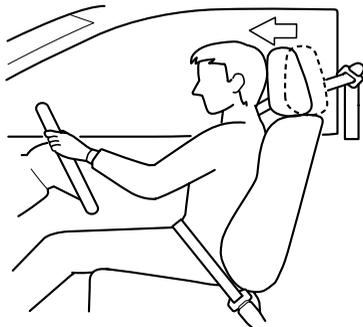
■取り付けた後は、ヘッドレストが抜け出さないことを確認するため、持ち上げてください。

ヘッドレストが抜け出すと万一の場合、効果を発揮できず、思わぬけがをするおそれがあります。

⚠ 注意

- ヘッドレストを取り付けるときは、ヘッドレストの前後の向きを間違えないようにしてください。前後の向きをまちがえて取り付けると、衝突時などにヘッドレストの効果が十分に発揮できず、けがをするおそれがあります。
- フロントシート・リヤシートそれぞれのヘッドレストは、各シート専用です。他のシートのヘッドレストと入れ替えないでください。入れ替えると、衝突時などにヘッドレストの効果が十分に発揮できず、けがをするおそれがあります。

アクティブヘッドレスト

フロントシートには、アクティブヘッドレストが装備されています。
アクティブヘッドレストは、万一の追突時に、背もたれが乗員を受け止める力を利用してヘッドレストが瞬時に前方へ移動することで、頭部の過度な後方向への傾きを防ぎ、首への負担を軽減します。また、アクティブヘッドレストは、むち打ち症が多く発生するといわれている低速から中速での追突時に効果を発揮します。

警告

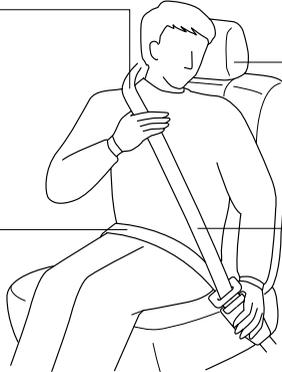
■背もたれやヘッドレストにテレビなどの用品を取り付けないでください。

また、背もたれのポケットに重い荷物や厚手の雑誌、地図帳などを入れないでください。万一追突された時にアクティブヘッドレストの効果が損なわれるおそれがあります。

知識

- アクティブヘッドレストは、追突された時作動します。その後は、もとの位置に戻ります。
- アクティブヘッドレスト調節方法は、通常のヘッドレストと同じです。正しく調節してください。

正しい着用のしかた

車を運転する前に必ず着用し、同乗者にも必ず着用させてください。

警告

着用について

■シートベルトは全員が着用してください。

着用しないと、急ブレーキ時や衝突時に、重大な傷害につながるおそれがあります。

■シートベルトは成人サイズの方の乗員による着用を目的としています。

お子さまを乗せる際は、必ずお子さま専用シートを使用してください。

■1つのシートベルトを同時に2人以上で使用しないでください。

2人以上で使用すると、万一の場合シートベルトの効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。

■シートベルトの改造や交換をしないでください。また、クリップなどでシートベルトにたるみをつけないでください。

万一の場合シートベルトの効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。

■ベルトがねじれた状態で使用しないでください。

ねじれがあると、万一の場合衝撃力が分散できず局部的に強い力を受けるため、重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 警告

■3点式シートベルトを腕の下に通して着用しないでください。
ベルトが肩に十分かかっていないと急ブレーキ時や衝突時に、身体が前方に投げ出され、重大な傷害につながるおそれがあります。

■背もたれは必要以上に倒さないでください。
急ブレーキ時や衝突時に、身体がシートベルトの下に滑り込み、シートベルトの効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。

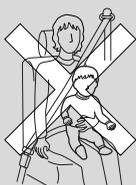
■シートベルトは必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させてください。
シートベルトが腰骨からずれていると、急ブレーキ時や衝突時に、腹部に強い圧迫を受け、重大な傷害につながるおそれがあります。

■妊娠中の女性や疾患のあるかたもシートベルトを着用してください。
ただし、急ブレーキ時や衝突時、局部的に強い力を受けるおそれがあるため医師に相談し、注意事項を確認してください。腰ベルトは腹部を避けて腰骨のできるだけ低い位置に密着させてください。また、肩ベルトは肩に十分かかるようにし、腹部を避けて胸部に密着させてください。

■シートベルトのバックルの中に異物を入れないでください。
異物が入るとプレートがバックルに完全にはまらず、シートベルトの効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。

お子さまを乗せるときは

■お子さまはできるだけリヤシートに座らせ、必ずシートベルトを着用させてください。
お子さまを抱いたり、ひざの上に乗せたりすると、急ブレーキ時や衝突時に十分に支えることができず、お子さまが投げ出されたり押しつぶされ、重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 警告

■ シートベルトが首や顔などにあたったり、腰骨に正しく着用できないお子さまには、別売りのベビーシート、チャイルドシート、ジュニアシートをお使いください。

ベビーシート、チャイルドシート、ジュニアシートを使用しないと、万一の場合シートベルトの効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。

メンテナンスについて

■ シートベルトにほつれ、すりきずなどの異常があるときは、マツダ販売店で交換してください。

そのままの状態で使用すると、万一の場合シートベルトの効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。

■ シートベルトの汚れを取るときは、中性洗剤を使用してください。

有機溶剤を使用したり、染色、漂白するとベルトの強度が低下し、万一の場合シートベルトの効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。

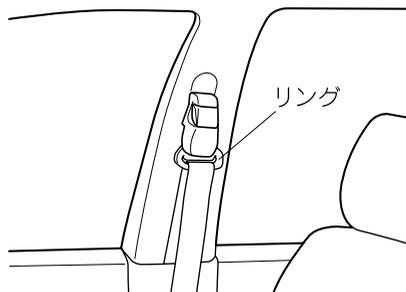
■ シートベルトを掃除するときは、絶対に分解しないでください。

分解すると、万一の場合シートベルトの効果が充分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。

■ 事故などにあったときは、衝撃でシートベルト本来の機能が損なわれているおそれがありますので、必ずマツダ販売店で交換してください。

そのままの状態で使用すると、万一の場合シートベルトの効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 注意

シートベルトやリングが汚れると、ベルトの巻き取りが悪くなるので汚れを取ってください。

3点式シートベルト

シートベルト警告灯

電源ポジションがONのとき、運転席/助手席シートベルトを着用していないと点灯します。
また、車速が約20km/h以上になるとしばらくの間点滅します。

運転席

助手席

処置方法

シートベルトを着用してください。
→59ページ「正しい着用のしかた」

知識

- 助手席に荷物などを置くと、荷物の重さによっては助手席用のシートベルト警告機能が作動することがあります。
- 助手席にはクッションなどを敷かないでください。乗員検知センサーが乗員を検知せず、助手席用のシートベルト警告機能が作動しないことがあります。
- 助手席にお子さまが座ったときは、助手席用のシートベルト警告機能が作動しないおそれがあります。

シートベルト着用忘れチャイム

運転席/助手席シートベルトを着用していないまま、車速が約20km/h以上になるとしばらくの間チャイムが鳴ります。(鳴り始めると、車速を落としても鳴り続けます。)
シートベルトを着用すると鳴り止みます。

着用するとき

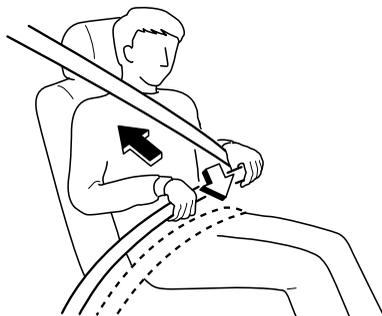
1 プレートを持って、ベルトをゆっくり引き出します。

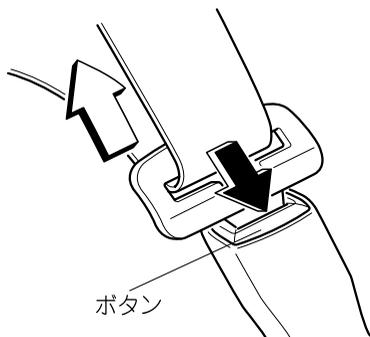
2 ベルトを素早く引き出し、ロックされることを確認してください。

知識

ベルトがロックして引き出せないときは、一度ベルトを巻き取らせてからゆっくり引き出してください。それでも引き出せないときは、一度ベルトを強く引っ張ってからベルトをゆるめ、再度ゆっくり引き出してください。

3 ベルトにねじれがないかを確認してから、プレートをバックルにカチッと音がするまで差し込みます。

4 ベルトを腰骨のできるだけ低い位置にかけ、たるみが無いようにベルトを引いて身体に密着させます。

はずすとき

はずすときはバックルのボタンを押します。ベルトにねじれがないかを確認しながら、ゆっくりと巻き取らせます。

ELR (緊急時固定機構) 付シートベルト

3点式シートベルトにはELR (緊急時固定機構) が装備されています。
シートベルトは身体の動きにあわせて伸縮しますが、強い衝撃を受けると、ベルトが自動的にロックされ身体を固定します。

プリテンショナー付シートベルト

フロントシートベルトには、プリテンショナー機構が装備されています。
車両前方から強い衝撃を受けると、シートベルトを引き込み、シートベルトの効果をより高める装置です。

警告

■シートベルトは正しく着用してください。

正しく着用していないと、プリテンショナー機構の効果が十分に発揮できないため、万一の場合重大な傷害につながるおそれがあります。

■プリテンショナー機構の部品や配線を修理したり、電気テスターを使ってプリテンショナー機構の回路診断をしないでください。

正常に作動しなくなったり誤って作動し、重大な傷害につながるおそれがあります。

■プリテンショナー機構が装備された車を廃車される場合は、必ずマツダ販売店にご相談ください。

プリテンショナー機構が不意に作動し、重大な傷害につながるおそれがあります。

知識

- プリテンショナー機構は、車両前方から強い衝撃を受けたとき作動しますが、衝撃が弱いと作動しません。
- プリテンショナー機構の作動により、白煙が見えることがありますが、火災ではありません。また、人体への影響はありません。ただし、皮膚などの弱い方はまれに刺激を受けることがあります。プリテンショナー機構作動時の残留物 (カス) が目や皮膚に付着したときは、できるだけ早く洗い流してください。
- プリテンショナー機構は一度作動すると、2回目以降の衝突では作動しません。
- プリテンショナー付シートベルトは、一度作動すると再使用できません。事故などにあったときは、必ずマツダ販売店で点検を受け、作動済みのときは交換してください。

エアバッグ警告灯/プリテンショナー警告灯

電源ポジションをONにすると点灯し、しばらくすると消灯します。
次のようなときはシステムの異常が考えられます。

- 電源ポジションをONにしても点灯しないとき。
- 点滅し続けるとき。
- 点灯し続けるとき。

処置方法

マツダ販売店で点検を受けてください。

警告

■エアバッグ警告灯/プリテンショナー警告灯が点灯または点滅したまま走行しないでください。

衝突したときにエアバッグまたはプリテンショナー機構が正常に作動せず、重大な傷害につながるおそれがあります。マツダ販売店で点検を受けてください。

エアバッグ警告チャイム/プリテンショナー機構警告チャイム

SRSエアバッグシステムまたはプリテンショナー機構に異常があり、さらにエアバッグ警告灯/プリテンショナー警告灯にも異常があるとき、チャイム (毎分5秒間) が鳴り、システムの異常を知らせます。
エアバッグ警告チャイム/プリテンショナー警告チャイムは約35分間鳴り続けます。
ただちにマツダ販売店で点検を受けてください。

警告

■ **エアバッグ警告チャイム/プリテンショナー警告チャイムが鳴っているまま走行しないでください。**
衝突したときにエアバッグまたはプリテンショナー機構が正常に作動せず、重大な傷害につながるおそれがあります。
マツダ販売店で点検を受けてください。

ロードリミッター付シートベルト

ロードリミッターは、車両前方から強い衝撃を受けたときなど、シートベルトに一定以上の荷重がかからないように作動する装置です。
運転席/助手席シートベルトにかかる荷重を規定値に保つことで、乗員の胸に加わる力を減少させます。

警告

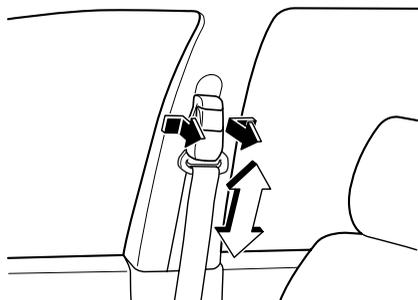
■ **シートベルトは正しく着用してください。**
正しく着用していないと、ロードリミッターの効果が十分に発揮できないため、万一の場合重大な傷害につながるおそれがあります。

知識

ロードリミッター付シートベルトは、一度作動すると再使用できません。事故などにあったときは、必ずマツダ販売店で点検を受け、作動済みのときは交換してください。

シートベルトアンカーアジャスター

フロントシートベルトにはシートベルトアンカーアジャスターがついています。
シートベルトが首にあたったり、肩からはずれてしまうときには、ベルトの高さを調節してください。

1. 高くするときは、そのまま上に動かします。低くするときはノブを引いたまま下げます。
2. 調節したあとは、シートベルトアンカーアジャスターを下方に押し、確実にロックされていることを確認してください。

⚠ 警告

■ シートベルトは肩の中央に確実にかけてください。

肩からはずれていると、万一の場合、シートベルトの効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。

お子さま専用シートについて

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、お子さま専用シートをお使いください。
車両に固定するお子さま専用シートには、シートベルト固定タイプ、またはISOFIX対応タイプの2種類があります。
シートベルト固定タイプのベビーシート、チャイルドシートは、リヤシートのシートベルトを使用してシートに固定します。
またISOFIX対応タイプのチャイルドシートは、リヤシート左右席に装備されているロアアンカレッジとトップテザーアンカレッジで固定します。
お子さま専用シートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。必ずお子さま専用シートに付属の取扱説明書をよくお読みのうえ、確実に取り付け、使用方法を守ってください。

 警告

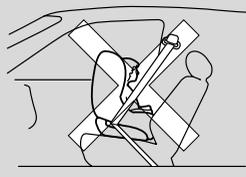
■ お子さまの首や顔などにシートベルトがあたったり、腰骨に正しく着用できない場合は、お子さまの年齢や体の大きさに合ったお子さま専用シートをお使いください。

お子さま専用シートを使用しないと、急ブレーキ時や衝突時にお子さまが投げ出されたり押しつぶされ、重大な傷害につながるおそれがあります。

■ お子さま専用シートを取り付けるときは、商品に付属している取扱説明書に従って、正しく取り付けてください。

正しく取り付けられていないと、急ブレーキ時や衝突時に、重大な傷害につながるおそれがあります。

■ 助手席には絶対にベビーシートやチャイルドシートを後ろ向きに取り付けないでください。

エアバッグが膨らむと、ベビーシートやチャイルドシートの背面に強い衝撃が加わり、お子さまの命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあり危険です。やむをえず助手席にチャイルドシートを取り付けるときは、必ず前向きに取り付け、シートを最後部まで移動させてください。
助手席側のサンバイザーに、同内容の警告ラベルが表示されています。合わせてご覧ください。

ISOはInternational Standard Organization (国際標準化機構) の略です。

お子さま専用シート選択の目安

お子さま専用シートは次の表を目安に選択してください。詳しくはマツダ販売店にご相談ください。

マツダ純正品の場合

ISOFIX対応チャイルドシート固定ロアアンカレッジで固定するタイプ

種類	体重	身長	参考年齢
チャイルドシート	9～18kg位まで	約70cm～100cm位まで	8か月～4才位まで

上記タイプ以外

種類	体重	身長	参考年齢
ベビーシート	13kg位まで	約80cm位まで	～18か月位まで
チャイルドシート	9～18kg位まで	約70cm～100cm位まで	8か月～4才位まで
ジュニアシート	15～36kg位まで	約95cm～150cm位まで	3才～12才位まで

チャイルドシートを固定するとき

ISOFIX対応チャイルドシート固定ロアアンカレッジ&トップテザーアンカレッジ

リヤシートの左右席には、シートベルトを使わずにチャイルドシートを固定するためのロアアンカレッジが装備されています。
また、テザーストラップが付いたチャイルドシートを固定するためのトップテザーアンカレッジが装備されています。
この固定ロアアンカレッジには、道路運送車両の保安基準に適合したチャイルドシート(チャイルドシート固定ロアアンカレッジ)のみを取り付けることができます。詳しくは、マツダ販売店にご相談ください。

警告

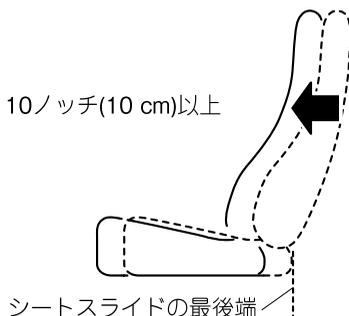
■チャイルドシートを取り付けるときは、固定ロアアンカレッジ周辺に異物がないこと、シートベルトなどをはさみこんでいないことなどを確認してください。

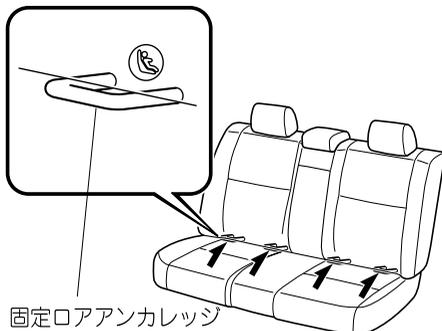
異物やシートベルトなどをはさみこむとチャイルドシートが固定されず、急ブレーキ時や衝突時に、重大な傷害につながるおそれがあります。

知識

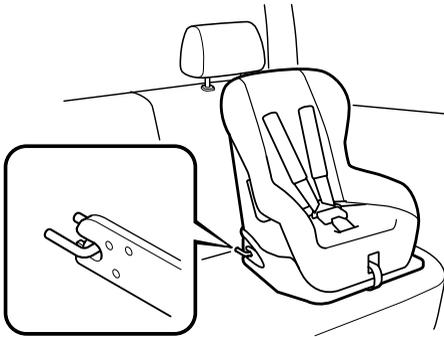
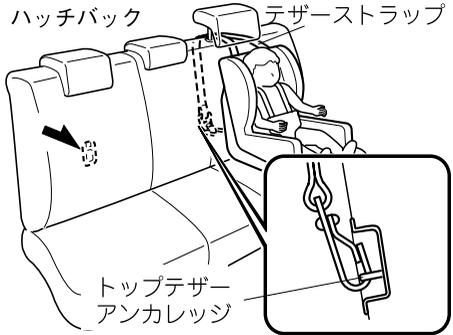
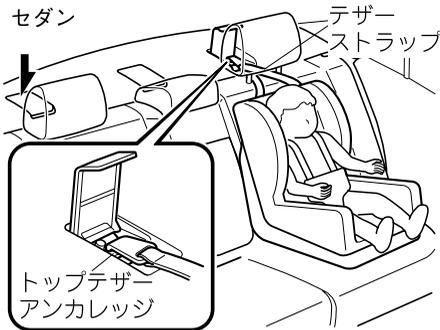
チャイルドシート固定ロアアンカレッジ対応の純正チャイルドシートはチャイルドシート固定ロアアンカレッジで固定し、この車のシートベルトでは固定しないでください。

固定するとき

1. フロントシートをいちばん後ろにスライドさせた後、10ノッチ (10cm) 以上前にスライドさせ、シートスライド可能範囲の中央付近にくるように調節します。
→50ページ「前後調節 (スライディング)」

フロントシートが確実に固定されていることを確認してください。

2. リヤシートが確実に固定されていることを確認してください。
3. シートクッションと背もたれのすき間を少し広げて、固定ロアアンカレッジの位置を確認します。

4. ヘッドレストを引き上げます。
5. チャイルドシートを固定ロアアンカレッジに取り付けます。

知識

チャイルドシートを取り付けるときおよび取りはずすときは、商品に付属している取扱説明書に従ってください。

6 チャイルドシートのテザーストラップを下記イラストのように通して、トップテザーアンカレッジにかけます。

7 テザーストラップがたるまないように調節します。

知識

テザーストラップを取り付けるときは、商品に付属している取扱説明書に従ってください。

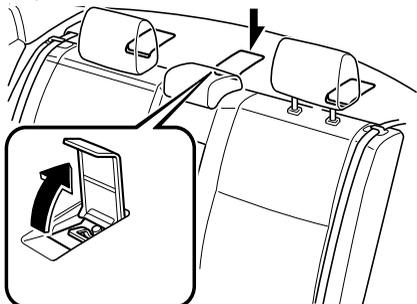
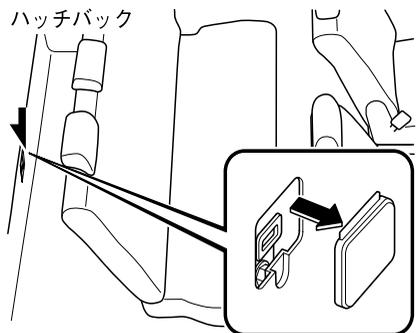
8 チャイルドシートを前後左右にゆさぶり、確実に取り付けられていることを確認します。

⚠ 警告

■ トップテザーアンカレッジは、チャイルドシートを固定するため以外のことには使用しないでください。

チャイルドシートの固定以外のことに使用すると、アンカレッジ部が曲がったり、損傷したりして、テザーストラップが正しくかけられなくなりチャイルドシートが固定されません。
急ブレーキ時や衝突時に、重大な傷害につながるおそれがあります。

知識

中央席には固定ロアアンカレッジは装備されていませんが、トップテザーアンカレッジは装備されています。

SRSエアバッグシステムについて

SRSとはSupplemental Restraint System (サプルメンタルレストレイントシステム) の略で、補助乗員保護装置の意味です。
エアバッグは、電源ポジションがONのとき車両前方または側方から強い衝撃を受けると瞬間的に膨らみ、運転者および同乗者の頭部や胸部などへの衝撃をやわらげます。
SRSエアバッグシステムはシートベルトの働きに加えて乗員を保護する装置であり、シートベルトに代わるものではありません。シートベルトは必ず着用してください。

警告

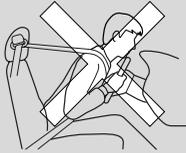
お車に乗る前に

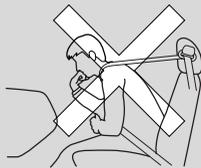
■運転者はもちろん、同乗者も必ずシートベルトを着用してください。

SRSエアバッグシステムはシートベルトと併用することで効果を発揮します。シートベルトを着用していないと、重大な傷害につながるおそれがあります。

シートに座ったときは

■ハンドル中央部に手を置いたり、顔や身体を近づけたりしないでください。

エアバッグが作動したときに、強い衝撃を受け重大な傷害につながるおそれがあります。

■シートの前端に座ったり、インストルメントパネルにもたれかかったり、手や顔を近づけないでください。

エアバッグが作動したときに強い衝撃を受け重大な傷害につながるおそれがあります。

お子さまを乗せるときは

■お子さまはできるだけリヤシートに座らせ必ずシートベルトを着用させてください。

シートベルトが首や顔などにあたったり、腰骨に正しく着用できないお子さまには、別売りのベビーシート、チャイルドシート、ジュニアシートをお使いください。

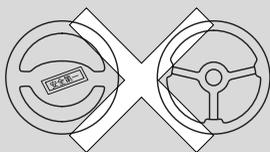
SRSエアバッグシステム

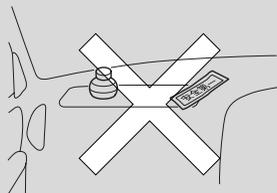
警告

お子さまがエアバッグの前に立っていたり、正しい姿勢で座っていなかったりすると、エアバッグが作動したときに強い衝撃を受け、お子さまの命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

こんなことにも注意

■ハンドルを交換しないでください。

また、パッド部にステッカーなどを貼り付けたりしないでください。万一の場合エアバッグが正常に作動しなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。

■インストルメントパネル上部にステッカーを貼り付けたり、芳香剤、アクセサリー用品、手荷物などの物を置いたりしないでください。

また、ルームミラーにワイドミラーを取り付けたりしないでください。エアバッグが正常に作動しなくなったり、エアバッグが膨らむときにこれらの物が飛散し、重大な傷害につながるおそれがあります。

■車両前部にグリルガードなどを装着しないでください。

SRSエアバッグシステムに影響をおよぼすため、万一の場合エアバッグが正常に作動しなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。

警告

■サスペンションの改造をしないでください。

車高やサスペンションの硬さが変わると、衝撃を正しく検知できないため、エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤って作動し、重大な傷害につながるおそれがあります。

■SRSエアバッグシステムの部品や配線を修理したり、電気テスターを使って、SRSエアバッグシステムの回路診断をしないでください。

正常に作動しなくなったり、誤って作動し、重大な傷害につながるおそれがあります。

メンテナンスについて

■事故後は必ずマツダ販売店で点検を受けてください。

エアバッグが作動しない程度の事故であっても、事故の衝撃でシステム本来の機能を損なっているおそれがあるため、万一の場合エアバッグが正常に作動しなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。

■次のような作業が必要なときは、必ずマツダ販売店にご相談ください。

これらの作業を行なうとエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤って作動し、重大な傷害につながるおそれがあります。

- SRSエアバッグの取りはずし、取り付け、分解、修理
- ハンドルまたは周辺部品の取りはずし、取り付け、分解、修理
- インストルメントパネルまたは周辺部品の取りはずし、取り付け、分解、修理
- フロントシートの交換、取りはずし、取り付け、分解、修理
- 車両前部または側部の修理
- フロントピラー、サイドピラー、リヤピラー、ルーフサイド部の修理
- オーディオなど用品の取りはずし、取り付け

■車を廃車される場合は、必ずマツダ販売店にご相談ください。

不意にエアバッグが作動し、重大な傷害につながるおそれがあります。

警告

サイドエアバッグについて

■フロントシート背もたれの外側部分に手、足、顔を近づけた姿勢で座らないでください。

フロントシートに座ったときは、フロントドアにもたれかかったり、窓から腕を出したりしないでください。また、リヤシートに座ったときはフロントシートの背もたれを抱えないでください。サイドエアバッグが作動したときに強い衝撃を受け、重大な傷害につながるおそれがあります。

■フロントシートにシートカバーを使用しないでください。

シートカバーを使用するとサイドエアバッグが正常に作動しなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。

■フロントドアやフロントシート付近にカップホルダーなどのアクセサリー用品を取り付けないでください。

サイドエアバッグが膨らむときにこれらの物が飛散し、重大な傷害につながるおそれがあります。

■フロントシートの下に荷物などを置かないでください。

フロントシートの下部にあるサイドエアバッグの配線が損傷し、万一の場合エアバッグが正常に作動しなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。

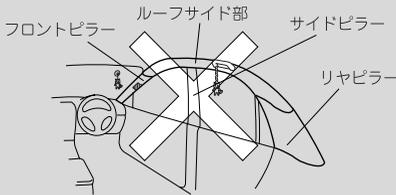
カーテンエアバッグについて

■ドアにもたれかかったり、フロントピラー、リヤピラー、ルーフサイド部などに近づかないようにして座ってください。

カーテンエアバッグが作動したときに強い衝撃を受け、重大な傷害につながるおそれがあります。

警告

■ フロント窓ガラス、リヤ窓ガラス、フロントピラー、サイドピラー、リヤピラー、ルーフサイド部、アシストグリップなどカーテンエアバッグ展開部周辺にアクセサリー、ハンズフリーマイクなどを取り付けたりしないでください。

カーテンエアバッグが膨らむときにこれらのものが飛散し、重大な傷害につながるおそれがあります。

■ アシストグリップやコートフックなどには重たいものやとがったものをかけないでください。

服などをかけるときはハンガーを使わないでください。カーテンエアバッグが膨らむときにこれらのものが飛散し、重大な傷害につながるおそれがあります。

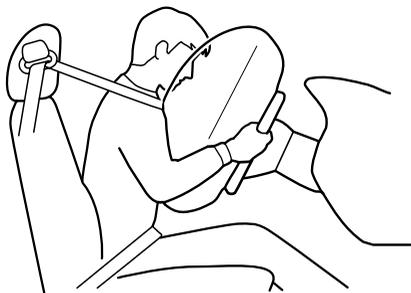
注意

- エアバッグが作動した直後は、しばらくの間エアバッグ取り付け部をさわらないでください。エアバッグが作動すると高温になるため、やけどをするおそれがあります。
- ドアを閉じるときは窓ガラスが割れるほど強く閉めないでください。サイド/カーテンエアバッグが作動するおそれがあります。

知識

- エアバッグは瞬時に膨らむため、エアバッグとの接触により打撲やすり傷など、けがをするおそれがあります。
- エアバッグが膨らむと白煙が出ますが、火災ではありません。また、人体への影響はありません。ただし、皮膚などの弱い方はまれに刺激を受けることがあります。エアバッグ作動時の残留物（カス）が目や皮膚に付着したときは、できるだけ早く洗い流してください。
- エアバッグは一度膨らむと再使用できません。マツダ販売店で交換してください。
- 車をおゆずりになる場合は、必ず次のオーナーにSRSエアバッグシステム装備車であることをお伝えください。
- 助手席エアバッグが膨らむときにフロントガラスが破損することがあります。

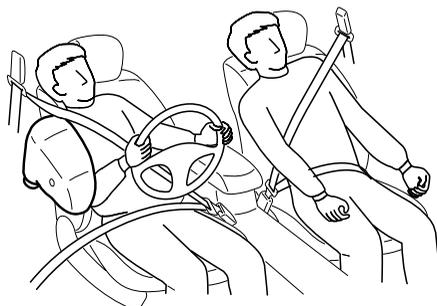
運転席エアバッグ

運転席エアバッグはハンドルの中央に格納されています。

助手席エアバッグ

助手席エアバッグはインストルメントパネルに格納されています。
助手席に同乗者がいなくても運転席エアバッグと同時に膨らみます。

サイドエアバッグ

グレード/仕様別装備

サイドエアバッグはフロントシート背もたれの外側部分に格納されています。
乗員の有無に関係なく衝撃を受けた側のサイドエアバッグが膨らみます。

カーテンエアバッグ

グレード/仕様別装備

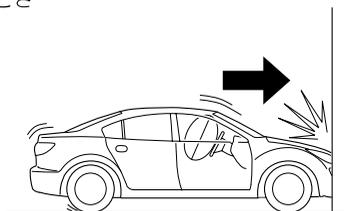
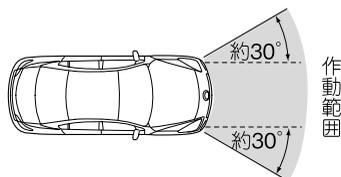
カーテンエアバッグはフロントピラー、リヤピラー、ルーフサイド部に格納されています。
乗員の有無に関係なく衝撃を受けた側のカーテンエアバッグが膨らみます。

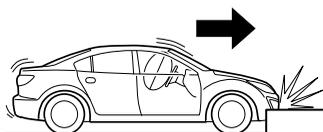
作動するとき、しないとき

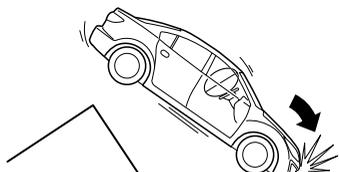
運転席/助手席エアバッグは正面衝突において、サイド/カーテンエアバッグは側面衝突において、強い衝撃を受けたときに作動します。
車体の衝撃吸収ボディー構造により、乗員への衝撃は大きくならない場合があります。
したがって、車両の損傷が大きくてもエアバッグが必ずしも作動するとは限りません。

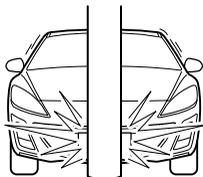
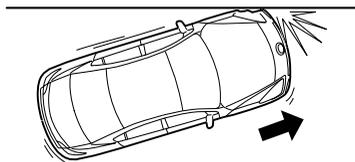
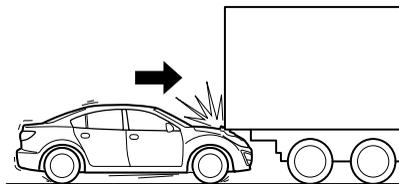
運転席/助手席エアバッグが作動するとき

次のようなときには、衝撃が大きいと作動します。

約22km/h以上で固いコンクリートの壁などに正面衝突したときと同じ程度の衝撃を受けたとき

正面衝突など車両の前方左右約30°以内の方向から強い衝撃を受けたとき

次のようなときには、路面などから車両下部に強い衝撃を受けると作動することがあります。

中央分離帯や緑石などに衝突したとき

深い穴や溝に落ちたとき

ジャンプなどで地面にぶつかったとき

運転席/助手席エアバッグが作動しにくいとき

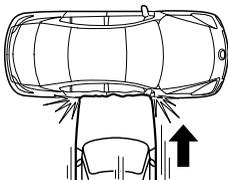
次のようなときには、衝撃の大きさによって作動しないことがあります。

立木や電柱に衝突したとき

トラックの下などに潜り込んだとき

斜め前方に衝突したとき

運転席/助手席エアバッグが作動しないとき

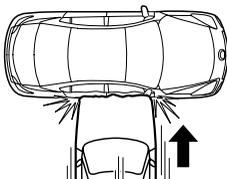
次のようなときには作動しません。

後ろ方向から衝突されたとき

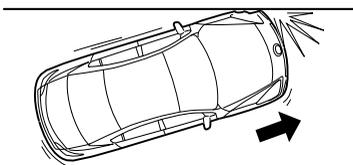
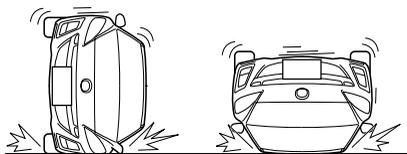
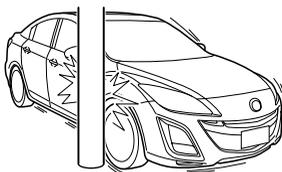
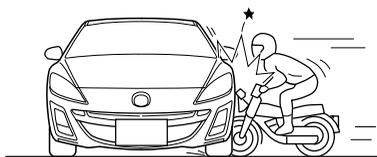
横転や転覆したとき

横方向から衝突されたとき

サイド/カーテンエアバッグが作動するとき

次のようなときには、衝撃が大きいと作動します。

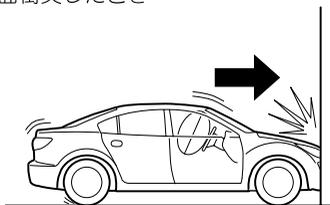
車両の側面(運転者または助手席同乗者付近)に横方向から衝突されたとき

サイド/カーテンエアバッグが作動しにくいとき

次のようなときには、衝撃の大きさによって作動しないことがあります。

斜め前方に衝突したとき

横転や転覆したとき

車両の側面(運転者または助手席同乗者付近)から立木や電柱に衝突したとき

2輪車が側面に衝突したとき

サイド/カーテンエアバッグが作動しないとき

次のようなときには作動しません。

後ろ方向から衝突されたとき

正面衝突したとき

エアバッグ警告灯/プリテンショナー警告灯

電源ポジションをONにすると点灯し、しばらくすると消灯します。
次のようなときはシステムの異常が考えられます。

- 電源ポジションをONにしても点灯しないとき。
- 点滅し続けるとき。
- 点灯し続けるとき。

処置方法

マツダ販売店で点検を受けてください。

警告

■エアバッグ警告灯/プリテンショナー警告灯が点灯または点滅したまま走行しないでください。

衝突したときにエアバッグまたはプリテンショナー機構が正常に作動せず、重大な傷害につながるおそれがあります。マツダ販売店で点検を受けてください。

エアバッグ警告チャイム/プリテンショナー機構警告チャイム

SRSエアバッグシステムまたはプリテンショナー機構に異常があり、さらにエアバッグ警告灯/プリテンショナー警告灯にも異常があるとき、チャイム(毎分5秒間)が鳴り、システムの異常を知らせます。
エアバッグ警告チャイム/プリテンショナー警告チャイムは約35分間鳴り続けます。
ただちにマツダ販売店で点検を受けてください。

警告

■ **エアバッグ警告チャイム/プリテンショナー警告チャイムが鳴っているまま走行しないでください。**

衝突したときにエアバッグまたはプリテンショナー機構が正常に作動せず、重大な傷害につながるおそれがあります。
マツダ販売店で点検を受けてください。

EDR (イベントデータレコーダー)

本車両は、SRSエアバッグ制御のためのコンピュータを搭載しています。そのコンピュータは、SRSエアバッグシステムが正常に作動していることを診断するとともに、衝突や衝突に近い状態のとき、以下のデータを記録・蓄積するEDRを装備しています。

記録するデータ

EDRは下記のような情報を記録します。

- 車速
- 運転者・助手席乗員のシートベルト装着有無
- エアバッグ作動に関する情報(加速度波形等)
- エアバッグシステムの故障診断情報

知識

EDRは会話などの音声や映像は記録しません。

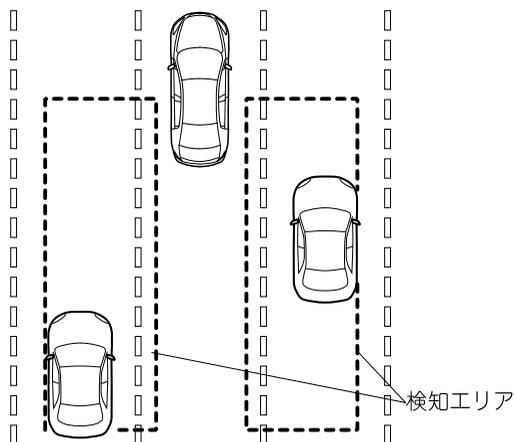
データの開示について

マツダおよびマツダが委託した第三者は、EDRに記録されたデータを、車両衝突安全性能の向上などを目的に取得・利用することがあります。
なお、マツダおよびマツダが委託した第三者は、取得したデータを以下の場合を除き、第三者へ開示・提供することはありません。

- お車の使用者の同意がある場合
- 裁判所命令などの法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行なうなどの使用者や車が特定できないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

リアビークルモニタリングシステムについて

グレード/仕様別装備

リアビークルモニタリングシステムは、自車の隣接車線の後方から接近する車両の存在を知らせることにより、車線変更時の後方確認をアシストするシステムです。
当システムの検知エリアは、自車の左右に隣接する車線で、自車のフロントドア後端付近から自車の後方約50mまでです。
当システムは、後方からの接近車両を検知して、その接近状態に応じてドアミラーに設置したRVM接近表示灯を点灯させます。RVM接近表示灯が点灯した状態で、その点灯した側に方向指示器のレバーを操作すると、RVM接近表示灯が点滅するとともに警報チャイムによってドライバーに危険を知らせます。

警告

■実際の車線変更時には、必ず目視にて周辺状況を確認してください。
本システムは車線変更時の後方確認をアシストするシステムです。本システムの作動には各種の制約があるため、隣接車線に車両が存在する場合でもRVM接近表示灯が点灯しなかったり、点灯が遅れる場合があります。必ず、ドライバーの責任において後方を確認してください。

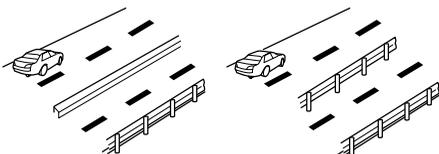
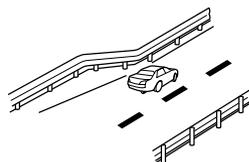
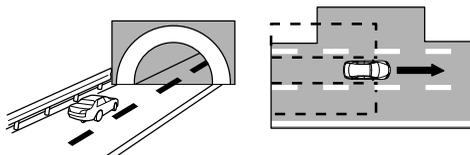
知識

- リアビークルモニタリングシステムは次の条件をすべて満たしているときに作動します。
  - 電源ポジションがONのとき
  - RVMスイッチを押してメーター内のRVM表示灯 (緑) が点灯しているとき
  - 車速が約60km/h以上のとき
- リアビークルモニタリングシステムは次のときには作動しません。
  - RVM表示灯 (緑) が点灯している場合でも、車速が約60km/hを下回ったとき
  - 自車がセレクトレバーをRにいれて後退走行中のとき
- 次の場合、システムはRVM警告灯 (橙) を点灯させ、システムの作動を停止します。RVM警告灯 (橙) が点灯し続ける場合は速やかにマツダ販売店で点検を受けてください。
  - RVM接近表示灯を含むシステムに何らかの異常が認められるとき
  - レーダーセンサーの車両への搭載位置に大きなズレが生じたとき (リアビークルモニタリングシステムのレーダーセンサーが接近車両を正しく検出するために、車両搭載状態でレーダーセンサーの向きを車両ごとに調整して出荷しています。レーダーの向きが何らかの原因でずれた場合は再調整が必要です。)
  - レーダーセンサー付近のリヤバンパー上に雪や氷などが多量についたとき
  - 雪道を長時間走行したとき
  - 夏場に上り坂を長時間走行するなどレーダー付近の温度が非常に高くなったとき
  - バッテリーの電圧が下がっているとき
- レーダーの検知性能には限界があります。次のような場合はリアビークルモニタリングシステムの検知性能が低下し、正常に作動しないことがあります。
  - レーダーセンサー付近のリヤバンパーが変形したとき
  - リヤバンパーのレーダーセンサー付近に氷、雪や泥が付着しているとき
  - 雨、雪、霧などの悪天候のとき
- 次のような車両に対してはレーダーセンサーが検知しないか、もしくは検知しにくいことがあります。
  - 小型の二輪車、自転車、歩行者、道路上および道路端の静止物体
  - レーダーが反射しにくい形状の車両 (車高の低い空荷のトレーラー、スポーツカー等)
  - 隣車線後方の検知エリアにいても、自車に接近してこない車両 (接近車両はレーダーの検出データをもとにシステムが判断しています。)
  - 自車とほとんど速度差なく長い時間並走している車両
  - 対向車
  - 自車が追い越そうとしている隣接車線の車両
  - 道路幅が極端に広い場合の隣接車線の車両 (レーダーセンサーの検知エリアは、高速道路の道路幅に対して設定してあります。)

リアビークルモニタリングシステム

 知識

- 次のような場合は、RVM接近表示灯の点灯および警報チャイムの警告が遅れるか、点灯/警告ができないことがあります。
  - 車両が2つ離れた車線から隣接車線に車線変更してきたとき
  - 急勾配を走行しているとき
  - 峠を越えるとき
  - 急カーブを走行しているとき
  - 自車線と隣接車線の高さに差があるとき
  - リアビークルモニタリングシステムをONにした直後
- 道路幅が極端に狭い場合は、2車線横の車両を検知する場合があります。(レーダーセンサーの検知エリアは、高速道路の道路幅に対して設定してあります。)
- 道路上および道路端の停止物 (ガードレール、トンネル、側壁等) に対してRVM接近表示灯が点灯する場合があります。

ガードレール、コンクリート壁
等が並行している場合

ガードレールや側壁の幅が
狭くなっているところ

トンネルの出入口やトンネル
内の側壁、待避所

- トレーラー等をけん引したり、車両後部に自転車のキャリア等を装着した場合は、リアビークルモニタリングシステムを解除してください。レーダーの電波がさえぎられるためシステムが正常に作動しない可能性があります。

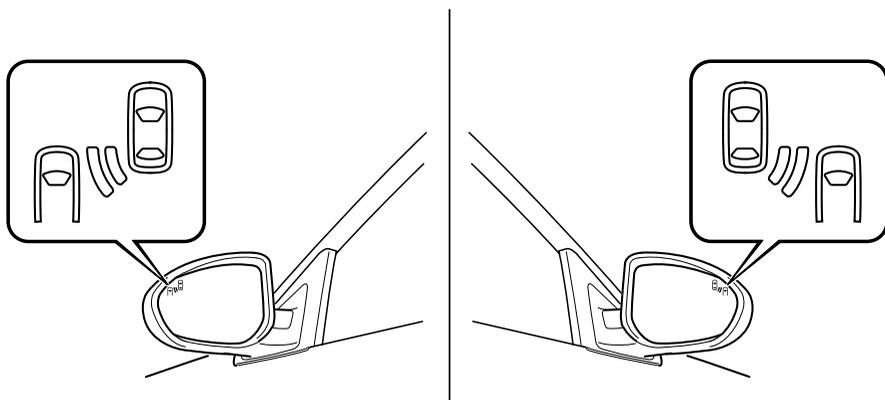
知識

- リアビークルモニタリングシステムのレーダーセンサーは日本国内の電波法の認可を受けています。日本国外で走行する際には、その国の認可を受ける必要があります。

RVM接近表示灯/警報チャイム

リアビークルモニタリングシステムが作動中は、RVM接近表示灯や警報チャイムで、隣接車線に車両があることを知らせます。

RVM接近表示灯

ドアミラーに取り付けられています。後方からの接近車両を検知すると点灯します。点灯した状態で、点灯側へ方向指示器のレバーを操作すると点滅し、ドライバーに危険を知らせます。

減光解除機能

ランプスイッチを または の位置にすると、RVM接近表示灯が点灯したときの明るさは減光されます。
雪道や霧での走行時など、周囲が明るく減光状態ではRVM接近表示灯が見えにくい場合には、減光解除ボタンを押すと減光が解除されRVM接近表示灯が点灯したときの明るさが明るくなります。
→155ページ「減光解除ボタン」

警報チャイム

RVM接近表示灯の点滅と同時に吹鳴し、ドライバーに危険を知らせます。

必読！
安全装備
操作と取り扱い
快適カーライフ
万一のとき
車との上手なつきあいかた
サービスデータ
さくいん

RVM警告灯 (橙)/RVM表示灯 (緑)

RVM

RVM警告灯 (橙)

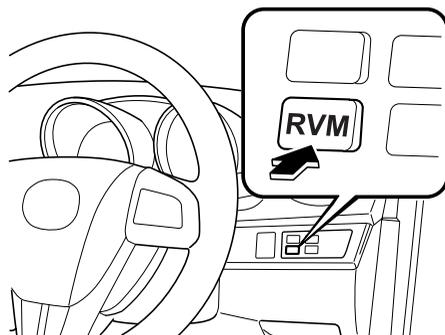
電源ポジションをONにすると点灯します。リアビークルモニタリングシステムが作動可能な状態だとRVM表示灯 (緑) に切り替わり、解除されているときは消灯します。

システムに異常があるときは点灯し続けます。マツダ販売店で点検を受けてください。

RVM表示灯 (緑)

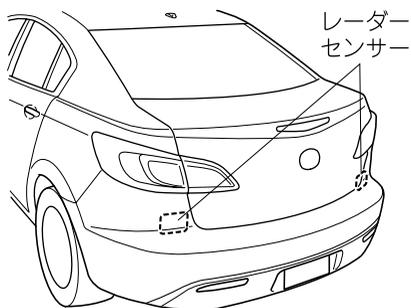
リアビークルモニタリングシステムが作動可能なとき点灯します。

RVMスイッチ

スイッチを押すとメーター内のRVM表示灯 (緑) が点灯し、リアビークルモニタリングシステムが作動可能な状態になります。
もう一度押すとリアビークルモニタリングシステムが解除され、RVM表示灯 (緑) が消灯します。

知識

- 電源ポジションをOFFにしたときは、OFFにする前の状態が保持されます。たとえば、リアビークルモニタリングシステムが作動可能な状態で電源ポジションをOFFにすると、次に電源ポジションをONにしたときはリアビークルモニタリングシステムは作動可能な状態のままです。
- バッテリーのターミナルやヒューズの脱着などにより、バッテリーとの接続が断たれるとリアビークルモニタリングシステムはOFFになります。リアビークルモニタリングシステムを作動させる場合は、RVMスイッチを押してONにしてください。

レーダーセンサーの取り扱い

リアビークルモニタリングシステムのセンサーはリヤバンパーの内側に左右1つずつ設置されています。

リアビークルモニタリングシステムの正しい作動のため、レーダーセンサー付近のバンパー表面は、いつもきれいにしておいてください。またステッカー等も貼り付けないでください。

→362ページ「外装の手入れ」

 知識

レーダーセンサーの修理、交換およびレーダーセンサー付近のバンパーの修理、塗装、交換をするときは、マツダ販売店にご相談ください。

ABSについて

ABS (アンチロックブレーキシステム) は、すべりやすい路面での制動時に起こる車輪のロックを防いで車の方向安定性を保ち、操縦性を確保する装置です。

警告

■ABSを過信せず安全運転に心がけてください。

ABSが作動した状態でも車の方向安定性や操縦性には限界があります。また、次のようなときには、速度をひかえめにし、車間距離を十分にとって運転してください。ABSが装備されていない車に比べて制動距離が長くなることがあるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- **ジャリ道、新雪道を走行しているとき。**
- **タイヤチェーンを装着しているとき。**
- **道路の継ぎ目などの段差を乗り越えるとき。**
- **凸凹道や石だたみなどの悪路を走行しているとき。**

注意

前後輪とも必ず指定されたサイズや種類のタイヤを装着してください。指定されたサイズや種類以外のタイヤを装着すると、ABSが正常に作動しないことがあります。

知識

- ABSは低速 (約10km/h以下) では作動しませんが通常のブレーキ性能は確保されています。
- エンジン始動時や発進直後にモーター音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

ABS装備車の取り扱い

急ブレーキを踏まなくてはいけないような状況に陥らないよう、安全運転を心がけてください。
万一の危険な状況では、次のようにしてください。

1 危険を感じ急制動が必要なときは、ためらわずブレーキペダルをしっかりと踏み込んでください。

2 ブレーキペダルを踏んだとき、ペダルから小刻みな振動を感じることがあります。これはABSが正常に作動しているときの現象で異常ではありません。そのままブレーキペダルを踏み続けてください。

3 障害物を回避するときは、ブレーキペダルを踏みながらハンドルを操作してください。

ABS警告灯

電源ポジションをONにすると点灯し、しばらくすると消灯します。
システムに異常があるときは点灯し続けます。

処置方法

マツダ販売店で点検を受けてください。

警告

■ ブレーキ警告灯とABS警告灯が同時に点灯したときは、ただちに安全な場所に停車し、マツダ販売店に連絡してください。

急ブレーキをかけた際、通常より早く後輪がロックしやすくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

知識

- ABS警告灯が点灯しているときは、ABSが作動しないため、急ブレーキ時やすべりやすい路面での制動時には、車輪がロックすることがあります。
- ABS警告灯が点灯したときは、ABSは作動しませんが通常のブレーキ性能は確保されています。
- **(DSC装備車)**
  ABS警告灯が点灯しているときは、ブレーキアシストは作動しません。

ブレーキアシストについて

ブレーキアシストは緊急制動時などブレーキペダルを強く踏む必要がある場合に、強く踏めない運転者を補助し、ブレーキの性能を最大限発揮させる装置です。

ブレーキペダルを強く踏んだとき、または素早く踏んだとき、ブレーキが強くかかるようになります。

知識

- ブレーキペダルを強く踏んだとき、または素早く踏んだとき、ペダルが軽くなりブレーキが強くかかるようになります。これはブレーキアシストが正常に作動しているときの現象で異常ではありません。
- **(DSC非装備車)**
  ブレーキペダルを強く踏んだとき、または素早く踏んだとき、カチッと音が聞こえることがあります。これはブレーキアシストが正常に作動しているときの現象で異常ではありません。
- **(DSC装備車)**
  ブレーキペダルを強く踏んだとき、または素早く踏んだとき、モーター作動音が聞こえることがあります。これはブレーキアシストが正常に作動しているときの現象で異常ではありません。
- ブレーキアシストは、本来もっているブレーキ性能をこえた制動をする装置ではありません。

エマージェンシーシグナルシステム (ESS) について

エマージェンシーシグナルシステム (ESS) は緊急制動時などに車両に急減速が生じたかを判断し、方向指示灯の点滅により、後続車に注意をうながすシステムです。
エマージェンシーシグナルシステム (ESS) 作動中はすべての方向指示灯を自動的に高速で点滅させます。
ブレーキペダルを放すか、車両の減速度から急ブレーキではないと判断されたときにシステムは解除されます。

知識

- すべての方向指示灯が高速点滅中に停車した場合、すべての方向指示灯はブレーキを踏んでいる間、通常の周期で点滅し続けます。
- エマージェンシーシグナルシステム (ESS) は約50km/h以下のときは作動しません。
- すべりやすい路面でブレーキを踏むと、エマージェンシーシグナルシステム (ESS) が作動しすべての方向指示器が点滅することがあります。

トラクションコントロールシステム(TCS)

TCSについて

グレード/仕様別装備

TCS(トラクションコントロールシステム)は、水にぬれた路面や雪道などのすべりやすい路面での発進や旋回加速時に起こる駆動輪の空転を防ぎ、適切な駆動力と操縦性を確保する装置です。

 警告

■TCSを過信せず安全運転に心がけてください。

TCSが作動した状態でも駆動力の確保や車の操縦性には限界があり、無理な運転は思わぬ事故につながるおそれがあります。

 知識

- エンジン回転が高いときにTCSが作動すると、エンジン回転の変動や車体の振動を感じることがありますが、異常ではありません。
- TCSを解除するときは、DSC OFFスイッチを押して解除してください。
→96ページ「DSC OFFスイッチ」

TCS/DSC作動表示灯

電源ポジションをONにすると点灯し、しばらくすると消灯します。
走行中にTCSまたはDSCが作動すると点滅します。

次のようなときはシステムの異常が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。

- 電源ポジションをONにしても点灯しないとき、または点灯したままのとき。
- 走行中に点灯したとき。

ダイナミック･スタビリティ･コントロール (DSC)

DSCについて

グレード/仕様別装備

DSC (ダイナミック･スタビリティ･コントロール) は、すべりやすい路面での走行時や、緊急回避など急激なハンドル操作による車両の横すべりをおさえるため、ABSやTCSなどにより、ブレーキやエンジンの出力を自動的に制御して、車両の安定性を確保する装置です。

90ページの「ABSについて」、94ページの「TCSについて」もあわせてお読みください。

DSCは約20km/h以上で作動可能な状態になります。

警告

■DSCを過信せず安全運転に心がけてください。

DSCが作動した状態でも車両の安定性や操縦性には限界があるため、無理な運転は思わぬ事故につながるおそれがあります。

特にDSC作動表示灯が点滅しているときは、車両が横すべりしやすい状態になっています。慎重に運転してください。

注意

前後輪とも必ず指定されたサイズで、メーカー、銘柄、パターン (溝の模様) が同一のタイヤを装着してください。また、摩耗差の著しいタイヤを混ぜて使用しないでください。指定以外のサイズや、異なる種類、摩耗差の著しいタイヤを使用すると、DSCが正常に作動しないことがあります。

また、タイヤチェーンや応急用スペアタイヤ装着時のように径の異なるタイヤを使用したときは、DSCが正常に作動しないことがあります。

知識

電源ポジションをONにした後、インストルメントパネルの奥からカチッと音が聞こえることがあります。これはシステムの作動をチェックしている音で、異常ではありません。

TCS/DSC作動表示灯

電源ポジションをONにすると点灯し、しばらくすると消灯します。

走行中にTCSまたはDSCが作動すると点滅します。

次のようなときはシステムの異常が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。

- 電源ポジションをONにしても点灯しないとき、または点灯したままのとき。
- 走行中に点灯したとき。

ダイナミック･スタビリティ･コントロール(DSC)

DSC OFF表示灯

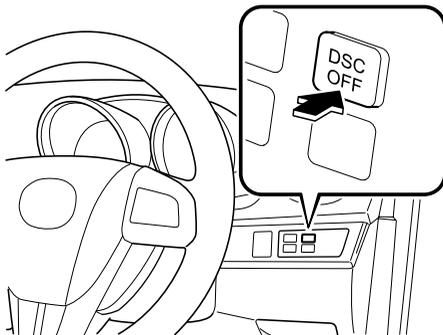
電源ポジションをONにすると点灯し、しばらくすると消灯します。
DSC OFFスイッチを押して、TCS/DSCを解除すると点灯します。

DSC
OFF

次のようなときはシステムの異常が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。

- 電源ポジションをONにしても点灯しないとき、または点灯したままのとき。
- TCS/DSCを解除していないのに点灯したとき。

DSC OFFスイッチ

スイッチを押すとTCS/DSCが解除され、メーター内のDSC OFF表示灯が点灯します。
もう一度押すとTCS/DSCが作動可能な状態になり、DSC OFF表示灯が消灯します。

知識

- ぬかるみや新雪などからの脱出時にTCSが作動し、アクセルペダルを踏み込んでもエンジンの出力が上がらず、脱出困難なときにTCS/DSCを解除します。
- TCS/DSCを解除した状態でエンジンを停止した場合、次にエンジンを始動するとTCS/DSCは作動可能な状態にもどります。
- TCS/DSCを解除したときは、TCS/DSCが装備されていない車と同じ走行性能になります。

3 操作と取り扱い

アドバンストキー 98

各部の開閉 120

盗難防止システム 142

各部の調節 147

メーター、警告灯、表示灯の見方 152

スイッチの使いかた 175

運転装置の使いかた 189

アドバンストキーについて

グレード/仕様別装備

アドバンストキーを携帯することで、アドバンストキーレスエントリー&プッシュボタンスタートシステムにより次の操作をすることができます。

→105ページ「アドバンストキーレスエントリー&プッシュボタンスタートシステムの機能を使っての操作」

- キーを取り出すことなくドア、リヤゲート/トランクの施錠/解錠をする。
- キーを取り出すことなく、リヤゲートを開ける。
- キーを取り出すことなくエンジンを始動する。

アドバンストキーは、アドバンストキーレスエントリー&プッシュボタンスタートシステム機能以外の操作も行うことができます。スイッチまたは補助キーを使用することで、次の操作をすることができます。

→114ページ「アドバンストキーレスエントリー&プッシュボタンスタートシステムの機能を使わない操作」

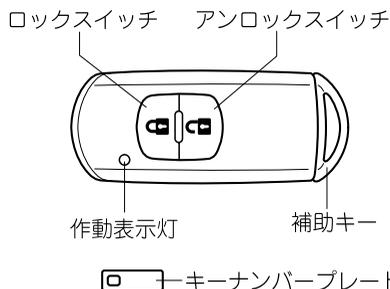
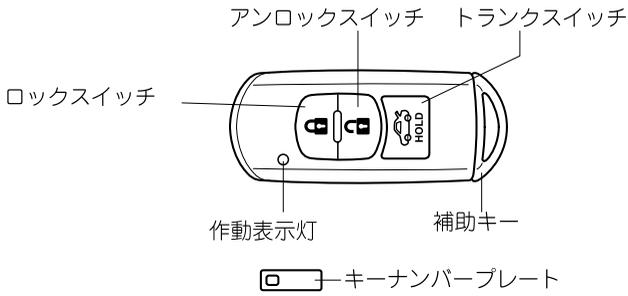
- リモートコントロール機能 (ロックスイッチ、アンロックスイッチ、トランクスイッチ) でドアの施錠/解錠、トランクの解錠をする。
- 補助キーでドアの施錠/解錠またはエンジンの始動をする。

知識

アドバンストキーは必ず運転者が携帯してください。

アドバンストキーは2個あります。

ハッチバック

セダン

アドバンストキー

ハッチバック

 警告

■ 植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器の医療用機器を使用している方は、車内·車外の発信機から約22cm以内に医療用機器が近づかないようにしてください。

電波により、医療用機器の作動に影響をおよぼすおそれがあります。

車外の発信機

車内の発信機

■ 植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器以外の医療用機器を使用している方は、アドバンストキーの電波の影響を医師や医療用電気機器製造業者などに確認してください。

電波が悪影響をおよぼすおそれがあります。

■ アドバンストキーレスエントリー&プッシュボタンスタートシステム機能を作動させないようにすることもできます。i-stop装備車は機能を作動させないようにすると、アイドリングストップ機能は作動しません。

詳しくはマツダ販売店にご相談ください。

セダン

⚠ 警告

■ 植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器の医療用機器を使用している方は、車内･車外の発信機から約22cm以内に医療用機器が近づかないようにしてください。

電波により、医療用機器の作動に影響をおよぼすおそれがあります。

■ 植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器以外の医療用機器を使用している方は、アドバンストキーの電波の影響を医師や医療用電気機器製造業者などに確認してください。

電波が悪影響をおよぼすおそれがあります。

■ アドバンストキーレスエントリー&プッシュボタンスタートシステム機能を作動させないようにすることもできます。i-stop装備車は機能を作動させないようにすると、アイドリングストップ機能は作動しません。

詳しくはマツダ販売店にご相談ください。

アドバンストキー

注意

- アドバンストキーは、微弱な電波を使用しています。次のようなときはアドバンストキーが正常に作動しないことがあります。
  - アドバンストキーを携帯電話などの通信機器と一緒に携帯しているとき
  - アドバンストキーが金属製のものに接したり、おおわれたりしているとき
  - アドバンストキーをパソコンなどの電化製品の近くに置いたとき
  - 純正品以外の電子機器を取り付けたとき
  - 近くに電波を発する設備があるとき
- アドバンストキーは強い電波を受信すると、それに反応して電池を著しく消耗することがあります。テレビやパソコンなどの電化製品の近くに置かないでください。
- アドバンストキーの故障を防ぐために次のことをお守りください。
  - 強い衝撃をあたえたり、ぬらしたりしないでください。
  - 分解しないでください。
  - 重い物を上に置かないでください。
  - インストルメントパネルやボンネットの上など直射日光があたる場所や高温になる所に放置しないでください。
  - 超音波洗浄器などにかけないでください。
  - 磁気を帯びた製品を近づけないでください。

知識

- 電池の寿命は、約1年程度です。メーターにKEY表示灯 (緑) が点滅した場合は、新しい電池と交換してください。

- アドバンストキーは同じ車両で最大6個まで使用することができます。マツダ販売店にご相談ください。
- アドバンストキーを紛失したときは、盗難などを防ぐため、マツダ販売店にご連絡ください。

キーナンバープレート

お客様以外のかたにキーナンバーを知られないために、キーナンバープレートにキーナンバーを打刻しています。

知識

- キーナンバープレートは車両以外の安全な場所に、大切に保管しておいてください。
- 万一、アドバンストキー (補助キー含む) を紛失したときは、マツダ販売店でキーナンバーをもとにアドバンストキー (補助キー含む) を作ることができます。
- 車両をおゆずりになるときは、次にお使いになるかたのために、すべてのアドバンストキー (補助キー含む) と一緒に、キーナンバープレートを車両につけてお渡しください。

電池の交換

次のようなときは電池残量が少なくなっていることが考えられます。

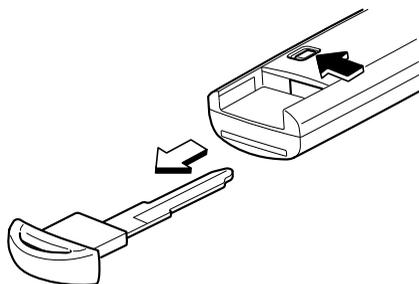
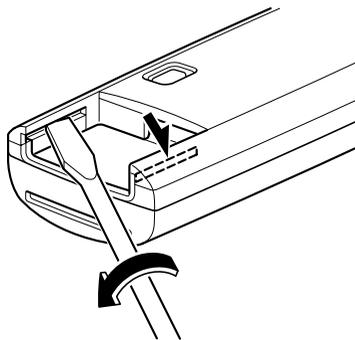
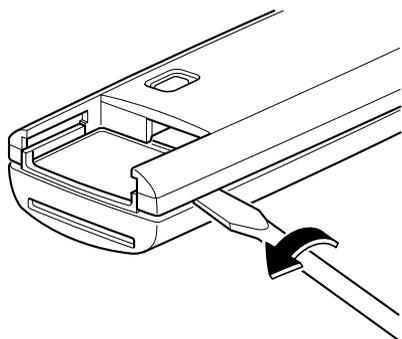
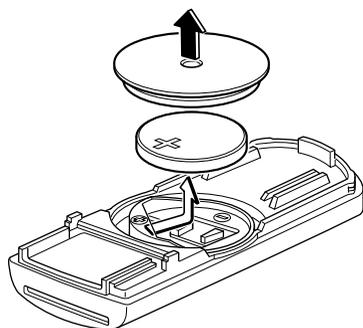
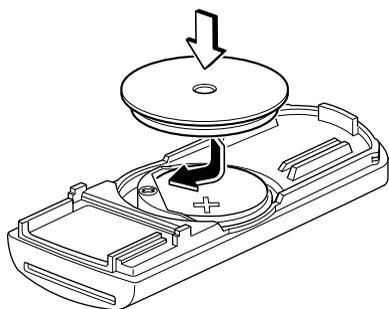
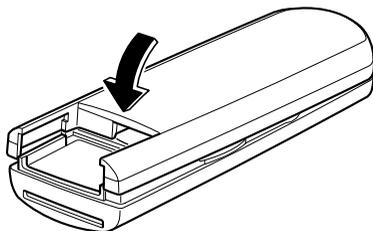
- エンジンをきったときにメーター内のKEY表示灯 (緑) が点滅する
- アドバンストキーの作動表示灯が点灯しない
- どのスイッチを押しても作動しない
- 作動範囲が狭く不安定になる

電池交換のとき、アドバンストキーが破損するおそれがあるため、マツダ販売店での交換をおすすめします。お客様自身で電池の交換をする場合は、次の手順で交換してください。

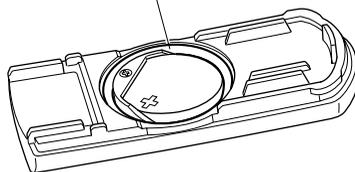
電池の規格: リチウム電池CR2025

注意

- **電池の＋側と－側は必ず正しく取り付けてください。液漏れなどにつながるおそれがあります。**
- **アドバンストキーの内部にゴミなどを付着させないでください。故障につながるおそれがあります。**
- **電池を交換してもアドバンストキーが作動しないときは、マツダ販売店にご相談ください。**

1 補助キーを引き出します。

2 マイナスドライバーなどを使ってカバーを少し開けます。

3 マイナスドライバーなどを使ってカバーを取り外します。

4 キャップを外して、電池を取り出します。

5 新しい電池を、+ 側を上にして差し込み、キャップをかぶせます。

6 カバーを取り付けます。

7 補助キーを差し込みます。

注意

- **ゴムリングを傷つけないようにしてください。**
- **ゴムリングが外れた場合は、新しい電池を入れる前にゴムリングを取り付けてください。**

アドバンストキーレスエントリー&プッシュボタンスタートシステムの機能を使っての操作

作動範囲

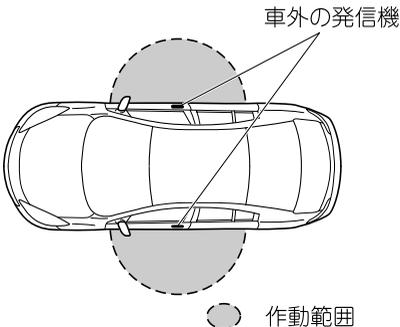
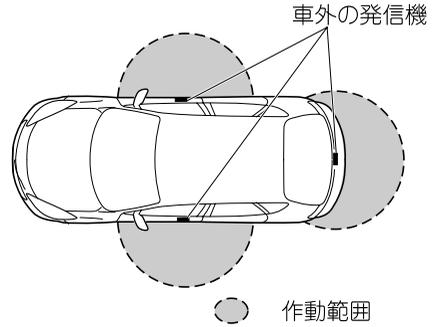
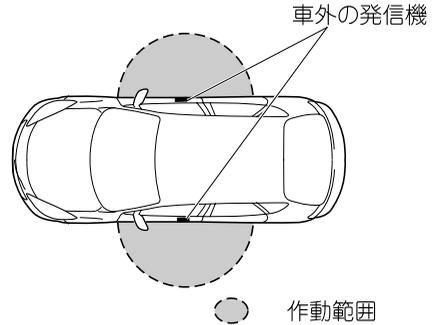
アドバンストキーを携帯し、車内および車外の作動範囲に入り、所定の操作をしたときのみ作動します。

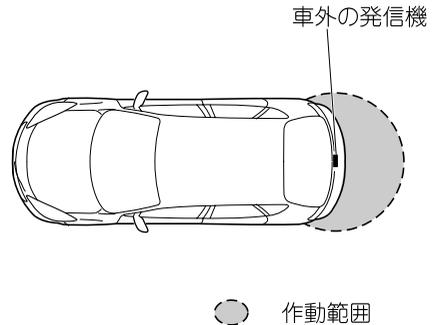
知識

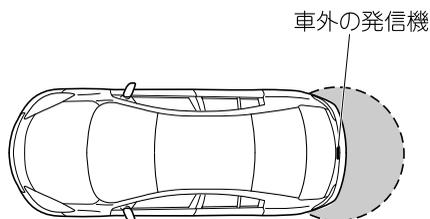
- アドバンストキーの電池が消耗しているときや、強い電波、ノイズのある場所では作動範囲が狭くなったり、作動しないことがあります。
- 窓ガラスやドアハンドル、リヤゲートに近づきすぎた場合などは作動しないことがあります。

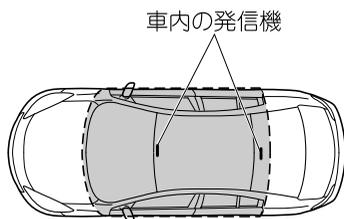
ドア、リヤゲート/トランクの施錠/解錠

作動範囲は、運転席ドアハンドル、助手席ドアハンドル、リヤゲートの中央部から周囲約80cm以内です。

セダン

ハッチバック (施錠)

ハッチバック (解錠)

リヤゲートの解錠

作動範囲は、リヤゲートの中央部から周囲約80cm以内です。

トランクの解錠

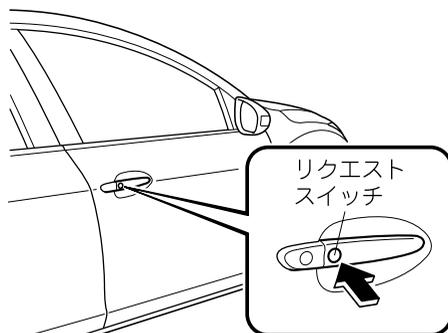
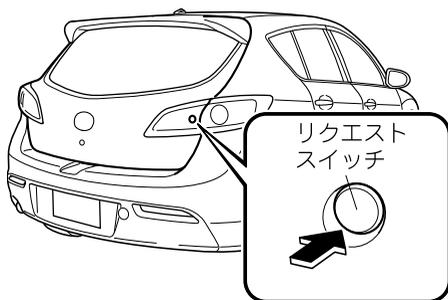
作動範囲は、トランクの中央部から周囲約80cm以内です。

エンジンの始動

作動範囲は、荷室を除く車内のほぼ全域です。

知識

- 荷室は作動範囲外ですが、エンジンの始動が可能になることがあります。
- 次のような場所にアドバンストキーを置くと、エンジンの始動ができない場合があります。
  - インストルメントパネルの周辺
  - グローブボックスや小物入れなど
  - リヤパッケージトリムの上 (セダン)
- 車外でも、ドアや窓ガラスに近づきすぎた場合は、エンジンの始動が可能になることがありますが、エンジンの始動は必ず運転席で行なってください。
- 作動範囲内にアドバンストキーを検知すると、作動表示灯がしばらくの間点滅します。

ドアの施錠/解錠

アドバンストキーを携帯し、フロントドアまたはリヤゲートのリクエストスイッチを押すと、すべてのドア、リヤゲート/トランクが施錠/解錠します。

フロントドア

リヤゲート (施錠のみ)

■ 施錠したとき
非常点滅灯が1回点滅し、チャイムが1回鳴ります。

■ 解錠したとき
非常点滅灯が2回点滅し、チャイムが2回鳴ります。

知識

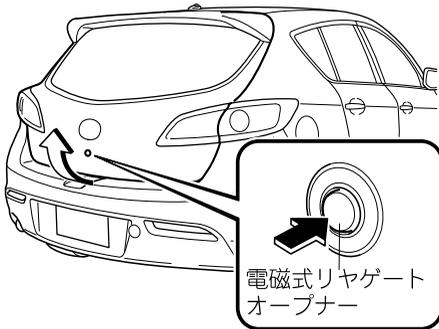
- リクエストスイッチで施錠した後は、ドア、リヤゲート/トランクが確実に施錠されたことを確認してください。
- リクエストスイッチで施錠/解錠すると確認のためチャイムが鳴ります。チャイムは鳴らないようにすることもできます。
→394ページ「設定変更 (カスタマイズ機能)」

知識

- リクエストスイッチを押さずに、自動的に施錠するように設定を変えることができます。
→394ページ「設定変更 (カスタマイズ機能)」
(オートロック機能)
アドバンストキーを携帯してすべてのドア、リヤゲート/トランクを閉めると、チャイムが1回鳴ります。そのまま作動範囲から出ると約3秒後に自動的に全ドア、リヤゲート/トランクを施錠します。(作動範囲から出ない場合でも約30秒後に自動的に施錠します。)
ただし、車内に別のアドバンストキーがあるときや、ドア、リヤゲート/トランクが完全に閉まる前に作動範囲を出ると施錠されません。車から離れるときはドア、リヤゲート/トランクが施錠されたことを必ず確認してください。
- リクエストスイッチを押して解錠した後、約30秒以内に次のいずれの操作も行なわなかった場合、自動的に施錠されます。
  - ドアまたはリヤゲート/トランクを開ける。
  - 補助キーをエンジンスイッチに差し込む。
  - 電源ポジションをOFF以外にする。

リヤゲートの開けかた

リヤゲートが施錠されている状態からリヤゲートを開けることができます。

アドバンストキーを携帯し、電磁式リヤゲートオープナーを押してリヤゲートを持ち上げます。

電源ポジションがONのときは、車両が停止し、パーキングブレーキがかかっている (マニュアル車) か、セレクトレバーがPの位置にある (オートマチック車) ときのみ、リヤゲートを開けることができます。

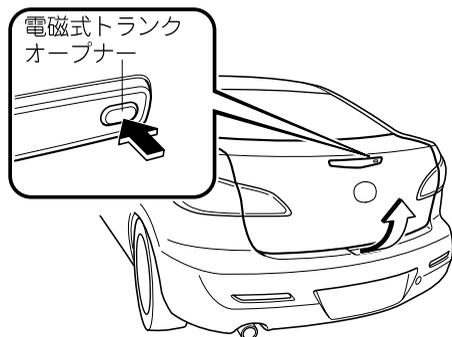
知識

- アドバンストキーレスエントリー&プッシュボタンスタートシステム機能を使ってリヤゲートを開けるときは、電磁式リヤゲートオープナーを押してから解錠されるまでに数秒かかることがあります。

知識

- 電磁式リヤゲートオープナーを押して解錠するとリヤゲートが少し浮いた状態になり、リヤゲートを開けることができます。電磁式リヤゲートオープナーを押して、リヤゲートを開けずに一定の時間が経過するとリヤゲートが少し浮いた状態のままリヤゲートを開けることができなくなります。リヤゲートを開ける場合は、もう一度、電磁式リヤゲートオープナーを押して、リヤゲートを開けてください。リヤゲートが少し浮いた状態からリヤゲートを閉める場合は一度、リヤゲートを開け、1秒以上待ってから閉めてください。
- ドアが施錠されている状態から、車内にアドバンストキーを入れたままリヤゲートを閉めると、リヤゲートは閉まりますが、アドバンストキーの閉じ込みを防止する目的で、電磁式リヤゲートオープナーを押すことにより、リヤゲートを開けることができます。
- リヤゲートを閉めた直後は、アドバンストキーの車内閉じ込み確認のため、1～2秒間はリモートコントロール機能を使用してリヤゲートを開けることができない場合があります。

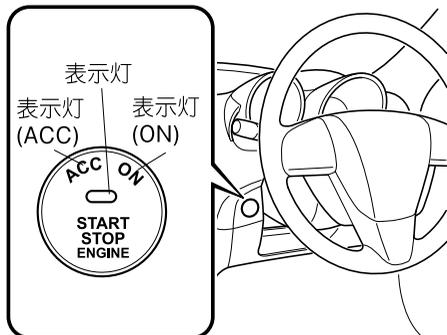
トランクの開けかた

トランクが施錠されている状態からトランクを開けることができます。
アドバンストキーを携帯し､電磁式トランクオープナーを押してトランクを持ち上げます。

電源ポジションがONのときは､車両が停止し､パーキングブレーキがかかっている (マニュアル車) か､セレクトレバーがPの位置にある (オートマチック車) ときのみ､トランクを開けることができます。

知識

- アドバンストキーレスエントリー&プッシュボタンスタートシステム機能を使ってトランクを開けたときは､電磁式トランクオープナーを押してから解錠されるまでに数秒かかることがあります。
- ドアが施錠されている状態から､車内にアドバンストキーを入れたままトランクを閉めると､トランクは閉まりますが､アドバンストキーの閉じ込みを防止する目的で､電磁式トランクオープナーを押すことにより､トランクを開けることができます。
- トランクを閉めた直後は､アドバンストキーの車内閉じ込み確認のため､1～2秒間はリモートコントロール機能を使用してトランクを開けることができない場合があります。

エンジンの始動

各状態の働き

プッシュボタンスタートを押す毎にOFF、ACC、ONの順に電源ポジションが切り替わり、ONからもう一度、プッシュボタンスタートを押すとOFFへ戻ります。

電源ポジション	働き
OFF	プッシュボタンスタートの表示灯 (ACC、ON) が、消灯します。
ACC	エンジン停止時に、オーディオなどが使用できる位置。プッシュボタンスタートの表示灯 (ACC) が、点灯します。
ON	エンジン回転中の位置。プッシュボタンスタートの表示灯 (ON) が、消灯します。 (エンジンが止まっている状態のときは、プッシュボタンスタートの表示灯 (ON) が点灯します。)

知識

- 電源ポジションを切り替える順番は変更することもできます。
  →394ページ「設定変更 (カスタマイズ機能)」
- **(ハンドルのロック)**
  ハンドルのロックが解除されない時は、電動ハンドルロック警告灯が点滅し、警告チャイムが鳴ります。この場合、ハンドルを左右に動かしながら、プッシュボタンスタートを押して、ハンドルのロックを解除してください。
- 電源ポジションをONにしたとき、燃料タンク付近からフューエルポンプのモーター作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。
- エンジンを止めたままで、オーディオなどを長時間使用したり、電源ポジションをONのまま放置しないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。電源ポジションをACC (オートマチック車は、セレクトレバーがPの位置になっていること) で放置した場合は、約1時間で電源ポジションがOFFになります。
  電源ポジションを自動でOFFしないように設定を変更することもできます。
  →394ページ「設定変更 (カスタマイズ機能)」
- マニュアル車はクラッチペダル、オートマチック車はブレーキペダルをいっぱいに踏み込んだ状態で、プッシュボタンスタートを押すとエンジンが始動します。電源ポジションの切り替えを行う場合は、ペダルを踏まずにプッシュボタンスタートを押してください。

エンジンをかける前に

1 パーキングブレーキがかかっていることを確認します。

2 マニュアル車はチェンジレバーがニュートラル位置、オートマチック車はセレクトレバーがPの位置にあることを確認します。

3 正しい運転姿勢をとり、右足でアクセルペダルとブレーキペダルが確実に踏めるか確認します。

4 ペダルの踏み間違いのないように、ペダルの位置を確認しておいてください。
→48ページ「正しい運転姿勢」

エンジンをかけるとき

知識

- アドバンストキーは必ず運転者が携帯してください。
- 電源ポジションの状態 (OFF、ACC、ON) に関係なく、エンジンを始動できます。

1 アドバンストキーを携帯していることを確認します。

2 エンジンが完全に始動するまで、ブレーキペダルをしっかりと踏み続けます。

3 マニュアル車は、エンジンが完全に始動するまで、クラッチペダルをいっぱいに踏み込み続けます。

知識

マニュアル車はクラッチペダル、オートマチック車はブレーキペダルをいっぱいに踏み込まないとエンジンがかからないようになっています。

4 メーター内のKEY表示灯 (緑) が点灯するのを確認します。正常なアドバンストキーを携帯しているのにKEY表示灯 (緑) が点灯しない場合は、補助キーでエンジンを始動してください。
→112ページ「補助キーによるエンジン始動」

注意

メーター内のKEY警告灯 (赤) が点灯し続けるときは、プッシュボタンスタートの表示灯を確認してください。表示灯が赤で点灯をしている場合はエンジンの始動ができなくなるおそれがあります。直ちにマツダ販売店で点検を受けてください。

知識

- メーター内のKEY表示灯 (緑) が点灯するときは同時にプッシュボタンスタートの表示灯 (緑) も点灯します。
- 次のようなときはメーター内のKEY警告灯 (赤) が点滅し、エンジンをかけることができません。
    - アドバンストキーの電池切れ
    - アドバンストキーが作動範囲内にない
    - アドバンストキーを車内でも感知しにくい場所に置いているとき →105ページ「作動範囲」
    - アドバンストキーに類似した他社のキーが作動範囲内にある
- メーター内のKEY警告灯 (赤) が点灯し、プッシュボタンスタートの表示灯 (赤) が点滅している場合は、通常の操作ではエンジンを始動できません。マニュアル車はクラッチペダル、オートマチック車はブレーキペダルをいっぱいに踏み込み、プッシュボタンスタートを押し続けてエンジンを始動してください。

5 メーター内のKEY表示灯 (緑) が点灯し、プッシュボタンスタートの表示灯 (緑) も点灯している状態でプッシュボタンスタートを押します。

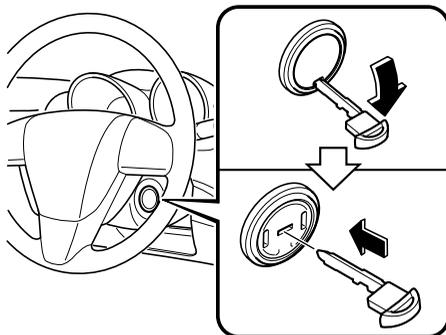
知識

- エンジン始動後、プッシュボタンスタートの表示灯 (緑/ACC/ON) は消灯し、電源ポジションはON状態になっています。
- プッシュボタンスタートを押して、エンジンが始動する前に燃料タンク付近からフューエルポンプのモーター作動音が聞こえることがありますが異常ではありません。
- 冷間始動後は、エンジン制御システムの働きによりエンジン回転数が高くなりますが、自動的に適正な回転数に下がります。

補助キーによるエンジン始動

アドバンストキーの電池切れなどで、エンジンが始動できないときは、補助キーを使って、エンジンを始動することができます。

1 補助キーをアドバンストキーから取りはずします。

2 補助キーを使用して、カバーを外し、補助キーをキースロットへ奥まで確実に挿し込みます。

⚠ 注意

補助キーをキースロットに挿し込んだ後、キーを回さないでください。キーや車両を破損するおそれがあります。

3 アドバンストキーを携帯しているときのエンジン始動と同じ手順でエンジンを始動してください。
→110ページ「エンジンをかけるとき」

知識

- エンジンがかかっている間は、補助キーをキースロットへ挿し込んだままにしておいてください。
- 車から離れるときは、補助キーをキースロットから抜いて、車外に持ち出してください。
- マニュアル車はクラッチペダル、オートマチック車はブレーキペダルを踏み込んで、ペダルを放してすぐにプッシュボタンスタートを押すと、電源ポジションを切り替えることができます。

エンジンをきるとき

1 マニュアル車はチェンジレバーをニュートラルの位置、オートマチック車はセレクトレバーをPの位置にします。

2 プッシュボタンスタートを押します。エンジンが停止し、電源ポジションがOFFになります。

知識

エンジンをきって電源ポジションをONからACCまたはOFFにしたとき、アドバンストキーの電池容量が少なくなっていることを感知したら、メーター内のKEY表示灯 (緑) が約30秒間点滅します。新しい電池と交換してください。
→103ページ「電池の交換」

⚠ 注意

車から離れるときは、電源ポジションがOFFになっていることを確認してください。

知識

- **(オートマチック車)**
  セレクトレバーがP以外の位置のときに、エンジンが停止すると、電源ポジションはACCになります。
- 電源ポジションをOFFにせずに車から離れると、警報やメーター表示でお知らせします。
  →116ページ「警報」

緊急エンジン停止

車両が停止していなくてもプッシュボタンスタートを押し続けるか、素早く何度も押すとエンジンが停止します。電源ポジションはACCになります。

注意

緊急時以外は、走行中にエンジンを停止しないでください。

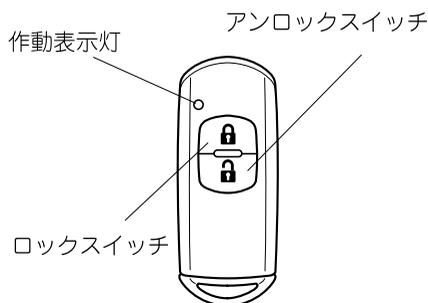
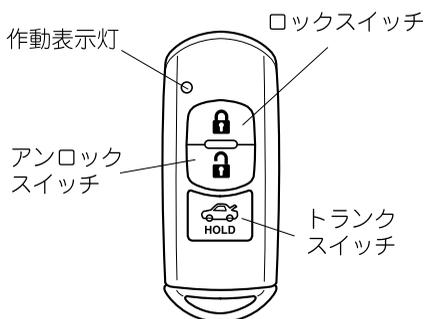
アドバンストキーレスエントリー&プッシュボタンスタートシステムの機能を使わない操作

リモートコントロール機能

リモートコントロール機能を使用すると、車の周囲1m以内ですべてのドア、リヤゲートの施錠/解錠、トランクの解錠ができます。
スイッチはゆっくりと確実に押してください。

知識

- キースロットに補助キーを差し込んでいるときは、リモートコントロール機能は作動しません。
- 電源ポジションがOFF以外のときは、リモートコントロール機能は作動しません。
- いずれかのドアまたはリヤゲートが開いているときは、ロックスイッチを押しても施錠しません。
- リモートコントロール機能の作動範囲は、周囲の状況により変わることがあります。車から離れるときは必ず施錠されていることを確認してください。

ハッチバック

セダン

ドアの施錠/解錠

ロックスイッチを押すと施錠、アンロックスイッチを押すと解錠されます。

知識

- スイッチを押すと作動表示灯が点灯します。
- 施錠したときは、非常点滅灯が1回点滅し、チャイムが1回鳴ります。
チャイムは音量を変更することができます。また、チャイムは鳴らないようにすることもできます。
→394ページ「設定変更 (カスタマイズ機能)」

知識

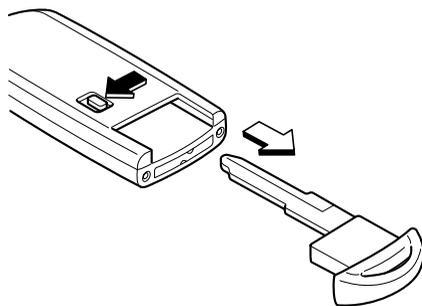
- 解錠したときは、非常点滅灯が2回点滅し、チャイムが2回鳴ります。
  チャイムは音量を変更することができます。また、チャイムは鳴らないようにすることもできます。
  →394ページ「設定変更 (カスタマイズ機能)」
- ロックスイッチまたはアンロックスイッチを連続して押すと、非常点滅灯が不規則に点滅することがあります。
- アンロックスイッチを押して解錠した後、約30秒以内に次のいずれの操作も行なわなかった場合、自動的に施錠されます。
  - ドアまたはリヤゲート/トランクを開ける。
  - 補助キーをキースロットに差し込む。
  - プッシュボタンスタートを押す。

トランクの開けかた

トランクスイッチを約1秒押すと開きます。

補助キー機能

アドバンストキーに内蔵された補助キーを使用します。

補助キーの取りはずしかた

ドアの施錠/解錠

補助キーを操作して、ドアの施錠/解錠ができます。
→125ページ「補助キーによる施錠/解錠」

エンジンの始動

補助キーを操作して、エンジンの始動ができます。
→189ページ「電源ポジション (エンジンスイッチ)」

アドバンストキー一時停止機能

アドバンストキーが車内またはトランク内にあるとき、車内またはトランク内に置いてあるアドバンストキーの機能 (プッシュボタンスタートでのエンジン始動、リクエストスイッチの操作) が盗難防止のため、一時停止する場合があります。
次のいずれかの操作で復帰させてください。

- 一時停止したアドバンストキーのいずれかのスイッチを押す
- **(マニュアル車)**
  別のアドバンストキーを携帯し、KEY表示灯 (緑) が点灯するまでクラッチペダルを踏み込みます。
  (オートマチック車)
  別のアドバンストキーを携帯し、KEY表示灯 (緑) が点灯するまでブレーキペダルを踏み込みます。

警報

システム故障警報

アドバンストキーレスエントリー&プッシュボタンスタートシステム機能になんらかの故障が発生すると、メーター内のKEY警告灯 (赤) が点灯し続けます。

⚠ 注意

- **メーター内のKEY警告灯 (赤) が点灯し続けるときは、プッシュボタンスタートの表示灯を確認してください。表示灯が赤で点灯をしている場合はエンジンの始動ができなくなるおそれがあります。直ちにマツダ販売店で点検を受けてください。**
- **KEY警告灯 (赤) が点灯し続けるときは、アドバンストキーレスエントリー&プッシュボタンスタートシステム機能による運転を続けないでください。安全な場所に停車し、補助キーによる運転に切り替え、早めにマツダ販売店で点検を受けてください。**
  →189ページ「電源ポジション (エンジンスイッチ)」

プッシュボタンスタートもどし忘れ警報

プッシュボタンスタートがACCで、運転席ドアを開けると、チャイムが鳴り続け、プッシュボタンスタートがOFFにもどっていないことをお知らせします。

アドバンストキー車外持ち出し警報

次のようなときはチャイムが鳴り、KEY警告灯 (赤) が点滅し続け、プッシュボタンスタートをOFFにせずに、アドバンストキーを車外に持ち出したことを知らせます。KEY警告灯 (赤) はアドバンストキーを車内にもどすと消灯します。

- プッシュボタンスタートをOFFにせずに運転席を開け、アドバンストキーを車外に持ち出したとき(チャイムが3回鳴ります。)
  (プッシュボタンスタートがACCのときは、プッシュボタンスタートもどし忘れ警報が作動するため、ドアを開けたときからチャイムが鳴り続けます。)
- プッシュボタンスタートをOFFにしないで、アドバンストキーを車外に持ち出したあと、全てのドアを閉めたとき (チャイムが6回鳴ります。)
  →394ページ「設定変更 (カスタマイズ機能)」

知識

アドバンストキーは微弱な電波を使用しているため、金属物と一緒に携帯したり、電波環境の悪い場所に置くと、車外に持ち出されたと認識してしまい、アドバンストキー車外持ち出し警報が作動することがあります。

リクエストスイッチ不作動警報

次のようなとき、アドバンストキーを携帯してフロントドアのリクエストスイッチを押すと、チャイムが6回鳴り、フロントドアを施錠できないことをお知らせします。
チャイムの音量は変更することができます。
→394ページ「設定変更 (カスタマイズ機能)」

- いずれかのドア、リヤゲートが開いているとき
  (半ドア状態など)
- プッシュボタンスタートをOFFにしていないとき
- キースロットに補助キーを差し込んでいるとき

アドバンストキー電池切れ警報

プッシュボタンスタートをONからACCまたはOFFにしたとき、KEY表示灯 (緑) が約30秒間点滅し、アドバンストキーの電池容量が残り少なくなっていることをお知らせします。アドバンストキーが使用できなくなる前に新しい電池と交換してください。
→103ページ「電池の交換」

知識

電池容量が少なくなっても、KEY表示灯 (緑) が点滅しないように設定することができます。
→394ページ「設定変更 (カスタマイズ機能)」

エンジン始動不許可警報

次のようなとき、KEY警告灯 (赤) が点滅し、プッシュボタンスタートを押してもOFF以外にできないことをお知らせます。

- アドバンストキーの電池が切れたとき
- アドバンストキーが作動範囲内にないとき
- アドバンストキーを車内でも感知しにくい場所に置いているとき
→105ページ「作動範囲」
- アドバンストキーに類似した他社のキーが作動範囲内にあるとき

アドバンストキートランク/リヤゲート内閉じ込み警報

すべてのドアを施錠した状態で、荷室/トランク内にアドバンストキーを入れたままリヤゲート/トランクを閉めると、チャイムが約10秒間鳴り、アドバンストキーが荷室/トランク内にあることをお知らせします。この場合リヤゲート/トランクは閉まりますが、電磁式リヤゲートオープナー/電磁式トランクオープナーを押すことによりリヤゲート/トランクを開けることができます。
荷室/トランクから取り出したアドバンストキーは機能しない場合があります。
→116ページ「アドバンストキー一時停止機能」

アドバンストキー車内閉じ込み警報

アドバンストキーを車内に置いたまま別のアドバンストキーにより施錠すると、チャイムが約10秒間鳴り、アドバンストキーが車内にあることをお知らせします。この場合施錠はできますが、車内のアドバンストキーは機能しない場合があります。
→116ページ「アドバンストキー一時停止機能」
また、フロントドアを施錠した状態でアドバンストキーを車内に置いたままリヤゲートを閉めると、チャイムが約10秒間鳴り、アドバンストキーが車内にあることをお知らせします。
チャイムの音量は変更することができます。
→394ページ「設定変更 (カスタマイズ機能)」

こんなときは

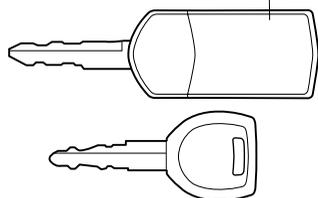
次のようなとき、アドバンストキーの誤操作による車両盗難などを防ぐために、警報およびメーター内の警告灯/表示灯でお知らせします。
→116ページ「警報」

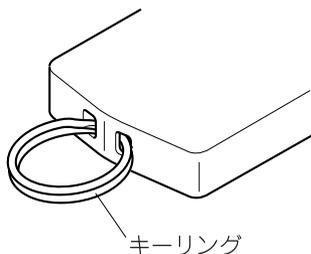
警報	確認すること
ドアを開けたときに、チャイムが「ピーピー、ピーピー、…」と連続で鳴り続けるとき	プッシュボタンスタートをOFFにしているか確認してください。
ドアを開けているときに、チャイムが3回鳴り、メーター内のKEY警告灯 (赤) が点滅しているとき	アドバンストキーを車外に持ち出していないか確認してください。
ドアを閉めたときに、チャイムが6回鳴り、メーター内のKEY警告灯 (赤) が点滅しているとき	アドバンストキーを車外に持ち出していないか確認してください。
ドアを施錠しようとしたとき、チャイムが「ピピッ、ピピッ、…」と約10秒間鳴るとき	アドバンストキーを車内、またはトランクに置き忘れていないか確認してください。
ドアを施錠しようとしたときに、チャイムが「ピピッ、ピピッ、ピピッ」と6回鳴るとき	プッシュボタンスタートをOFFにしているか確認してください。
	いずれかのドア、リヤゲートが開いていないか確認してください。
メーター内のKEY表示灯 (緑) が点滅しているとき	アドバンストキーの電池残量が少なくなっています。新しい電池と交換してください。 →103ページ「電池の交換」
メーター内のKEY警告灯 (赤) が点灯し続けているとき	アドバンストキーが故障しています。安全な場所に停車して、補助キーによる運転に切り替え、早めにマツダ販売店で点検を受けてください。
ドアを施錠しようとしたとき、またはリヤゲートを閉めたときに、チャイムが「ピピッ、ピピッ、…」と約10秒間鳴るとき	アドバンストキーを車内に置いていないか確認してください。

キー

 知識

アドバンストキー装備車は、98ページの「アドバンストキーについて」をお読みください。

キーはエンジンの始動/停止のほかにドアの施錠/解錠に使用します。

知識

キーホルダーなどの種類によっては、リトラクタブルタイプキーに付けられない場合があります。このようなときは、キーナンバープレートと一緒に付いているキーリングを使用してください。

キーナンバープレート

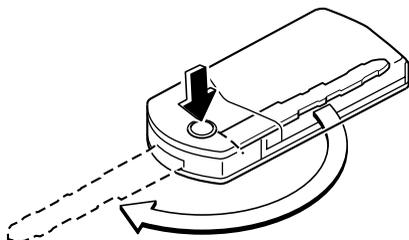
お客様以外のかたにキーナンバーを知られないために、キーナンバープレートにキーナンバーを打刻しています。

知識

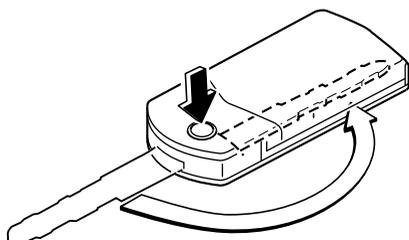
- キーナンバープレートは車両以外の安全な場所に、大切に保管しておいてください。
- 万一、キーを紛失したときは、マツダ販売店でキーナンバーをもとにキーを作ることができます。
- 車両をおゆずりになるときは、次にお使いになるかたのために、すべてのキーと一緒に、キーナンバープレートを車両につけてお渡しください。

リトラクタブルタイプキー

リトラクタブルタイプキーは、キーとリモートコントローラーが一体となっています。
キーを使わないときは、キー部分を格納することができます。

取り出しかた

格納のしかた

1 ボタンを押してキーをまわします。

2 ボタンをはなした後、カチッと音がするまでキーを押し込みます。

キーレスエントリーシステム (リトラクタブルタイプキー装備車)

リモートコントローラーを使用すると、車の周囲1m以内ですべてのドア、リヤゲート/トランクの施錠/解錠ができます。

⚠ 注意

リモートコントローラーは次のようなことに注意してください。故障につながるおそれがあります。

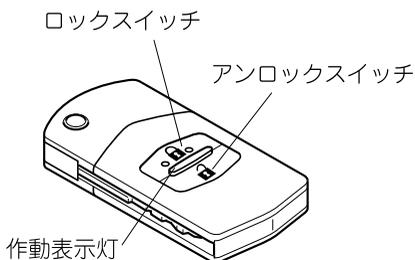
- **強い衝撃をあたえたり、ぬらしたりしないでください。**
- **分解しないでください。**
- **直射日光が当たる所や、高温になる所に放置しないでください。**

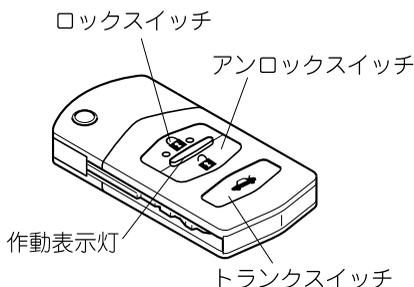
知識

- リモートコントローラーを紛失された場合は、盗難、事故などを防ぐため、マツダ販売店にご相談ください。
- エンジンスイッチにキーを差し込んでいるときは、キーレスエントリーシステムは作動しません。
- いずれかのドアまたはリヤゲートが開いているときは、ロックスイッチを押しても施錠しません。
- キーレスエントリーシステムの作動範囲は、周囲の状況により変わることがあります。
- 車から離れるときは必ず施錠されていることを確認してください。
- 別売りのリモートコントローラーを購入される場合、お手持ちのコントローラーとあわせて、同じ車両で3個まで使用することができます。マツダ販売店にご相談ください。

ドアの施錠/解錠

ロックスイッチを押すと施錠、アンロックスイッチを押すと解錠されます。
スイッチは、ゆっくりと確実に押してください。

ハッチバック

セダン

知識

- スイッチを押すと作動表示灯が点灯します。
- すべてのドアおよびリヤゲートが閉まっているときにロックスイッチを押すと、非常点滅灯が1回点滅し、施錠されたことを知らせます。
- アンロックスイッチを押すと、非常点滅灯が2回点滅し、解錠されたことを知らせます。
- ロックスイッチまたはアンロックスイッチを連続して押すと、非常点滅灯が不規則に点滅することがあります。
- アンロックスイッチを押して解錠した後、約30秒以内にドアまたはリヤゲート/トランクを開けなかった場合、自動的に施錠されます。

トランクの開けかた

トランクスイッチを約1秒押すと開きます。

電池の交換

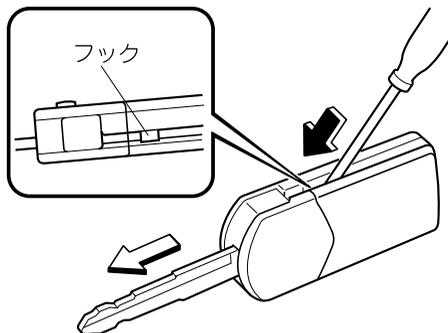
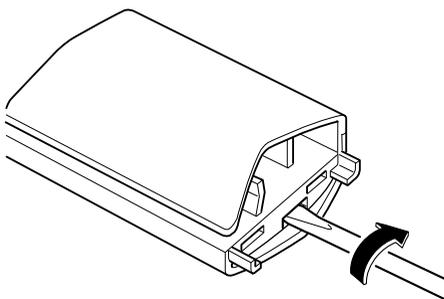
リモートコントローラーのスイッチを押しても作動しないときや、作動範囲が狭く不安定になったとき、作動表示灯が点灯しなくなったときは、電池切れが考えられます。
次の手順で電池を交換してください。

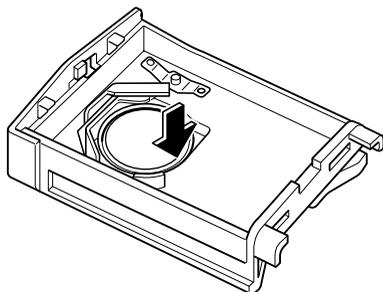
電池の規格: リチウム電池CR1620

⚠ 注意

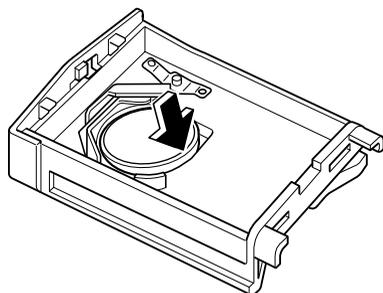
- **電池の+ 側と− 側は必ず正しく取り付けてください。液漏れなどにつながるおそれがあります。**
- **電池を交換するときは電極を折りまげたり、油などがつかないように注意してください。また、リモートコントローラーの内部にゴミなどを付着させないでください。故障につながるおそれがあります。**
- **電池を交換してもキーレスエントリーシステムが作動しないときは、マツダ販売店にご相談ください。**

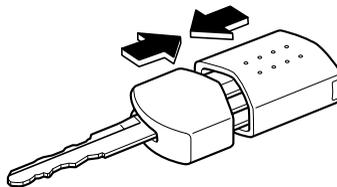
1 キーを取り出します。
→121ページ「リトラクタブルタイプキー」

2 マイナスドライバーなどを使ってフックを押し、キー部分とリモートコントローラー部分を取りはずします。

3 マイナスドライバーなどを慎重に使って、ゆっくりとまわしながらカバーを開きます。

各部の開閉

4 電池の端を押して、電池を取り出します。

知識

指で押して取り出しにくい場合は、ドライバーなどで押すと取り出しやすくなります。

5 新しい電池の＋ 側を下にして、電池を差し込み取り付けます。

6 カバーを閉めます。

7 リモートコントローラーとキーの向きを合わせ、カチッと音がするまで押し込みます。

注意

リモートコントローラーとキーはカチッと音がするまで確実に押し込んでください。取り付けが不完全な場合、外れるおそれがあります。

ドア

⚠ 警告

■ ドアを閉めたあとは、確実に閉まっていることを確認してください。

半ドアのまま走行すると、走行中に不意にドアが開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ ドアを開けるときは、周囲の安全を確認してください。

ドアを急に開けると、後続車や歩行者がぶつかるなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。

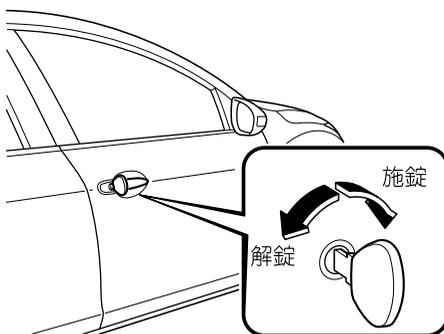
⚠ 注意

強風時にドアを開閉するときは、注意して開閉してください。ドアが風にあおられると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

知識

車から離れるときは、必ずエンジンを止め、ドアを施錠してください。また、盗難にあわないために、車内には貴重品を置かないでください。

キー/補助キーによる施錠/解錠

キーまたは補助キーを差し込み、まわします。

アドバンストキーレスエントリー&プッシュボタンスタートシステム機能による施錠/解錠

アドバンストキーを携帯して操作すると、施錠/解錠できます。

→105ページ「アドバンストキーレスエントリー&プッシュボタンスタートシステムの機能を使っての操作」

リモートコントロール機能による施錠/解錠(アドバンストキー装備車)

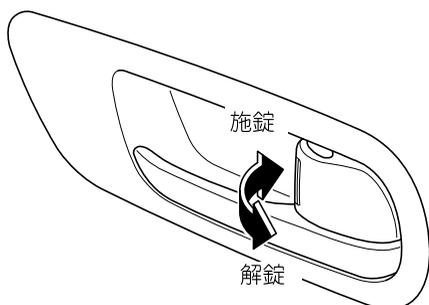
リモートコントロール機能を使用すると、施錠/解錠できます。

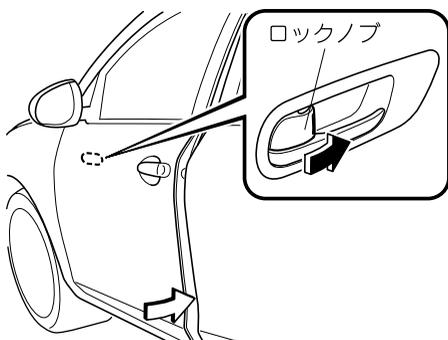
→114ページ「リモートコントロール機能」

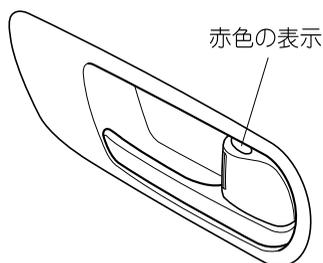
リモートコントローラーによる施錠/解錠(リトラクタブルタイプキー装備車)

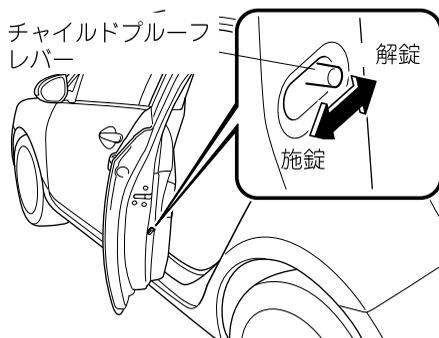
リモートコントローラーを操作すると、施錠/解錠できます。

→121ページ「キーレスエントリーシステム」

ロックノブによる施錠/解錠

車外から操作するとき

助手席ドア、後席ドアは、車内のロックノブを施錠側にし、ドアを閉めるだけで施錠できます。

知識

- キーの閉じ込みを防止するために、キーを持っていることを確認してから施錠してください。
- 運転席ドアのロックノブは運転席ドアを開けた状態ではロックノブは動かすことができません。
- ロックノブを解錠しているときは赤色の表示が見えます。

チャイルドプルーフ

お子さまをリヤシートに乗せているとき、いたずらなどで不意にドアが開くことを防止できます。
チャイルドプルーフレバーを施錠側にしてドアを閉めると、ロックノブの位置に関係なく、車内からはリヤドアを開けることができません。

ドアを開けるときは、車内のロックノブを解錠側にし、車外のドアハンドルを引いてください。

知識

車内からドアを開けるときは、車内のロックノブを解錠側にし、窓ガラスを下げ、窓から手を出して車外のドアハンドルを引くと開きます。

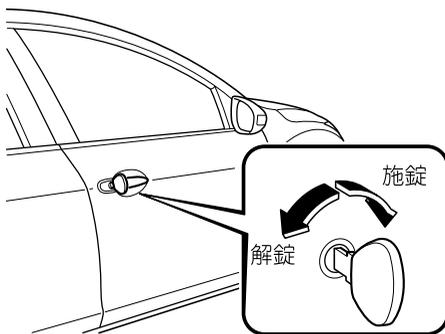
パワードアロック

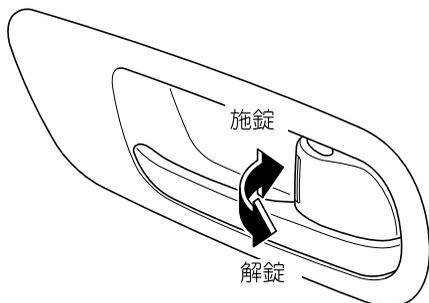
同時にすべてのドア、リヤゲート/トランクの施錠/解錠ができます。

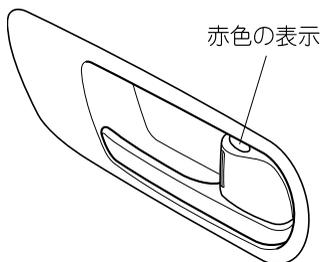
知識

(アドバンストキー装備車)
いずれかのドアまたはリヤゲートが開いていると施錠できません。
(リトラクタブルタイプキー装備車)
いずれかのドアまたはリヤゲートが開いている状態で、エンジンスイッチにキーを差し込んでいるときは施錠できません。

キー/補助キーによる施錠/解錠

運転席ドアにキーまたは補助キーを差し込み、まわします。

ロックノブによる施錠/解錠

運転席ドアのロックノブを操作します

知識

ロックノブを解錠しているときは赤色の表示が見えます。

アドバンストキーレスエントリー&プッシュボタンスタートシステム機能による施錠/解錠

アドバンストキーを携帯して操作すると、施錠/解錠できます。

→105ページ「アドバンストキーレスエントリー&プッシュボタンスタートシステムの機能を使っての操作」

リモートコントロール機能による施錠/解錠(アドバンストキー装備車)

リモートコントロール機能を使用すると、施錠/解錠できます。

→114ページ「リモートコントロール機能」

リモートコントローラーによる施錠/解錠(リトラクタブルタイプキー装備車)

リモートコントローラーを操作すると、施錠/解錠できます。

→121ページ「キーレスエントリーシステム」

リヤゲート(ハッチバック)

⚠ 警告

■ 荷室内に人を乗せないでください。
急ブレーキ時や衝突時に重大な傷害につながるおそれがあります。

■ リヤゲートは必ず閉めてから走行してください。
開けたまま走行すると、車内に排気ガスが侵入し、一酸化炭素中毒になるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

荷室の荷物を出し入れするときは、エンジンを止めてください。排気熱によりやけどをするおそれがあります。

リヤゲートの施錠/解錠

キー/補助キーによる施錠/解錠

運転席ドア
運転席ドアにキーまたは補助キーを差し込みまわすと、施錠/解錠できます。
→127ページ「パワードアロック」

アドバンストキーレスエントリー&プッシュボタンスタートシステム機能による施錠/解錠(アドバンストキー装備車)

アドバンストキーを携帯して操作すると、施錠/解錠できます。
→105ページ「アドバンストキーレスエントリー&プッシュボタンスタートシステムの機能を使っての操作」

リモートコントロール機能による施錠/解錠(アドバンストキー装備車)

リモートコントロール機能を使用すると、施錠/解錠できます。
→114ページ「リモートコントロール機能」

リモートコントローラーによる施錠/解錠(リトラクタブルタイプキー装備車)

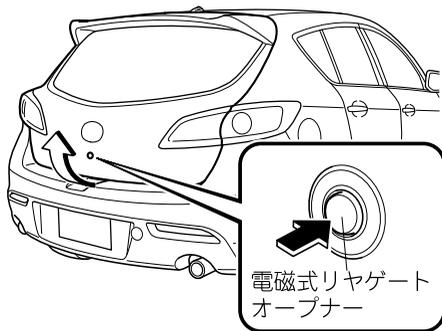
リモートコントローラーを操作すると、施錠/解錠できます。
→121ページ「キーレスエントリーシステム」

ロックノブによる施錠/解錠

運転席ドアのロックノブを操作すると、施錠/解錠できます。
→127ページ「パワードアロック」

リヤゲートの開閉

開けるとき

電磁式リヤゲートオープナーを押してリヤゲートを持ち上げます。

電源ポジションがONのときは、車両が停止し、パーキングブレーキがかかっている(マニュアル車)か、セレクトレバーがPの位置にある(オートマチック車)ときのみ、リヤゲートを開けることができます。

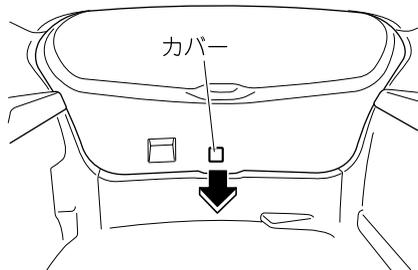
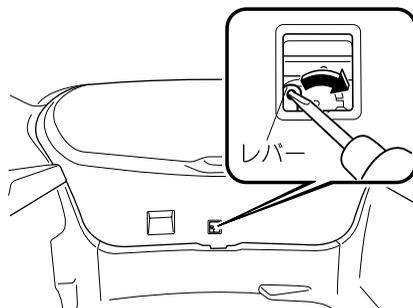
各部の開閉

知識

電磁式リヤゲートオープナーを押して解錠するとリヤゲートが少し浮いた状態になり、リヤゲートを開けることができます。電磁式リヤゲートオープナーを押して、リヤゲートを開けずに一定の時間が経過するとリヤゲートが少し浮いた状態のままリヤゲートを開けることができなくなります。リヤゲートを開ける場合は、もう一度、電磁式リヤゲートオープナーを押して、リヤゲートを開けてください。リヤゲートが少し浮いた状態からリヤゲートを閉める場合は一度、リヤゲートを開け、1秒以上待ってから閉めてください。

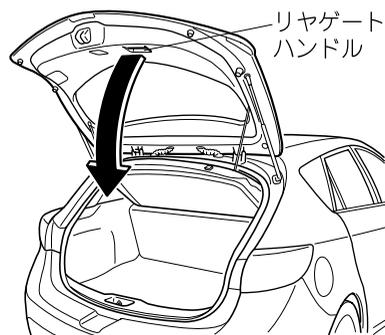
知識

バッテリーあがりや電気系統の故障などで、リヤゲートの解錠ができず開けられなくなったときは、応急処置として次の手順で解錠してください。

1 マイナスドライバーなどを使ってリヤゲート車内側にあるカバーをはずします。

2 レバーを右側に動かして解錠します。

応急処置後はできるだけ早めにマツダ販売店で点検を受けてください。

閉めるとき

リヤゲートをゆっくり下げて、押さえつけるように閉めます。

リヤゲートハンドルを使用すると便利です。

⚠ 警告

■ **リヤゲートを閉めたあとは、リヤゲートをゆさぶって確実にロックされていることを確認してください。**

走行中にリヤゲートが開くと、荷物などが落ちて思わぬ事故につながるおそれがあります。

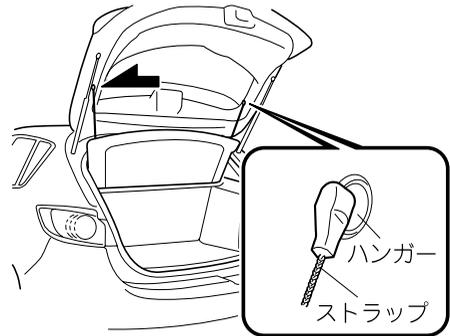
⚠ 注意

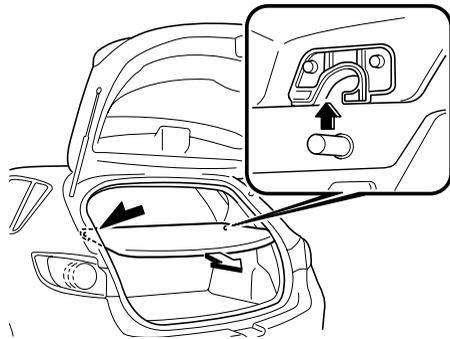
リヤゲートを閉めるときは、手などをはさまないように注意してください。万一、手などをはさむと、けがをするおそれがあります。

トノカバー

⚠ 注意

- **トノカバーの上に重い荷物を置くなどして、無理な力をかけないでください(最大荷重約5kg)。無理な力がかかると、トノカバーが変形または、損傷するおそれがあります。**
  また、重い荷物を置いたままリヤゲートを開けると、リヤゲートが下がり、けがをするおそれがあります。
- **トノカバーが確実に固定されていることを確認してください。固定されていないまま使用すると、走行中不意にトノカバーがはずれて、けがをするおそれがあります。**

ストラップをリヤゲートのフックにかけておくと、リヤゲートと同時に開閉します。

取りはずすとき

取りはずすときは、フックからストラップをはずし、トノカバー全体を手前に引きます。

トランク (セダン)

警告

■トランクルーム内に人を乗せないでください。

トランクルームに閉じ込められると中から開けられません。また、急ブレーキ時や衝突時に重大な傷害につながるおそれがあります。

■トランクリッドは必ず閉めてから走行してください。

開けたまま走行すると、車内に排気ガスが侵入し、一酸化炭素中毒になるおそれがあり危険です。

注意

- トランクルームの荷物を出し入れするときは、エンジンを止めてください。排気熱によりやけどをするおそれがあります。
- トランクリッドを開けるときは、トランクリッドを全開にしてください。トランクリッドを途中で止めると、振動や突風などでトランクリッドが閉まり、けがをするおそれがあります。

トランクの施錠/解錠

アドバンストキーレスエントリー&プッシュボタンスタートシステムによる施錠/解錠 (アドバンストキー装備車)

アドバンストキーを携帯して操作すると、施錠/解錠できます。

→105ページ「アドバンストキーレスエントリー&プッシュボタンスタートシステムの機能を使っての操作」

リモートコントロール機能による施錠/解錠 (アドバンストキー装備車)

リモートコントロール機能を使用すると、施錠/解錠できます。

→114ページ「リモートコントロール機能」

リモートコントローラーによる施錠/解錠 (リトラクタブルタイプキー)

リモートコントローラーを操作すると、施錠/解錠できます。

→121ページ「キーレスエントリーシステム」

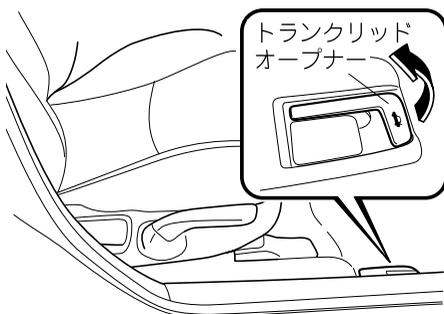
ロックノブによる施錠/解錠

運転席ドアのロックノブを操作すると、施錠/解錠できます。

→127ページ「パワードアロック」

トランクの開閉

車内から開けるとき

運転席右下にあるトランクリッドオープナーを引き上げます。

車外から開けるとき

アドバンストキーレス機能による解錠(アドバンストキー装備車)

アドバンストキーを携帯して操作すると、開きます。

→105ページ「アドバンストキーレスの機能を使っての操作」

リモートコントロール機能による解錠(アドバンストキー装備車)

リモートコントロール機能を使用すると、開きます。

→114ページ「リモートコントロール機能」

リモートコントローラーによる解錠(リトラクタブルタイプキー装備車)

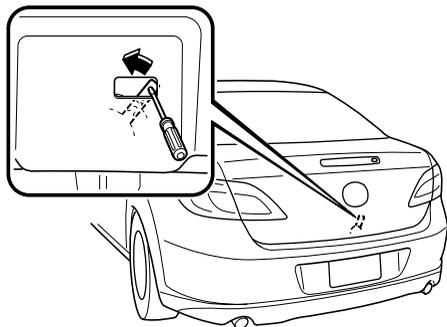
リモートコントローラーを操作すると、開きます。

→121ページ「キーレスエントリーシステム」

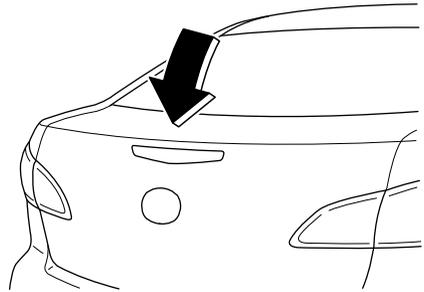
開けられなくなったとき

トランクが解錠できずあけられなくなったときは応急処置として以下の方法で開けることができます。

1 リヤシートを倒します。
→55ページ「荷室を作るとき」

2 レバーを左側に動かしてトランクを開けます。

応急処置後はできるだけ早めにマツダ販売店で点検を受けてください。

閉めるとき

トランクリッドをゆっくり下げて、押さえつけるように閉めます。

⚠ 警告

■ トランクリッドを閉めたあとは、トランクリッドをゆさぶって確実にロックされていることを確認してください。

走行中にトランクリッドが開くと、荷物などが落ちて思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

トランクリッドを閉めるときは、手などをはさまないように注意してください。万一、手などをはさむと、けがをするおそれがあります。

トランクルームランプ

トランクリッドを開けると、トランクルームランプが点灯します。

知識

エンジンを停止しているときに、トランクを長時間開けたままにしないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。

パワーウインドー

電源ポジションがONのとき、パワーウインドースイッチを操作すると窓ガラスの開閉ができます。

警告

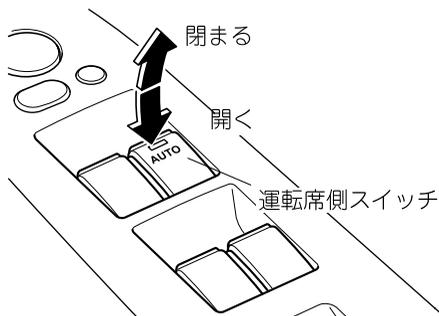
■窓ガラスを閉めるときは、同乗者の手や顔などをはさまないように注意してください。

また、特にお子さまには十分気をつけてください。
万一、手や顔などをはさむと重大な傷害につながるおそれがあります。

■お子さまにパワーウインドースイッチの操作をさせないでください。

万一、手や顔などをはさむと重大な傷害につながるおそれがあります。

運転席窓ガラスの開閉

スイッチを押している間は開き、引き上げている間は閉まります。

自動開閉機構

スイッチを強く押すと自動で全開し、強く引き上げると自動で全閉します。
途中で止めるときは、スイッチを逆方向に軽く操作します。

知識

車両整備などでバッテリーとの接続が断たれたとき、または全開/全閉したあとも、スイッチを操作し続けたときは、自動で全開/全閉できなくなります。
次の操作で復帰させてください。

1 電源ポジションをONにします。

2 スイッチを押して窓ガラスを全開にします。

3 スイッチを引き上げて窓ガラスを全閉にし、そのまま約2秒間引き上げ続けます。

はさみ込み防止機構

閉めるときに、窓ガラスと窓枠との間に異物のはさみ込みを感知すると、窓ガラスが閉まるのを停止し、自動的に途中まで開きます。

注意

次の場合には、はさみ込み防止機構が作動しないため、指などをはさまないように注意してください。万一、指などをはさむと、けがをするおそれがあります。

- **窓ガラスが閉まりきる直前**
- **スイッチを引き続けたままの状態**

知識

- はさみ込み防止機構は次のようなときに作動します。
  - 電源ポジションがONで窓ガラスを自動で閉めているとき。
  - 電源ポジションをOFFまたはACCにしてから約40秒の間に窓ガラスを閉めているとき。
- 走行条件や環境により、窓ガラスに異物をはさんだときと同じ衝撃または荷重が加わると、はさみ込み防止機構が作動することがあります。
  万一、はさみ込み防止機構が作動し、窓ガラスを自動で閉めることができないときは、スイッチを引き続けてください。窓ガラスを閉めることができます。

キーOFF後作動機構

電源ポジションをACCまたはOFFにしたあとでも、約40秒間は開閉することができます。

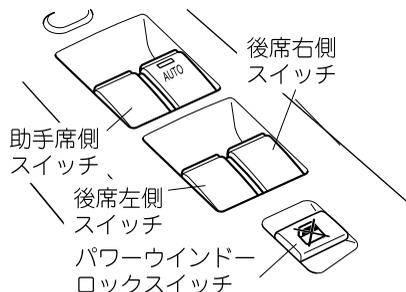
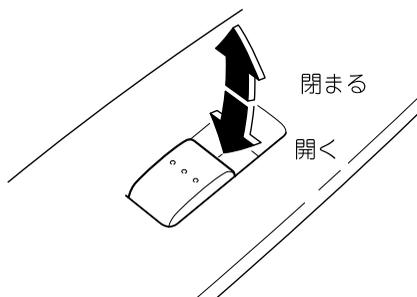
各部の開閉

助手席/後席窓ガラスの開閉

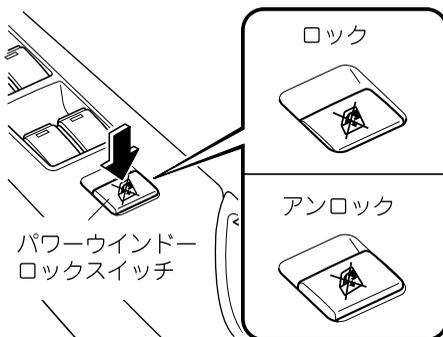
運転席ドアにあるパワーウインドーロックスイッチをアンロックの位置にしているとき開閉できます。

知識

運転席ドアにある助手席/後席側スイッチからも操作できます。

後席右側スイッチ
助手席側スイッチ、後席左側スイッチ
パワーウインドーロックスイッチ

スイッチを押している間は開き、引き上げている間は閉まります。

パワーウインドーロックスイッチ

■ ロックの位置のとき
運転席窓ガラスのみ開閉できます。

■ アンロックの位置のとき
全ての窓ガラスの開閉ができます。

警告

■ お子さまが同乗しているときは、パワーウインドーロックスイッチをロックの位置にしておいてください。

お子さまが誤って操作したとき、手や顔などをはさむと重大な傷害につながるおそれがあります。

燃料補給口

警告

■燃料補給時には必ずエンジンを止めてください。

火災につながるおそれがあります。

■燃料を補給するときは、必ず次の点を守ってください。

身体に静電気を帯びたまま作業をすると、放電による火花で燃料に引火、爆発し重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

- 燃料補給作業は必ず一人で行ない、補給口に他の人を近づけないでください。
- 静電気を除去するため、フューエルキャップを開ける前には、車体または給油機などの金属部分に触れてください。
- 静電気の放電を防ぐため、フューエルキャップの開閉は必ずツマミ部分を持って行なってください。
- 再帯電を防ぐため、燃料を補給する人は給油中に車内のシートに座らないでください。

■燃料補給口にはタバコなどの火気を近づけないでください。

火災につながるおそれがあります。

■給油ノズルは確実に給油口へ差し込んでください。

給油ノズルが確実に差し込まれていないと、オートストップの作動が遅れ、燃料が吹きこぼれるおそれがあります。

警告

■給油ノズルのオートストップ作動後は、追加給油しないでください。

オートストップ作動後に追加給油すると、燃料があふれ出るおそれがあります。

■ドアや窓を必ず閉めて燃料を補給してください。

火災になった場合、室内に燃え広がるおそれがあります。

■気化した燃料を吸い込まないよう注意してください。

人体に有害な成分を含んでいる燃料があります。特にアレルギー体質の方は、注意してください。

注意

- ガソリン車に指定燃料以外の燃料を補給したり、純正以外の燃料添加剤を使用しないでください。
  →380ページ「燃料」
  有鉛ガソリンや粗悪ガソリン、軽油、アルコール系燃料を補給すると次のような悪影響をおよぼします。
  - エンジンや燃料系部品が損傷したり、最悪の場合車両火災につながるおそれがあります。
  - エンジンの始動性が悪くなるおそれがあります。
  - ノッキングが発生したり、エンジンの出力が低下するおそれがあります。
- 燃料補給作業中に、燃料を車にこぼさないようにしてください。燃料が付着すると変色、シミ、塗膜はがれの原因となります。

注意

- 燃料を補給する際には、ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。

知識

- L3-VDT型エンジン車は、無鉛プレミアムガソリンが入手できない場合、無鉛レギュラーガソリンをお使いになることもできますが、エンジンの性能を十分発揮できないことがあります。
  また、エンジン始動時やアクセルペダルを踏み込んだときに、異音が聞こえることがあります。
- バイオ燃料混合ガソリンをお使いになることもできます。バイオ燃料混合ガソリンは、日本工業規格 (JIS) や「揮発油等の品質の確保に関する法律」が定めたガソリンの規格に合致しており、製品として使用に問題ないことが確認されています。バイオ燃料混合ガソリンの商品名としては「バイオ·ガソリン」、および「いい！スリー」の2つがあり、いずれの製品も使用できます (商品マーク参照)。

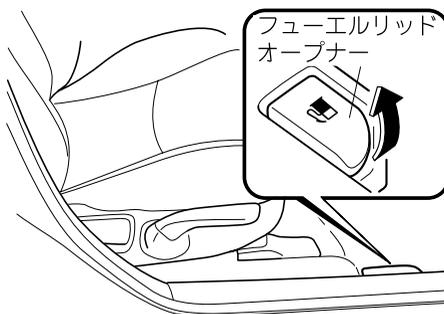
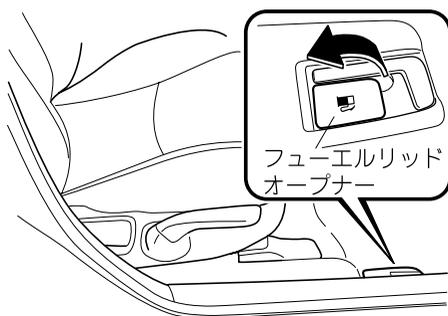
燃料補給口は車の右側後方にあります。
燃料計の指針が“E”に近づいたら、早めに燃料を補給してください。
使用燃料とタンク容量は次のとおりです。

エンジン型式	使用燃料
ZY-VE型、LF-VE型およびLF-VDS型、Z6-VE型	無鉛レギュラーガソリン
L3-VDT型	無鉛プレミアム (無鉛ハイオク) ガソリン

エンジン型式	タンク容量 (参考値)
ZY-VE型、LF-VE型およびLF-VDS型、Z6-VE型	55L
L3-VDT型	60L

フューエルリッドの開閉

運転席足元にあるフューエルリッドオープナーを引くと開きます。

ハッチバック

セダン

閉めるときはフューエルリッドが確実にロックするまでフューエルリッドを押しつけます。

フューエルキャップの開閉

⚠ 警告

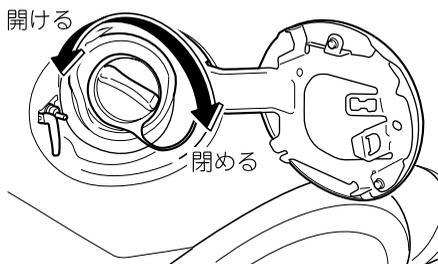
■ **フューエルキャップを開けるときは、ゆっくりとゆるめ、空気の抜ける音が止まってから取りはずしてください。**

急に開けると、燃料が噴き出すことがあるため火災につながったり、目や皮膚に付着すると傷害につながるおそれがあります。

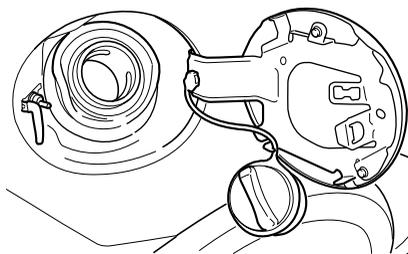
■ **フューエルキャップは、確実に閉めてください。**

キャップが確実に閉まっていないと、走行中に燃料がもれ、火災につながるおそれがあります。

⚠ 注意

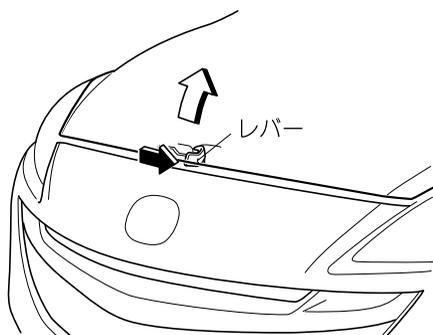
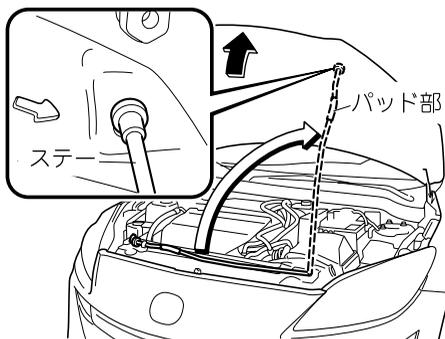
純正部品以外のフューエルキャップは使用しないでください。燃料装置や排出ガス発散抑止装置などの故障につながるおそれがあります。

キャップを閉めるときは、カチッと1回音がするまで締め付けてください。

 知識

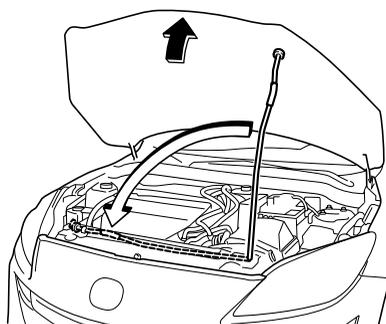
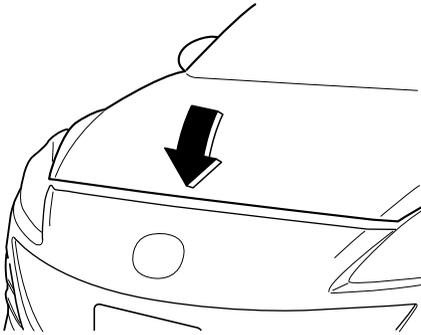
取りはずしたキャップは、フューエルリッドの内側にかけておくことができます。

ボンネット

開けるとき

1 運転席右下にあるボンネットオープナーを引くと、ボンネットが少し浮き上がります。

2 ボンネットのすき間に手を入れ、レバーを押したままボンネットを持ち上げます。

3 パッド部を持ってステーを起こし、矢印で示すボンネットのステー穴に差し込んで固定します。

閉めるとき

1 エンジンルームに工具などが残されていないことを確認します。

2 ボンネットを手でささえてステーをはずし、もとの位置に固定します。

3 ボンネットをゆっくりおろし、手を離します。 ボンネットの先端の中央部をガチッと音がするまで押しつけ、確実に閉めます。

 警告

■ボンネットが確実に閉まっていることを確認してください。

走行中にボンネットが開くと視界がさまたげられ、思わぬ事故につながるおそれがあります。

注意

- **ボンネットを閉めるときは、手などをはさまないように注意してください。万一、手などをはさむと、けがをするおそれがあります。**
- **エンジンルームの点検をしたときは、工具や布を置き忘れないようにしてください。置き忘れるとエンジンなどを損傷したり、火災につながるなど思わぬ事故につながるおそれがあります。**

イモビライザーシステム(アドバンストキー装備車)

イモビライザーシステムはアドバンストキーに信号発信機を内蔵し、あらかじめ登録されたアドバンストキー以外ではエンジンを始動できないようにした車両盗難防止装置です。

注意

キーの故障を防ぐために次のことをお守りください。

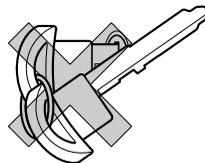
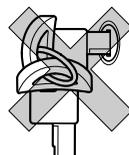
- **強い衝撃をあたえたり、ぬらしたりしないでください。**
- **磁気を帯びた製品を近づけないでください。**
- **インストルメントパネルやボンネットの上など直射日光があたる場所や高温になる所に放置しないでください。**

知識

アドバンストキーの電池切れや故障などにより、補助キーでエンジンを始動するとき、次のような状態にしないでください。車両が補助キーからの信号を正確に受信できず、エンジンが始動できない場合があります。

- キーグリップに金属製のリングがのっている

知識

- キーグリップ部に他のキーの金属部や金属製のものが接している

- 補助キーにスペアの補助キーや他の車両の盗難防止システムキー (信号発信機内蔵のもの) が重なっている、または近くにある

- 補助キーの近くに電子部品を含んだ製品やクレジットカードなどの磁気カードがある

システム作動

電源ポジションをONからACCまたはOFFにすると作動します。システムが作動している間はセキュリティ表示灯が点滅します。

システム解除

登録されたキー/アドバンストキーで電源ポジションをONにすると、システムが解除され表示灯が約3秒間点灯した後消灯します。

表示灯が消灯せず点灯または点滅し続けるときは、システムの異常が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。

知識

- アドバンストキーを車内でも感知しにくい場所に置いていると、エンジンの始動ができず、セキュリティー表示灯が点灯/点滅する可能性があります。
  →105ページ「作動範囲」
  アドバンストキーを別の場所に置いて、電源ポジションをOFFにもどし、再度エンジンを始動してください。
- テレビ、ラジオ、トランシーバー、携帯電話などからの電波はイモビライザーシステムの作動に支障をあたえることがあります。登録されたアドバンストキーでもエンジンが始動しないときは、セキュリティ表示灯を確認してください。表示灯が点滅している場合は、電源ポジションをACCまたはOFFにもどし、しばらく待って再度エンジンを始動させてください。3回以上行なってもエンジンが始動しないときはマツダ販売店に連絡してください。
- セキュリティ表示灯が点灯/点滅したままの状態でエンジンを停止すると、再度エンジンを始動することができません。運転中にセキュリティ表示灯が点灯/点滅した場合は、エンジンを停止せずマツダ販売店で点検を受けてください。

知識

- イモビライザーシステムを修理するときはコードを再登録するためにアドバンストキー (補助キー含む) が必要です。お手持ちのすべてのアドバンストキー (補助キー含む) をマツダ販売店に持参してください。

メンテナンスについて

イモビライザーシステムまたはアドバンストキーに異常が見られる場合はマツダ販売店にご相談ください。

知識

- アドバンストキーを紛失したときのために、スペアのアドバンストキーを保管しておいてください。万一紛失したときはすぐにマツダ販売店にご相談ください。
- アドバンストキーには特有の電子コードが含まれていますので、マツダ販売店以外でアドバンストキーを追加することはできません。
- アドバンストキー (補助キー含む) を紛失した場合、盗難防止のため、イモビライザーシステムに登録されているアドバンストキーのコードをマツダ販売店で消去できます。消去した後に、今後使用するアドバンストキーを再登録する必要がありますので、お手持ちのすべてのアドバンストキー (補助キー含む) をマツダ販売店へ持参してください。登録されていないアドバンストキーではエンジンを始動することができません。

作動保証について

次のような場合はイモビライザーシステムの作動を保証できません。

- イモビライザーシステムを改造した場合。
- イモビライザーシステムに付加部品を取り付けた場合。

注意

車両の故障を防ぐために、システムを改造したり、付加部品を取り付けたりしないでください。

イモビライザーシステム(アドバンストキー非装備車)

イモビライザーシステムはキーに信号発信機を内蔵し、あらかじめ登録されたキー以外ではエンジンを始動できないようにした車両盗難防止装置です。

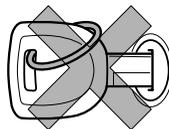
注意

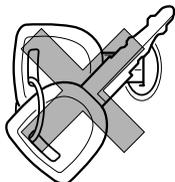
キーの故障を防ぐために次のことをお守りください。

- **強い衝撃をあたえたり、ぬらしたりしないでください。**
- **磁気を帯びた製品を近づけないでください。**
- **インストルメントパネルやボンネットの上など直射日光があたる場所や高温になる所に放置しないでください。**

注意

エンジンを始動するとき、次のような状態にしないでください。車両がキーからの信号を正確に受信できず、エンジンが始動できない場合があります。

- **キーグリップに金属製のリングがのっている**

⚠ 注意

- **キーグリップに他のキーの金属部や金属製のものが接している**

- **キーにスペアキーや他の車両の盗難防止システムキー (信号発信機内蔵のもの) が重なっている、または近くにある**

- **キーの近くに電子部品を含んだ製品やクレジットカードなどの磁気カードがある**

システム作動

電源ポジションをONからACCまたはOFFにすると作動します。システムが作動している間はセキュリティ表示灯が点滅します。

システム解除

登録されたキー/アドバンストキーで電源ポジションをONにすると、システムが解除され表示灯が約3秒間点灯した後消灯します。

表示灯が消灯せず点灯または点滅し続けるときは、システムの異常が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。

知識

- 電源ポジションをONにしたときにセキュリティ表示灯が点灯/点滅し続けている場合、エンジンは始動しません。
- テレビ、ラジオ、トランシーバー、携帯電話などからの電波はイモビライザーシステムの作動に支障をあたえることがあります。登録されたキーでもエンジンが始動しないときは、セキュリティ表示灯を確認してください。表示灯が点滅している場合は、キーを抜き、2秒以上待って再度エンジンを始動させてください。3回以上行なってもエンジンが始動しないときはマツダ販売店に連絡してください。
- セキュリティ表示灯が点灯/点滅したままの状態でエンジンを停止すると、再度エンジンを始動することができません。運転中にセキュリティ表示灯が点灯/点滅した場合は、エンジンを停止せずマツダ販売店で点検を受けてください。
- イモビライザーシステムを修理するときはコードを再登録するためにキーが必要です。お手持ちのすべてのキーをマツダ販売店に持参してください。

メンテナンスについて

イモビライザーシステムまたはキーに異常が見られる場合はマツダ販売店にご相談ください。

知識

- キーを紛失したときのために、スペアキーを保管しておいてください。万一キーを紛失したときはすぐにマツダ販売店にご相談ください。
- キーには特有の電子コードが含まれていますので、マツダ販売店以外でキーを追加することはできません。
- キーを紛失した場合、盗難防止のため、イモビライザーシステムに登録されているキーのコードをマツダ販売店で消去できます。消去した後に、今後使用するキーを再登録する必要がありますので、お手持ちのすべてのキーをマツダ販売店へ持参してください。登録されていないキーではエンジンを始動することができません。

作動保証について

次のような場合はイモビライザーシステムの作動を保証できません。

- イモビライザーシステムを改造した場合。
- イモビライザーシステムに付加部品を取り付けた場合。

注意

車両の故障を防ぐために、システムを改造したり、付加部品を取り付けたりしないでください。

ハンドル

 警告

■ 調節は必ず走行前に行なってください。

走行中に調節すると、運転姿勢が不安定になるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

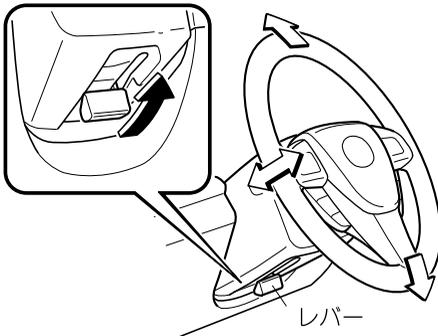
■ 調節後は、ハンドルを上下にゆさぶり、確実にロックされていることを確認してください。

走行中ハンドルが不意に動くと運転姿勢が不安定になるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

 知識

車両を停車しているときや低速走行時にハンドルを操作すると、ポンプ音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

前後/高さ調節

ハンドル操作が適切にできる位置に調節することができます。

1 レバーを持ち上げてハンドルを適切な位置に調節します。

2 調節後は、レバーを下げてロックします。

ドアミラー

 警告

■調節は走行前に行なってください。

走行中に調節すると、前方不注意で思わぬ事故につながるおそれがあります。

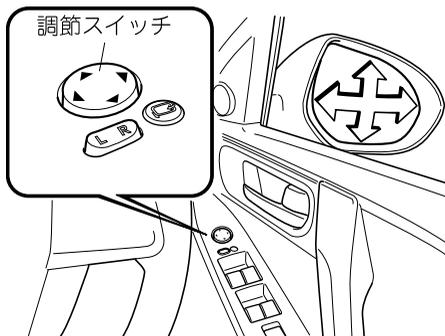
知識

ドアミラーに映る像の距離感覚は、実際より遠くに見えます。車線変更するときは、必ず肩越しに目視して後続車との距離を確認してください。

角度調節

電源ポジションがACCまたはONのとき調節ができます。

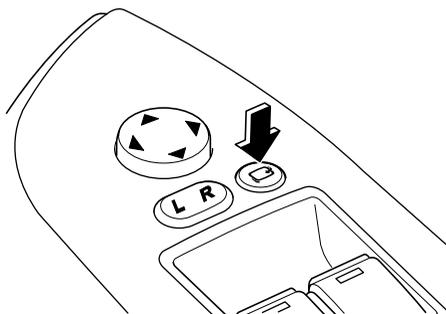
1 左右切り替えスイッチの右側 (運転席側) または左側 (助手席側) を押します。

2 調節スイッチを押して、後方が十分確認できるように調節します。

3 ミラーの調節後は、左右切り替えスイッチを中立位置にもどします。

格納するとき

⚠ 注意

- **ミラーを格納したまま走行しないでください。後方確認ができなくなります。**
- **手動で格納することもできますが、もとにもどすときにはスイッチで操作してください。手動でもとにもどすと、ミラーが固定されず後方確認ができなくなります。**

電源ポジションがACCまたはONのときに格納できます。
格納スイッチを押すと格納されます。
もう一度押すともとにもどります。

キーOFF後作動機構

ドアミラーは、電源ポジションをONからOFFにした後でも、約40秒間は角度調節や格納することができます。

ルームミラー

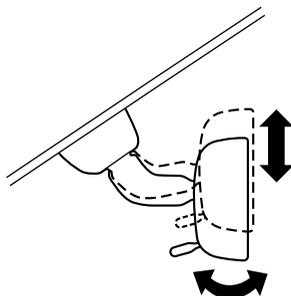
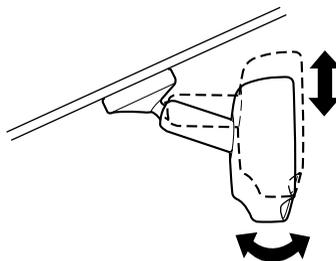
⚠ 警告

■調節は走行前に行なってください。

走行中に調節すると、前方不注意で思わぬ事故につながるおそれがあります。

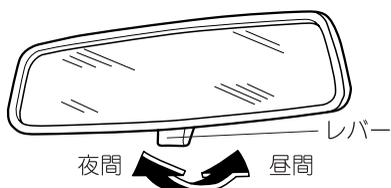
角度/高さ調節

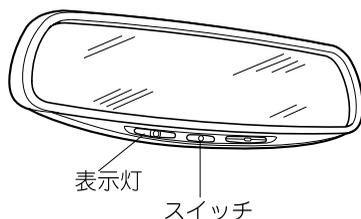
ミラー本体を動かして、後方が十分確認できるように調節します。

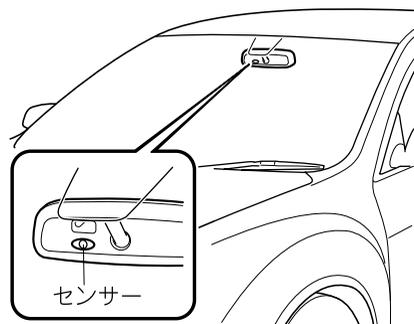
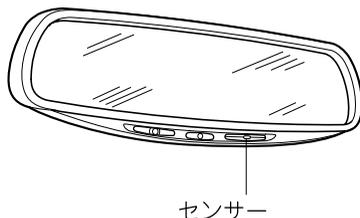
マニュアルタイプ

オートタイプ

防眩切り替え

マニュアルタイプ

通常は、レバーを前方に押した状態にします。

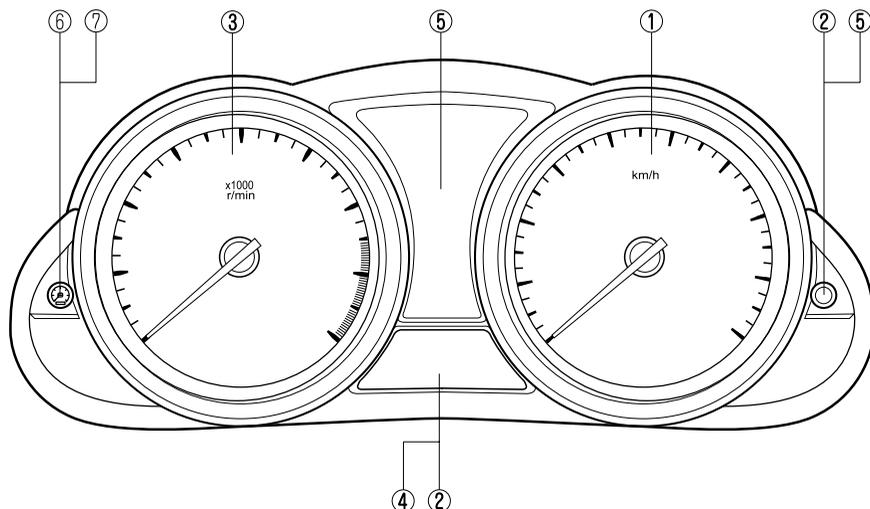
夜間など、後続車のヘッドランプがまぶしいときは、レバーを手前に引いて調節します。

オートタイプ

電源ポジションがONのとき、後続車からのヘッドランプの光を自動で軽減します。
スイッチを押す毎にON、OFFが切り替わります。
スイッチがONのときは表示灯が点灯します。

知識

センサーをガラスクリーナーでふいたり、ステッカーやカバーなどで覆わないでください。センサーが周囲の明るさを正確に感知できなくなります。

電源ポジションがONのときチェンジレバーをRにいれると防眩機能は停止します。

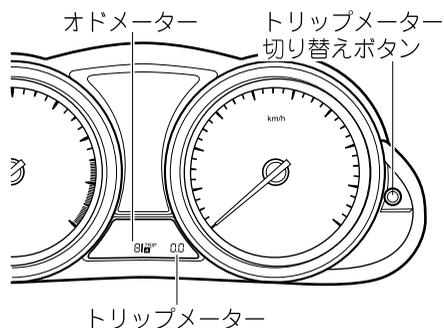
メーター、警告灯、表示灯の見方

メーター

メーターはグレードや仕様により異なります。
ブラックアウトメーター装備車は、電源ポジションをONにするとメーター照明が点灯します。

① スピードメーター 153ページ
② オドメーター/トリップメーター 153ページ
③ タコメーター 153ページ
④ 燃料計 154ページ
⑤ ブースト計 (L3-VDT型エンジン) 154ページ
⑥ 減光解除ボタン 155ページ
⑦ パネルライトコントロールスイッチ 156ページ

スピードメーター

走行速度をkm/hで示します。

オドメーター/トリップメーター

オドメーター

走行した総距離をkm単位で示します。

トリップメーター

一定区間の走行距離をkm単位で示します。(右側の数字は100m単位です。)

2種類 (TRIP A、TRIP B) の区間距離を計測することができます。たとえば、TRIP Aモードで給油してからの距離を測りながら、TRIP Bモードで出発してからの距離を測ることができます。

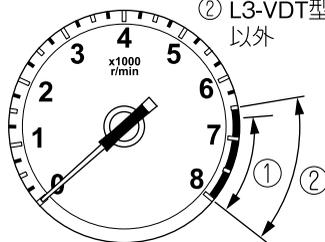
電源ポジションがONのとき、トリップメーター切り替えボタンを押すごとに、TRIP A、TRIP Bが切り替わります。

トリップメーターを"0.0"にもどすときは、それぞれのモードのとき、トリップメーター切り替えボタンを1秒以上押します。

知識

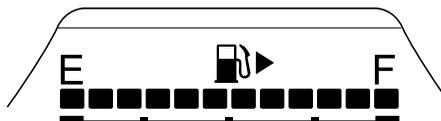
- 電源ポジションがACCまたはOFFのとき、オドメーター/トリップメーターは表示されませんが、次のようなときは、トリップメーター切り替えボタンが機能します (ボタンを操作するとトリップメーターは切り替え/リセットされます)。
  - 電源ポジションをONからACCまたはOFFにした後の約10分間。
  - ドアを閉めた状態から開けた状態にした後の約10分間。
- 次のようなときは、トリップメーターの表示が"0.0"にもどります。
  - 車両整備などでバッテリーとの接続が断たれたとき。
  - 走行距離が999.9kmを超えたとき。

タコメーター

1分間あたりのエンジン回転数を示します。

注意

指針がレッドゾーン (許容回転数以上を示す) にはいらないように運転してください。エンジンの故障につながるおそれがあります。

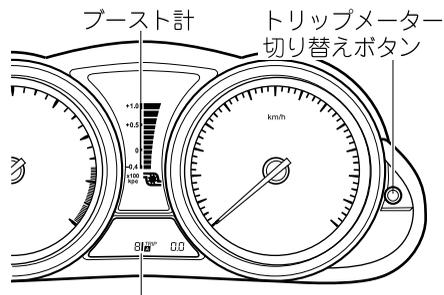
燃料計

電源ポジションがONのとき、燃料の残量を示します。

燃料が少なくなると、燃料残量警告灯が点灯します。早めに燃料を補給してください。
→165ページ「燃料残量警告灯」
目盛りが“E”に近づいたら、早めに燃料を補給してください。
→137ページ「燃料補給口」

知識

- 燃料補給後は、目盛りが安定するまでしばらく時間がかかる場合があります。また、坂道やカーブなどでは、タンク内の燃料が移動するため、目盛りが増減することがあります。
- 矢印 ( ) は燃料補給口が運転席側にあることを示します。
- 燃料タンク内の燃料残量が9L前後になった時に点灯します。点灯したときは、すみやかに燃料を補給してください。
- 走行状況や車両姿勢によっては、タンク内の燃料が移動する為、警告灯の点灯タイミングが変わる場合があります。

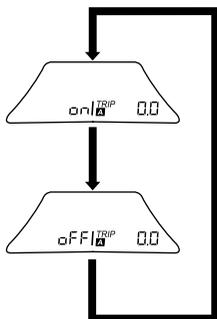
ブースト計 (L3-VDT型エンジン)

走行中、ターボの過給圧を示します。

知識

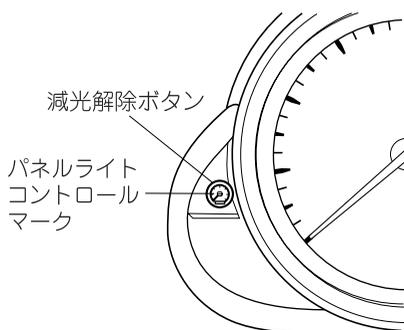
以下の操作により、非表示に切り替えることができます。

1. 電源ポジションをONにします。
2. トリップメーター切り替えボタンを5秒間に6回押します。その後オドメーター/トリップメーター表示部にONが表示されます。ON表示中にトリップメーター切り替えボタンを押すとOFFが表示されます。
3. OFF表示中にトリップメーター切り替えボタンを1秒以上押します。

知識

表示したいときは手順2でON表示中にトリップメーター切り替えボタンを1秒以上押します。

減光解除ボタン

ランプスイッチを または の位置にすると、メーターの照明は減光されます。
雪道や霧での走行時など、周囲が明るく減光状態ではメーターが見えにくい場合に、減光解除ボタンを使用します。

メーターが減光されているときボタンを押すと、減光が解除されメーターの照明が明るくなります。
もう一度押すともとの減光状態にもどります。

 知識

パネルライトコントロールマーク は減光解除ボタンを示しています。

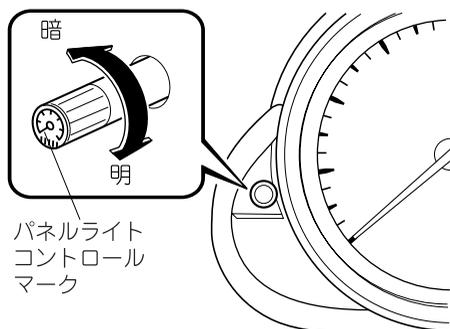
パネルライトコントロールスイッチ

ブラックアウトメーター装備車

電源ポジションがONのときパネルライトコントロールスイッチをまわすと、メーターおよびインストルメントパネルの明るさを調節できます。

標準メーター装備車

ヘッドランプまたは車幅灯が点灯しているときパネルライトコントロールスイッチをまわすと、メーターおよびインストルメントパネルの明るさを調節できます。

知識

- パネルライトコントロールマーク はパネルライトコントロールスイッチを示しています。
- メーターの減光を解除しているときは、パネルライトコントロールスイッチをまわしても、メーターの明るさを調節できません。

警告灯、表示灯

メーターはグレードや仕様により異なります。

ブレーキ警告灯

点灯するとき

- 電源ポジションをONにすると点灯し、しばらくすると消灯します。
- パーキングブレーキをかけているときは点灯します。パーキングブレーキを解除すると消灯します。
- 次のようなときは点灯し続けます。ただちに安全な場所に停車し、マツダ販売店に連絡してください。
  - ブレーキ液が不足しているとき。
  - ブレーキ装置(電子制御制動力配分システム)に異常があるとき。
  - ブレーキスイッチに異常があるとき。

警告

■ブレーキ警告灯が点灯したまま走行しないでください。

ブレーキが効かなくなり思わぬ事故につながるおそれがあります。また停車するときは、ブレーキの効きが悪くなっているおそれがあるため、ブレーキペダルを通常より強く踏んでください。

■ブレーキ警告灯とABS警告灯が同時に点灯したときは、ただちに安全な場所に停車し、マツダ販売店に連絡してください。

急制動時に後輪が通常より早くロックしやすくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

充電警告灯

電源ポジションをONにすると点灯し、エンジンをかけると消灯します。
エンジン回転中、充電装置に異常があると点灯します。

処置方法

ただちに安全な場所に停車し、マツダ販売店に連絡してください。

警告

■充電警告灯が点灯したまま走行しないでください。

エンジンが不意に停止して思わぬ事故につながるおそれがあります。

油圧警告灯

電源ポジションをONにすると点灯し、エンジンをかけると消灯します。
エンジン回転中、エンジンオイルの圧力が低下すると点灯します。

処置方法

ただちに安全な場所に停車し、エンジンを止め、エンジンオイル量を点検してください。
オイルが不足しているときは、補充してください。

エンジンオイルの点検、補充については別冊のメンテナンスノートに記載しています。
オイルが不足していないのに点灯するときや、補充しても点灯し続けるときは、マツダ販売店に連絡してください。

注意

油圧警告灯が点灯したまま走行しないでください。エンジンが破損するおそれがあります。

エンジン警告灯

電源ポジションをONにすると点灯し、エンジンをかけると消灯します。
エンジン制御システムに異常があると点灯または点滅し続けます。

処置方法

高速走行をせず、マツダ販売店で点検を受けてください。

知識

点検を受けるときは、エンジン警告灯が点灯したときの走行状態をマツダ販売店にご連絡ください。

高水温警告灯 (赤)

電源ポジションをONにすると点灯し、しばらくすると消灯します。
エンジン冷却水の温度が異常に高くなったときに点滅し、さらに高くなると点灯します。

処置方法

点滅したとき

エンジンに負担をかけないように、ゆっくり走行してください。

点灯したとき

オーバーヒートのおそれがあります。ただちに安全な場所に停車し、適切な処置をしてください。
→310ページ「オーバーヒートについて」

 注意

高水温警告灯が点灯したまま走行しないでください。点灯したまま走行を続けると、エンジンの故障につながるおそれがあります。

i-stop警告灯 (橙)/i-stop表示灯 (緑) (i-stop装備車)

i-stop

i-stopは、安心かつ快適にご使用いただくために、ドライバーの操作状況や、車内外の環境、車両の状態などの状況を常にモニターし、i-stop警告灯 (橙)/i-stop表示灯 (緑) によりさまざまな注意をドライバーにお知らせします。

i-stop警告灯 (橙)

点灯するとき

- 電源ポジションをONにすると点灯し、エンジンをかけると消灯します。
- i-stop OFFスイッチを押してシステムを解除すると点灯します。
- アイドリングストップ中に以下の操作を行うとi-stop警告灯 (橙) が点灯します。この場合は安全を確保するために、ブレーキペダルから足を放しても自動でエンジンが再始動しないため、通常の操作でエンジンを始動してください。
  - ボンネットを開けたとき
  - ドライバーが車両から降りようとしたとき (運転席シートベルトをはずして運転席ドアを開けたとき)

知識

ボンネットを開けたときや、ドライバーが車両から降りようとしたとき (運転席シートベルトをはずして運転席ドアを開けたとき) 以外で、i-stop警告灯 (橙) が点灯しているときに、i-stop OFFスイッチを押しつづけても消灯しない場合はマツダ販売店で点検を受けてください。

点滅するとき

システムに異常があるときは点滅し続けます。マツダ販売店で点検を受けてください。

i-stop表示灯 (緑)

点灯するとき

アイドリングストップ可能なとき、またはアイドリングストップ中に点灯します。エンジンが再始動すると消灯します。

点滅するとき

ブレーキペダルを強く踏まずに停車させると点滅します。ブレーキペダルの踏力が不足している可能性があります。もう少し強く踏んでみてください。

ABS警告灯

電源ポジションをONにすると点灯し、しばらくすると消灯します。
システムに異常があるときは点灯し続けます。

処置方法

マツダ販売店で点検を受けてください。

警告

■ ブレーキ警告灯とABS警告灯が同時に点灯したときは、ただちに安全な場所に停車し、マツダ販売店に連絡してください。

急ブレーキをかけた際、通常より早く後輪がロックしやすくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

知識

- ABS警告灯が点灯しているときは、ABSが作動しないため、急ブレーキ時やすべりやすい路面での制動時には、車輪がロックすることがあります。
- ABS警告灯が点灯したときは、ABSは作動しませんが通常のブレーキ性能は確保されています。
- **(DSC装備車)**
  ABS警告灯が点灯しているときは、ブレーキアシストは作動しません。

RVM警告灯 (橙)/RVM表示灯 (緑) (リアビークルモニタリングシステム装備車)

RVM

RVM警告灯 (橙)

電源ポジションをONにすると点灯します。リアビークルモニタリングシステムが作動可能な状態だとRVM表示灯 (緑) に切り替わり、解除されているときは消灯します。

システムに異常があるときは点灯し続けます。マツダ販売店で点検を受けてください。

RVM表示灯 (緑)

リアビークルモニタリングシステムが作動可能なとき点灯します。

エアバッグ警告灯/プリテンショナー警告灯

電源ポジションをONにすると点灯し、しばらくすると消灯します。
次のようなときはシステムの異常が考えられます。

- 電源ポジションをONにしても点灯しないとき。
- 点滅し続けるとき。
- 点灯し続けるとき。

処置方法

マツダ販売店で点検を受けてください。

警告

■エアバッグ警告灯/プリテンショナー警告灯が点灯または点滅したまま走行しないでください。

衝突したときにエアバッグまたはプリテンショナー機構が正常に作動せず、重大な傷害につながるおそれがあります。マツダ販売店で点検を受けてください。

燃料残量警告灯

電源ポジションがONのとき、燃料が少なくなると点灯します。

知識

- 燃料タンク内の燃料残量が9L前後になった時に点灯します。点灯したときは、すみやかに燃料を補給してください。
- 走行状況や車両姿勢によっては、タンク内の燃料が移動する為、警告灯の点灯タイミングが変わる場合があります。

処置方法

燃料を補給してください。
→137ページ「燃料補給口」

シートベルト警告灯

電源ポジションがONのとき、運転席/助手席シートベルトを着用していないと点灯します。
また、車速が約20km/h以上になるとしばらくの間点滅します。

運転席

助手席

処置方法

シートベルトを着用してください。
→59ページ「正しい着用のしかた」

知識

- 助手席に荷物などを置くと、荷物の重さによっては助手席用のシートベルト警告機能が作動することがあります。
- 助手席にはクッションなどを敷かないでください。乗員検知センサーが乗員を検知せず、助手席用のシートベルト警告機能が作動しないことがあります。
- 助手席にお子さまが座ったときは、助手席用のシートベルト警告機能が作動しないおそれがあります。

半ドア警告灯

ドア、リヤゲート、トランクが確実に閉まっていないと点灯します。

処置方法

ドア、リヤゲート、トランクを確実に閉めてください。

■半ドア警告灯が点灯したまま走行しないでください。

走行中にドア、リヤゲート、トランクが開き思わぬ事故につながるおそれがあります。

4WD警告灯 (4WD車)

電源ポジションをONにすると点灯し、しばらくすると消灯します。
その後、つぎのようなとき点灯/点滅します。

- 4WDシステムに異常があるときは点灯します。
- ディファレンシャルオイルの温度が異常に高いときは点滅します。
- スタックからの脱出時など、前後輪の回転差が異常に大きい状態が続いたときは点滅します。

4WD

処置方法

警告灯が点灯したとき
マツダ販売店に連絡してください。

警告灯が点滅したとき
警告灯が消灯するまでエンジンをかけたまま安全な場所に停車してください。しばらくして警告灯が消灯すれば走行することができます。
警告灯が消灯しないときは、マツダ販売店に連絡してください。

■脱輪やスタックなどにより、車輪が宙に浮いたときは、むやみに空転させないでください。

駆動系部品に悪影響をあたえ、駆動系のオイル漏れや焼きつきなどにより、思わぬ事故につながるおそれがあります。

オートマチックトランスミッション警告灯(オートマチック車)

電源ポジションをONにすると点灯し、しばらくすると消灯します。
走行中、システムに異常があると点灯します。

AT

処置方法

マツダ販売店で点検を受けてください。

電動パワーステアリング警告灯

グレード/仕様別装備

電源ポジションをONにすると点灯し、エンジンをかけると消灯します。
エンジン回転中、電動パワーステアリングに異常があると点灯します。

処置方法

警告灯が点灯したときは、一度エンジンを停止してください。再度エンジンを始動したとき、警告灯が消灯していればパワーステアリングは正常に作動します。
エンジンを始動した後でも警告灯が点灯している場合は、マツダ販売店で点検を受けてください。

知識

- 警告灯が点灯したときは、電動パワーステアリングは正常に作動しません。この場合、ステアリング操作は可能ですが、通常に比べて操作が重くなります。
- 停車中または低速走行時にステアリング操作を繰り返すと、システム保護のためステアリング操作が重くなる場合がありますが、異常ではありません。安全な場所に停車してステアリング操作を行なわず、しばらくするともとにもどります。

KEY警告灯 (赤)/KEY表示灯 (緑) (アドバンストキー装備車)

KEY警告灯 (赤)

点灯するとき

- 電源ポジションをONにすると点灯し、しばらくすると消灯します。
- アドバンストキーレスエントリー&プッシュボタンスタートシステム機能になんらかの故障が発生すると点灯し続けます。

KEY警告灯 (赤) が点灯し続けるときは、アドバンストキーレスエントリー&プッシュボタンスタートシステム機能による運転を続けないでください。安全な場所に停車し、補助キーによる運転に切り替え、早めにマツダ販売店で点検を受けてください。
→189ページ「電源ポジション (エンジンスイッチ)」

点滅するとき

- 次のようなとき、警告灯が点滅し、プッシュボタンスタートを押してもOFF以外にできないことをお知らせます。
  - アドバンストキーの電池が切れたとき
  - アドバンストキーが作動範囲内にないとき
  - アドバンストキーを車内でも感知しにくい場所に置いているとき
    →105ページ「作動範囲」
  - アドバンストキーに類似した他社のキーが作動範囲内にあるとき
- 次のようなときは警告灯が点滅し続け、電源ポジションをOFFにせずに、アドバンストキーを車外に持ち出したことを知らせます。アドバンストキーを車内にもどすと消灯します。
  - 電源ポジションをOFFにせずに、運転席ドアを開け、アドバンストキーを車外に持ち出したとき
  - 電源ポジションをOFFにせずに、アドバンストキーを車外に持ち出したあと、すべてのドアを閉めたとき

警告灯の点滅と同時にチャイムでもお知らせします。
→116ページ「警報」

KEY表示灯 (緑)

点灯するとき

マニュアル車はクラッチペダル、オートマチック車はブレーキペダルをに踏み込んだとき、正規のアドバンストキーが車内にあることを確認できると点灯し、エンジンをかけることができることを知らせます。
→110ページ「エンジンの始動」

点滅するとき

アドバンストキーの電池容量が残り少なくなっていると、電源ポジションをONからACCまたはOFFにしたときに、30秒間点滅します。アドバンストキーが使用できなくなる前に新しい電池と交換してください。
→103ページ「電池の交換」

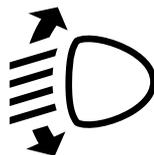
 知識

電池容量が少なくなっても、KEY表示灯(緑) が点滅しないように設定することができます。
→394ページ「設定変更 (カスタマイズ機能)」

電動ハンドルロック警告灯 (アドバンストキー装備車)

電源ポジションをONにすると点灯し、しばらくすると消灯します。
プッシュボタンスタートを押した後、ハンドルのロックを解除できなかった場合に点滅します。
→110ページ「エンジンの始動」

ヘッドランプオートレベリング警告灯 (ディスチャージヘッドランプ装備車)

電源ポジションをONにすると点灯し、しばらくすると消灯します。

警告灯が点灯し続けるときはヘッドランプオートレベリング機能の異常が考えられます。
マツダ販売店で点検を受けてください。

知識

AFS (アダプティブフロントライティングシステム) 装備車には、ヘッドランプオートレベリング警告灯は装備されていません。ヘッドランプオートレベリング機能が故障した場合は、AFS OFF表示灯が点滅します。

ヘッドランプ上向き表示灯

ヘッドランプを上向き (ハイビーム) にすると点灯します。
→180ページ「ヘッドランプの切り替え」
→180ページ「パッシング合図」

方向指示/非常点滅表示灯

方向指示灯/非常点滅灯を作動させせると点滅します。
→181ページ「方向指示器」
→188ページ「非常点滅灯スイッチ」

点滅が異常に速くなったときは、電球切れが考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。

低水温表示灯 (青)

電源ポジションをONにすると点灯し、しばらくすると消灯します。
エンジン冷却水の温度が低いときに点灯し続けます。

知識

十分に暖機しても点灯したままのときは、温度センサーなどの故障が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。

セレクトレバー位置表示灯 (オートマチック車)

電源ポジションがONのとき、使用中のセレクトレバーのセット位置を示します。

2WD車

(4速オートマチック車、5速オートマチック車)
マニュアルモードまたはダイレクトモード グレード/仕様別装備 のとき、使用しているギヤ位置を表示します。
→204ページ「マニュアルモード」
→208ページ「ダイレクトモード」
(CVT車)
マニュアルモードのとき、使用しているギヤ位置を表示します。
→211ページ「マニュアルモード」

4WD車 (4速オートマチック車)

セレクトレバーがD、D3、1または2の位置のとき、選択したセレクトレバー位置を表示します。

セキュリティ表示灯

電源ポジションをONからACCまたはOFFにすると作動します。システムが作動している間はセキュリティ表示灯が点滅します。

→142ページ「イモビライザーシステム (アドバンストキー装備車)」
→144ページ「イモビライザーシステム (アドバンストキー非装備車)」

登録されたキー/アドバンストキーで電源ポジションをONにすると、システムが解除され表示灯が約3秒間点灯した後消灯します。

表示灯が消灯せず点灯または点滅し続けるときは、システムの異常が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。

ECO表示灯 (オートマチック車)

環境にやさしい運転をしているときに点灯します。

知識

アクセルペダルを急激に踏み込むと消灯します。表示灯を消灯させないように走ることで、燃費の向上が期待できます。

TCS/DSC作動表示灯 (DSC装備車)

電源ポジションをONにすると点灯し、しばらくすると消灯します。
走行中にTCSまたはDSCが作動すると点滅します。

次のようなときはシステムの異常が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。

- 電源ポジションをONにしても点灯しないとき、または点灯したままのとき。
- 走行中に点灯したとき。

DSC OFF表示灯 (DSC装備車)

電源ポジションをONにすると点灯し、しばらくすると消灯します。
DSC OFFスイッチを押して、TCS/DSCを解除すると点灯します。

DSC
OFF

次のようなときはシステムの異常が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。

- 電源ポジションをONにしても点灯しないとき、または点灯したままのとき。
- TCS/DSCを解除していないのに点灯したとき。

AFS OFF表示灯(アダプティブフロントライティングシステム装備車)

電源ポジションをONにすると点灯し、しばらくすると消灯します。
AFS OFFスイッチを押してAFS (アダプティブフロントライティングシステム)を解除すると点灯します。

AFS
OFF

次のようなときはシステムの異常が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。

- 電源ポジションをONにしても点灯しないとき。
- 点滅し続けるとき。

AFSが故障したときは、AFSは作動しませんが、通常の照射性能は確保されています。

車幅灯表示灯(ブラックアウトメーター装備車)

車幅灯、尾灯が点灯すると点灯します。

フロントフォグランプ表示灯(フロントフォグランプ装備車)

フォグランプを点灯させると点灯します。

警報音

キー抜き忘れ防止チャイム

キーまたは補助キーを差し込んだまま、電源ポジションをOFFまたはACCにして運転席ドアを開けると、チャイムが鳴りキーまたは補助キーの抜き忘れを知らせます。

 知識

キー抜き忘れ防止チャイムの音量を変更できます。
→394ページ「設定変更 (カスタマイズ機能)」

ランプ消し忘れ防止チャイム

ランプを点灯させたまま、エンジンスイッチからキーまたは補助キーを抜いて (アドバンストキーレスエントリー&プッシュボタンスタートシステム機能使用時は、電源ポジションをOFFにして)、運転席ドアを開けると、チャイムが鳴りランプの消し忘れを知らせます。

 知識

(オートライト非装備車)
ランプ消し忘れ防止チャイムの音量を変更できます。
→394ページ「設定変更 (カスタマイズ機能)」

リバースポジションチャイム (オートマチック車)

電源ポジションがONのとき、セレクトレバーをRにいれるとチャイムが鳴り、セレクトレバーがRにはいっていることを運転者に知らせます。
車外の人には聞こえないので注意してください。

エアバッグ警告チャイム/プリテンショナー警告チャイム

SRSエアバッグシステムまたはプリテンショナー機構に異常があり、さらにエアバッグ警告灯/プリテンショナー警告灯にも異常があるとき、チャイム (毎分5秒間) が鳴り、システムの異常を知らせます。
エアバッグ警告チャイム/プリテンショナー警告チャイムは約35分間鳴り続けます。
ただちにマツダ販売店で点検を受けてください。

 警告

■ エアバッグ警告チャイム/プリテンショナー警告チャイムが鳴っているまま走行しないでください。
衝突したときにエアバッグまたはプリテンショナー機構が正常に作動せず、重大な傷害につながるおそれがあります。
マツダ販売店で点検を受けてください。

シートベルト着用忘れチャイム

運転席/助手席シートベルトを着用していないまま、車速が約20km/h以上になるとしばらくの間チャイムが鳴ります。 (鳴り始めると、車速を落としても鳴り続けます。)
シートベルトを着用すると鳴り止みます。

i-stop警告チャイム (i-stop装備車)

アイドリングストップ中に運転席ドアを開けると吹鳴します。

アドバンストキーレスエントリー&プッシュボタンスタートシステム警報(アドバンストキー装備車)

アドバンストキーレスエントリー&プッシュボタンスタートシステム機能を誤って使用した場合や、使用上の注意が必要な場合にチャイムとメーターの表示灯で知らせます。

→116ページ「警報」

電動ハンドルロック警告チャイム(アドバンストキー装備車)

プッシュボタンスタートを押した後、ハンドルのロックが解除できなかった場合に吹鳴します。

→110ページ「エンジンの始動」

リアビークルモニタリングシステム警報チャイム(リアビークルモニタリングシステム装備車)

システム作動中、隣接車線後方の走行車両と衝突の可能性がある場合に、方向指示器を操作すると吹鳴します。

ランプスイッチ

ランプの点灯/消灯

知識

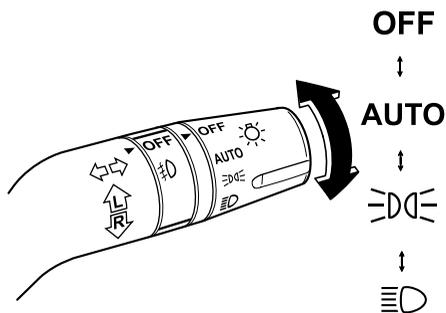
- エンジンを停止しているときに、ランプを点灯させたままにしないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。
- ヘッドランプ、制動灯などのランプは、雨天走行や洗車などの使用条件によりレンズ内面が一時的に曇ることがあります。これはランプ内部と外気の温度差によるもので、雨天時などに窓ガラスが曇るのと同様の現象であり、機能上の問題はありません。ただし、レンズ内面に大粒の水滴がついているときやランプ内に水がたまっているときは、マツダ販売店にご相談ください。

標準タイプ

電源ポジションに関係なく使用できます。
ランプスイッチをまわすと、各ランプが点灯/消灯します。

スイッチ位置	OFF	(車幅灯マーク)	(ヘッドランプマーク)
ヘッドランプ	消灯	消灯	点灯
車幅灯、尾灯、番号灯	消灯	点灯	点灯

スイッチの使いかた

オートライト機能付きタイプ

手動で使うとき

電源ポジションに関係なく使用できます。
ランプスイッチをまわすと、各ランプが点灯/消灯します。

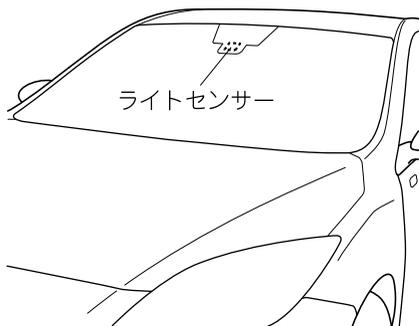
スイッチ位置	OFF		
ヘッドランプ	消灯	消灯	点灯
車幅灯、尾灯、番号灯	消灯	点灯	点灯

自動で使うとき (オートライト機能)

電源ポジションがONのとき使用できます。
ランプスイッチをAUTOの位置にすると、周囲の明るさに応じてランプが自動で点灯/消灯します。

周囲の明るさ	明るい	薄暗い	暗い
ヘッドランプ	消灯	消灯	点灯
車幅灯、尾灯、番号灯	消灯	点灯	点灯

注意

- フロントガラスにステッカーやラベルなどを貼り付けてライトセンサーを覆わないでください。センサーが周囲の明るさを正確に感知できなくなります。

- ライトセンサーはオートワイパー機能のレインセンサーの役割も果たしています。ワイパーレバーがAUTOの位置で、電源ポジションがONのときはワイパーが自動で作動することがあります。手や指などを挟まないよう気をつけてください。万一手や指を挟むと、けがやワイパーの故障につながるおそれがあります。
  →183ページ「フロントワイパー/ウォッシャー」

知識

- 長いトンネルやトンネル内での渋滞、屋内駐車場など、周囲が暗い状態が数分間続くとライトセンサーが夜間と判断し、周囲が明るくなってもランプがすぐには消灯しない場合があります。この場合はランプスイッチをOFFの位置にすれば消灯します。
- ランプスイッチがAUTOの位置のときに、電源ポジションをACCまたはOFFにすると、ランプは自動で消灯します。
- 車幅灯やヘッドランプを点灯させるタイミングを早くすることができます。マツダ販売店へご相談ください。
- オートライト機能は、ヘッドランプが早めに点灯するようにできます。
→394ページ「設定変更 (カスタマイズ機能)」

ディスチャージヘッドランプについて

グレード/仕様別装備

ディスチャージヘッドランプは、太陽光に近い白い光で広範囲を照らします。
ヘッドランプのロービーム、ハイビームに装備されています。

⚠ 警告

■ディスチャージヘッドランプの交換·修理をするときは、必ずマツダ販売店へご相談ください。
ディスチャージヘッドランプは高電圧を使用しているため、取り扱いを誤ると感電するおそれがあります。

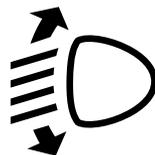
知識

ヘッドランプが点滅するとき、または著しく明るさが低下したときはバルブの寿命が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。

ヘッドランプレベリング (オートタイプ) (ディスチャージヘッドランプ装備車)

ヘッドランプを点灯したとき乗員や荷物の状況に応じてヘッドランプの照らす方向を上下方向へ自動で調節し、一定に保ちます。

ヘッドランプオートレベリング警告灯

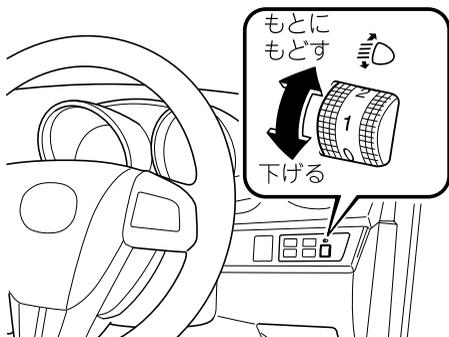
電源ポジションをONにすると点灯し、しばらくすると消灯します。

警告灯が点灯し続けるときはヘッドランプオートレベリング機能の異常が考えられます。
マツダ販売店で点検を受けてください。

知識

AFS (アダプティブフロントライティングシステム) 装備車には、ヘッドランプオートレベリング警告灯は装備されていません。ヘッドランプオートレベリング機能が故障した場合は、AFS OFF表示灯が点滅します。

ヘッドランプレベリングスイッチ(ディスチャージヘッドランプ非装備車)

ヘッドランプが点灯しているとき、ヘッドランプの照らす方向を下向きに調節することができます。
乗員や荷物が多いときなど、ヘッドランプが通常よりも上向きを照らしているときは、スイッチをまわしてヘッドランプの照らす方向を下向きにしてください。

スイッチを下方向へまわすと、ヘッドランプの照らす方向が下向きに変わります。スイッチの数字が大きいほど下向きになります。

スイッチ位置の目安

積載状況		スイッチ位置
乗員	荷室	
運転席のみ乗車時	非積載時	0
	満載時	3
運転席と助手席乗車時	非積載時	0
全席乗車時	非積載時	1
	満載時	2

知識

- 乗員や荷物を降ろした後は、スイッチの位置を必ず **0** にもどしてください。
- 通常はスイッチの位置を **0** にして使用してください。
- 車検などで光軸調整をするときは、スイッチの位置を **0** にしてから行なってください。

AFS (アダプティブフロントライティングシステム) について

グレード/仕様別装備

AFS (アダプティブフロントライティングシステム) は、エンジン回転中、ヘッドランプが点灯しているとき、ハンドルの操作にあわせてヘッドランプの照らす方向を左右に自動で調節するシステムです。

AFS OFF表示灯

電源ポジションをONにすると点灯し、しばらくすると消灯します。
AFS OFFスイッチを押してAFSを解除すると点灯します。

AFS
OFF

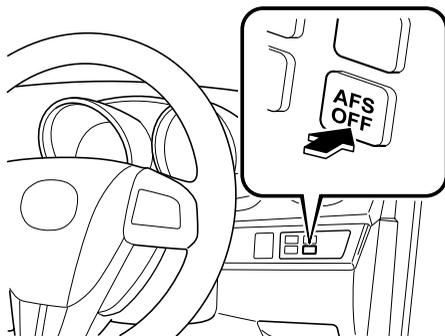
次のようなときはシステムの異常が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。

- 電源ポジションをONにしても点灯しないとき。
- 点滅し続けるとき。

知識

AFSが故障したときは、AFSは作動しませんが、通常の照射性能は確保されています。

AFS OFFスイッチ

AFS OFFスイッチを押すことによりAFSを解除することができます。
もう一度スイッチを押すと、AFS OFF表示灯が消灯し、AFSが作動可能な状態になります。

ランプ消し忘れ防止チャイム

ランプを点灯させたまま、エンジンスイッチからキーまたは補助キーを抜いて (アドバンストキーレスエントリー&プッシュボタンスタートシステム機能使用時は、電源ポジションをOFFにして)、運転席ドアを開けると、チャイムが鳴りランプの消し忘れを知らせます。

知識

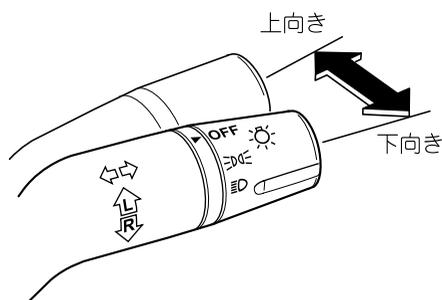
(オートライト非装備車)
ランプ消し忘れ防止チャイムの音量を変更できます。
→394ページ「設定変更 (カスタマイズ機能)」

スイッチの使いかた

ヘッドランプの切り替え

ヘッドランプが点灯しているとき、レバーを前後に操作すると、ヘッドランプの向きが切り替わります。

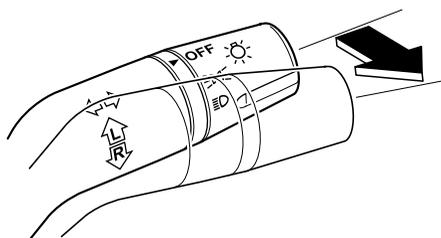
前方に押すと上向き (ハイビーム)、手前に引くと下向き (ロービーム) になります。

上向き (ハイビーム) のときは、メーター内のヘッドランプ上向き表示灯が点灯します。

知識

- 遠くを照らしたいときに上向き (ハイビーム) にしてください。
- 対向車がいるときや、市街地走行などで上向きが不適切なときは下向き (ロービーム) にしてください。

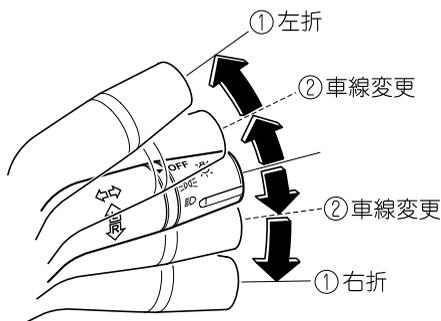
パッシング合図

ランプスイッチの位置に関係なく、レバーを引いている間ヘッドランプが上向き (ハイビーム) で点灯します。

同時にメーター内のヘッドランプ上向き表示灯が点灯します。

方向指示器

方向指示器の操作

電源ポジションがONのとき使用できます。

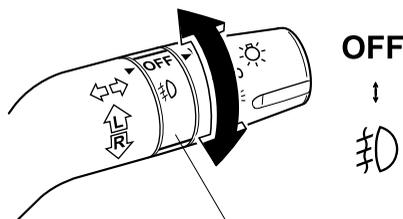
- レバーを①の位置まで上または下に操作すると、左または右の方向指示灯が点滅します。レバーはハンドルをもどすと、自動的にもとの位置にもどります。もどらないときは、手でもどしてください。
- 方向指示灯が点滅しているときは、メーター内の方向指示表示灯も点滅します。

- 車線変更のときは、レバーを軽く②の位置まで上または下に操作します。レバーを操作している間、左または右の方向指示灯が点滅し、手を離すと消灯します。
- 方向指示灯が点滅しているときは、メーター内の方向指示表示灯も点滅します。

知識

- 点滅が異常に速くなった場合は、電球切れが考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。
- 方向指示器を操作するときは、非常点滅灯スイッチをOFFの位置にしてください。非常点滅灯が作動しているときは、方向指示灯は作動しません。
- 方向指示器のブザーの音量は変更することができます。
  →394ページ「設定変更 (カスタマイズ機能)」

フォグランプスイッチ

グレード/仕様別装備

霧などで視界が悪いときに使用します。
ランプスイッチが または の位置のとき使用できます。
フォグランプスイッチを の位置にすると、フォグランプが点灯します。
　フォグランプが点灯しているときは、メーター内の表示灯が点灯します。

フォグランプスイッチ

フォグランプスイッチをOFFの位置にする、またはランプスイッチをOFFの位置にすると消灯します。

ワイパー/ウォッシャースイッチ

電源ポジションがONのとき作動します。

 警告

■寒冷時にウォッシャー液を噴射するときは、ガラスをあたためてから行なってください。

ウォッシャー液がガラス面で凍結し、視界不良などで思わぬ事故につながるおそれがあります。

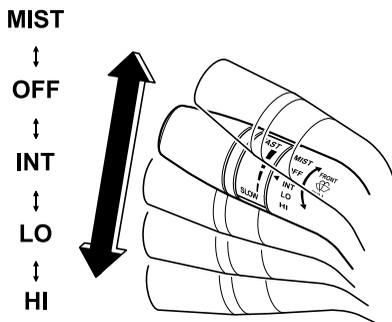
 注意

- 凍結時や長時間ワイパーを使用しなかったときは、ワイパーゴムがガラスに貼り付いていることがあります。ガラスに貼り付いたまま作動させると、ワイパーゴムの損傷、ワイパーモーターの故障につながるおそれがあります。
- ガラスがかわいているままでワイパーを作動させると、ガラスに傷がついたりワイパーゴムを損傷するおそれがあります。ガラスがかわいているときは、ウォッシャー液を噴射してください。
- ウォッシャー液が十分に出ないときは、ウォッシャースイッチを使用しないでください。ウォッシャー液が出ないまで、ウォッシャースイッチを操作し続けると、ポンプの故障につながるおそれがあります。

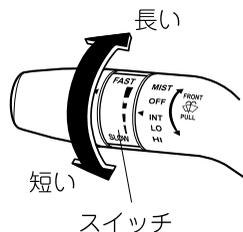
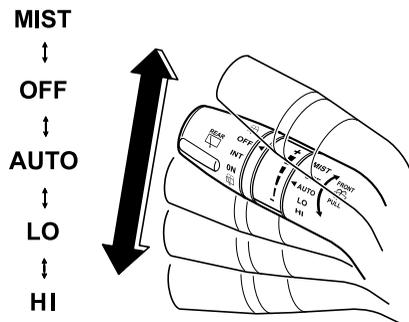
知識

- ウォッシャー液を補給しても液が出ないときは、ノズルに異物がつまっていることがあります。針などでつまりを取ってください。
- 降雪時にワイパーを作動させていると、ガラスに雪が積もってワイパーが停止することがあります。積雪などでワイパーが停止したときは、安全な場所に停車してワイパースイッチをOFFの位置にした後、積もった雪を取り除いてください。

フロントワイパー/ウォッシャー

ワイパーの操作 (標準タイプ)

レバー位置	作動状態
MIST	レバーを上に押し上げている間作動
OFF	停止
INT	間欠作動
LO	低速作動
HI	高速作動

間欠作動時間の調節

間欠作動のときスイッチをまわすと、間欠作動時間を調節できます。

ワイパーの操作 (オートワイパー機能付きタイプ)

レバー位置	作動状態
MIST	レバーを上に押し上げている間作動
OFF	停止
AUTO	オートワイパー機能
LO	低速作動
HI	高速作動

スイッチの使いかた

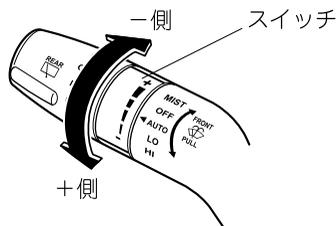
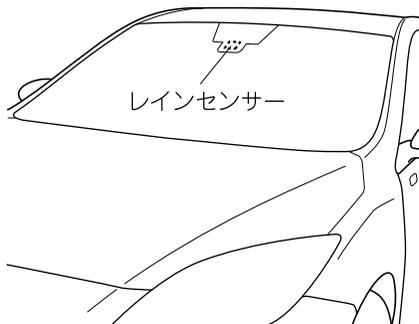
オートワイパー機能

レバーをAUTO位置にしているとき、レインセンサーが雨を感知すると、ワイパーが自動で作動します。

雨量	作動状態
少ない	間欠作動
普通	低速作動
多い	高速作動

スイッチをまわすと、雨に反応する感度を調節できます。

スイッチ位置	感度
− 側	雨に反応しにくい
＋ 側	雨に反応しやすい

⚠ 注意

- フロントガラスにステッカーやラベルなどを貼り付けてレインセンサーを覆わないでください。センサーが雨量を正確に感知できなくなります。

- 電源ポジションがONで、ワイパーレバーがAUTOの位置のとき、つぎのような場合はワイパーが自動で作動することがあります。手や指を挟まないよう注意してください。万一手や指を挟むと、けがやワイパーの故障につながるおそれがあります。

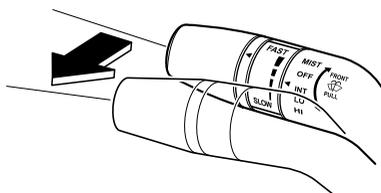
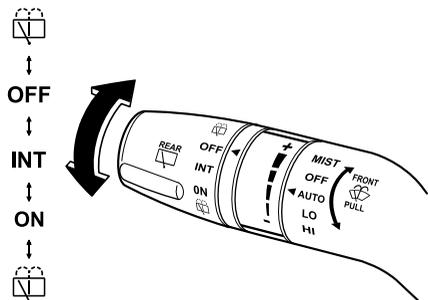
  - フロントガラスのレインセンサー上部に触れたとき。
  - フロントガラスのレインセンサー上部を布などで拭いたとき。
  - フロントガラスに衝撃をあたえたとき。
  - レインセンサーに車内から衝撃をあたえたとき。

  洗車やメンテナンスを行なうときは、ワイパーレバーをOFFの位置にしてください。

知識

- 車速が約4km/h以上で走行中 (または走行後) にスイッチをOFFからAUTOの位置にすると、ワイパーが1回作動した後、雨量に応じて作動します。
- レインセンサーの温度が－10°C以下、または85°C以上のときはオートワイパーが作動しないことがあります。
- フロントガラスに純正品以外の撥水コーティングを使用すると、レインセンサーが雨量を正確に検知できず、オートワイパーが正常に作動しないことがあります。純正品以外の撥水コーティングは使用しないでください。
- フロントガラスのレインセンサー上部に泥や異物 (氷や塩水などを含むもの) が付着しているときや、フロントガラスが凍っているとき、ワイパーが自動で作動することがあります。ワイパーが数回作動してもセンサー上部の泥や異物、氷などを取り除けないときは、オートワイパーは作動を停止します。ワイパーレバーを1または2にしてワイパーを作動させるか、フロントガラスの泥や異物、氷などを取り除いてからオートワイパーを作動させてください。
- レインセンサーは光学センサーを使用しているため、強い光源、電磁波、赤外線等の影響により、ワイパーレバーがAUTOの位置のとき、ワイパーが自動で作動することがあります。雨天時以外はワイパーレバーをOFFの位置にして走行することをおすすめします。

ウォッシャーの操作

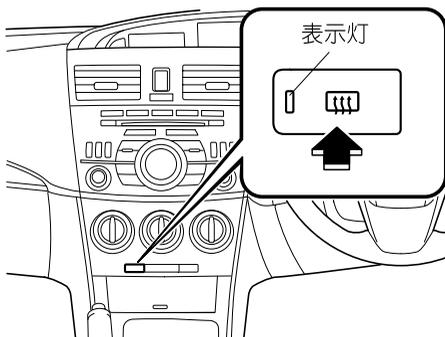
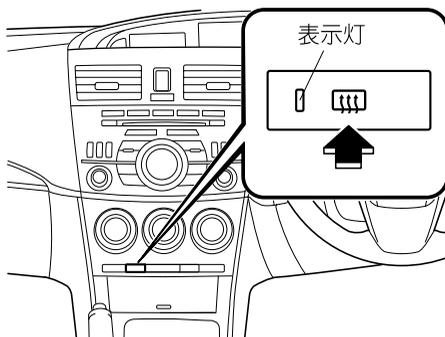
レバーを手前に引いている間、ウォッシャー液が噴射し、ワイパーが数回作動します。

リヤワイパー/ウォッシャー(ハッチバック)

スイッチ位置	作動状態
(ウォッシャー)	リヤウォッシャーおよびリヤワイパー作動
ON	連続作動
INT	間欠作動
OFF	停止
(ウォッシャー)	リヤウォッシャーおよびリヤワイパー作動

スイッチを(ウォッシャー)の位置にまわしている間、ウォッシャー液が噴射し、同時にワイパーが作動します。
ワイパーの作動中にウォッシャー液を噴射させるときは、スイッチをONの位置から上側にまわします。

リヤウインドーデフォッガー(曇り取り)スイッチ

リヤウインドーを熱線であたため、曇りを取ります。

電源ポジションがONのとき使用できます。
スイッチを押すと約15分間作動します。
作動中はスイッチ内の表示灯が点灯します。
作動を停止したいときは、もう一度スイッチを押します。

マニュアルエアコン

フルオートエアコン

⚠ 注意

リヤウインドーの内側には熱線が取り付けてあります。清掃するときは熱線を傷つけないようにしてください。
→364ページ「ガラス、ミラーの手入れ」

知識

- エンジン回転中に使用してください。また、連続して長時間使用しないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。
- **(ミラーの曇り取り装備車)**
リヤウインドーデフォッガーを作動させると、ドアミラーの曇り取りも作動します。

ミラーの曇り取り (4WD車)

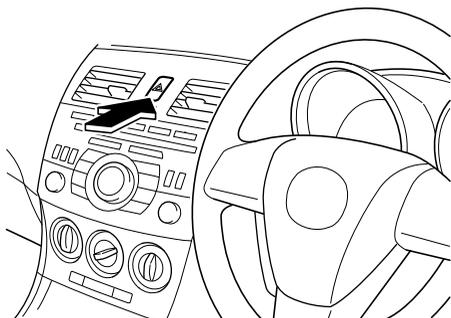
電源ポジションがONのとき、リヤウインドーデフォッガースイッチを押すと、ドアミラーの曇りが取れます。
→186ページ「リヤウインドーデフォッガー (曇り取り) スイッチ」

ホーン

ハンドルの マークを押すとホーンが鳴ります。

必読！
安全装備
操作と取り扱い
快適カーライフ
万一のとき
車との上手なつきあいかた
サービスデータ
さくいん

非常点滅灯スイッチ

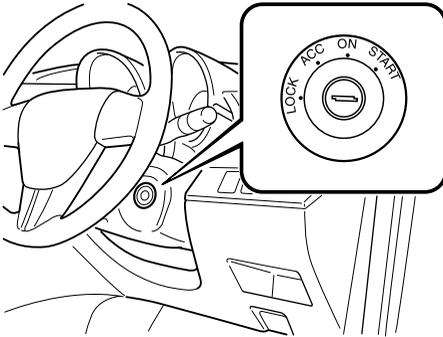
故障などでやむをえず路上駐車するときや、非常時に使用します。
スイッチを押すとすべての方向指示灯が点滅します。同時にメーター内にある非常点滅表示灯も点滅します。
もう一度押すと消灯します。

知識

- 方向指示器を操作するときは、非常点滅灯スイッチをOFFの位置にしてください。
- すべりやすい路面でブレーキを踏むと、エマージェンシーシグナルシステム (ESS) が作動しすべての方向指示器が点滅することがあります。
  →93ページ「エマージェンシーシグナルシステム (ESS)」
- エマージェンシーシグナルシステム (ESS) 作動中はすべての方向指示灯を自動的に高速で点滅させ、後続車に注意をうながします。
  →93ページ「エマージェンシーシグナルシステム (ESS)」

電源ポジション(エンジンスイッチ)

知識

アドバンストキー装備車の電源ポジションの切り替えについては110ページの「エンジンの始動」をお読みください。

各位置の働き

※印字(刻印)は実際の車両と異なる場合があります。

電源ポジション(エンジンスイッチ)	働き
OFF/LOCK	電源OFFの状態 キー(エンジンスイッチ)を抜き差しできる位置
ACC	エンジン停止時に、オーディオなどが使用できる位置
ON	エンジン回転中の位置
START	エンジンを始動する位置

知識

- エンジンスイッチをまわして、電源ポジションをONにしたとき、燃料タンク付近からフューエルポンプのモーター作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。
- エンジンを止めたままで、オーディオなどを長時間使用したり、電源ポジションをONまたはACCのまま放置しないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。
- ハンドルがロックされているときは、キー(エンジンスイッチ)をまわしにくいことがあります。ハンドルを左右に動かしながらキー(エンジンスイッチ)をまわしてください。
- オートマチック車はセレクトレバーの位置がP以外のときは、エンジンスイッチをまわして、電源ポジションをACCからOFFにすることができません。

キー抜き忘れ防止チャイム

キーまたは補助キーを差し込んだまま、電源ポジションをOFFまたはACCにして運転席ドアを開けると、チャイムが鳴りキーまたは補助キーの抜き忘れを知らせます。

知識

キー抜き忘れ防止チャイムの音量を変更できます。
→394ページ「設定変更(カスタマイズ機能)」

運転装置の使いかた

エンジンの始動

 知識

アドバンストキー装備車のエンジンの始動については110ページの「エンジンの始動」をお読みください。

エンジンをかける前に

1 パーキングブレーキがかかっていることを確認します。

2 マニュアル車はチェンジレバーがニュートラル位置、オートマチック車はセレクトレバーがPの位置にあることを確認します。

3 正しい運転姿勢をとり、右足でアクセルペダルとブレーキペダルが確実に踏めるか確認します。
ペダルの踏み間違いのないように、ペダルの位置を確認しておいてください。
→48ページ「正しい運転姿勢」

クラッチスタートシステム (マニュアル車)

クラッチスタートシステムは、ギヤが入っている状態でクラッチペダルを踏まずにスターターをまわしたとき、車が動き出すのを防止する装置です。
エンジンをかけるとき、クラッチペダルをいっぱいに踏み込まないとスターターがまわらないため、エンジンがかかりません。

知識

クラッチスタートシステム装備車は、ギヤを入れたまま電源ポジションをSTARTにし続けて車を緊急避難させることができません。
→285ページ「エンストで動けなくなったとき」

エンジンをかけるとき

1 ブレーキペダルをしっかりと踏みます。

2 マニュアル車は、クラッチペダルをいっぱいに踏み込みます。

知識

クラッチペダルをいっぱいに踏み込まないとエンジンがかからないようになっています。
→190ページ「クラッチスタートシステム」

3 アクセルペダルを踏まずにエンジンスイッチをまわして、電源ポジションをSTARTにし、エンジンをかけます。

 注意

連続して10秒以上エンジンスイッチをまわして、電源ポジションをSTARTにしないでください。スターターの故障やバッテリーあがりの原因になります。エンジンがかからないときは、エンジンスイッチをまわして、電源ポジションをOFFにもどし、10秒以上待ってからエンジンをかけなおしてください。

知識

冷間始動後は、エンジン制御システムの働きによりエンジン回転数が高くなりますが、自動的に適正な回転数に下がります。

エンジンの停止

1 マニュアル車はチェンジレバーをニュートラルの位置、オートマチック車はセレクトレバーをPの位置にします。

2 電源ポジションをOFFにします。

注意

車から離れるときは、電源ポジションがOFFになっていることを確認してください。

知識

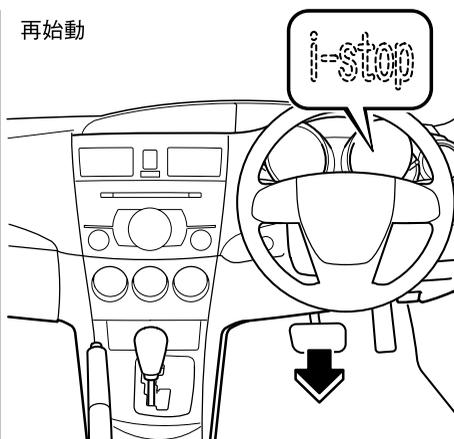
エンジンルームを早期に冷却するため、電源ポジションをONからOFFにしたとき、エアコンのON/OFFにかかわらず電動ファンが数分間回転することがあります。

i-stopについて

グレード/仕様別装備

i-stop (アイ·ストップ) は、エンジン暖機後に信号待ちや渋滞などで車両を停止させると、燃費向上·排気ガスの低減·アイドリング騒音低下のため、自動でエンジンを停止·再始動させる機能です。

アイドリングストップ·再始動

1. 走行中にアイドリングストップする条件を満たすと、i-stop表示灯 (緑) が点灯します。
2. Dレンジのままブレーキペダルを踏んで停車すると、アイドリングストップします。(i-stop表示灯 (緑) はアイドリングストップ中も点灯します。)
3. Dレンジのままブレーキペダルから足を放すと、自動でエンジンが再始動し、i-stop表示灯 (緑) が消灯します。再び走行中にアイドリングストップする条件を満たすと、i-stop表示灯 (緑) が点灯します。

知識

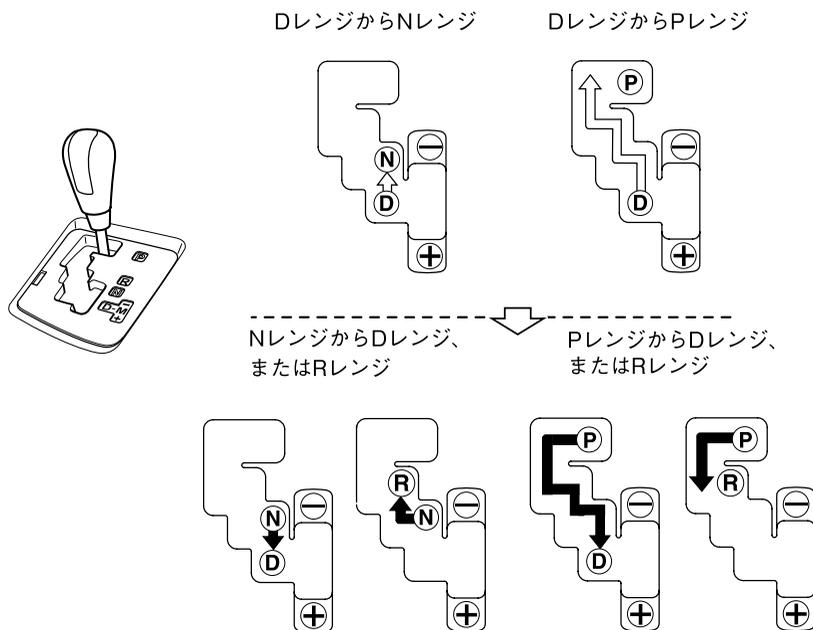
i-stopは、安全かつ快適にご使用いただくために、ドライバーの操作以外に、車内外の環境、車両の状態などの状況を常にモニターし、アイドリングストップ·再始動を制御しています。

- 次の条件をすべて満たしているときにアイドリングストップします。
  - エンジンを始動したのち、一度走行したあと (走行せずにアイドリングを続けても、i-stopは作動しません。また、停車中にアイドリングストップ·再始動を繰り返すこともありません。)
  - エンジンが十分に暖まっているとき
  - 車両が停車しているとき
  - バッテリーの状態が良好のとき
  - ボンネットが閉まっているとき
  - 全てのドア、リヤゲートが閉まっているとき
  - 運転席シートベルトを着用しているとき
  - 曇り取りスイッチがOFFのとき
  - リヤウインドーデフォッガースイッチがOFFのとき
  - アドバンストキーが車内にあるとき
  - エアコンの運転席側温度設定ダイヤルが、最大暖房/最大冷房以外の位置となっているとき
  - 車内の温度とエアコンの設定温度がほぼ一致しているとき
  - 標高約1500m以下で使用しているとき
  - i-stop警告灯 (橙) が点灯/点滅していないとき
  - エンジン警告灯が点灯していないとき
  - アドバンストキーレスエントリー&プッシュボタンスタートシステムが正常なとき
  - セレクトレバーがDレンジのとき
  - オートマチックトランスミッションフルードが十分に暖まっているとき
  - オートマチックトランスミッションフルードの温度が異常に高くないとき
  - ブレーキ負圧が十分に高いとき
  - ハンドルが直進状態のとき
  - ハンドル操作をしていないとき
  - ブレーキペダルを踏んで停車させたとき (アイドリングストップせずi-stop表示灯 (緑) が点滅しているときは、ブレーキペダルの踏み方が不足している可能性があります。もう少し強く踏んでみてください。)
  - 急制動ではないとき
  - 立体駐車場などの急な坂道で停車していないとき
- 次の条件のときはアイドリングストップするまでに時間がかかることがあります。
  - 車両を長期間使用しなかったときなどでバッテリーが放電したとき
  - 外気温が高いとき、または、低いとき
  - バッテリー交換等によりバッテリー端子をはずしたあと

運転装置の使いかた

知識

- アイドリングストップ中に以下の操作を行うとi-stop警告灯 (橙) が点灯し、安全を確保するためにブレーキペダルから足を放しても自動でエンジンが再始動しません。この場合は、通常の操作でエンジンを始動してください。
  - ボンネットを開けたとき
  - ドライバーが車両から降りようとしたとき (運転席シートベルトをはずして運転席ドアを開けたとき)
- アイドリングストップ中にセレクトレバーをDレンジからNレンジ、またはDレンジからPレンジへ操作するとブレーキペダルから足を放しても自動でエンジンが再始動しません。もう一度ブレーキペダルを踏むか、セレクトレバーをDまたはRレンジへ操作すると再始動します。 (安全のため、アイドリングストップ中にセレクトレバーを操作する時は、必ずブレーキペダルを踏み込んだ状態で行なって下さい。)

知識

- アイドリングストップ中に以下の操作を行うと、ブレーキペダルから足を放さなくてもエンジンが再始動します。
  - i-stop OFFスイッチをチャイムが鳴るまで押し続けたとき
  - エアコンの運転席側温度設定ダイヤルを、最大暖房/最大冷房の位置にしたとき
  - リヤウインドーデフォッガースイッチをONにしたとき
  - 曇り取りスイッチをONにしたとき
  - アドバンストキーを車外に持ち出したとき
  - 坂道でブレーキをゆるめ、車両が動きだしたとき
  - ブレーキペダルを再度強く踏んだとき
  - アクセルペダルを踏んだとき
  - セレクトレバーをRレンジかMレンジにしたとき
  - セレクトレバーがDレンジのまま、ハンドル操作をしたとき
- アイドリングストップ中に以下の車両状態になると、ブレーキペダルから足を放さなくてもエンジンが再始動します。
  - 車内の温度がエアコンの設定温度から大きく外れたとき
  - バッテリーの放電が進んだとき
- 次のときはエンジン停止時間が短くなることがあります。
  - 外気温が高いとき、または、低いとき (エアコンが設定温度を維持できなくなるため)
  - 車載装備などの電流消費が多いとき
- 外気温が非常に低い、または高いときには、アイドリングストップしません。
- バッテリー端子をはずした場合は、バッテリー端子接続後すぐにはアイドリングストップしないことがあります。また、バッテリーを交換したときは、i-stopの機能を確認する必要がありますので、マツダ販売店にご相談ください。
- アイドリングストップ中にブレーキペダルから足を放しても自動でエンジンが再始動せず、メーター内の表示がすべて消灯した場合は、マツダ販売店にご相談ください。

i-stop警告灯 (橙)/i-stop表示灯 (緑)

i-stop

i-stopは、安心かつ快適にご使用いただくために、ドライバーの操作状況や、車内外の環境、車両の状態などの状況を常にモニターし、i-stop警告灯 (橙)/i-stop表示灯 (緑) によりさまざまな注意をドライバーにお知らせします。

i-stop警告灯 (橙)

点灯するとき

- 電源ポジションをONにすると点灯し、エンジンをかけると消灯します。
- i-stop OFFスイッチを押してシステムを解除すると点灯します。
- アイドリングストップ中に以下の操作を行うとi-stop警告灯 (橙) が点灯します。この場合は安全を確保するために、ブレーキペダルから足を放しても自動でエンジンが再始動しないため、通常の操作でエンジンを始動してください。
  - ボンネットを開けたとき
  - ドライバーが車両から降りようとしたとき (運転席シートベルトをはずして運転席ドアを開けたとき)

知識

ボンネットを開けたときや、ドライバーが車両から降りようとしたとき (運転席シートベルトをはずして運転席ドアを開けたとき) 以外で、i-stop警告灯 (橙) が点灯しているときに、i-stop OFFスイッチを押しつづけても消灯しない場合はマツダ販売店で点検を受けてください。

点滅するとき

システムに異常があるときは点滅し続けます。マツダ販売店で点検を受けてください。

i-stop表示灯 (緑)

点灯するとき

アイドリングストップ可能なとき、またはアイドリングストップ中に点灯します。エンジンが再始動すると消灯します。

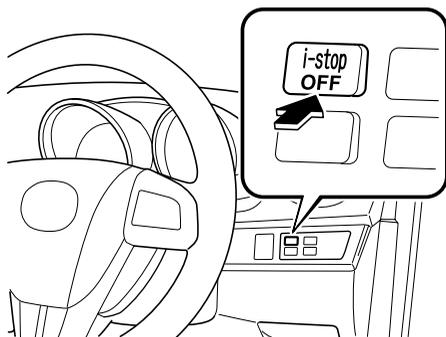
点滅するとき

ブレーキペダルを強く踏まずに停車させると点滅します。ブレーキペダルの踏力が不足している可能性があります。もう少し強く踏んでみてください。

i-stop警告チャイム

アイドリングストップ中に運転席ドアを開けるとチャイムが鳴り、アイドリングストップ中であることをお知らせします。運転席ドアを閉めると鳴り止みます。

i-stop OFFスイッチ

スイッチをチャイムが鳴るまで押しつづけると、i-stopの作動が解除され、メーター内のi-stop警告灯 (橙) が点灯します。もう一度チャイムが鳴るまで押しつづけるとi-stopが作動可能な状態になり、i-stop警告灯 (橙) が消灯します。

知識

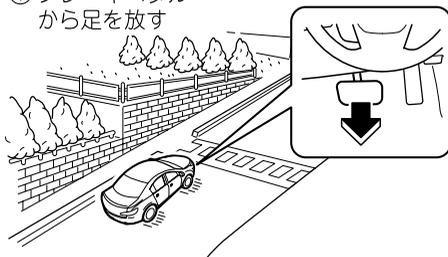
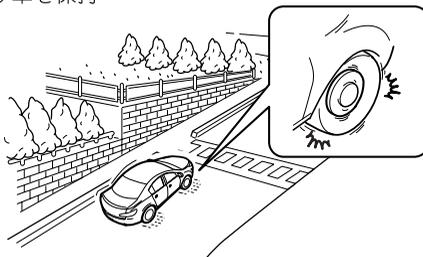
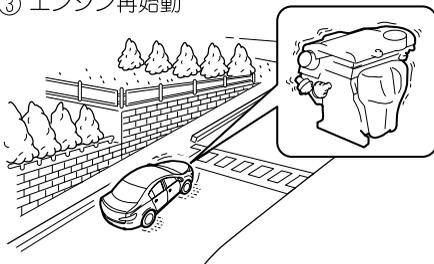
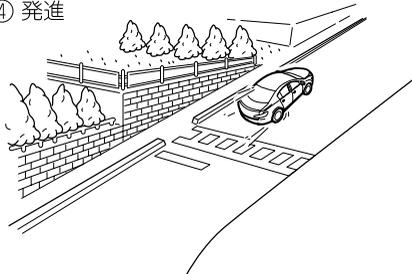
i-stopを解除した状態でエンジンを停止した場合、次にエンジンを始動するとi-stopは作動可能な状態にもどります。

アイドリングストップ時間表示

アイドリングストップした時間がマルチインフォメーションディスプレイ (MID) に表示されます。

→264ページ「マルチインフォメーションディスプレイ (MID)」

発進補助機能について

i-stop装備車には発進補助機能が装備されています。発進補助機能とは、アイドリングストップしている間にブレーキペダルから足を放したときに、坂道での前後退やクリープ現象などで不意に車両が飛び出すことを防ぐため、自動でブレーキ力を保持する機能です。ただし、アイドリングストップしていないときは作動しません。

警告

■ 発進補助機能はあくまでもアイドリングストップ状態、及び車両を発進させる際の約2秒間で限定作動する補助装置です。

システムを過信して発進すると車両が動き出し思わぬ事故につながるおそれがあるため非常に危険です。発進時は周囲の安全を確認してセレクトレバーやブレーキペダル、アクセルペダルを適切に操作してください。車両が以下の状態では、発進補助機能が解除されたあとに車両が飛び出す可能性がありますのでご注意下さい。

- **セレクトレバーがNレンジ、またはPレンジの場合。**
  アイドリングストップ中にセレクトレバーをNレンジ、またはPレンジに操作し、ブレーキペダルから足を放したときは、ブレーキ力が徐々に解除されます。発進時はセレクトレバーをNレンジ、またはPレンジ以外の位置にしてエンジンを再始動させたあとに、ブレーキペダルから足を放してください。
- **急な勾配に車両を停止している、または重い荷物などを車両に積載している場合。**
  発進補助機能が正常に作動していても車両が動き出す可能性がありますので、停車中はブレーキを踏み続けてください。

知識

発進補助機能の作動により、ブレーキペダルの踏み応えが変わったり、ブレーキから音が発生したり、ブレーキペダルが振動したりすることがありますが、異常ではありません。

こんなときは

システムの故障や、使用上の注意が必要な場合に警報チャイムとメーターの表示灯でお知らせします。

表示/ブザー	確認すること
アイドリングストップ中にチャイムが吹鳴し、i-stop警告灯 (橙) と他の警告灯も点灯した	ボンネットの開閉状態、もしくは運転席シートベルトの装着有無と運転席ドアの開閉状態を確認してください。この場合は安全を確保するために自動でエンジンが再始動しないため、通常の操作でエンジンを再始動して下さい。
i-stop警告灯 (橙) が点滅した	システムの異常が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。

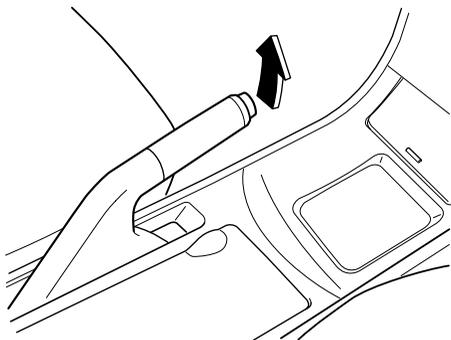
ブレーキ

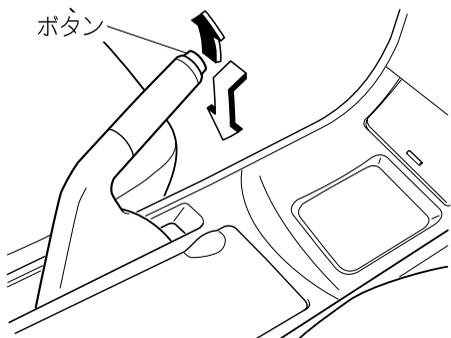
パーキングブレーキ

 警告

■ パーキングブレーキをかけたまま走行しないでください。

ブレーキ部品が早く摩耗したり、ブレーキが過熱するためブレーキの効きが悪くなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

かけるとき

解除するとき

レバーを少し引き上げ、先端のボタンを押してもどします。

ブレーキ警告灯

点灯するとき

- 電源ポジションをONにすると点灯し、しばらくすると消灯します。
- パーキングブレーキをかけているときは点灯します。パーキングブレーキを解除すると消灯します。
- 次のようなときは点灯し続けます。ただちに安全な場所に停車し、マツダ販売店に連絡してください。
  - ブレーキ液が不足しているとき。
  - ブレーキ装置 (電子制御制動力配分システム) に異常があるとき。
  - ブレーキスイッチに異常があるとき。 グレード/仕様別装備

 警告

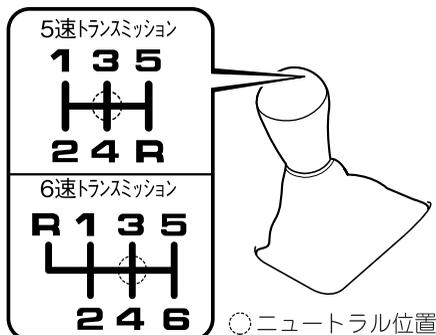
■ ブレーキ警告灯が点灯したまま走行しないでください。

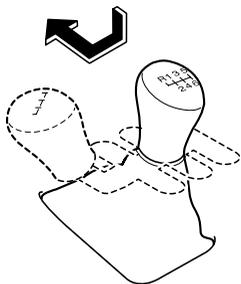
ブレーキが効かなくなり思わぬ事故につながるおそれがあります。また停車するときは、ブレーキの効きが悪くなっているおそれがあるため、ブレーキペダルを通常より強く踏んでください。

■ ブレーキ警告灯とABS警告灯が同時に点灯したときは、ただちに安全な場所に停車し、マツダ販売店に連絡してください。

急制動時に後輪が通常より早くロックしやすくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

マニュアルトランスミッション

チェンジレバーを操作するときは、クラッチペダルをいっぱいに踏み込んでください。

マニュアルトランスミッションは、シフトの誤操作を防ぐ装置が装備されています。

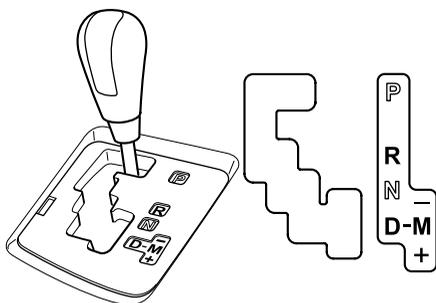
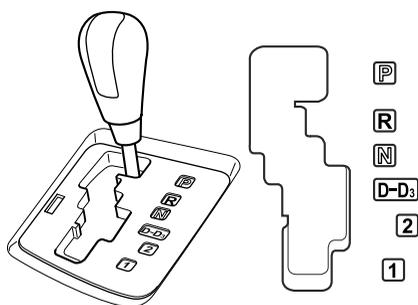
(5速トランスミッション車)
Rにいれるときは、チェンジレバーをニュートラル位置にして、R方向へ操作してください。
(6速トランスミッション車)
Rにいれるときは、チェンジレバーを下方向へ押しながらR方向へ操作してください。

注意

- **Rにいれるときは、車が完全に止まってから行なってください。トランスミッションの故障につながるおそれがあります。**
- **5速から4速に変速するときは、チェンジレバーを横方向に押し過ぎないでください。思いがけず2速に入りトランスミッションの故障につながるおそれがあります。**
- **(6速トランスミッション車)**
  Rにいれるとき以外は、誤操作を防ぐためにチェンジレバーを下方向へ押さないでください。

オートマチックトランスミッション

214ページの「オートマチック車を運転するとき」もあわせてお読みください。

各位置の働き

(2WD車)

(4WD車)

P (パーキング)

駐車およびエンジンを始動する位置。
Pでのみエンジンスイッチからキーまたは補助キーを抜くことができます。

R (リバース)

車を後退させる位置。
チャイムが鳴り、セレクトレバーがRにはいっていることを運転者に知らせます。

> **知識**
>
> バックモニター装備車は、バックモニターが作動します。バックモニターについては、別冊のナビゲーションシステム取扱書をご覧ください。

N (ニュートラル)

動力が伝わらない位置。
エンジンを始動することはできますが、安全のためPの位置で行なってください。

D (ドライブ)

通常走行する位置。
(ステアリングスイッチ装備車)
一時的にダイレクトモードにすることができます。
→208ページ「ダイレクトモード」
(5速オートマチック車)
車速に応じて1速から5速までを自動変速します。
(4速オートマチック車)
車速に応じて1速から4速までを自動変速します。

2WD車

M (マニュアル)

マニュアル走行する位置。
ギヤ位置を手動で切り替えることができます。
→204ページ「マニュアルモード」

4WD車

D3 (ドライブ)

下り坂などエンジンブレーキが必要なときや、カーブの多い上り坂を走行するときに使用する位置。
車速に応じて1速から3速までを自動変速します。

2 (セカンド)

下り坂などエンジンブレーキが必要なときに使用する位置。
2速に固定されます。

1 (ファースト)

急な下り坂など強力なエンジンブレーキが必要なときに使用する位置。
1速に固定されます。

シフトロック装置

シフトロック装置は、発進時の誤操作を防ぐためのものです。

セレクトレバーをPから動かすとき

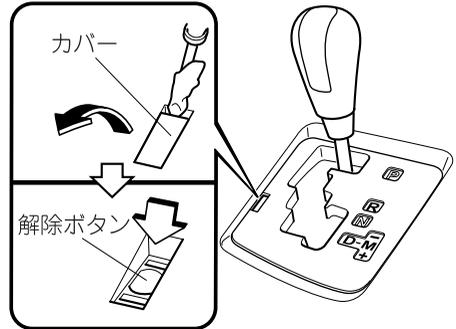
1. ブレーキペダルを踏み込んだままにします。
2. エンジンを始動させます。
3. セレクトレバーを動かします。

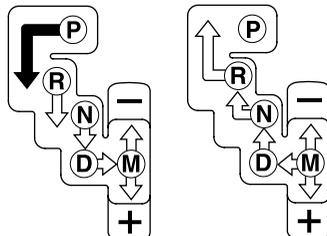
知識

- 電源ポジションがOFFのときは、セレクトレバーをPから動かすことはできません。
- セレクトレバーがP以外の位置ではキーを抜くことができません。

シフトロック装置の解除

万一、セレクトレバーをPから操作できないときは、カバーをはずし、ブレーキペダルを踏み、マイナスドライバーなどで解除ボタンを押したままセレクトレバーを操作します。

知識

マイナスドライバーなどを使用するときは、先端に布などを巻いてください。マイナスドライバーなどが直接カバーにあたると、傷がつくおそれがあります。

セレクトレバーの操作

(2WD車)

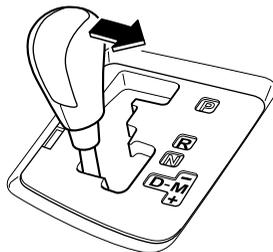
(4WD車)

レバー操作	
	ブレーキペダルを踏んだまま、セレクトレバーを操作します。
	ゲートにそって、そのままセレクトレバーを操作します。

知識

- ⇨ の操作は、誤作動防止のため、各ギヤ位置ごとに節度をつけ確実に行なってください。
- セレクトレバーをPから操作するとき、セレクトレバーを助手席側に動かしたままブレーキペダルを踏むと操作できないことがあります。先にブレーキペダルを踏んでから操作してください。

マニュアルモード (2WD車)

セレクトレバーをDからMにいれるとマニュアルモードになります。
マニュアルモードでは、ギヤ位置を手動で切り替えることができます。

セレクトレバーをMからDにいれるとマニュアルモードが解除されます。

知識

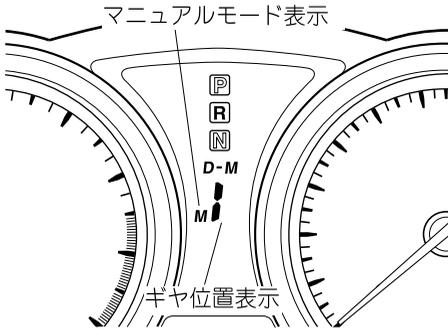
- **(i-stop装備車)**
  マニュアルモード中は、i-stopは作動しません。i-stopを作動させたい場合は、セレクトレバーをDの位置にいれてください。
  ダイレクトモード装備車はダイレクトモードを使用すると、Dの位置でも一時的に手動で変速できます。
  →192ページ「i-stopについて」
  →208ページ「ダイレクトモード」
- 停車時にマニュアルモードにした場合、ギヤは1速になります。
- **(5速オートマチック車)**
  Dレンジ5速走行時にアクセルペダルを踏み込まずにマニュアルモードにした場合、ギヤは4速になります。

表示灯

マニュアルモード表示

マニュアルモードにすると、メーター内にあるセレクトレバー位置表示灯のMが点灯します。

ギヤ位置表示

ギヤ位置が表示されます。

高速走行中、速度によりシフトダウンできないときは、ギヤ位置表示が2回点滅します。

知識

オートマチックトランスミッションフルード (ATF) の温度が高温になると、ギヤ位置表示が消灯しマニュアルモードが解除されるため自動変速になる場合があります。これはATを保護するための正常な機能です。しばらくしてATF温度が下がるとギヤ位置表示が再び点灯しマニュアルモードでの走行が可能になります。

シフトチェンジ (変速) のしかた

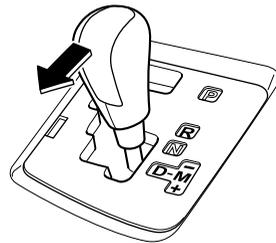
セレクトレバーまたはステアリングシフトスイッチによりシフトチェンジすることができます。

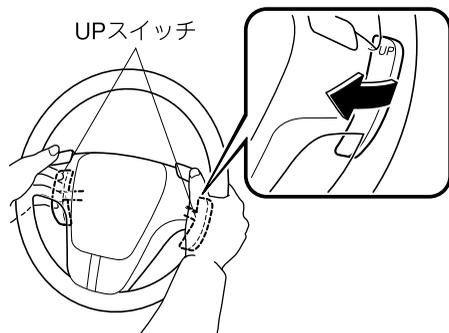
知識

- ステアリングシフトスイッチ装備車は、左右のステアリングシフトスイッチを同時に操作しても1段しか変速されません。
- ステアリングシフトスイッチ装備車は、ステアリングシフトスイッチのUPスイッチとDOWNスイッチを同時に操作しても変速されません。

シフトアップ (M1→M2→M3→M4→M5*)

* 5速オートマチック車

(セレクトレバーでの操作)
セレクトレバーを＋ 側に動かすとシフトアップ (高速ギヤに変速) します。

必読!
安全装備
取り扱い操作と
快適カーライフ
万一のとき
車との上手なつきあいかた
サービスデータ
さくいん

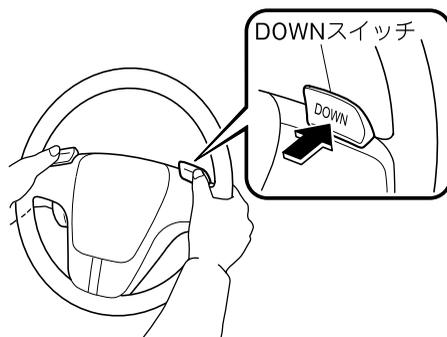
(ステアリングシフトスイッチでの操作)
ステアリング裏側のUPスイッチを手前に引くとシフトアップ (高速ギヤに変速) します。

知識

- 低速時はシフトアップできないことがあります。
- マニュアルモードでは自動でシフトアップしません。タコメーターの指針がレッドゾーンにはいらないように運転してください。あやまってレッドゾーンにはいった場合、エンジン保護のため燃料の供給が停止されます。このとき軽い衝撃を感じることがありますが異常ではありません。

シフトダウン (M5*→M4→M3→M2→M1)

* 5速オートマチック車

(セレクトレバーでの操作)
セレクトレバーを－ 側に動かすとシフトダウン (低速ギヤに変速) します。

(ステアリングシフトスイッチでの操作)
ステアリング表側のDOWNスイッチを押すとシフトダウン (低速ギヤに変速) します。

警告

■ **高速走行中、またはぬれた路面や積雪路、凍結路を走行しているときは、急激なエンジンブレーキの使用 (シフトダウン) は避けてください。**
タイヤがスリップし、思わぬ事故につながるおそれがあります。

知識

- 高速走行中は、速度によりシフトダウンできないことがあります。
- 減速中は、速度により自動的にシフトダウンします。
- マニュアルモードでは、アクセルペダルをいっぱいに踏み込んでもキックダウンしません。
→214ページ「オートマチック車の特性」

2速固定モード

停止または低速時*にセレクトレバーを+ 側に動かして2速にすると2速固定モードになり、ギヤ位置は2速に固定されます。雪道などすべりやすい路面での発進や走行がしやすくなります。2速固定モードのときに、セレクトレバーを+ 側または– 側に動かして2速以外にすると2速モードは解除されます。

* 10km/h以下

シフトチェンジ (変速) 制限速度

マニュアルモードでは、次の速度条件のときセレクトレバーを操作すると変速します。

シフトアップ

低速走行中にシフトアップする場合、各ギヤ位置での制限速度より低いときは変速しません。

ギヤ位置	速度	
	4速オートマチック車	5速オートマチック車
M1 → M2	0km/h以上	0km/h以上
M2 → M3	20km/h以上	20km/h以上
M3 → M4	35km/h以上	33km/h以上
M4 → M5	—	

シフトダウン

高速走行中にシフトダウンする場合、各ギヤ位置での制限速度を超えているときは変速しません。
このとき、ギヤ位置表示が2回点滅し、変速できないことを運転者に知らせます。

ギヤ位置	速度	
	4速オートマチック車	5速オートマチック車
M2 → M1	43km/h以下	35km/h以下
M3 → M2	100km/h以下	90km/h以下
M4 → M3	149km/h以下	137km/h以下
M5 → M4	—	—

減速時、次の速度条件のときは自動的にシフトダウンします。

ギヤ位置	速度	
	4速オートマチック車	5速オートマチック車
M2 → M1	10km/h以下	10km/h以下
M3 → M2		
M4 → M3	31km/h以下	30km/h以下
M5 → M4	—	

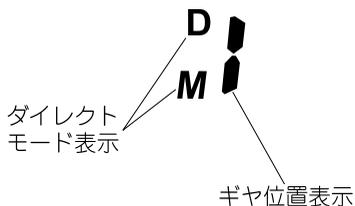
知識

2速固定モード時は、自動的に1速にシフトダウンしません。

ダイレクトモード (2WD車)

グレード/仕様別装備

セレクトレバーをDの位置で走行中、ステアリングシフトスイッチを操作すると一時的にギヤ位置を切り替えることができます。
ダイレクトモードのときは、表示灯にDとMが点灯し、使用しているギヤ位置が表示されます。
ダイレクトモードは、次の状態になると解除されます。

- 定速走行になったとき
- タコメーターの指針がレッドゾーンに近づいたとき
- アクセルペダルを大きく踏み込んだとき
- 停車したとき、または、低速走行になったとき

知識

ダイレクトモードは、速度によりシフトアップ、シフトダウンできないことがあります。また、アクセルペダルの踏み込み量や加速度によってダイレクトモードが解除されますので、長時間任意のギヤで走行したい場合は、マニュアルモードをご使用ください。

各セレクトレバー位置での限界速度 (4WD車)

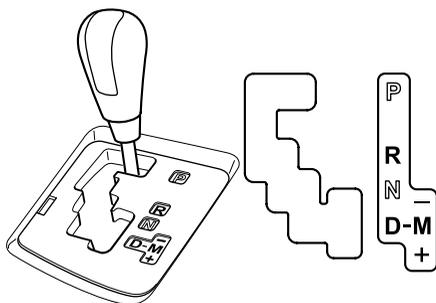
エンジンの過回転を防ぐために、次の速度をこえないように運転してください。

セレクトレバーの位置	速度
2	100km/h
1	46km/h

知識

車速が各セレクトレバー位置での限界速度より高いときは、セレクトレバーを2または1に動かしてもシフトダウンしないことがあります。

CVT (コンティニュアスリ·バリアブル·トランスミッション)

214ページの「オートマチック車を運転するとき」もあわせてお読みください。

各位置の働き

P (パーキング)

駐車およびエンジンを始動する位置。
Pでのみエンジンスイッチからキーまたは補助キーを抜くことができます。

R (リバース)

車を後退させる位置。
チャイムが鳴り、セレクトレバーがRにはいっていることを運転者に知らせます。

N (ニュートラル)

動力が伝わらない位置。
エンジンを始動することはできますが、安全のためPの位置で行なってください。

D (ドライブ)

通常走行する位置。
車速とアクセルペダルの踏み加減に応じて自動変速します。

M (マニュアル)

マニュアル走行する位置。
ギヤ位置を手動で切り替えることができます。
→211ページ「マニュアルモード」

シフトロック装置

シフトロック装置は、発進時の誤操作を防ぐためのものです。

セレクトレバーをPから動かすとき

1 ブレーキペダルを踏み込んだままにします。

2 エンジンを始動させます。

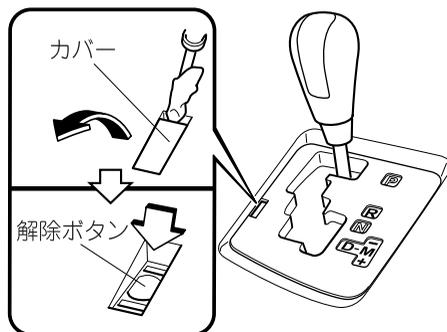
3 セレクトレバーを動かします。

知識

- 電源ポジションがOFFのときは、セレクトレバーをPから動かすことはできません。
- セレクトレバーがP以外の位置ではキーを抜くことができません。

シフトロック装置の解除

万一、セレクトレバーをPから操作できないときは、カバーをはずし、ブレーキペダルを踏み、マイナスドライバーなどで解除ボタンを押したままセレクトレバーを操作します。

知識

マイナスドライバーなどを使用するときは、先端に布などを巻いてください。マイナスドライバーなどが直接カバーにあたると、傷がつくおそれがあります。

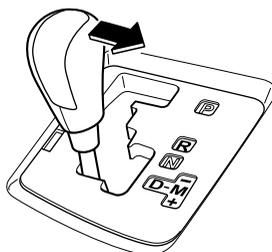
セレクトレバーの操作

レバー操作	
	ブレーキペダルを踏んだまま、セレクトレバーを操作します。
	ゲートにそって、そのままセレクトレバーを操作します。

知識

- の操作は、誤作動防止のため、各ギヤ位置ごとに節度をつけ確実に行なってください。
- セレクトレバーをPから操作するとき、セレクトレバーを助手席側に動かしたままブレーキペダルを踏むと操作できないことがあります。先にブレーキペダルを踏んでから操作してください。

マニュアルモード

セレクトレバーをDからMにいれるとマニュアルモードになります。
マニュアルモードでは、ギヤ比がM1からM7の7段階に設定され、ギヤ位置を手動で切り替えることができます。

セレクトレバーをMからDにいれるとマニュアルモードが解除されます。

知識

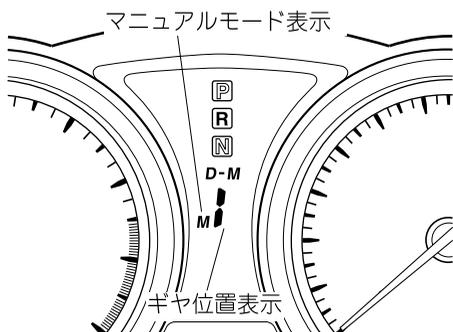
停車時にマニュアルモードにした場合、ギヤは1速になります。また、マニュアルモードで走行して停車すると、自動的に1速になります。
停車時は、1速に固定されます。

表示灯

マニュアルモード表示

マニュアルモードにすると、メーター内にあるセレクトレバー位置表示灯のMが点灯します。

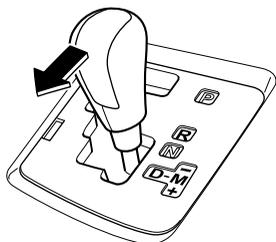
ギヤ位置表示

ギヤ位置が表示されます。

高速走行中、速度によりシフトダウンできないときは、ギヤ位置表示が2回点滅します。

シフトチェンジ (変速) のしかた

セレクトレバーによりシフトチェンジすることができます。

シフトアップ (M1→M2→M3→M4→M5→M6→M7)

セレクトレバーを＋ 側に動かすとシフトアップ (高速ギヤに変速) します。

知識

低速時は速度によりシフトアップできないことがあります。
タコメーターの指針がレッドゾーンに近づくと、トランスミッション保護のため自動的にシフトアップします。

シフトダウン (M7→M6→M5→M4→M3→M2→M1)

セレクトレバーを－ 側に動かすとシフトダウン (低速ギヤに変速) します。

警告

■高速走行中、またはぬれた路面や積雪路、凍結路を走行しているときは、急激なエンジンブレーキの使用 (シフトダウン) は避けてください。

タイヤがスリップし、思わぬ事故につながるおそれがあります。

知識

- 高速走行中は、速度によりシフトダウンできないことがあります。
- 減速中は、速度により自動的にシフトダウンします。
- マニュアルモードでは、アクセルペダルをいっぱいに踏み込んでもキックダウンしません。
  →214ページ「オートマチック車の特性」

シフトチェンジ(変速)制限速度

シフトアップ

マニュアルモードでは、次の速度条件のときセレクトレバーを操作することによりシフトアップすることができます。低速走行中にシフトアップする場合、各ギヤ位置での制限速度より低いときは変速しません。

ギヤ位置	速度
M1 → M2	13km/h以上
M2 → M3	21km/h以上
M3 → M4	27km/h以上
M4 → M5	34km/h以上
M5 → M6	42km/h以上
M6 → M7	51km/h以上

シフトダウン

マニュアルモードでは、次の速度条件のときセレクトレバーを操作することによりシフトダウンすることができます。高速走行中にシフトダウンする場合、各ギヤ位置での制限速度を超えているときは変速しません。このとき、ギヤ位置表示が2回点滅し、変速できないことを運転者に知らせます。

ギヤ位置	速度
M2 → M1	56km/h以下
M3 → M2	73km/h以下
M4 → M3	97km/h以下
M5 → M4	122km/h以下
M6 → M5	150km/h以下
M7 → M6	183km/h以下

減速時は速度によりM1まで自動的にシフトダウンします。

オートマチック車を運転するとき

オートマチック車の特性

クリープ現象

エンジンがかかっているとき、セレクトレバーがP、N以外にはいっていると、アクセルペダルを踏まなくても車が動き出します。
この現象をクリープ現象といいます。

- 停車中は車が動かないようにブレーキペダルをしっかり踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- エンジン始動直後やエアコン作動時は、エンジンの回転数が高くなりクリープ現象が強くなります。ブレーキペダルをしっかり踏んでおいてください。
- 渋滞や狭い場所での移動は、クリープ現象を利用すると、アクセルペダルを踏まずにブレーキ操作のみで速度を調節できます。

キックダウン

走行中、セレクトレバーがDのときアクセルペダルをいっぱいに踏み込むと、自動的に低速ギヤに切り替わり、急加速させることができます。
この操作をキックダウンといいます。

- 追い越しや高速道路での合流など、加速が必要なときに行ないます。
- すべりやすい路面やカーブを走行するときは、急激なアクセル操作はしないでください。

発進するとき

⚠ 警告

■アクセルペダルを踏んだままセレクトレバーを操作しないでください。

車が急発進し思わぬ事故につながるおそれがあります。

知識

エンジン始動直後やエアコン作動時は、エンジンの回転数が高くなり、クリープ現象が強くなります。

1. ブレーキペダルを踏んだまま、セレクトレバーを操作します。
   前進 …D、D3、2、1、M
   後退 …R
2. セレクトレバーの位置を確認します。
3. パーキングブレーキを解除します。
4. ブレーキペダルを徐々にゆるめ、アクセルペダルをゆっくり踏み発進します。

知識

- セレクトレバーをRにいれるとチャイムが鳴り、セレクトレバーがRにはいっていることを運転者に知らせます。
- 後退時は身体を後ろにひねった姿勢になります。ブレーキペダルを確実に踏めるよう注意してください。
- 少し後退したときなどはセレクトレバーをRにいれたことを忘れてしまうことがあります。後退したあとは、すぐにセレクトレバーをNにもどし、発進時にはセレクトレバーの位置を確認してください。

急な坂道での発進

パーキングブレーキをかけたまま、アクセルペダルをゆっくり踏み、車が動く感触を確認しながらパーキングブレーキをもどします。

走行するとき(オートマチックトランスミッション車)

警告

■走行中はセレクトレバーをNにいれないでください。

トランスミッションの故障につながります。また、エンジンブレーキが全く効かないため思わぬ事故につながるおそれがあります。

■高速走行中、またはぬれた路面や積雪路、凍結路を走行しているときは、急激なエンジンブレーキの使用(シフトダウン)は避けてください。

タイヤがスリップし、思わぬ事故につながるおそれがあります。

通常走行

セレクトレバーをDにいれて走行します。アクセルとブレーキの操作で加速/減速します。

(4速オートマチック車)

ギヤは1速から4速の間で、自動的に変速されます。

(5速オートマチック車)

ギヤは1速から5速の間で、自動的に変速されます。

マニュアルモード走行 グレード/仕様別装備

停車中または走行中にセレクトレバーをDからMにいれると、マニュアルモードにセットされ、マニュアルトランスミッションのような操作ができます。

→204ページ「マニュアルモード」

急加速

セレクトレバーがDのとき、アクセルペダルをいっぱいに踏み込むと、キックダウンして急加速できます。

急な上り坂での走行

(2WD車)

坂の勾配に応じ、マニュアルモードで変速してください。エンジン回転の変化が少ないなめらかな走行ができます。

(4WD車)

坂の勾配に応じ、セレクトレバーを2または1にいれてください。エンジン回転の変化が少ないなめらかな走行ができます。

下り坂での走行

警告

■下り坂ではフットブレーキとエンジンブレーキを併用してください。

フットブレーキを使いすぎると、ブレーキが加熱して効きが悪くなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

(2WD車)

エンジンブレーキが必要なときは、マニュアルモードにして、低速ギヤにシフトダウンしてください。

マニュアルモードのときは、走行速度にあわせて1段ずつシフトダウンし、エンジンブレーキを併用してください。

運転装置の使いかた

(4WD車)
エンジンブレーキが必要なときは、セレクトレバーをD3にいれてください。さらに強力なエンジンブレーキが必要なときは、セレクトレバーを2または1にいれてください。

走行するとき (CVT車)

 警告

■走行中はセレクトレバーをNにいれないでください。
トランスミッションの故障につながります。また、エンジンブレーキが全く効かないため思わぬ事故につながるおそれがあります。

■高速走行中、またはぬれた路面や積雪路、凍結路を走行しているときは、急激なエンジンブレーキの使用 (シフトダウン) は避けてください。
タイヤがスリップし、思わぬ事故につながるおそれがあります。

通常走行

セレクトレバーをDにいれて走行します。アクセルとブレーキの操作で加速/減速します。
ギヤは車速とアクセルペダルの踏み加減に応じて、自動的に変速されます。

マニュアルモード走行

停車中または走行中にセレクトレバーをDからMにいれると、マニュアルモードにセットされ、マニュアルトランスミッションのような操作ができます。
→211ページ「マニュアルモード」

急加速

アクセルペダルをいっぱいに踏み込みます。
キックダウンし、急加速できます。

急な上り坂での走行

坂の勾配に応じて、マニュアルモードで変速してください。エンジン回転の変化が少ないなめらかな走行ができます。

下り坂での走行

 警告

■下り坂ではフットブレーキとエンジンブレーキを併用してください。
フットブレーキを使いすぎると、ブレーキが加熱して効きが悪くなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

エンジンブレーキが必要なときは、マニュアルモードにして、低速ギヤにシフトダウンしてください。
マニュアルモードのときは、走行速度にあわせて1段ずつシフトダウンし、エンジンブレーキを併用してください。

停車するとき

1. ブレーキペダルをしっかりと踏んでおきます。
2. 必要に応じてパーキングブレーキをかけます。
3. 停車時間が長くなりそうなときは、セレクトレバーをNまたはPにいれます。

警告

■停車中、むやみにアクセルペダルを踏まないでください。

セレクトレバーがP、N以外にはいっているとき、誤ってアクセルペダルを踏むと急発進するため思わぬ事故につながるおそれがあります。

■停車後、再発進するときはセレクトレバーの位置に思い違いがないよう確認してください。

意に反して車が動き出すと、思わぬ事故につながるおそれがあります。

注意

アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだり、上り坂でセレクトレバーを前進位置にいれ、アクセルをふかしながら停車しないでください。トランスミッションが過熱し、故障につながるおそれがあります。

駐車するとき

1 車を完全に止めます。

2 セレクトレバーをPにいれます。

3 ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキをかけます。

4 エンジンを止めます。

警告

■駐車するときは、セレクトレバーをPにいれ、パーキングブレーキをかけてください。

パーキングブレーキをかけただけや、セレクトレバーをPにいれただけで駐車していると、車が勝手に動き出し思わぬ事故につながるおそれがあります。

■エンジンをかけたまま駐車しないでください。

万一セレクトレバーがP以外にはいっていた場合、クリープ現象で車が勝手に動き出したり、乗り込むときに誤ってアクセルペダルを踏み、急発進するなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。

 注意

セレクトレバーをPにいれるときは、車を完全に止めてから行なってください。車が完全に止まる前にセレクトレバーをPにいれると、トランスミッションに無理な力がかかり故障につながるおそれがあります。

そのほかに気をつけること

 警告

■坂道などで、セレクトレバーを前進位置に入れたまま後退したり、後退位置に入れたまま前進することは行わないで下さい。

エンジンが停止してブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりして思わぬ事故につながるおそれがあります。

4WD

4WDは、積雪路、砂地、ぬかるみ、急な坂などすべりやすい路面ですぐれた走行性を発揮します。

走行するときは

オフロード走行やラリー走行を目的に作られた万能車ではありません。凸凹や岩を乗り越えたり、川を渡ったりしないでください。
4WD車であっても、アクセル、ハンドル、ブレーキの操作は一般の車と同じく慎重に行ない、常に安全運転を心がけてください。

4WD警告灯

電源ポジションをONにすると点灯し、しばらくすると消灯します。
その後、つぎのようなとき点灯/点滅します。

- 4WDシステムに異常があるときは点灯します。
- ディファレンシャルオイルの温度が異常に高いときは点滅します。
- スタックからの脱出時など、前後輪の回転差が異常に大きい状態が続いたときは点滅します。

処置方法

警告灯が点灯したとき
マツダ販売店に連絡してください。

警告灯が点滅したとき
警告灯が消灯するまでエンジンをかけたまま安全な場所に停車してください。しばらくして警告灯が消灯すれば走行することができます。
警告灯が消灯しないときは、マツダ販売店に連絡してください。

⚠ 警告

■脱輪やスタックなどにより、車輪が宙に浮いたときは、むやみに空転させないでください。

駆動系部品に悪影響をあたえ、駆動系のオイル漏れや焼きつきなどにより、思わぬ事故につながるおそれがあります。

タイヤについて

タイヤの状態が車の性能に大きく影響します。また、駆動系部品に悪影響をあたえないために、次の点を守ってください。

- タイヤを交換するときは前後輪を同時に交換してください。
- 前後輪とも指定された同一サイズ、同一種類のものを使用してください。特にスノータイヤなどの冬用タイヤを装着するときは注意してください。
- 摩耗差の著しいタイヤを混ぜて使用しないでください。
- タイヤの空気圧は定期的に点検し、タイヤ間で空気圧の差が著しくならないように規定値に調節してください。

知識

適正空気圧は運転席ドアを開けたボディー側に貼付されているラベルで確認してください。

- 前後輪とも必ず指定されたサイズの純正ホイールを装着してください。
- タイヤチェーンは前輪に取り付けてください。
- タイヤチェーンを装着したときは、30 km/h以上で走行しないでください。
- 積雪路、凍結路以外では、タイヤチェーンを装着して走行しないでください。

けん引してもらうときは

4WD車のけん引は、前後輪すべてを持ち上げるか、前後輪接地の状態で搬送してください。駆動装置の故障時はトレーラーなどに搭載して搬送してください。
前輪または後輪だけを持ち上げた状態でけん引すると、駆動装置が破損したり、車輪が台車から飛び出すなど思わぬ事故につながるおそれがあります。
→342ページ「けん引してもらうとき」

4 快適カーライフのために

空調 222

オーディオ 235

室内装備 259

エアコンを上手に使用していただくために

使用するときは

エアコンはエンジンをかけた状態で使用してください。

知識

i-stop装備車

- エアコンの操作により、アイドリングストップしないことや、アイドリングストップ中にブレーキペダルから足を離さなくてもエンジンが再始動することがあります。→192ページ「i-stopについて」
- アイドリングストップ中は、快適な温度を保持するため、インストルメントパネル中央付近からエアコン装置(モーター等)の作動音が聞こえることがあります。

ガラスが曇るときは

湿度の高い日はガラスが曇りやすくなります。このようなとき、エアコンを使用して曇りを取ることができます。エアコンを作動させると吹き出し風が除湿されるため、効果的に曇りを取ることができます。

炎天下に駐車したあとは

炎天下に駐車したあとは室内の温度が大変高くなります。このようなときは、窓ガラスを開けて、室内の熱気を逃がしてからエアコンを作動させてください。

長期間エアコンを使用しないときは

長期間エアコンを使用しないときにも、内部のオイル循環のため、1か月に1回程度エアコンを作動させてください。

暑くなる前のチェック

エアコンの冷媒 (エアコンガス) が不足していると冷房性能が低下します。夏になる前に冷媒量の点検を受けておきましょう。

知識

エアコンガスはHFC134a (R134a) を使用しています。補充、交換の際には必ずHFC134aを入れてください。エアコンガスは地球温暖化に悪影響をおよぼすため大気放出はしないでください。点検、補充、交換、廃棄についてはマツダ販売店にご相談ください。

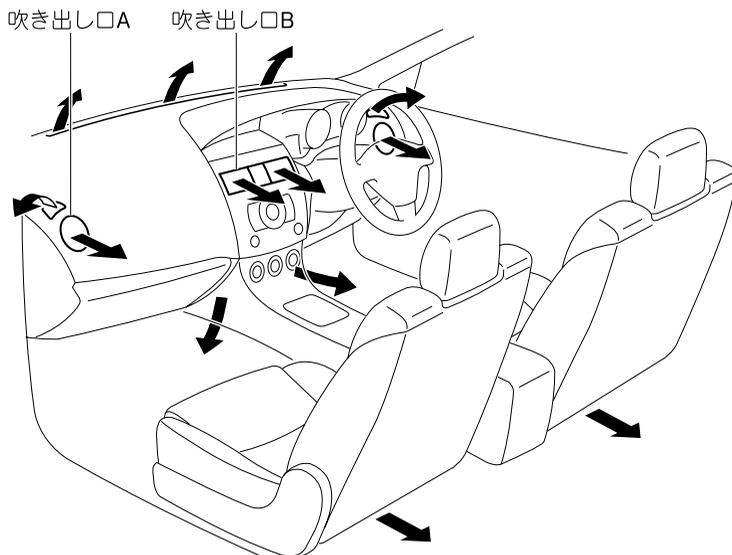
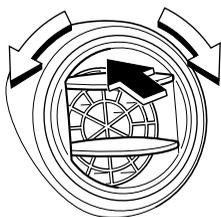
エアフィルターについて

知識

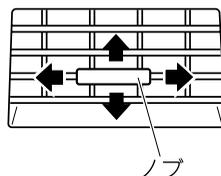
- エアコンの風量が著しく減少したときはエアフィルターの目詰まりが考えられます。エアフィルターを交換してください。
- 大都市・寒冷地など、交通量や粉じんの多い地区の場合は、エアフィルターの寿命が短くなり、早めの交換が必要になることがあります。

花粉やほこりなどの集じん機能を持ったエアフィルターを装備しています。快適にお使いいただくために定期的に交換してください。

詳しくはマツダ販売店にご相談ください。

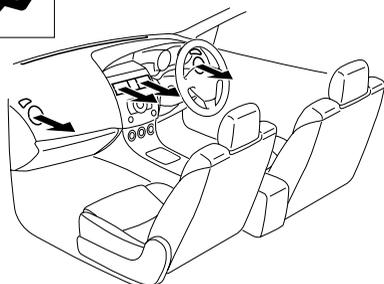
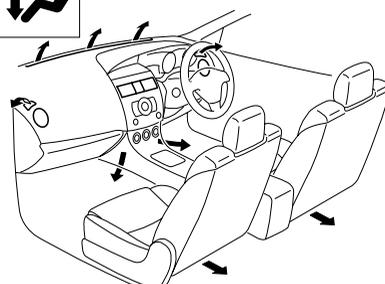
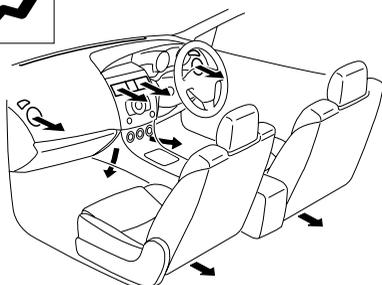
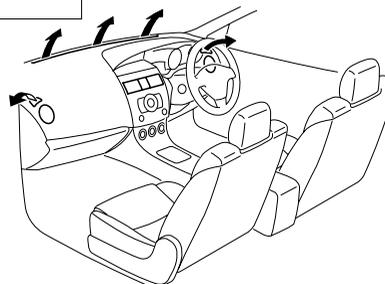
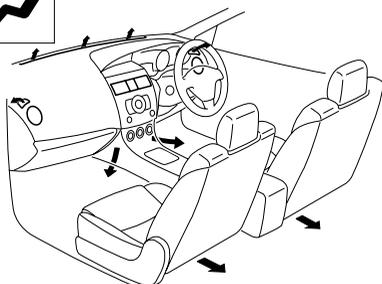
交換の目安…20,000km走行ごとまたは1年ごとどちらか早い方。

吹き出し口

吹き出し口の調節

吹き出し口A

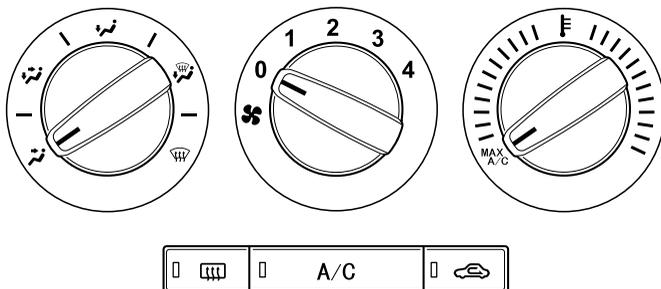
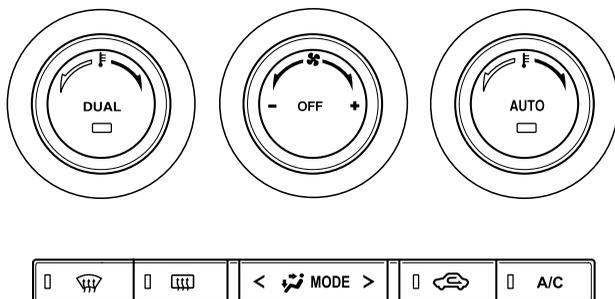
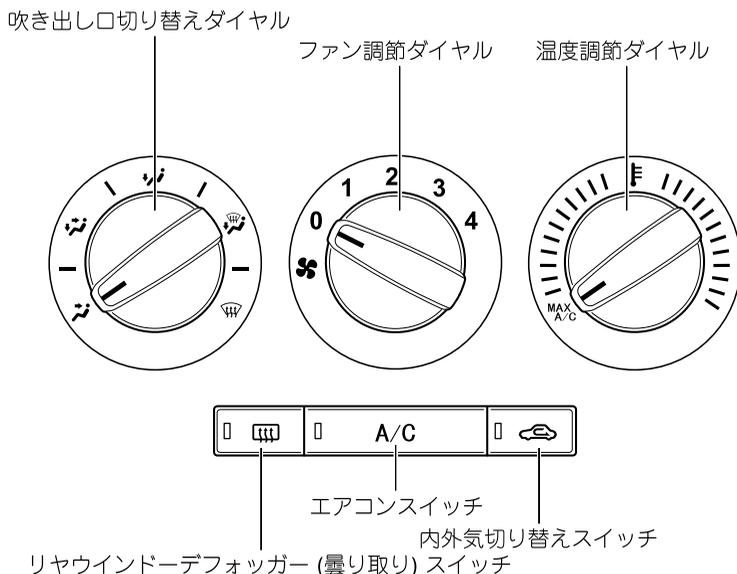
吹き出し口B

知識

冷房中に吹き出し口から白煙が出ているように見えることがあります。これは湿度の高い空気が急激に冷やされて起こる現象で、異常ではありません。

吹き出し口の選択

使用目的にあわせて吹き出し口を選択することができます。

必読!
安全装備
操作と取り扱い
快適カーライフ
万一のとき
車との上手なつきあいかた
サービスデータ
さくいん

エアコンの種類

マニュアルエアコン 228ページ

A/C

フルオートエアコン 230ページ

マニュアルエアコン

各スイッチの使いかた

温度調節ダイヤル

ダイヤルをまわして吹き出し風の温度を調節します。

ファン調節ダイヤル

風量を4段階に調節できます。

吹き出し口切り替えダイヤル

使用目的にあわせて吹き出し口を選択することができます。
→225ページ「吹き出し口の選択」

知識

- 吹き出し口切り替えダイヤルを の位置にし、温度調節ダイヤルを中間温度付近で使用すると暖められた風が足元から吹き出し、比較的温度の低い風が中央および左右から吹き出します。
- 各モードの中間位置 (I) でも固定することができます。風量を少し変えたいときに使用します。

エアコンスイッチ

ファン調節ダイヤルが1～4のとき、スイッチを押すごとにエアコン (冷房·除湿機能) の作動と停止が切り替わります。
　エアコンが作動しているときは、表示灯が点灯します。

知識

- 外気温が0°C近くまで下がると、システム保護のためエアコンは作動しません。
- 吹き出し口切り替えダイヤルが またはの位置にあり、ファン調節ダイヤルが0以外で温度調節ダイヤルをMAX A/Cの位置にすると、自動的に内気循環に切り替わり、エアコンが作動します。
  エアコンの作動を停止させたいときは、エアコンスイッチを押してください。

内外気切り替えスイッチ

内気循環 (外気を遮断する) と外気導入 (外気を室内に入れる) の切り替えができます。
スイッチを押すごとに内気循環と外気導入が切り替わります。

- 内気循環 (表示灯点灯)
  トンネル内や渋滞など外気が汚れているときや、急速に冷房したいときなど外気を遮断したいときに一時的に使用します。
- 外気導入 (表示灯消灯)
  外気を取り入れて換気したいときや、ガラスの曇りを取るときに使用します。

知識

長時間、内気循環にするとガラスが曇りやすくなります。通常は外気導入で使用してください。

ガラスの曇りを取るとき

1. 吹き出し口切り替えダイヤルを にします。
2. 内外気切り替えスイッチを外気導入 (表示灯消灯) にします。
   温度、風量はお好みにあわせて調節してください。

警告

■ **ガラスの曇りを取るときは、吹き出し風の温度を低くしないでください。**

ガラスの外側が曇り、視界不良などで思わぬ事故につながるおそれがあります。

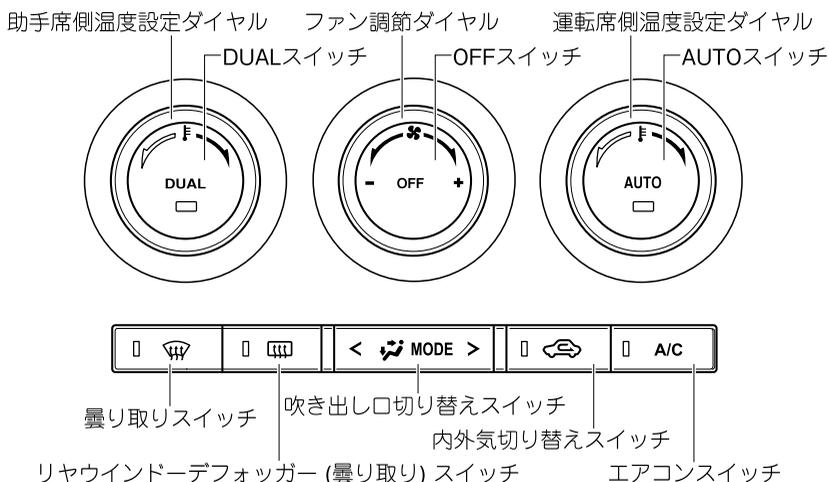
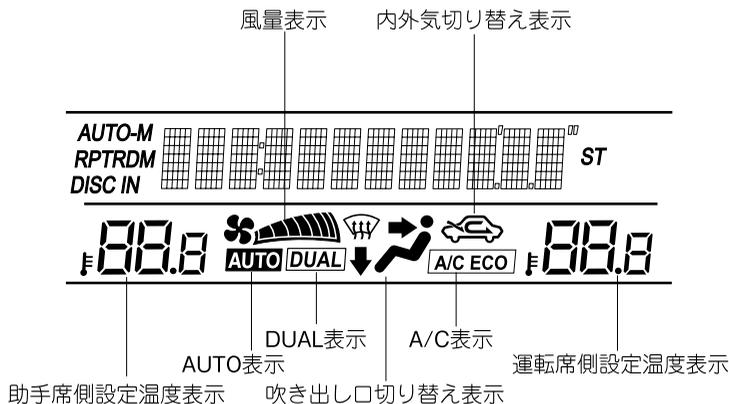
知識

次の操作をすると、より早くガラスの曇りが取れます。

- エアコンスイッチを押して、エアコンを作動させる。
- ファン調節ダイヤルを操作して、風量を増す。
- 温度調節ダイヤルを操作して、吹き出し風の温度を上げる。
- 吹き出し口を に設定すると自動的に外気導入に切り替わります。

フルオートエアコン

エアコンの表示はインフォメーションセンターディスプレイの表示部に表示されます。
→262ページ「インフォメーションセンターディスプレイ」

インフォメーションセンターディスプレイ

各スイッチの使いかた

AUTOスイッチ

スイッチを押すと設定温度にあわせて、以下の機能が自動制御されます。

- 吹き出し風の温度調節
- 吹き出し風量調節
- 吹き出し口の切り替え
- 内気循環/外気導入の切り替え
- エアコン (冷房·除湿機能) の作動/停止
- A/CとA/C ECOの切り替え

知識

表示灯について

- 点灯―オート作動時。
- 消灯―オート作動中に吹き出し口切り替えスイッチ、ファン調節ダイヤル、曇り取りスイッチのいずれかのスイッチを操作したとき。
  操作した箇所以外は自動で作動しています。

OFFスイッチ

スイッチを押すとファンの作動を停止します。

温度設定ダイヤル

ダイヤルをまわして設定温度を調節します。18.0から32.0の間で0.5ずつ変化します。

知識

18.0に設定すると最大冷房、32.0に設定すると最大暖房に固定されます。

- DUALスイッチがOFFのとき
  運転席側温度設定ダイヤルをまわして調節します。
- DUALスイッチがONのとき
  運転席側温度設定ダイヤルまたは助手席側温度設定ダイヤルをまわして調節します。

知識

- DUALスイッチをONにすると独立モードになり、運転席側と助手席側の設定温度を独立して調節することができます。
- 独立モードのとき、インフォメーションセンターディスプレイに DUAL が表示されます。
- DUALスイッチがOFFのときでも、助手席側温度設定ダイヤルをまわすと独立モードになり (DUALスイッチ表示灯点灯)、運転席側と助手席側の設定温度を独立して調節することができます。

ファン調節ダイヤル

風量を7段階に調節できます。

吹き出し口切り替えスイッチ

使用目的にあわせて吹き出し口を選択することができます。
→225ページ「吹き出し口の選択」

知識

吹き出し口を に設定するには、曇り取りスイッチを押してください。

エアコンスイッチ

AUTOスイッチがONのときまたはファンが作動しているとき、スイッチを押すごとにエアコン (冷房·除湿機能) の作動と停止が切り替わります。
エアコン作動中は表示灯が点灯します。

知識

- ファンが作動していない状態でも、エアコンスイッチを押すとエアコンが作動します。
- A/CとA/C ECOが自動制御によって切り替わります。
  A/C ECOはA/Cよりもエアコンの作動頻度は少なくなりますが、経済的な運転になります。
- 外気温が0°C近くまで下がると、システム保護のためエアコンは作動しません。

内外気切り替えスイッチ

内気循環 (外気を遮断する) と外気導入 (外気を室内に入れる) の切り替えができます。
スイッチを押すごとに内気循環と外気導入が切り替わります。

- 内気循環 (表示灯点灯)
  トンネル内や渋滞など外気が汚れているときや、急速に冷房したいときなど外気を遮断したいときに一時的に使用します。
- 外気導入 (表示灯消灯)
  外気を取り入れて換気したいときや、ガラスの曇りを取るときに使用します。

知識

長時間、内気循環にするとガラスが曇りやすくなります。通常は外気導入で使用してください。

DUALスイッチ

独立モードと連動モードの切り替えができます。

- 独立モード (表示灯点灯)
  運転席側と助手席側の設定温度を独立して調節することができます。
- 連動モード (表示灯消灯)
  運転席側と助手席側の設定温度が連動した設定になります。

知識

- 連動モードのとき助手席側の設定温度は運転席側の設定温度に切り替わります。
- 独立モードのとき、インフォメーションセンターディスプレイに DUAL が表示されます。

曇り取りスイッチ

フロントガラス、フロントドアガラスの曇りを取りたいときに使用します。
→233ページ「ガラスの曇りを取るとき」

通常の使いかた

1 AUTOスイッチを押します。吹き出し口、内外気切り替え、吹き出し風量が自動的に調整されます。

2 温度設定ダイヤルを操作して希望温度にあわせます。
運転席と助手席の設定温度を独立して調節するときは、DUALスイッチを押すか、または助手席側温度設定ダイヤルをまわして独立モードにします。

知識

- 最初は温度設定ダイヤルを25.0前後にあわせて使用し、その後お好みで調節してください。
- 設定温度を極端に低く (高く) しても、希望の温度になるまでの時間はほとんど変わりません。
- エンジンが冷えているときの暖房開始直後は、冷風の吹き出しを防止するため、風量が少なくなります。

3 作動を停止したいときは、OFFスイッチを押します。

ガラスの曇りを取るとき

曇り取りスイッチを押します。
自動的に外気導入に切り替わります。また、エアコンが自動的に作動し、除湿された吹き出し風がフロントガラス、フロントドアガラスに送風されます。吹き出し風量も多くなります。

警告

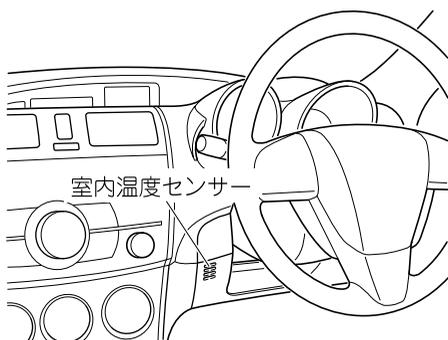
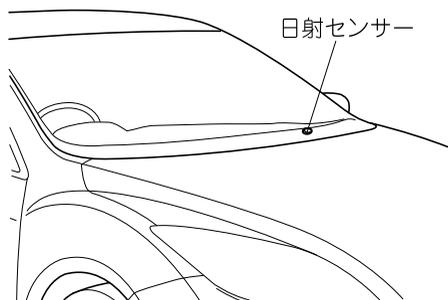
■ガラスの曇りを取るときは、吹き出し風の温度を低くしないでください。
ガラスの外側が曇り、視界不良などで思わぬ事故につながるおそれがあります。

知識

次の操作をすると、より早くガラスの曇りを取ることができます。

- ファン調節ダイヤルを操作して、風量を増す。
- 温度設定ダイヤルを操作して、吹き出し風の温度を上げる。

センサーについて

フルオートエアコンには日射センサーと室内温度センサーが取り付けられています。
日射センサーの上に物を置いたり、室内温度センサーをふさいだりしないでください。
室内温度が正しく調節されないことがあります。

アンテナ

プリント式

グレード/仕様別装備

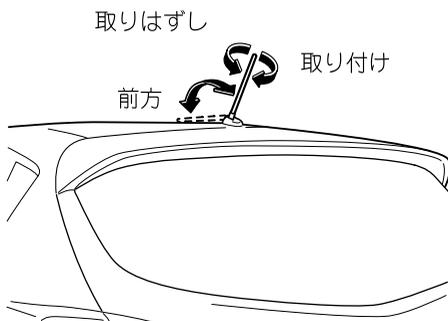
ガラスにプリントされています。

 注意

アンテナがプリントされているガラスの内側をふくときは、水やぬるま湯でぬらしたやわらかい布で、アンテナ線にそって軽くふいてください。ガラスクリーナーなどを使用すると、アンテナをいためるおそれがあります。
→364ページ「ガラス、ミラーの手入れ」

可倒・脱着式

グレード/仕様別装備

ラジオを使用するときは、アンテナを図の位置まで起こします。

取りはずすときは、左にまわします。取り付けるときは右にまわし、しっかりと締めます。

注意

天井の低い車庫に入れるときなど、アンテナが当たる場所では、アンテナを倒してください。起こしているとアンテナが損傷するおそれがあります。
また、自動洗車機を使用するときには、アンテナが損傷するおそれがありますので、アンテナを取りはずしてください。

 知識

ラジオを聞くときは、放送を良好な状態で受信できるよう、アンテナを図の位置まで起こしてください。

オーディオを上手に使用していただくために

警告

■オーディオの操作は、車が止まっているときに行なってください。

走行中は、運転操作がさまたげられ思わぬ事故につながるおそれがあります。

注意

安全運転をさまたげないように、運転中は車外の音が聞こえる程度の音量で使用してください。

知識

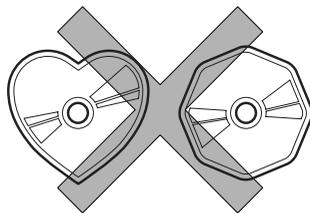
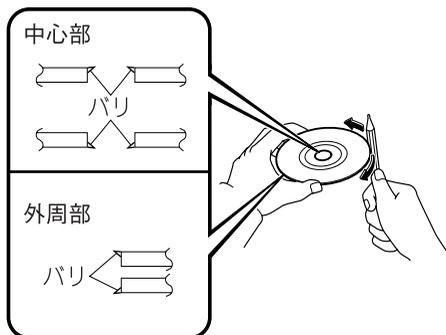
- エンジンを止めたままで、オーディオを長時間使用しないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。
- 車内または車の近くで携帯電話や無線機を使用すると、ノイズ (雑音) が発生することがありますが故障ではありません。

ラジオについて

ラジオの受信は、車両の移動に伴いアンテナの位置が刻々と変わるため電波の強さが変わったり、障害物や電車、信号機などの影響により、最良な受信状態を維持することが困難な場合があります。

CDについて

- 下記のマークのついているCD以外は使用できません。

- コピーコントロールCD (著作権保護を目的とした技術が搭載された音楽CD) の中で、CDの規格に準拠していないものは、再生できない場合があります。
- ハート型や八角形など特殊形状のCDは使用しないでください。機械の故障の原因となることがあります。

- 新しいCDは、外周部や中心の穴のまわりがあらくなっている場合があります。そのような場合は、ボールペンや鉛筆などであらい部分 (バリ) を取り除いてから使用してください。そのまま使用すると音飛びを起こしたり、CDを挿入できなくなったりすることがあります。

- 悪路走行などで激しく振動した場合、音飛びを起こすことがあります。
- 寒いときや雨降りのときは、プレーヤー内部に露 (水滴) が生じ、正しく作動しなくなることがあります。このようなときは、CDを取り出して室内を換気または除湿してから使用してください。
- CD信号面に直接手で触れると、CDの信号面が汚れ、音飛びなどを起こすことがあります。CDの端と中心の穴をはさんで持ってください。
- CDはケースに入れ、直射日光を避けて保管してください。直射日光や高温など、車内での保管状況により、再生できなくなる場合があります。
- CDの汚れを取るときは、やわらかい布でCDの中央から外側へ向けて汚れをふき取ってください。ベンジン、シンナー、帯電防止剤などを使用すると、CDの表面を傷める原因になりますので使用しないでください。
- CDに文字を書き込んだり、ラベルやシールを貼り付けたりしないでください。
- 変形したり、ひびがはいったりしたCDは使用しないでください。
- CD差し込み口に指や異物を入れないでください。故障の原因になることがあります。
- CD-R/CD-RWは、録音に使用したレコーダーやディスクの状態によっては再生できない場合があります。
- ファイナライズ処理 (通常のCDプレーヤーで再生できるようにする処理) されていないCD-R/CD-RWは再生できません。
- 700MBを超えるCD-R/CD-RWの再生はできません。
- 音楽用CDレコーダーまたはパソコンで記録したCD-R/CD-RWは、ディスクの特性、キズ·汚れ、または本機内部のレンズの汚れ·露などにより、本機では再生できない場合があります。
- パソコンで記録したディスクは、アプリケーション (ライティングソフト) の設定および環境によって再生できないことがあります。正しいフォーマットで記録してください。 (詳細はアプリケーションの発売元にお問い合わせください。)
- CD-R/CD-RWに記録されているタイトルなどの文字情報は、音楽データ (CD-DA) 再生時に表示できない場合があります。
- CD-RWは、ディスクを挿入してから再生が始まるまで、通常のCDやCD-Rより時間がかかります。
- CD-R/CD-RWの取扱については、ディスクの説明書や注意書きを十分お読みください。

- セロハンテープやレンタルCDのラベルからのりがはみ出していたり、ラベルをはがしたりしたあとがあるものは、使用しないでください。また、市販のCD-Rラベルを貼付けたディスクも使用しないでください。ディスクが取り出せなくなるなど、故障の原因となることがあります。

MP3について

知識

フランス、トムソン社からのMP3特許ライセンスについて
本機は、個人の使用または非商用的な使用を目的としています。以下のような、商用目的には使用できません。ご使用には、別途、トムソン社からの商用使用許諾が必要です。
詳しくはhttp://mp3licensing.com をご覧ください。

- 有料リアルタイム放送 (地上波、衛星、ケーブル、その他の放送媒体)
- インターネットによる放送またはストリーミング
- イントラネット/ネットワーク
- 有料オーディオ·アプリケーションやオーディオ·オンデマンド·アプリケーションなどの電子情報配信システム

- MP3ファイルが記録されたCD-R/CD-RW/CD-ROMの再生に対応しています。次のフォーマットに準拠して記録されたディスクが再生可能です。
  - ISO9660 レベル1
  - ISO9660 レベル2
  - 拡張フォーマットJoliet
  - 拡張フォーマットRomeo
- 本機はヘッダ部およびデータ部が共にMP3形式に準拠したMP3ファイルに対応しています。
- 本機は40セッションまでのマルチセッション方式で記録されたディスクの再生に対応しています。
- 本機での再生可能なサンプリング周波数は16/22.05/24/32/44.1/48kHzです。
- 本機は8kbps～320kbpsのMP3ファイルの再生に対応していますが、ある一定の音質で音楽を楽しんでいただくためには、128kbps以上のビットレートで記録されたディスクの使用をおすすめします。
- パケットライト方式で記録されたディスクは聞くことができません。
- MP3i (MP3 interactive) フォーマット、MP3 PROフォーマット、RIFF形式MP3フォーマットには対応していません。

フォルダ、ファイルについて

- 再生などの操作でMP3ファイルやフォルダが選択される順番は、階層の浅い順番になります。MP3ファイルを収録したディスクのイメージ、再生の順番は次のようになります。
  - ファイルナンバー
    階層の浅いフォルダに属するファイルから順に番号を割り当てられます。
  - フォルダナンバー
    階層の浅いフォルダから自動で番号を割り当てられます。

知識

同一階層内のフォルダやトラック (ファイル) はライティングソフトによってディスクに書き込まれた順序で再生します。

- フォルダ番号は自動で割り当てられます。任意の番号を割り当てることはできません。
- MP3ファイルを含まないフォルダは認識されません。(フォルダ番号の表示をせず、スキップします。)
- MP3ファイルのヘッダ部およびデータ部が共にMP3形式に準拠していないMP3ファイルは、再生せずスキップします。
- 本機は8階層までのMP3ファイルの再生に対応していますが、多くの階層を持つディスクは、再生が始まるまでに時間がかかります。ディスク作成時には、階層を2つ以下にすることをおすすめします。
- 一枚のディスクで再生可能なファイル数は512ファイルまでです。また一つのフォルダで再生可能なファイル数は255ファイルまでです。
- MP3ファイルに名前をつけるときは、ファイル名の後に必ず拡張子(.mp3)を付けてください。
- ファイル名として付けることのできる最大文字数は次のとおりですが、本機に表示される文字数は拡張子(.mp3)を含めて32文字までです。

	ファイル名最大文字数(区切り文字“.”と拡張子3文字を含む)
ISO9660 レベル1	12*
ISO9660 レベル2	31*
拡張フォーマット Joliet	64
拡張フォーマット Romeo	128

* 使用できる文字は半角英数字(大文字のみ)とアンダーバー“_”

- 表示部の表示は半角英数字にのみ対応しています。全角文字(漢字、ひらがななど)や一部の特殊文字は表示することができません。

⚠ 注意

本機は拡張子(.mp3)がついているファイルをMP3ファイルとして再生します。MP3ファイル以外にはMP3拡張子を付けないでください。雑音や故障の原因となります。

ID3 Tagの表示について

本機はVer.1.0/1.1/2.2/2.3 形式で入力されたID3 Tag のアルバム名、トラック名、アーティスト名の表示にのみ対応しています。その他の情報を入力しても表示することはできません。

表示を切り替えるとき

表示部の表示は半角英数字にのみ対応しています。ID3 Tagは半角英数字で入力してください。全角文字や一部の特殊文字は表示することができません。

用語解説

MP3 (エムピースリー)

「MPEG Audio Layer 3」の略で、ISO (国際標準化機構) のワーキンググループ (MPEG) の定めた音声圧縮の規格です。

MP3は音声データを元のデータの約10分の1に圧縮することができます。

ISO9660

CD-ROMのファイルおよびフォルダに関する論理フォーマットの国際基準です。
ファイル名の付け方やデータ配置などの違いによってレベル1～3に分けられます。

マルチセッション

CD-ROMやCD-R、CD-RWにデータを記録するとき、その記録の始めから終わりまでをひとまとめにした単位をセッションといいます。マルチセッションとは、1枚のディスクに2つ以上のセッションデータを記録する方法のことです。

サンプリング

アナログデータである音を一定時間ごとにデータ化し、デジタルデータにすることをいいます。また、1秒間に行なうサンプリング回数をサンプリング周波数といい、単位はHzで表します。サンプリング周波数が高いほど音質は良くなりますが、データ量が大きくなります。

ビットレート

1秒あたりの情報量を表し、単位はbps (bit per second) です。一般的にMP3ファイルは、圧縮時の転送ビットレートの数字が大きいほど音楽を再現するための情報を多く持つことになるため、音質が良くなります。

パケットライト

フロッピーやハードディスクと同じように、必要なファイルを必要な時点で、CD-Rなどに書き込む方式の総称です。

ID3 Tag

曲の関連情報をMP3ファイルに埋め込む方式です。埋め込むことのできる情報は、トラック名、アーティスト名、アルバム名などがあります。この内容はID3 Tag編集機能のあるソフトを利用して自由に編集できます。

VBR

「Variable Bit Rate (可変ビットレート) 」の略です。一般的にはCBR (固定ビットレート) が多く使われていますが、音声圧縮では圧縮状況に合わせてビットレートを可変することで、音質を優先した圧縮が可能となります。

WMAについて

WMAとは、Windows Media Audioの略称で、Microsoft社の音声圧縮フォーマットです。

MP3よりも高い圧縮率で音声データを作成･保存することができます。

※ Microsoft、Windows Mediaは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

再生できるWMAファイルの仕様

本機はWMAファイルが記録されたCD-R、CD-RWの再生に対応しています。次のフォーマットに準拠して記録されたディスクが再生可能です。
再生可能なWMAファイル仕様は以下のとおりです。

項目		内容
規格		Windows Media Audio Version 7.0, 8.0, 9.0
サンプリング周波	ビットレート	32kHz . . . . 32, 40, 48 kbps
		44.1kHz . . . . . 32, 48, 64, 80, 96, 128, 160, 192, 256, 320 kbps
		48kHz . . . . 64, 96, 128, 160, 192 kbps
VBR (可変ビットレート)		対応
チャンネルモード		ステレオ/モノラル
WMA タグ		タイトル、アーティスト名、アルバム名

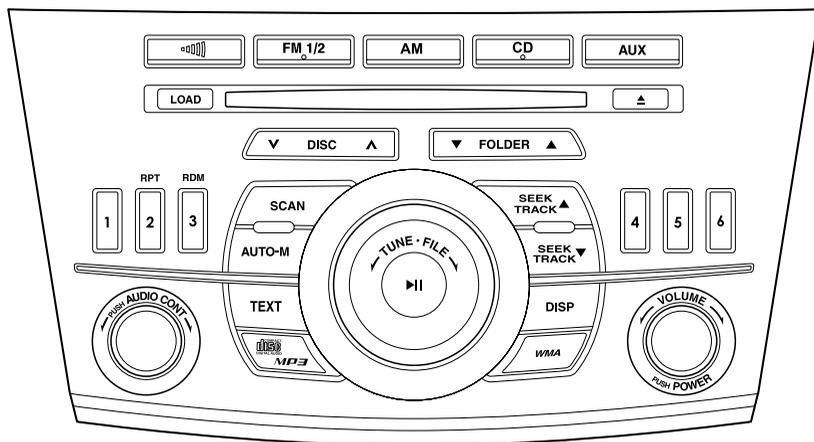
⚠ 注意

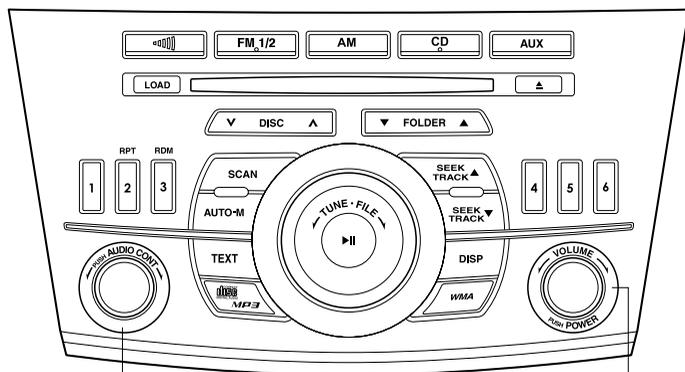
本機は拡張子 (.wma) がついているファイルをWMAファイルとして再生します。WMAファイル以外にはWMA拡張子を付けないでください。雑音や故障の原因となります。

- WMAファイル内には曲名/アーティスト名/アルバム名/ジャンル名等の情報が“WMA-Tag”と呼ばれるデータで記録されており、モニター等でその情報を表示することができます。
- 記載している規格以外で書き込まれたWMAファイルは正常に再生できなかったり、ファイル名やフォルダ名などが正しく表示されない場合があります。
- パソコンのOSの種類やバージョン、ソフト、設定によって拡張子がつかない場合があります。その場合は、ファイルの最後に拡張子「.wma」を追記してからディスクに書き込んでください。

オーディオ

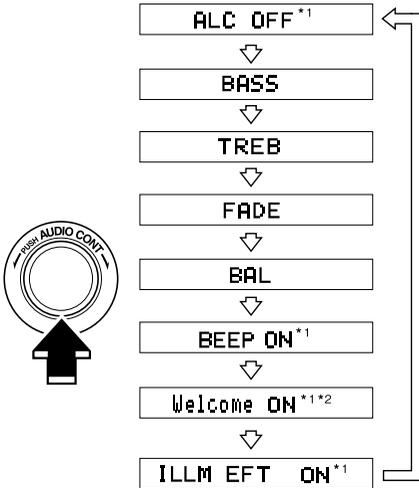
グレード/仕様別装備

オーディオの表示はインフォメーションセンターディスプレイの表示部に表示されます。
→262ページ「インフォメーションセンターディスプレイ」

必読！
安全装備
操作と取り扱い
快適カーライフ
万一のとき
車との上手なつきあいかた
サービスデータ
さくいん

音量/音質の調節

音量調節

音量調節ダイヤルをまわして調節します。
右へまわすと音量が大きくなり､左へまわすと小さくなります。

音質調節

1 オーディオコントロールダイヤルを軽く押して調節したいモードを選びます。
ダイヤルを押すごとにモードが切り替わります。

*1 選択しているモードにより表示は異なります。

*2 グレードや仕様により機能の有無が異なります。

2 オーディオコントロールダイヤルをまわして調節します。

モード	ダイヤルをまわす方向	
	左	右
ALC (自動音量調節)	モード選択	
BASS (低音調節)	低音弱	低音強
TREB (高音調節)	高音弱	高音強
FADE (前後音量調節)	後側小	前側小
BAL (左右音量調節)	右側小	左側小
BEEP (操作音設定)	OFF	ON
Welcome (効果音設定)	OFF	ON
ILLM EFT (操作照明設定)	OFF	ON

知識

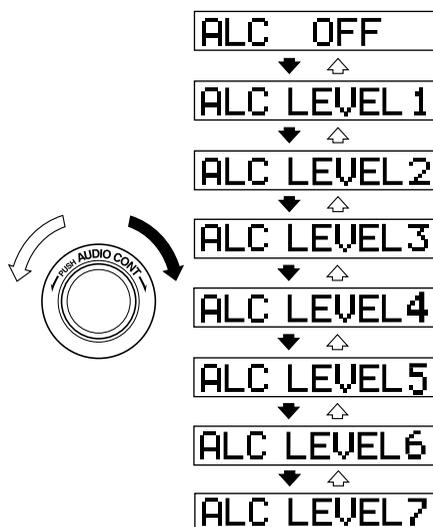
- 音量/音質調節値は表示部に表示されます。
- オーディオコントロールダイヤルを押してしばらくすると、音質調節前の表示にもどります。ピーと音がするまで押し続けると低音、高音、前後、左右の調節値が中央値(初期値)にもどり“CLEAR”が表示されます。

オートマチックレベルコントロール

オートマチックレベルコントロール(ALC)は、車速に応じて、自動的にオーディオの音量/音質が変化する機能です。車速が早いほど変化量は大きくなり、車速が遅いほど変化量は小さくなります。

次のモードがあります。状況に応じてお好みのモードを選択してください。

モード	変化量
ALC OFF	なし
ALC LEVEL1	小
ALC LEVEL2	▼ ⇧
ALC LEVEL3	▼ ⇧
ALC LEVEL4	中
ALC LEVEL5	▼ ⇧
ALC LEVEL6	▼ ⇧
ALC LEVEL7	大

オーディオコントロールダイヤルをまわしてALC OFF、ALC LEVEL1〜7モードを選択します。

BEEP(操作音)設定

オーディオ操作音のONとOFFを設定することができます。

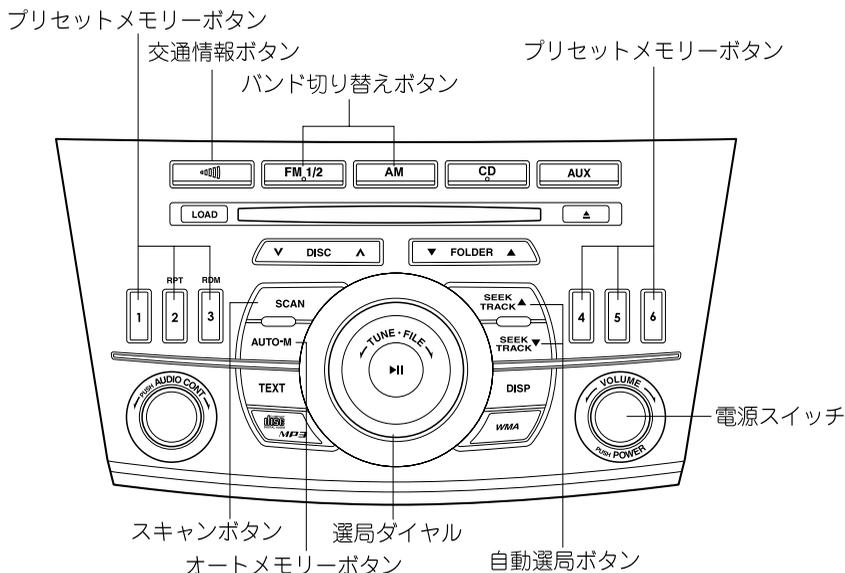
Welcome(効果音)設定

グレード/仕様別装備

電源ポジションをACCまたはONにしたとき効果音が鳴ります。

ILLM EFT(操作照明)設定

オーディオ操作時に光る照明のONとOFFを設定することができます。

ラジオの使いかた

1 電源ポジションをACCまたはONにします。

2 バンド切り替えボタンを押し、聞きたいバンドを選択します。

3 選局します。

- 自動選局
  自動選局ボタン(▲，▼)を押すと、自動選局を始め、放送を受信すると止まります。
- 手動選局
  選局ダイヤルをまわして選局します。

4 音量/音質を調節します。

5 ラジオを止めるときは、電源スイッチを押します。

知識

- FMステレオ放送を受信中、電波が弱くなると自動的にモノラルに切り替わり、ノイズを減らします。
- 受信する電波が弱いときは、手動選局をしてください。

オートメモリー選局

1 オートメモリーボタン(**AUTO-M**)をピーと音がするまで押すと、選局を始めます。

2 電波の強い順に最大6局までの周波数を記憶します。

3 オートメモリーボタン(**AUTO-M**)を軽く押すごとに、順次記憶された周波数に切り替わります。

知識

受信できるものが1局もない場合は“A”が表示されます。

放送局を記憶するとき

プリセットメモリーボタンを使って、選局した周波数を記憶させておくと便利です。
AM、FM1、FM2それぞれ6局まで記憶できます。

1 記憶させたい放送局を選びます。

2 プリセットメモリーボタンのいずれか1つをピーと音がするまで押します。

3 呼び出すときは、プリセットメモリーボタンを軽く押します。

知識

- 呼び出すときに、ボタンをピーと音がするまで押すと、そのとき受信している周波数が記憶されます。
- 車両整備などでバッテリーとの接続が断たれたときは記憶が消去されます。もう一度記憶させてください。

聞きたい局を探すとき

スキャンボタン (SCAN) を使って、受信可能な放送局を探すことができます。

1 スキャンボタン (SCAN) を押すと、周波数の低い方から高い方へ5秒間ずつ受信していきます。

2 聞きたい局が受信されたらもう一度スキャンボタン (SCAN) を押します。その周波数を受信し続けます。

交通情報の受信

交通情報を放送している地域では、交通情報ボタン (•ıı)) を押すと交通情報を受信できます。

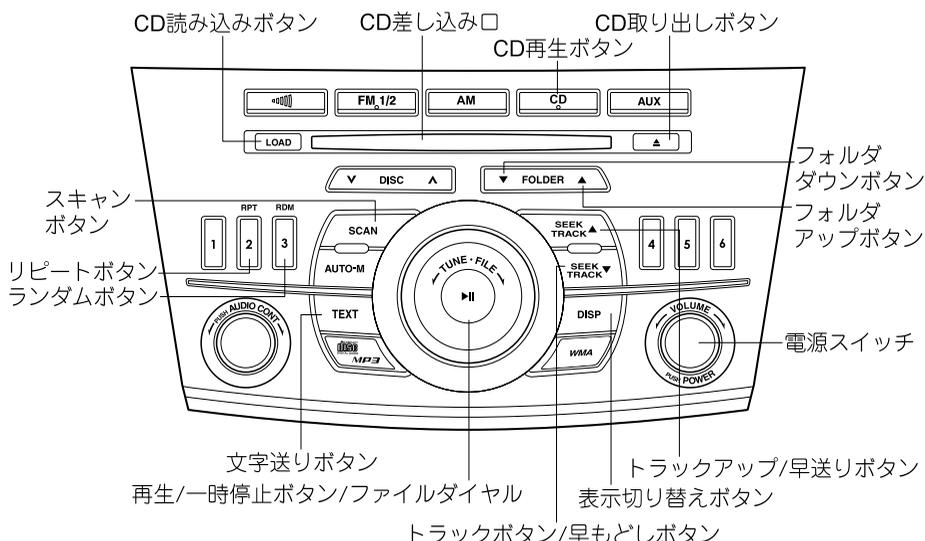
1 交通情報ボタン (•ıı)) を押すと、AM1620kHzまたはAM1629kHzを受信します。

2 もう一度押すともとの状態にもどります。

3 受信中、ボタンをピーと音がするまで押すごとに、AM1620kHzとAM1629kHzを切り替えることができます。

知識

交通情報ボタン (•ıı)) で受信中は、プリセットメモリーボタンを押しても放送局は選局されません。

CDプレーヤーの使いかた

CDプレーヤーが装着されている場合、操作することができます。

タイプ	再生できるデータ
音楽/MP3/WMA CDプレーヤー	● 音楽データ (CD-DA) ● MP3/WMAファイル

 知識

一枚のディスクに音楽データ (CD-DA) とMP3/WMAファイルが混在しているときは、ディスクに記録する方法によって再生される内容が異なります。

再生するとき

1. 電源ポジションをACCまたはONにします。
2. CDのラベル面を上にして、CD差し込み口に軽く押し込みます。CDが自動的に送り込まれ、再生を始めます。
   CDがはいっているときは、CD再生ボタン (**CD**) を押すと再生を始めます。
3. 音量/音質を調節します。
4. 再生を止めるときは電源スイッチを押します。(もう一度押すと再生できます。)

知識

- CDがはいっていないときにCD再生ボタン (**CD**) を押すと“NO DISC”が点滅します。
- 12cmCDと8cmCD (シングル) の両サイズとも使用することができます。
- ラジオなどを聞いている途中で、CD差し込み口にCDを差し込むと再生されます。
- CD取り出しボタン (⏏) を押した後でも、CD読み込みボタン (**LOAD**) を押すとCDが再度送り込まれ、再生されます。
- (MP3/WMA CD)
  再生はフォルダ番号の順に行なわれます。MP3/WMAファイルがないフォルダはスキップされます。

一時停止

一時停止するときは再生/一時停止ボタン (▶II) を押します。
もう一度押すと再生できます。

CDを取り出すとき

1 CD取り出しボタン (⏏) を押します。

2 CDの端を持って取り出します。

聞きたいフォルダを選択するとき (MP3/WMA CD再生中)

今聞いているフォルダの前のフォルダを選択するときはフォルダダウンボタン (▼)、次のフォルダを選択するときはフォルダアップボタン (▲) を押します。

早送り/早もどしをするとき

1 早送りするときは早送りボタン (▲)、早もどしするときは早もどしボタン (▼) を押し続けます。

2 ボタンから手をはなすと、その位置から再生を始めます。

知識

(MP3/WMA CD)
VBR (可変ビットレート) を利用して録音されたファイルを再生しているときは、早送り/早もどしをするときに再生経過時間が正しく表示されないことがあります。

曲の頭出しをするとき

今聞いている曲の頭にもどしたいときはトラックダウンボタン (▼) を押すか、ファイルダイヤルを左にまわします。
次の曲の頭に進めたいときはトラックアップボタン (▲) を押すか、ファイルダイヤルを右にまわします。

同じ曲をくり返して聞くとき

音楽CD再生中

1 再生中にリピートボタン (**RPT**) を押すと、その曲をくり返して再生します。表示部に“RPT”が表示されます。

2 もう一度押すと解除されます。

MP3/WMA CD再生中 (今聞いている曲をくり返し聞くとき)

1 再生中にリピートボタン (**RPT**) を押すと、その曲をくり返して再生します。表示部に“TRACK RPT”が表示されます。

2 3秒以上経過したあとにもう一度押すと解除されます。

(今聞いているフォルダ内をくり返し聞くとき)

1 再生中にリピートボタン (**RPT**) を押し、3秒以内にもう一度押すとそのフォルダ内の曲をくり返して再生します。表示部に“FOLDER RPT”が表示されます。

2 もう一度押すと解除されます。

ランダム選曲をするとき

CD内の曲をランダム (無作為) に選曲し、再生することができます。

音楽CD再生中

1 再生中にランダムボタン (**RDM**) を押すと、CD内の曲をランダムな順序で再生します。表示部に“RDM”が表示されます。

2 もう一度押すと解除されます。

MP3/WMA CD再生中

(フォルダ内の曲をランダムに聞くとき)

1 再生中にランダムボタン (**RDM**) を押すと、フォルダ内の曲をランダムな順序で再生します。表示部に“FOLDER RDM”が表示されます。

2 3秒以上経過したあとにもう一度押すと解除されます。

(CD内の曲をランダムに聞くとき)

1 再生中にランダムボタン (**RDM**) を押し、3秒以内にもう一度押すとCD内の曲をランダムな順序で再生します。表示部に“DISC RDM”が表示されます。

2 もう一度押すと解除されます。

聞きたい曲を探すとき

音楽CD再生中

CD内の曲を10秒間ずつ再生し、聞きたい曲を探すことができます。

MP3/WMA CD再生中

再生中のフォルダ内の曲を10秒間ずつ再生し、聞きたい曲を探すことができます。

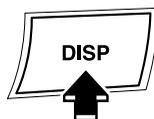
1 再生中にスキャンボタン (**SCAN**) を押すと、次の曲の頭から順に10秒間ずつ再生されます。

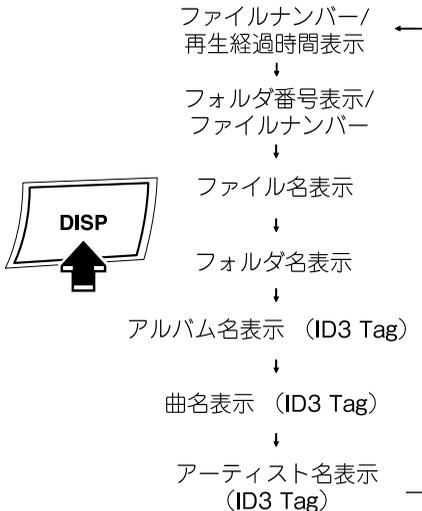
2 聞きたい曲が再生されているときにもう一度スキャンボタン (**SCAN**) を押します。その曲の再生がそのまま続きます。

> **知識**
>
> 全ての曲の再生が終わると自動的に解除され、通常の再生にもどります。

表示を切り替えるとき (音楽/MP3/WMA CDプレーヤー)

再生中、表示切り替えボタン (**DISP**) を押すごとに、次のように表示部が切り替わります。

音楽CD

トラックナンバー/再生経過時間表示
↓
トラック名表示
↓
アルバム名表示
↓
アーティスト名表示

MP3/WMA CD

知識

- 表示部に表示できる情報がCDに記録されている場合のみ、CDの情報が表示されます。
- 本機の表示は半角英数字に対応しています。それ以外の文字が記録されている場合は、正しく表示されない場合があります。

隠れているタイトルを表示する

表示部に一度に表示できる文字数は12文字までです。タイトルが長く、最後まで表示されていないときは文字送りボタン (**TEXT**) を押します。次の12文字に表示をスクロールします。最後の文字を表示しているときに文字送りボタン (**TEXT**) を押すと、タイトルの最初の文字を表示します。

知識

表示される文字数には制限があります。拡張子 (.mp3/.wma) を含めて32文字を超えた場合、表示されない場合があります。

メッセージが表示されたときは

“CHECK CD”のメッセージが表示されたときはCDに何らかの異常があります。CDにキズや汚れがないか、または記録されている内容にMP3/WMAファイルがあるか確認して正しく入れ直してください。

再度メッセージが表示されたときは、マツダ販売店で点検を受けてください。

AUXモード (外部入力) の使いかた

グレード/仕様別装備

AUXモード (外部入力) では、市販のポータブルオーディオをAUX端子に接続することで、車両のスピーカーで音声を聞くことができます。

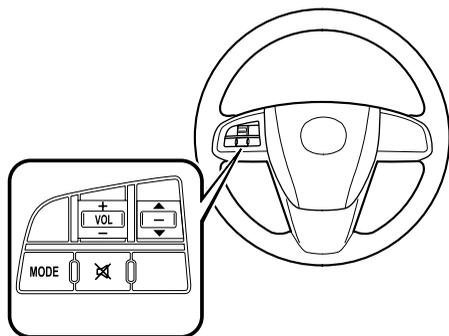
→256ページ「ポータブルオーディオ機器を使用していただくために」

オーディオリモートコントロールスイッチ

グレード/仕様別装備

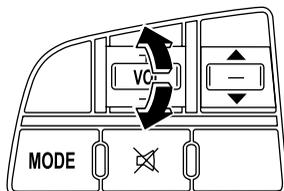
ハンドルの左側にあります。
オーディオの電源が入っているときに、手元でオーディオの操作をすることができます。

次のようなときはオーディオの電源が切れるため、各スイッチを操作することができません。

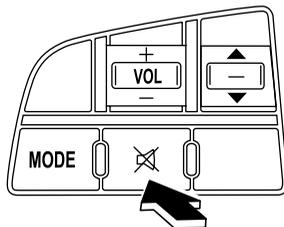
- 電源ポジションをOFFにしたとき。
- オーディオの電源スイッチを押して電源を切ったとき。

音量を調節するとき

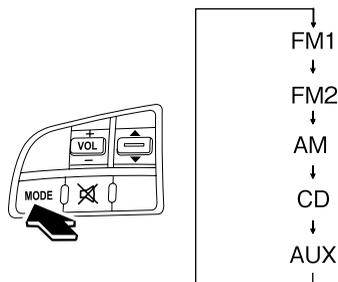
音量調節スイッチ (**+** 、**−**) を操作して、音量を調節します。

■ 大きくするとき
音量調節スイッチを引き上げます。

■ 小さくするとき
音量調節スイッチを引き下げます。

消音にするとき

ミュートスイッチ (🔇) を押すと、消音できます。
もう一度スイッチを押すともとにもどります。

消音にしたあと電源ポジションをOFFにすると、消音は解除されます。その後エンジンをかけると、消音にする前の状態にもどります。音を消したいときは、再度ミュートスイッチ (🔇) を押してください。

モードを選択するとき

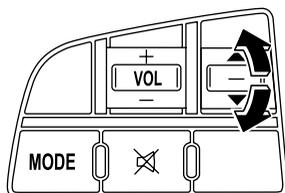
モードスイッチ (**MODE**) を押して、オーディオのモードを切り替えます。
スイッチを押すごとに次のようにモードが切り替わります。

 知識

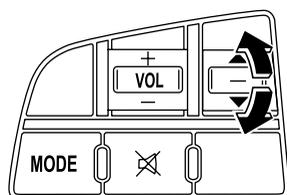
- AUXモードは、オーディオに設定がある場合のみ選択できます。
- CDが挿入されているとき、AUX端子に市販のポータブルオーディオ機器が接続されているときに、各モードを選択できます。

選局するとき

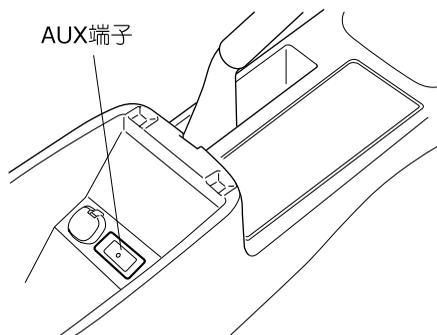
ラジオを聞いているときに選局スイッチ (▲、▼) を軽く操作すると、プリセットメモリーボタンを使ってあらかじめ記憶させておいた放送局を呼び出すことができます。スイッチを操作するごとに順次記憶された放送局に切り替わります。
また、ピーと音がするまで操作すると、自動選局を始めます。放送を受信すると止まります。

 知識

オートメモリー選局で記憶した放送局を受信しているときに選局スイッチ (▲、▼) を操作すると、オートメモリー選局であらかじめ記憶させておいた放送局を呼び出すことができます。スイッチを操作するごとに順次記憶された放送局に切り替わります。

曲の頭出しをするとき

CDを聞いているときに頭出しスイッチ(▲、▼)を操作すると、曲の頭出しをすることができます。
次の曲の頭に進めたいときは早送りスイッチ(▲)を引き上げ、今聞いている曲の頭にもどしたいときは早もどしスイッチ(▼)を引き下げます。

ポータブルオーディオ機器を使用していただくために

グレード/仕様別装備

AUXモード(外部入力)では、市販のポータブルオーディオをAUX端子に接続することで、車両のスピーカーで音声を聞くことができます。

 警告

■操作は、車が止まっているときに行なってください。

走行中は、運転操作がさまたげられ思わぬ事故につながるおそれがあります。

 注意

- 使用しないときは、必ずコンソールボックスのフタを閉めておいてください。AUX端子に異物が入ったり、飲料水などがかかると、故障につながるおそれがあります。
- 接続する機器によっては車に装着されている電源ソケットを使用すると、再生時、ノイズが発生することがあります。(ノイズが発生した場合は電源ソケットを使用しないでください。)

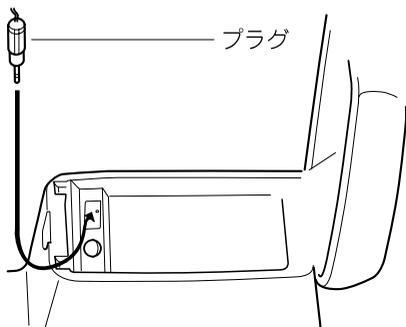
知識

- ご使用前に、市販のポータブルオーディオの取扱書をよくお読みください。
- ポータブルオーディオをAUX端子に接続するための接続コードは、市販の抵抗なしのステレオミニプラグ (3.5ϕ) を使用してください。ご使用前に接続コードの取扱書をよくお読みください。
- エンジンを止めたままで、オーディオを長時間使用しないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。
- 接続する機器によっては、ノイズが発生することがあります。
- 接続する機器の電源は、ポータブルオーディオ機器のバッテリーなどを使用してください。

接続のしかた

コンソールボックスに開いている溝からAUX端子に接続するコードを通すことができます。

1 コンソールボックスのフタを開きます。

2 コンソールボックスに開いている溝にコードを通し、コード先端のプラグをAUX端子に接続します。

警告

■ AUX端子に接続したコードがパーキングブレーキレバーやチェンジレバーに絡まないようにしてください。

運転操作がさまたげられ思わぬ事故につながるおそれがあります。

注意

プラグを接続した状態でAUX端子の上に物を乗せたり、大きな力を加えたりしないでください。

知識

- プラグはAUX端子に確実に差し込んでください。
- プラグの抜き差しはAUX端子の穴に対して垂直に行なってください。
- プラグの抜き差しはプラグの根元を持って行なってください。

ポータブルオーディオ機器を聞くには

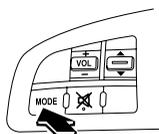
1 電源ポジションをACCまたはONにします。

2 コード先端のプラグをAUX端子に接続します。

3 オーディオユニットの電源スイッチをONにします。

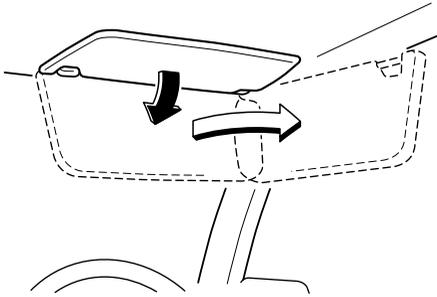
4 オーディオユニットのメディアスイッチ(**AUX**)を押すか、またはオーディオリモートコントロールスイッチを操作してAUXモードに切り替えます。
オーディオリモートコントロールスイッチの操作については255ページ「モードを選択するとき」をお読みください。

オーディオ

オーディオリモートコントロールスイッチ

 知識

- 接続する機器の音が歪まない範囲で最大にし、オーディオユニットの音量調節ダイヤルまたはオーディオリモートコントロールスイッチの音量調節スイッチ(**+**、**−**)を操作して音量を調節してください。
- 音量調節以外の操作はポータブルオーディオ本体のみで行えます。オーディオパネルでは操作できません。
- AUXモード中にAUX端子からコードを抜いたり、接続している機器側のプラグを抜くとノイズが発生することがあります。

サンバイザー

前からの光をさえぎるときは、下げます。
横からの光をさえぎるときは、下げた後フックからはずして横にします。

バニティミラー (化粧鏡)

バニティミラーは、サンバイザーの裏側にあります。
ランプ装備車はフタを開けるとランプが点灯します。

室内照明

 知識

エンジンを停止しているとき、ランプを長時間点灯させたままにしないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。

イルミネーテッドエントリーシステム

ルームランプスイッチがDOORの位置のとき、次のような操作をすると、ルームランプが点灯します。

- 運転席ドアを解錠すると約30秒間点灯します。
- ドアを開けて閉めた後、約15秒間点灯します。
  (アドバンストキー装備車)
  アドバンストキーを携帯し、車外からドアを閉めた後、約5秒間点灯します。
- エンジンスイッチからキーを抜くと (アドバンストキーレス機能使用時は、電源ポジションをOFFにすると) 約15秒間点灯します。

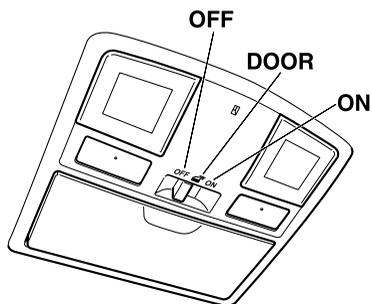
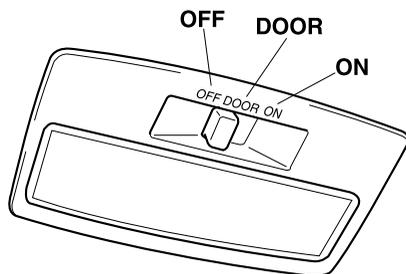
知識

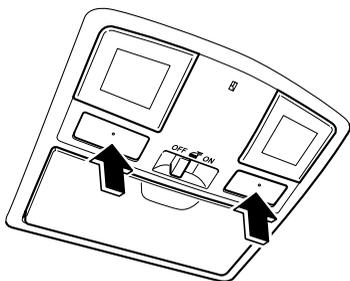
- 次のようなときルームランプはすぐに消灯します。
  - 電源ポジションをONにしたとき。
  - 運転席ドアを施錠したとき。
- ルームランプスイッチがDOORの位置で、約30分間ドアが確実に閉まっていない状態が続くと、自動的にルームランプが消灯して、バッテリーあがりを防止します。
- イルミネーテッドエントリーシステムの作動を変更することができます。
  →394ページ「設定変更 (カスタマイズ機能)」

ルームランプ

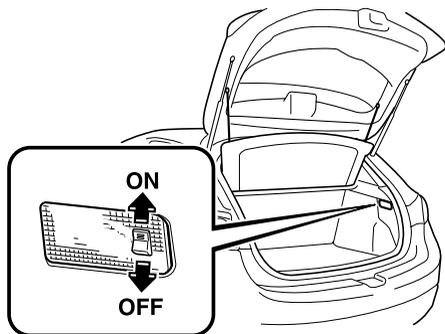
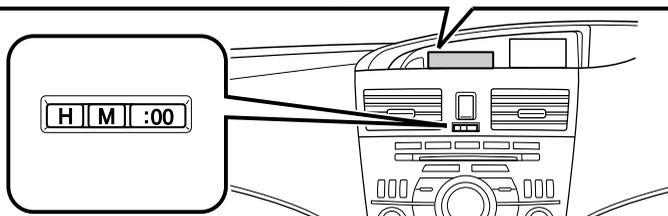
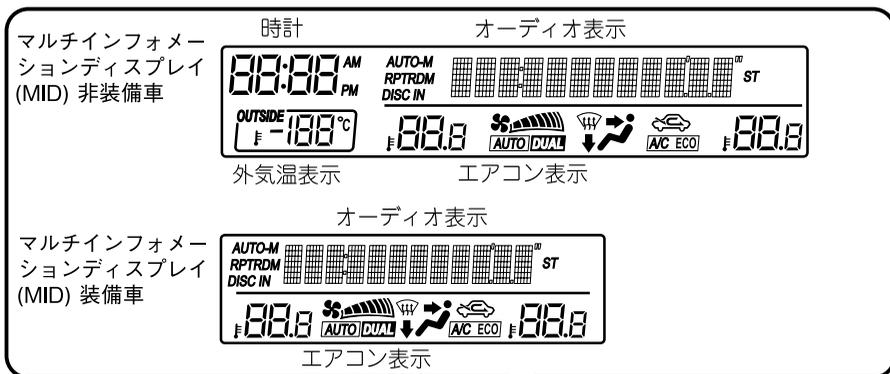
電源ポジションに関係なく使用できます。

スイッチ位置	ルームランプ
DOOR	● ドアを開けると点灯し、閉めると消灯します。 ● イルミネーテッドエントリーシステムの作動により点灯/消灯します。
OFF	常時消灯
ON	常時点灯

フロント

リヤ

マップランプ

電源ポジションに関係なく使用できます。
スイッチを押すと点灯し、もう一度押すと消灯します。

ラゲッジルームランプ (ハッチバック)

電源ポジションに関係なく使用できます。

スイッチ位置	ラゲッジルームランプ
ON	リヤゲートを開けると点灯し、閉めると消灯します。
OFF	常時消灯

インフォメーションセンターディスプレイ

インフォメーションセンターディスプレイの機能について

インフォメーションセンターディスプレイには次の機能があります。

- 時計 グレード/仕様別装備
- 外気温表示 グレード/仕様別装備
- エアコン表示 (フルオートエアコン装備車)
- オーディオ表示 グレード/仕様別装備

時計

グレード/仕様別装備

電源ポジションがACCまたはONのとき表示します。

時刻のあわせかた

1 電源ポジションをACCまたはONの位置にします。

2 時間調節ボタン(**H**、**M**)を操作して時刻をあわせます。
時計調節ボタン(**H**)を押している間“時”表示が早送りされます。
時計調節ボタン(**M**)を押している間“分”表示が早送りされます。

時報にあわせるとき

1 電源ポジションをACCまたはONの位置にします。

2 :00ボタンを押します。

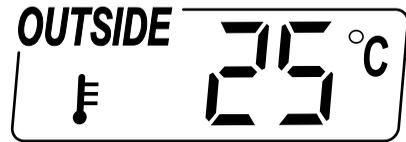
3 :00ボタンを押すと時刻が次のように修正されます。
(例)
12:01～12:29→12:00
12:30～12:59→1:00

知識

:00ボタンを押すと、“秒”は“00”からスタートします。

外気温表示

グレード/仕様別装備

電源ポジションがONのとき、外気温を表示します。

知識

次のようなとき、外気温度表示の数値は周囲や車両の状況により、実際の外気温と異なることがあります。

- 著しく寒いとき、暑いとき
- 外気温が急激に変化したとき
- 停車時
- 低速走行時

エアコン表示

グレード/仕様別装備

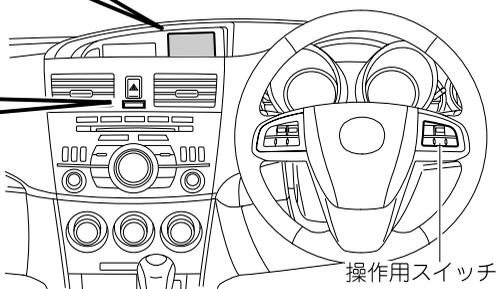
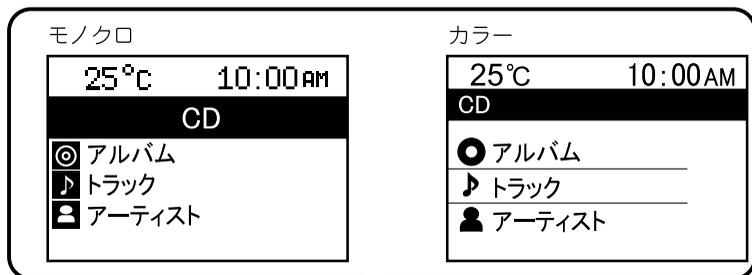
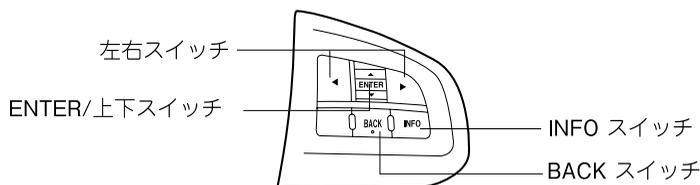
エアコンの作動状態を表示します。
エアコンの操作については、222ページの「空調」をご覧ください。

オーディオ表示

グレード/仕様別装備

オーディオの作動状態を表示します。
オーディオの操作については、235ページの「オーディオ」をご覧ください。

マルチインフォメーションディスプレイ (MID)

グレード/仕様別装備

操作用スイッチ

スイッチ	機能
ENTER/上下スイッチ	メニューを選択するときに使用します。上下で選択し、ENTERで決定します。
左右スイッチ	数字を設定する際、桁を選択するときに使用します。
BACKスイッチ	SETTING中に押すと、前の画面にもどります。
INFOスイッチ	表示を切り替えます。 押すごとに「トリップコンピューター (平均燃費、平均車速) →トリップコンピューター (瞬間燃費、走行可能距離) →オーディオ表示→エコドライブ表示 グレード/仕様別装備 →アイドリングストップ時間(i-stop装備車) →セッティング」の順に繰り返し表示されます。

室内装備

マルチインフォメーションディスプレイ (MID) の機能について

次の機能があります。

機能	詳細	ページ
時計	時刻を常時表示します。	267
外気温表示	外気温を常時表示します。	267
オーディオ表示	オーディオの作動状態を表示します。INFOスイッチを押していくと表示されます。	267
トリップコンピューター	平均燃費や平均車速、瞬間燃費、走行可能距離を表示します。INFOスイッチを押していくと表示されます。	267
エコドライブ表示 グレード/仕様別装備	今回の運転がどのくらい環境にやさしかったかを、パーセントで表示します。	269
アイドリングストップ時間表示 (i-stop装備車)	i-stopによるアイドリングストップ時間を表示します。	269
メンテナンスモニター	オイル点検/交換やタイヤ点検、定期メンテナンスの時期をお知らせします。	269
警告表示	注意が必要なことをお知らせします。	274
セッティング	マルチインフォメーションディスプレイの設定を変更します。INFOスイッチを押していくと表示されます。	274

時計

電源ポジションがACCまたはONのとき表示します。

10:00AM

時刻のあわせかた

1 電源ポジションをACCまたはONにします。

2 時間調節ボタン(**H**、**M**)を操作して時刻をあわせます。
時計調節ボタン(**H**)を押している間“時”表示が早送りされます。
時計調節ボタン(**M**)を押している間“分”表示が早送りされます。

時報にあわせるとき

1 電源ポジションをACCまたはONにします。

2 :00ボタンを押すと、時刻が次のように修正されます。
(例)
12:01～12:29→12:00
12:30～12:59→1:00

 知識

:00ボタンを押した時点で、“秒”は“00”からスタートします。

外気温表示

電源ポジションがONのとき表示します。

25°C

知識

次のようなとき、外気温度表示の数値は周囲や車両の状況により、実際の外気温と異なることがあります。

- 著しく寒いとき、暑いとき
- 外気温が急激に変化したとき
- 停車時
- 低速走行時

オーディオ表示

オーディオの作動状態を表示します。
オーディオの操作については、235ページの「オーディオ」をご覧ください。

トリップコンピューター

電源ポジションがONのとき、次の情報を表示することができます。

- 平均燃費表示
- 平均車速表示
- 瞬間燃費表示
- 走行可能距離表示

平均燃費表示

お車を購入された時、または、過去のデータを消去した時はデータを消去した時からの累積走行距離と累積消費燃料から、約1分間毎に平均燃費を算出して表示します。

25°C 10:00AM
平均燃費
25.0 km/L
平均車速
45 km/h

知識

表示されているデータを消去するには、274ページ「設定変更」をご覧ください。
消去後、燃費が計算されている1分間は - - - km/Lが表示されます。

平均車速表示

お車を購入された時、または、過去のデータを消去した時はデータを消去した時からの累積走行距離と走行時間から、約10秒間毎に平均車速を算出して表示します。

25°C 10:00AM
平均燃費
25.0 km/L
平均車速
45 km/h

知識

表示されているデータを消去するには、274ページ「設定変更」をご覧ください。
消去後、平均車速が計算されている1分間は - - - km/hが表示されます。

瞬間燃費表示

走行しはじめてから、約2秒毎の瞬間燃費表示を消費燃料から算出して表示します。

25°C 10:00AM
瞬間燃費
25.0 km/L
走行可能距離
235 km

知識

時速が約5km/hになると- - - km/Lを表示します。

走行可能距離表示

現在の燃料残量と燃費から走行可能距離を算出して表示します。

25°C 10:00AM
瞬間燃費
25.0 km/L
走行可能距離
235 km

知識

- 走行可能距離が十分走行できる数値であっても燃料計の指針がEに近づくか、燃料残量警告灯が点灯したら早めに燃料を補給してください。
  約5L以上燃料を加えないと表示は変化しません。
- 走行可能距離とは、燃料計の残量目盛りがすべて消えるまで、あとどれくらい走行できるかを示すおよその距離になります。

エコドライブ表示

グレード/仕様別装備

電源ポジションをONからOFFにしたとき、今回の運転がどのくらい環境にやさしかったかを表示します。

25°C 10:00AM
エコドライブ
今回の運転
ECO点灯は
90%以上

知識

- INFOスイッチを押していくことでも表示できます。
- アクセルペダルを踏みすぎない環境にやさしい運転をするほど、よい結果が表示されます。

アイドリングストップ時間表示 (i-stop装備車)

電源ポジションをONからOFFにしたとき、i-stopによるアイドリングストップ時間を、今回分と今までの合計分について表示します。

25°C 10:00AM
i-stop
今回エンジン停止
時間分**秒
累積エンジン停止
****時間**分

知識

INFOスイッチを押していくことでも表示できます。

メンテナンスモニター

メンテナンスモニターをONにすると、オイル点検/交換やタイヤ点検、定期メンテナンスの時期をお知らせすることが出来ます。

知識

走行中は操作できません。

初期設定

1. INFOスイッチを数回押して、セッティング画面を表示します。
2. 上下スイッチを引き上げるか引き下げてメンテナンスを選択し、ENTERスイッチを押します。

3 上下スイッチを引き上げるか引き下げてONにしたいアイテム (オイル点検/交換、タイヤ点検または定期メンテナンス) を選択し、ENTERスイッチを押します。

25°C 10:00AM
メンテナンス
►タイヤ点検
定期メンテナンス
オイル点検/交換

4 ENTERスイッチを押します。

5 セットを選択し、ENTERスイッチを押します。
次回のメンテナンスまでの距離または日数を設定する画面になります。

25°C 10:00AM
定期メンテナンス
►セット
オフ

6 左右スイッチで桁を選択し、上下スイッチを引き上げるか引き下げて各桁の値を変更します。変更の必要がなければそのままENTERスイッチを押します。

知識

メンテナンススケジュールに応じた初期設定値が表示されます。

メッセージの表示

残りの日数や距離が0に近づくと、電源ポジションがACCまたはONのときに毎回約5秒間メッセージを表示します。

25°C 10:00AM
メンテナンス
定期メンテナンス
時期です
お知らせを消す
→ENTER

知識

- メッセージ表示中にENTERスイッチを押すと、それ以降のエンジン始動時はメッセージが表示されません。
- メンテナンスを実施した後などに次回メンテナンスまでの残り距離･日数をリセットすると、次回以降のエンジン始動時にメッセージを表示します。
- メッセージが重複した場合は順に表示します。
- 残りの日数や距離が0に近づいたときのメッセージと期限切れのメッセージが重複した場合は、期限切れのメッセージのみ表示します。

表示期間

項目	表示開始	表示終了
オイル点検/交換	残り距離が500km以下になった場合	残り距離が0kmを500kmオーバーした場合
タイヤ点検	残り距離が500km以下になった場合	残り距離が0kmを500kmオーバーした場合
定期メンテナンス	残り日数が15日以下になった場合	残り日数が0日を15日オーバーした場合

表示メッセージ

項目	表示タイミング	表示メッセージ
オイル点検/交換	残り距離 500km～－500km	オイル点検/交換時期です
タイヤ点検	残り距離 500km～－500km	タイヤ点検時期です
定期メンテナンス	期日の15日前から当日まで	定期メンテナンス時期です
	期日の翌日から15日後まで	定期メンテナンス ご来店ください

リセット方法

メンテナンスを実施した後、リセット (再設定) を行なえば、次回またメンテナンス時期が近づいてきた時にお知らせメッセージが表示されます。

1 INFOスイッチを数回押して、セッティング画面を表示します。

2 上下スイッチを引き上げるか引き下げてメンテナンスを選択し、ENTERスイッチを押します。

3 上下スイッチを引き上げるか引き下げてリセットしたいアイテム (オイル点検/交換、タイヤ点検または定期メンテナンス) を選択し、ENTERスイッチを押します。

知識

- 現在の残り距離や日数が表示されます。
- 残り距離や日数が0を過ぎても、表示はマイナスにならず0のままです。

4 ENTERスイッチを押します。

5 セットを選択し、ENTERスイッチを押します。

25°C 10:00AM
タイヤ点検
► セット
オフ

6 残り距離または日数が前回設定した時の値に戻ります。変更の必要がなければそのままENTERスイッチを押します。

知識

- 設定を初期設定の値から変更した場合、初期設定の値ではなく、お客様が設定した値が表示されます。
- バッテリーを切り離しても、残り距離や日数の情報は消去されません。
- マルチインフォメーションディスプレイ (MID) の交換、修理等を行なう場合は、残り距離や日数の情報が消える可能性があります。

OFFにする方法

メンテナンスモニターをONにした後も、OFFにすることができます。OFFにした場合、次回メンテナンスまでの残り距離や日数をカウントしなくなり、メンテナンス時期が近づいた時のメッセージも表示しません。

1 INFOスイッチを数回押して、セッティング画面を表示します。

2 上下スイッチを引き上げるか引き下げてメンテナンスを選択し、ENTERスイッチを押します。

3 上下スイッチを引き上げるか引き下げてOFFにしたいアイテム (オイル点検/交換、タイヤ点検または定期メンテナンス) を選択し、ENTERスイッチを押します。

25°C 10:00AM
タイヤ点検
残り 5000 km

4 ENTERスイッチを押します。

5 オフを選択し、ENTERスイッチを押します。

25°C 10:00AM
タイヤ点検
セット
►オフ

警告表示

以下の注意/警告を、必要に応じて表示します。マルチインフォメーションディスプレイ (MID) の操作に関係なく表示されます。

- 「ドア開」
- 「トランク開」
- 「パーキングブレーキ作動中」
- アドバンストキー関連
  - 「補助キーをさして下さい」
  - 「始動時はブレーキを踏んでください」
  - 「アドバンスドキー電池がわずかです」
  - 「アドバンスドキーが見つかりません」
  - 「ハンドルを左右にまわしながらもう一度ボタンを押してください」
  - 「セレクトレバーをPに入れてください」

セッティング

以下についての設定を変更できます。

- ブザー音量 (キー抜き忘れ、ライト消し忘れ、リアビークルモニタリングシステム)
- 方向指示器作動音量

また、トリップコンピューターの平均燃費と平均車速のデータをリセットできます。

設定を変更する

1 INFOスイッチを数回押して、セッティング画面を表示します。

2 上下スイッチを引き上げるか引き下げてその他設定を選択し、ENTERスイッチを押します。

3 上下スイッチを引き上げるか引き下げて設定を変更したいアイテムを選択し、ENTERスイッチを押します。

4 上下スイッチを引き上げるか引き下げて希望する設定を選択し、ENTERスイッチを押します。

知識

ブザー音量は、キー抜き忘れ、ライト消し忘れ、リアビークルモニタリングシステムが同時に変更されます。音量を個別に変更したい場合は、マツダ販売店にご相談ください。また、マツダ販売店で音量を個別に変更した場合は、お客さまが変更することはできません。

トリップコンピューターの平均燃費と平均車速のデータをリセットする

1 INFOスイッチを数回押して、セッティング画面を表示します。

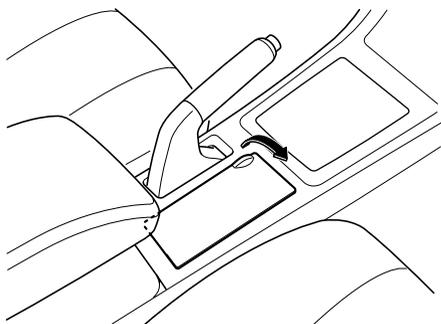
2 平均値リセットを選択し、ENTERスイッチを押します。

3 平均燃費または平均車速を選択し、ENTERスイッチを押します。

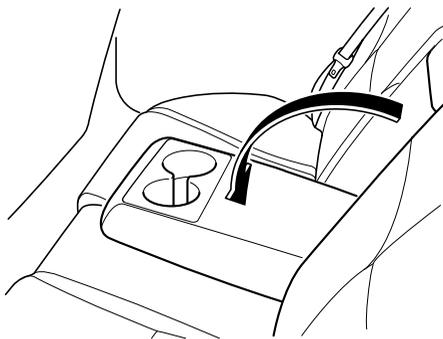
カップホルダー

⚠ 注意

走行中は熱い飲み物を置かないでください。熱い飲み物がかかると、やけどをするおそれがあります。

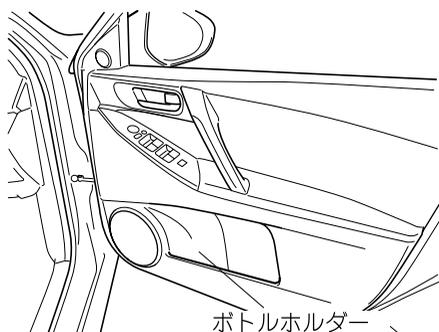
フロント

カップホルダーの仕切りを取りはずすと、小物などを置くことができます。

リヤ

グレード/仕様別装備

ボトルホルダー

 注意

ふたのないペットボトルなどは置かないでください。走行中やドアを開閉するときにペットボトルなどの中身がこぼれるおそれがあります。

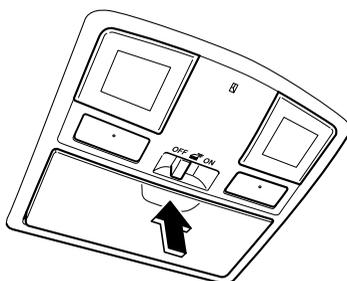
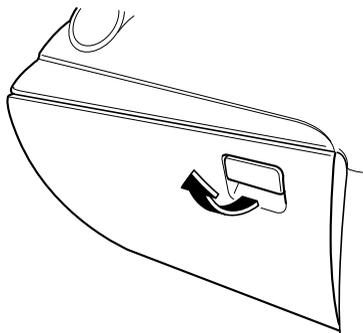
ペットボトルなどを置くことができます。

収納

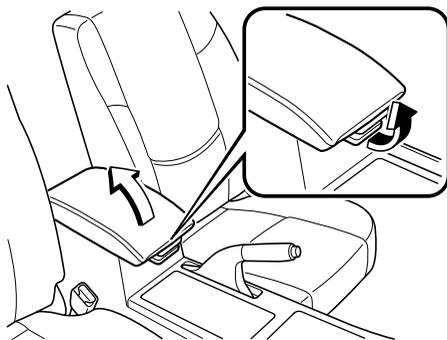
 注意

- 走行中は、収納ボックスのフタを必ず閉めてください。急ブレーキ時や衝突時に収納ボックスのフタや内部の物でけがをするおそれがあります。
- 炎天下に駐車するときは、収納ボックス内にメガネやライターを放置しないでください。収納ボックス内が高温になるため、ライターが爆発したり、プラスチックレンズ･プラスチック素材のメガネが変形･ひび割れを起こすことがあります。

オーバーヘッドコンソール

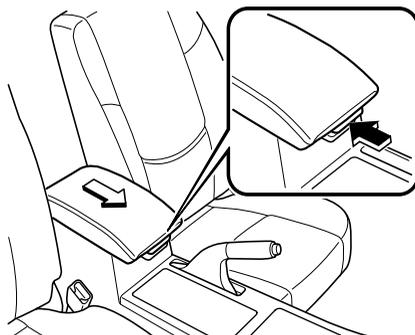
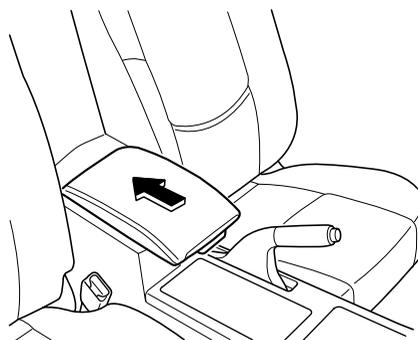
グレード/仕様別装備

メガネやサングラスなどを入れることができます。

グローブボックス

閉めるときは、カチッと音がするまでフタを確実に押さえます。

大型コンソールボックス

アームレストを引き出して使用するとき

⚠ 注意

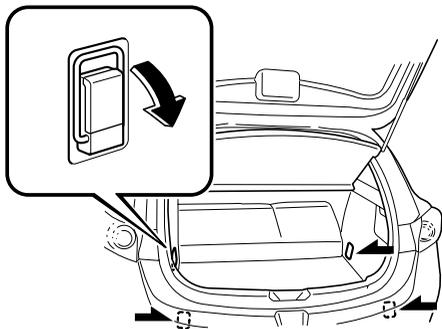
センターコンソールを開けるときはアームレストを収納してから開けてください。アームレストやセンターコンソールの破損につながるおそれがあります。

ボタンを押すと、アームレストが前方へスライドします。

収納するときは、アームレストを後方へ引きます。

ラゲッジフック (ハッチバック)

⚠ 警告

■荷物を積むときは確実に固定してください。

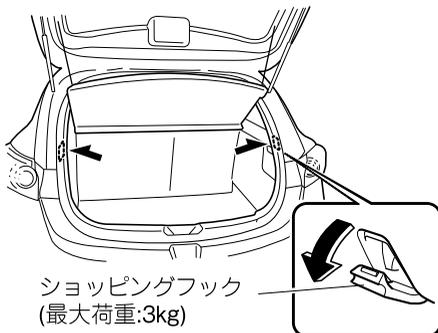
荷物を確実に固定しないと走行中に荷物が移動したりくずれたりして、けがや思わぬ事故につながるおそれがあります。

ロープやネットで荷物を固定するときに使用します。
フックの引っ張り荷重は20kgです。ロープを掛けて強く引っ張らないでください。

知識

荷物を固定するためにボードフックを使用することもできます。
→279ページ「フレキシブルフロアボード」

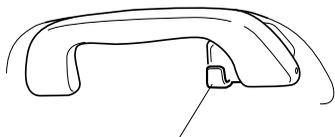
ショッピングフック(ハッチバック)

⚠ 注意

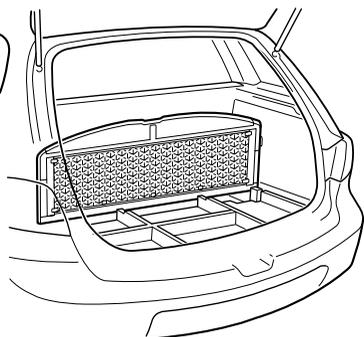
フックに最大荷重以上の物をかけないでください。フックが破損したり、かけた物がはずれたりするおそれがあります。

リヤコートフック

⚠ 警告

■アシストグリップやコートフックなどには重たいものやとがったものをかけないでください。

服などをかけるときはハンガーを使わないでください。カーテンエアバッグが膨らむときにこれらのものが飛散し、重大な傷害につながるおそれがあります。

フレキシブルフロアボード (ハッチバック)

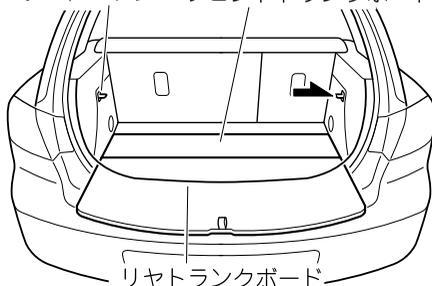
グレード/仕様別装備

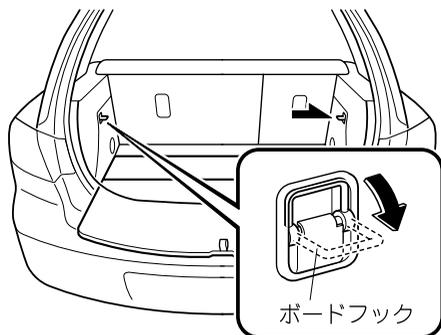
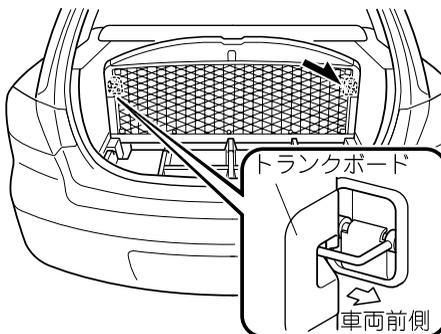
トランクボードを使用し、ラゲッジルームを前後に仕切ることができます。

⚠ 注意

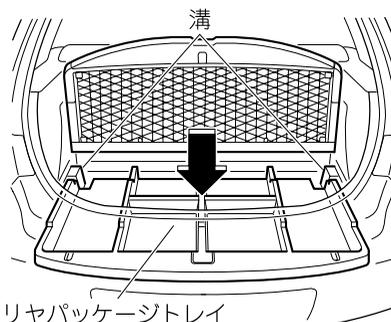
トランクボードがボードフックに確実に固定されていることを確認してください。確実に固定されていないと、走行中不意にトランクボードがはずれて、ボードフックまたはトランクボードの損傷や、けがをするおそれがあります。

 知識

ラゲッジフックのようにロープやネットで荷物を固定することもできます。ボードフックの引っ張り荷重は15kgです。ロープやネットを掛けて強く引っ張らないでください。

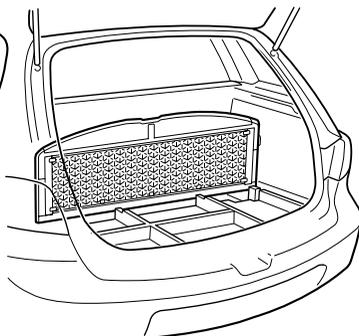
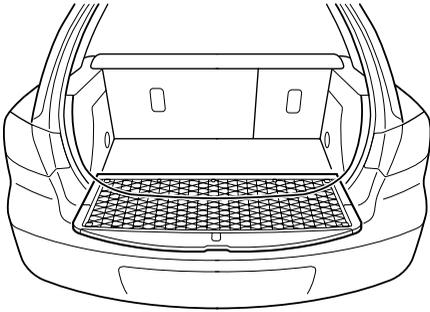
→277ページ「ラゲッジフック」

以下の手順でラゲッジルームを前後に仕切ることができます。

1 ボードフックを引き出します。

2 溝をボードフックにはめ込みます。

知識

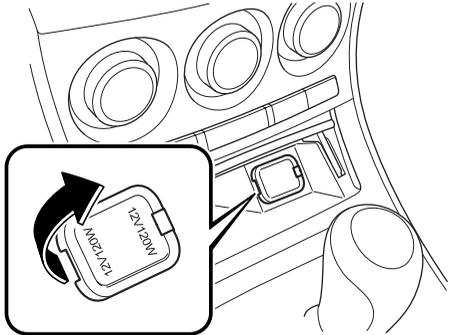
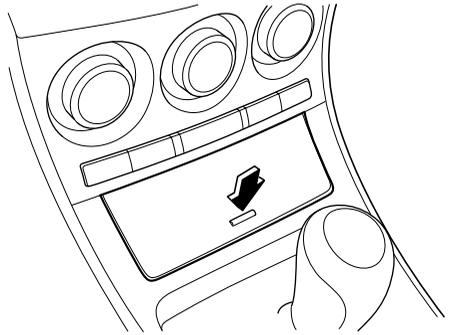
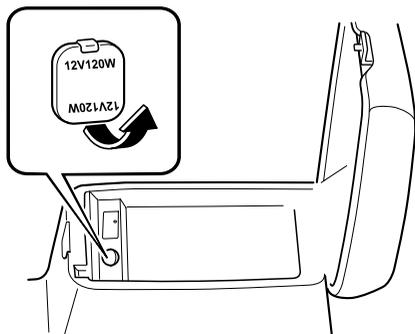
リヤトランクボードをリヤパッケージトレイの溝に入れるように作業すると、楽にはめ込むことができます。

ネットを使用するとき

トランクボード裏のネットに小物を入れることができます。

注意

トランクボードを使用し、ラゲッジルームを前後に仕切った状態でネットに重い荷物を入れたり、強くひっぱるなどして、無理な力をかけないでください。ネットが損傷するおそれがあります。

電源ソケット

電源ポジションがACCまたはONのとき、電気製品の電源として使用します。
最大消費電力120W (DC12V―10A) 以下の電気製品を使用してください。
フタを開けて使用します。

フロント

リヤ

⚠ 注意

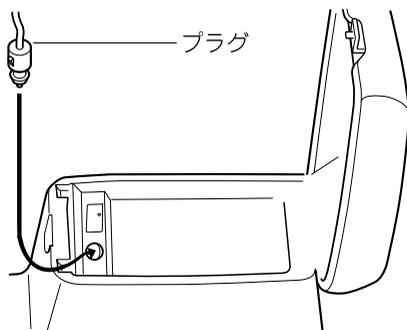
- 使用しないときは、必ずフタを閉めておいてください。ソケットに異物が入ったり、飲料水などがかかると、故障につながるおそれがあります。
- 電気製品のプラグはソケットに確実に差し込んでください。プラグが確実に差し込まれていないと、異常に発熱することがあり、ヒューズが切れるおそれがあります。
- 消費電力が120W (DC12V—10A) を超える電気製品は使用しないでください。故障につながるおそれがあります。
- 電源ソケットに接続される機器によってはオーディオおよびTVなどにノイズが発生することがあります。
- 電源ソケットに接続される製品によっては、警告灯が点灯するなど車両のシステムに影響をおよぼすおそれがあります。接続されている機器を外し、問題が改善されるか確認してください。改善された場合、機器をソケットから外したあと、電源ポジションをOFFにしてください。問題が継続する場合、マツダ販売店にご相談ください。

知識

- エンジンを停止しているときやアイドリング状態で長時間使用すると、バッテリーがあがることがあります。
- シガーライターを差し込まないでください。

接続のしかた

コンソールボックスに開いている溝から電源ソケットに接続するコードを通すことができます。

1. フタを開きます。
2. コンソールボックスに開いている溝にコードを通し、コード先端のプラグを電源ソケットに接続します。

5 万一のときは

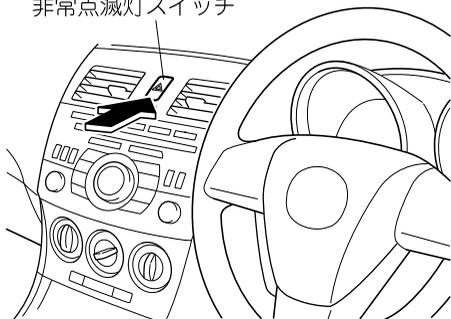
路上で故障したとき

一般の道路で動けなくなったときに付近に人がいる場合は救援を求めてください。
チェンジレバー/セレクトレバーをNにいれ、安全な場所まで押し出します。

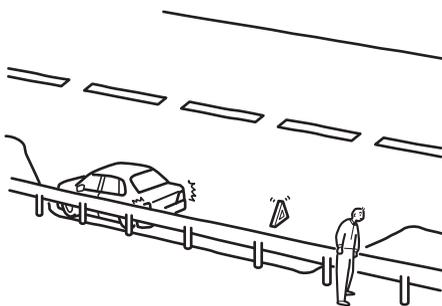
警告

■ **万一、事故や故障などで車から燃料がもれている場合は、すぐにエンジンを止めてください。**

爆発、火災につながるおそれがあり危険です。また、発炎筒は車から離れたところで使用してください。

1 車を路肩に止め、非常点滅灯を点滅させます。

2 必要に応じて停止表示板(停止表示灯)、発炎筒を使用し、後続車に故障車であることを知らせます。
→286ページ「発炎筒」

- 高速道路や自動車専用道路などでは車の後方に停止表示板または停止表示灯を置くことが法律で義務づけられています。
- 停止表示板を置くときには、発炎筒を使って合図をするなど、後続車に十分注意してください。

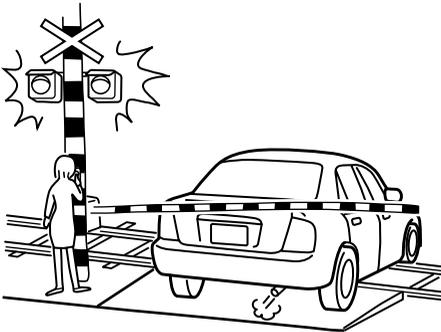
3 全員が車から降り、ガードレールの外などの安全な場所に、すみやかに避難してください。

4 安全を確保した後、救援を求めます。
故障の修理などお困りの際はマツダ販売店へ連絡してください。
別冊の「サービス網お客様相談窓口」をご覧ください。

知識

停止表示板(停止表示灯)はお客様のお車に標準で搭載されておりません。万一に備えてあらかじめ用意しておいてください。マツダ販売店でお求めいただけます。

踏切内で動けなくなったとき

脱輪などで動けなくなったとき

1 踏切の非常ボタンを押します。
緊急を要するときは、発炎筒で列車に合図します。
→286ページ「発炎筒」

2 付近の人に救援を求めます。

エンストで動けなくなったとき

1 エンジンをかけ直します。

2 エンジンがかからないときは、踏切の非常ボタンを押します。
緊急を要するときは、発炎筒で列車に合図します。
→286ページ「発炎筒」

3 付近の人に救援を求めます。
チェンジレバー/セレクトレバーをNにいれ、安全な場所まで押し出します。

知識

マニュアル車は、ギヤがはいっている状態でスターターをまわしたときに車が動き出すのを防ぐため、クラッチスタートシステムが装備されています。
→190ページ「クラッチスタートシステム」
そのため、ギヤを入れたまま電源ポジションをSTARTにし続けて車を緊急避難させることができません。

発炎筒

⚠ 警告

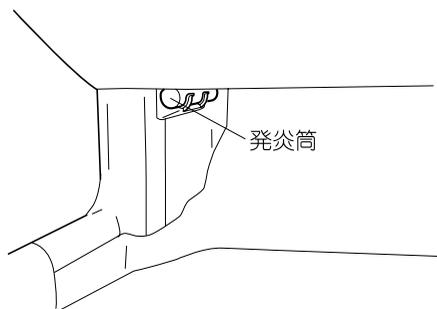
■ **油、ガソリンなど可燃物の近くでは使用しないでください。**
火災につながるおそれがあります。

■ **使用するときは筒先を顔や身体に向けたり近づけたりしないでください。**
やけどなど、重大な傷害につながるおそれがあります。

■ **お子さまにはさわらせないでください。**
誤って使用すると、やけどや思わぬ事故につながるおそれがあります。

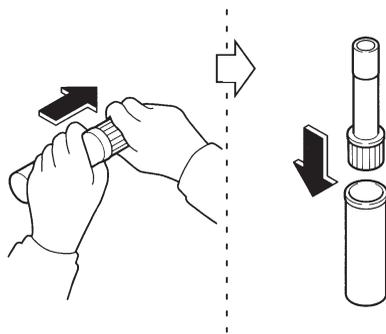
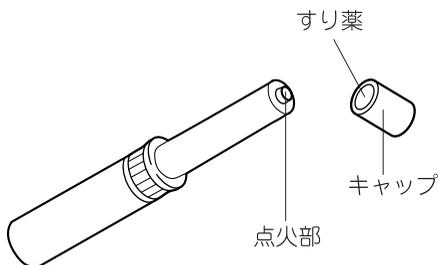
■ **トンネル内では発炎筒を使用しないでください。**
トンネル内で発炎筒を使用すると、煙で視界が悪くなるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。必要なときは非常点滅灯を使用してください。

発炎筒について

事故や故障で停車したとき、周囲に危険を知らせるために使います。

知識

- 発炎筒は点火すると、約5分間燃え続けます。
- 発炎筒には有効期限があります。発炎筒に書いてありますので確認して、有効期限がきれる前にマツダ販売店でお求めください。

発炎筒の使いかた

1 本体をひねりながら取り出し、逆にして差し込みます。

2 点火部をキャップの頭部のすり薬でこすると着火します。

工具、ジャッキ

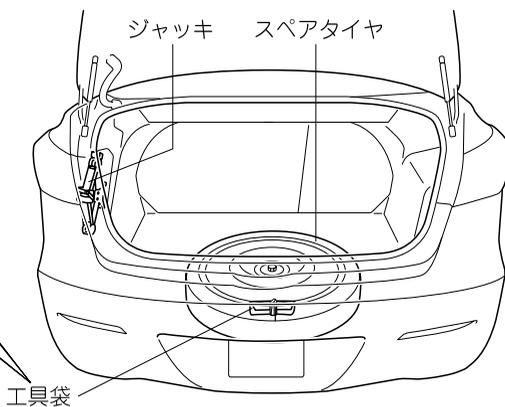
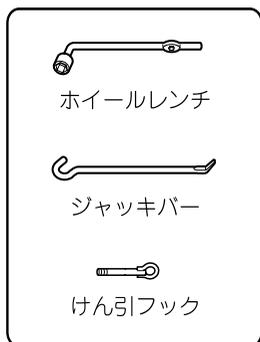
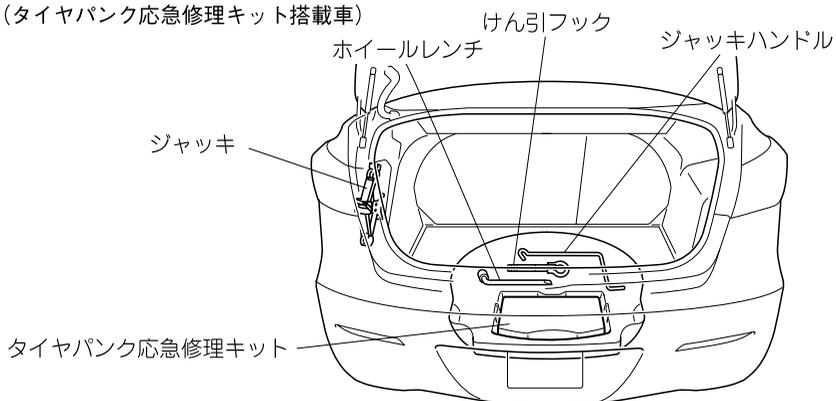
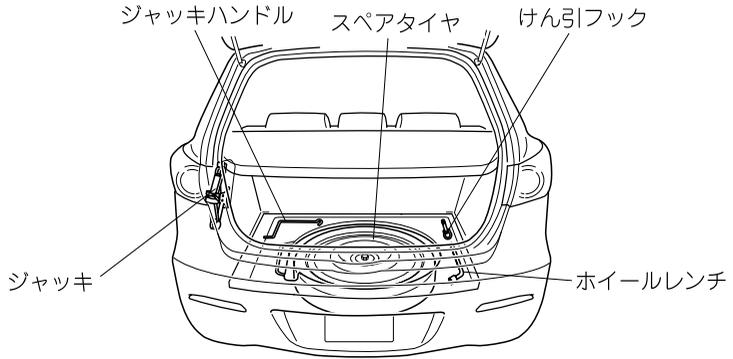
警告

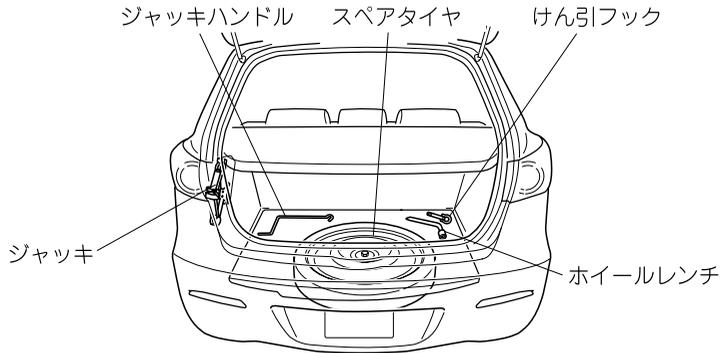
■車に搭載されているジャッキはお客様のお車専用のものです。
他の車には使用しないでください。また、他の車のジャッキや車に搭載されているジャッキ以外のジャッキをお客様のお車に使用しないでください。車体が損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあります。やむをえず、車に搭載されているジャッキ以外を使用するときは、マツダ販売店にご相談ください。

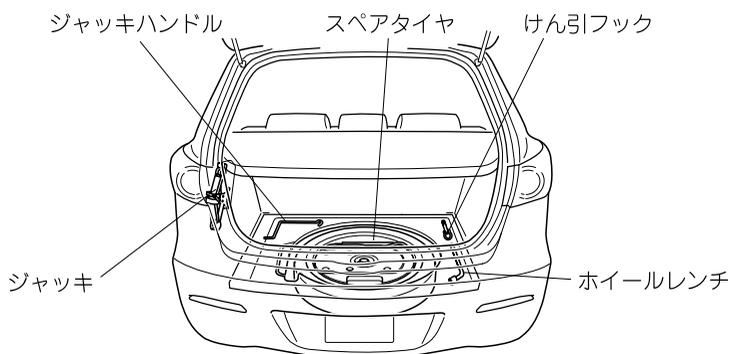
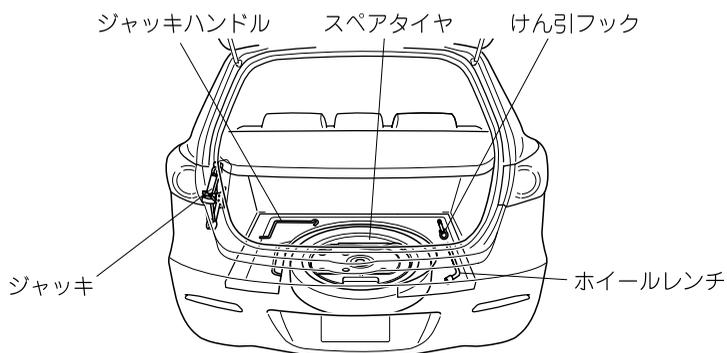
注意

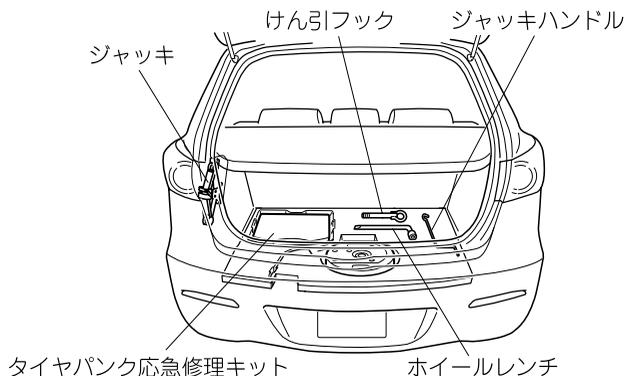
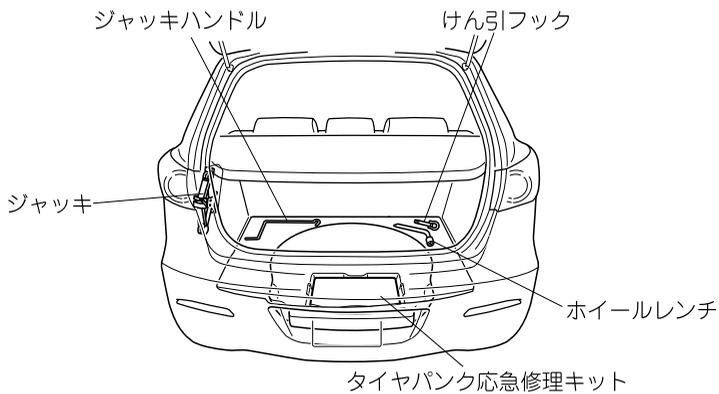
- ジャッキはタイヤ交換、タイヤチェーンの取り付け、取りはずし以外に使用しないでください。
- 工具、ジャッキを使用したあとは走行中に動かないよう、所定の位置にしっかりと固定してください。

緊急用具の取り扱い

工具、ジャッキは図の位置に格納されています。

ハッチバック
（スペアタイヤ搭載車）

Aタイプ

Bタイプ

緊急用具の取り扱い

Cタイプ

Dタイプ

（タイヤパンク応急修理キット搭載車）

Aタイプ

Bタイプ

ジャッキの取り扱い

ジャッキアップする前に

1 交通のさまたげにならず、安全に作業できる地面の平らで固い場所に車を移動します。

2 マニュアル車はチェンジレバーを1またはRに、オートマチック車はセレクトレバーをPにいれます。

3 ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキをしっかりとかけ、エンジンを止めます。

4 必要に応じて、非常点滅灯を点滅させ、停止表示板 (停止表示灯) を使用します。

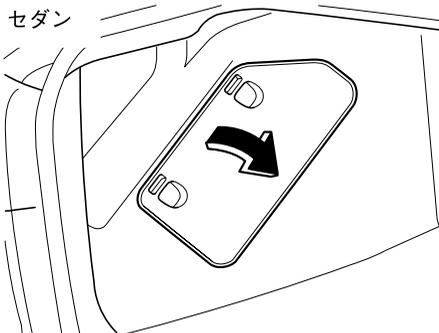
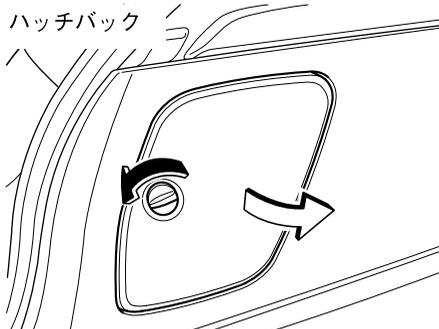
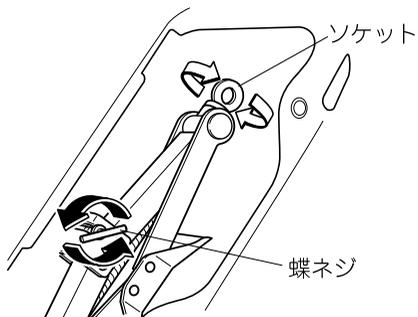
5 人や荷物を降ろし、工具、ジャッキを取り出します。
→287ページ「工具、ジャッキ」

6 輪止めを用意します。

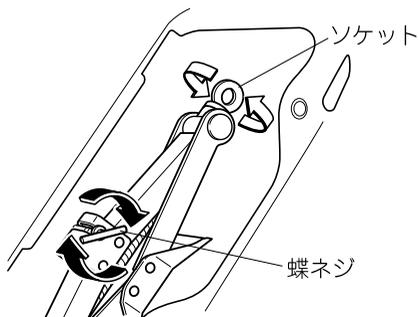
知識

輪止めや停止表示板 (停止表示灯) はお客様のお車に標準で搭載されておりません。
必要に応じてマツダ販売店でお求めください。なお、輪止めには、タイヤを固定できる大きさの石や木材が代用できます。

取り出すとき

1 カバーを取りはずします。

2 蝶ネジを左にまわしてはずし、ソケットをゆるめてジャッキを取り出します。

格納するとき

1 ソケットが上側になるような方向で蝶ネジをジャッキに差し込み、右にまわしていったん固定します。

2 ソケットを図の方向にまわします。

3 蝶ネジをしっかりまわしてジャッキを固定します。

 知識

ジャッキが完全に固定されていないときは、走行中に音がする場合があります。再度ソケットをまわしてジャッキを固定してください。

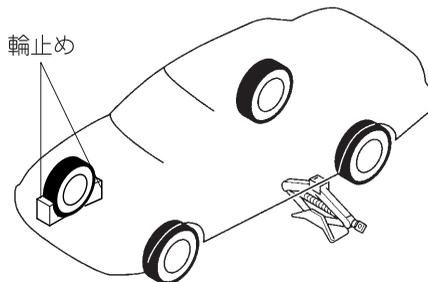
ジャッキアップするとき

 警告

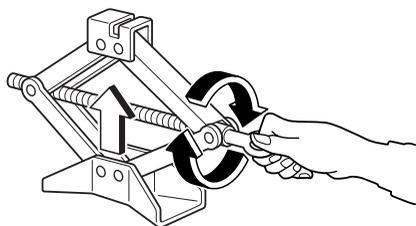
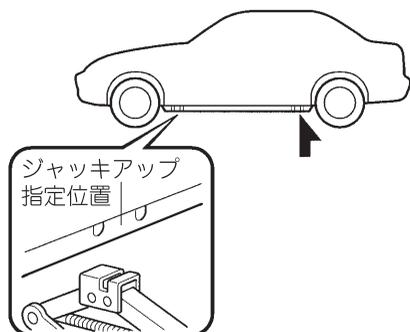
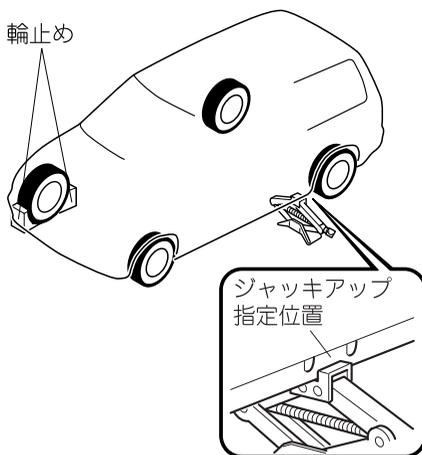
■ジャッキアップするときはマニュアル車はチェンジレバーを1またはRに、オートマチック車はセレクトレバーをPにいれ、パーキングブレーキをかけ、ジャッキをかける位置と対角の位置に輪止めをしてください。

チェンジレバーが1またはR、セレクトレバーがPにはいっていても、車が動きジャッキがはずれて思わぬ事故につながるおそれがあります。

1 パーキングブレーキをしっかりとかけ、ジャッキをかける位置と対角の位置にあるタイヤに輪止めをします。

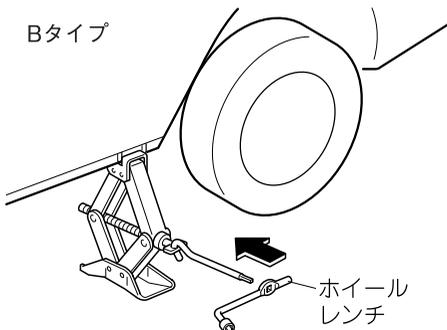
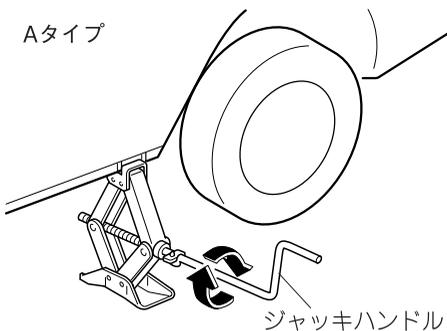
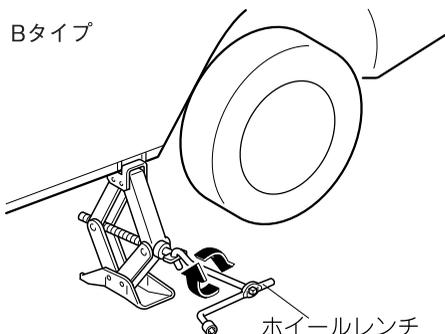
- 前輪をジャッキアップするときは、後輪の前後
- 後輪をジャッキアップするときは、前輪の前後

2 ジャッキを地面に置きます。

緊急用具の取り扱い

3 ジャッキの図の部分を手でまわしてジャッキをジャッキアップ指定位置の近くにくるよう調節します。

4 ジャッキをジャッキアップ指定位置に直角にセットします。

5 ジャッキを徐々に上げて、ジャッキアップ指定位置にジャッキがはまっていることを確認します。

⚠ 警告

■ **ジャッキアップ指定位置以外にジャッキをかけたり、ジャッキの上下に台やブロックなどを入れないでください。**

車体が変形したり、ジャッキがはずれたりして思わぬ事故につながるおそれがあります。

6 **(Aタイプ)**
ジャッキにジャッキハンドルを組み付けます。
(Bタイプ)
ジャッキにジャッキバーをかけ、ジャッキバーにホイールレンチを組み付けます。

7 タイヤが地面から少し離れるまで車をジャッキアップします。

⚠ 警告

■ 必要以上にジャッキアップしないでください。
車体が不安定になるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ ジャッキアップした状態で車のエンジンをかけないでください。
ジャッキがはずれた場合、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ ジャッキアップした車の下には絶対にはいらないでください。
万一ジャッキがはずれた場合、重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 注意

人を乗せたままジャッキアップしないでください。

スペアタイヤ

グレード/仕様別装備

タイヤパンク応急修理キット非搭載車

警告

■他のタイヤやホイールと組み合わせて使用したり、他の車に使用しないでください。

車に搭載されているスペアタイヤとホイールは、お客様のお車専用のものです。思わぬ事故につながるおそれがあります。

タイヤパンク応急修理キット搭載車

スペアタイヤはお客様のお車に標準で搭載されておりません。必要に応じてマツダ販売店でお求めください。スペアタイヤの取り扱いについては、スペアタイヤに付属の取扱説明書をご覧ください。

警告

■他のタイヤやホイールと組み合わせて使用したり、他の車に使用しないでください。

購入されたスペアタイヤとホイールは、お客様のお車専用のものです。思わぬ事故につながるおそれがあります。

応急用スペアタイヤについて

応急用スペアタイヤはパンクしたとき一時的に使用するものです。

注意

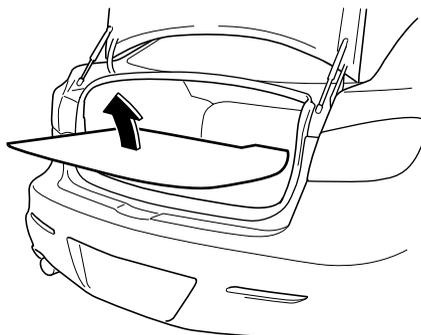
- 応急用スペアタイヤを装着したときは、100km/h以下で走行し、できるだけ早く標準タイヤに交換してください。
- 応急用スペアタイヤを装着したときは、車体が少し傾き、車高が低くなります。地面の突起物などを乗り越えるときは、車体が地面に接触しないように慎重に運転してください。
- 応急用スペアタイヤにはタイヤチェーンを装着しないでください。タイヤチェーンが車体側に当たったり、走行に悪影響をおよぼすおそれがあります。積雪路、凍結路で前輪がパンクしたときは、応急用スペアタイヤを後輪に使用し、はずした後輪を前輪につけてからタイヤチェーンを装着してください。

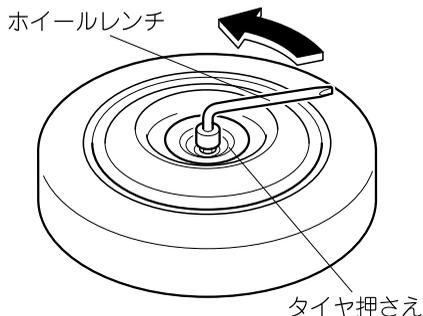
知識

- 応急用スペアタイヤの空気圧を定期的に点検してください。
  適正空気圧は420kPa (4.2kgf/cm²) です。
- 摩耗限界表示 (ウェアインジケーター) が表れたら、タイヤを交換してください。
  →359ページ「タイヤの点検」
- 応急用スペアタイヤを装着したときは、4WD警告灯が点滅します。4WD警告灯が点滅したときは、4WDは作動しませんが、前輪駆動での通常走行は可能です。
- 応急用スペアタイヤに標準タイヤのホイールキャップは取り付けできません。

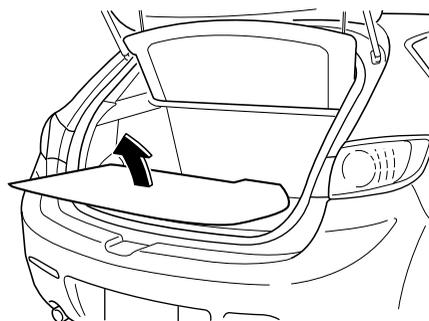
取り出すとき

セダン

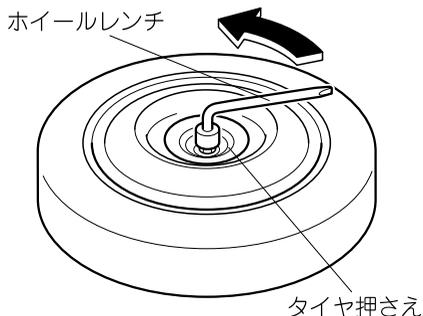
1 トランクマットを取りはずします。

2 工具袋からホイールレンチを取り出します。

3 ホイールレンチを使って固定ボルトをはずし、スペアタイヤを取り出します。

ハッチバック

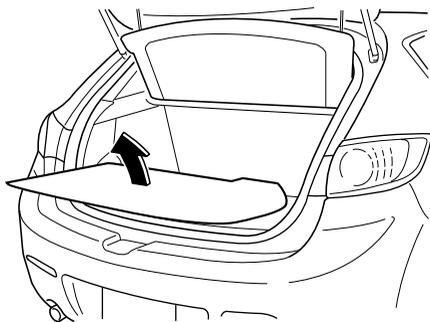
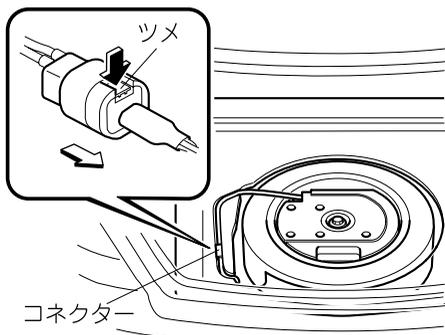
(サブウーファー非装着車)

1 トランクマットを取りはずします。

2 トランクボードからホイールレンチを取りはずします。

緊急用具の取り扱い

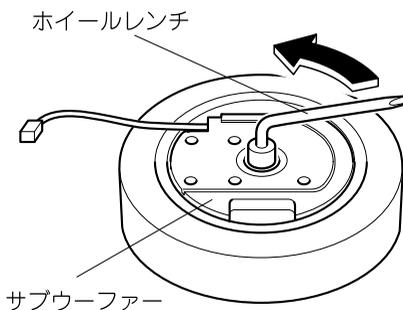
3 ホイールレンチを使って固定ボルトをはずし、スペアタイヤを取り出します。

(サブウーファー装着車)

1 電源ポジションをOFFにします。

2 トランクマットを取りはずします。

3 コネクターを取りはずします。

知識

コネクターをはずすときは力がいります。ツメの部分を強く押しながらはずしてください。

4 トランクボードからホイールレンチを取りはずします。

5 ホイールレンチを使って固定ボルトをはずし、サブウーファーとスペアタイヤを取り出します。

格納するとき

取り出すときと逆の手順で格納します。
タイヤが確実に固定されていることを確認してください。

タイヤ交換

⚠ 警告

■ タイヤを交換するときは前後輪とも必ず指定された同一サイズ、同一種類のものを使用してください。

指定された組み合わせ以外のタイヤを装着すると走行安定性が損なわれるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

 知識

タイヤサイズは、運転席ドアを開けたボディー側に貼付されているラベルで確認してください。
くわしくはマツダ販売店にご相談ください。

タイヤ交換をする前に

1 交通のさまたげにならず、安全に作業できる地面が平らで固い場所に車を移動します。

2 マニュアル車はチェンジレバーを1またはRに、オートマチック車はセレクトレバーをPにいれます。

3 ブレーキペダルを踏んだままパーキングブレーキをかけエンジンを止めます。

4 必要に応じて、非常点滅灯を点滅させ、停止表示板 (停止表示灯) を使用します。

5 人や荷物を降ろし、工具、ジャッキ、スペアタイヤを取り出します。
→287ページ「工具、ジャッキ」
→296ページ「スペアタイヤ」

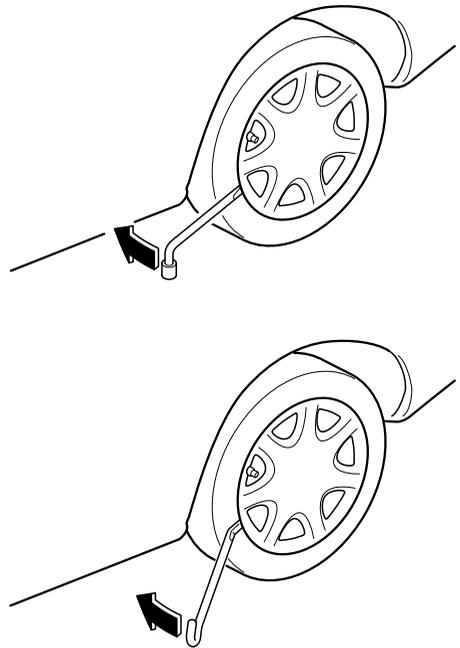
6 輪止めを用意します。

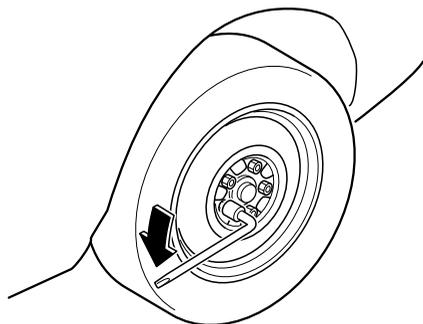
知識

輪止めや停止表示板 (停止表示灯) はお客様のお車に標準で搭載されておりません。
必要に応じてマツダ販売店でお求めください。なお、輪止めには、タイヤを固定できる大きさの石や木材が代用できます。

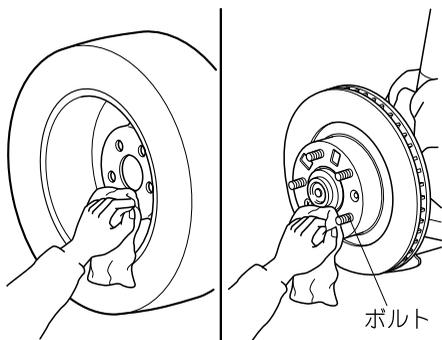
タイヤの取りはずし

1 ホイールキャップ装着車はホイールとホイールキャップの間にジャッキバー又はホイールレンチの端を入れ、図のようにこじりながらホイールキャップをはずします。

必読！
安全装備
操作と取り扱い
快適カーライフ
万一のとき
車との上手なつきあいかた
サービスデータ
さくいん

パンクしたとき

2 ホイールレンチでナットを左に約1回転まわしてゆるめます。

3 タイヤが地面から少し離れるまで車をジャッキアップします。
→293ページ「ジャッキアップするとき」

4 ナットをはずし、タイヤを取りはずします。

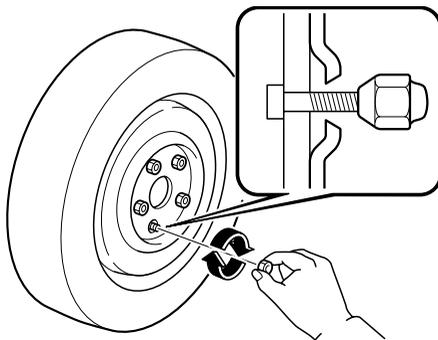
5 ボルトとホイール裏側の接触面に付着している汚れを布などでふき取ります。

⚠ 警告

■ **ボルトやホイール裏側の接触面が汚れていないことを確認してください。**

ボルトやホイール裏側の接触面がホコリなどで汚れていると、走行中にナットがゆるみタイヤがはずれ、思わぬ事故につながるおそれがあります。

タイヤの取り付け

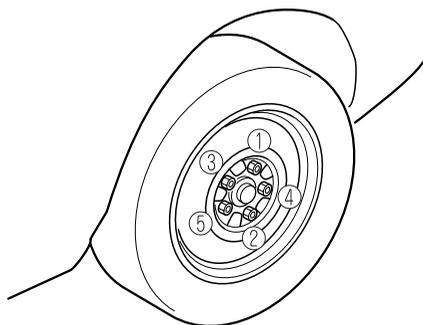
1 タイヤをスペアタイヤに取り替えます。

2 タイヤを取り付けてから、ナットのテーパー部がホイールのシート部に軽くあたる程度まで、ナットを右にまわして仮締めします。

⚠ 警告

■ **ナットやボルトにオイルやグリースをぬらないでください。**

ナットがゆるんでタイヤがはずれ、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、必要以上に締め付けられて、ナットやボルトが破損するおそれがあります。

3 ジャッキハンドルを左にまわし、車をおろします。

4 ホイールレンチで図の番号順にナットを2〜3回に分けて締め付けます。

ナットの締め付けトルク:

N·m (kgf·m)	88〜118 (9〜12)

 注意

ホイールレンチを足で踏んでナットを必要以上に締め付けないでください。ボルトが破損するおそれがあります。

タイヤを交換した後は

セダン

1 交換したタイヤは、トランクルームに格納します。

 知識

標準タイヤはボルトを使ってトランクルーム内に固定することができません。

2 輪止めをはずし、工具、ジャッキを格納します。
→287ページ「工具、ジャッキ」

 知識

タイヤ交換に応急用スペアタイヤを使用した場合は、できるだけ早く標準タイヤに交換してください。

ハッチバック

1 交換したタイヤは、ラゲッジルームに格納します。

 知識

- 標準タイヤはボルトを使ってラゲッジルーム内に固定することができません。
- スペアタイヤをラゲッジルーム内に固定していない状態で、サブウーファーを取り付けることはできません。

2 輪止めをはずし、工具、ジャッキを格納します。
→287ページ「工具、ジャッキ 」

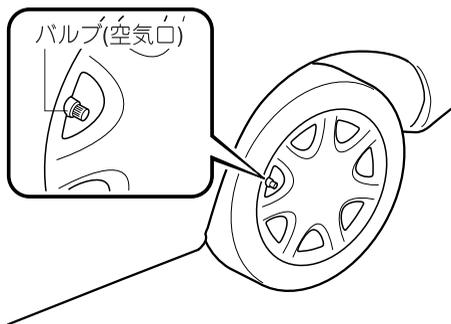
 知識

タイヤ交換に応急用スペアタイヤを使用した場合は、できるだけ早く標準タイヤに交換してください。

必読!
安全装備
操作と取り扱い
快適カーライフ
万一のとき
車との上手なつきあいかた
サービスデータ
さくいん

パンクタイヤを修理した後は

1 応急用スペアタイヤを取りはずし、標準タイヤを取り付けます。

2 ホイールキャップ装着車はバルブ (空気口) とホイールキャップの切り欠きを合わせて取り付けます。

3 応急用スペアタイヤを格納します。

知識

- 標準タイヤに交換してから約1,000km走行した後、ナットにゆるみが無いことを確認してください。
- 標準タイヤに交換した後はホイールバランスが狂うことがあります。走行中に車体の振動などの異常を感じたら、マツダ販売店で点検を受けてください。

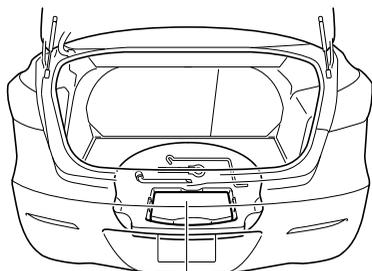
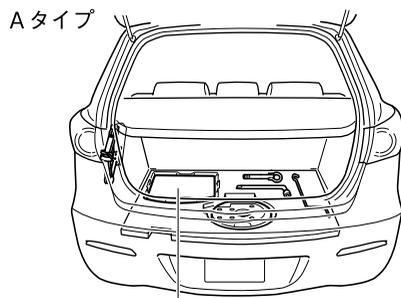
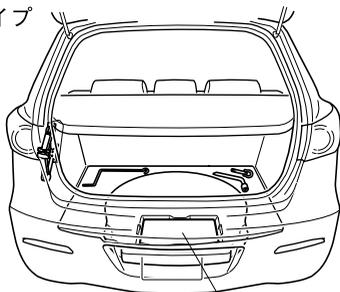
タイヤパンク応急修理キット

グレード/仕様別装備

本キットはタイヤの接地面に刺さった釘やネジなどによる軽度のパンクを一時的に修理するものです。
タイヤパンク応急修理キットは図の位置に格納されています。

セダン

ハッチバック

Aタイプ

Bタイプ

知識

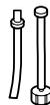
- お客様のお車にはスペアタイヤが標準で搭載されておりません。タイヤがパンクしたときは、タイヤパンク応急修理キットを使用し、パンクタイヤを一時的に修理してください。修理するときは、タイヤパンク応急修理キット内に付属している取扱説明書もあわせてご覧ください。
- タイヤパンク応急修理キットで応急修理をしたタイヤは、新しいタイヤに交換することをおすすめします。修理·再使用については、マツダ販売店にご相談ください。

タイヤパンク応急修理キットについて

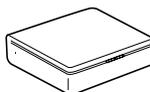
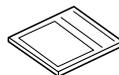
タイヤパンク応急修理キット内には、次のものが格納されています。

修理剤

延長ホース/注入ホース

エアコンプレッサー

予備バルブコア

コア回し

パンク修理剤注入済みシール

ケース

取扱説明書

速度制限シール

パンクしたとき

⚠ 警告

■ **万一飲用したときは、すぐに多量の水を飲み、応急処置が済んだら、医師の診察を受けてください。**

修理剤を飲用すると健康に害があります。

■ **修理剤が目に入ったり、皮膚に付着したときは、すぐに多量の水で洗浄してください。**

それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。

■ **お子さまには修理剤をさわらせないでください。**

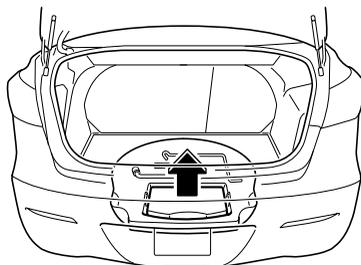
誤って使用すると、やけどや思わぬ事故につながるおそれがあります。

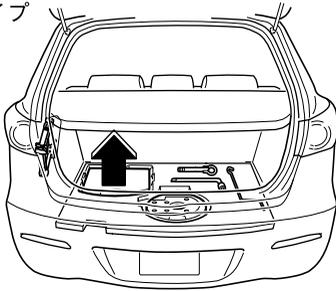
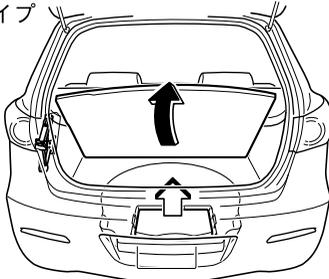
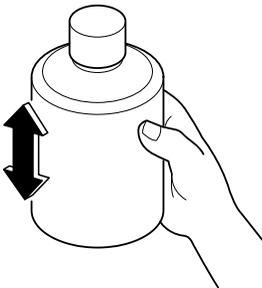
知識

- 一度使用した修理剤は再使用できません。新しい修理剤をマツダ販売店でお求めください。
- 次のようなときには、修理剤を使用することができません。マツダ販売店またはJAFなどに連絡してください。
  - 修理剤の有効期限がきれているとき (有効期限はボトルのラベルに記載されています)
  - 約4mm以上の切り傷や刺し傷があるとき
  - 接地部以外が損傷を受けたとき
  - ほとんど空気の抜けた状態で走行したとき
  - タイヤがホイールからはずれているとき
  - ホイールが破損しているとき
  - タイヤが2本以上パンクしているとき

タイヤパンク応急修理キットの使いかた

1. 交通のさまたげにならず、安全に作業できる地面の平らで固い場所に車を移動します。
2. マニュアル車はチェンジレバーを1またはRに、オートマチック車はセレクトレバーをPにいれます。
3. ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキをかけ、エンジンを止めます。
4. 必要に応じて、非常点滅灯を点滅させ、停止表示板 (停止表示灯) を使用します。
5. 人や荷物を降ろし、タイヤパンク応急修理キットを取り出します。

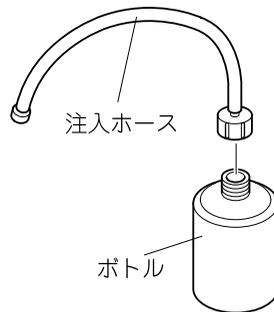
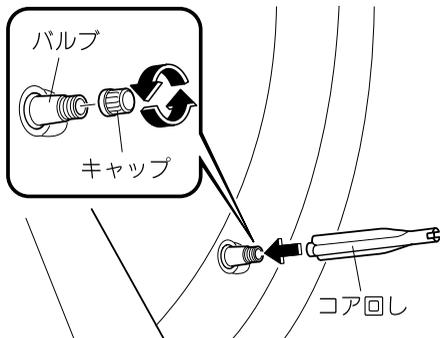
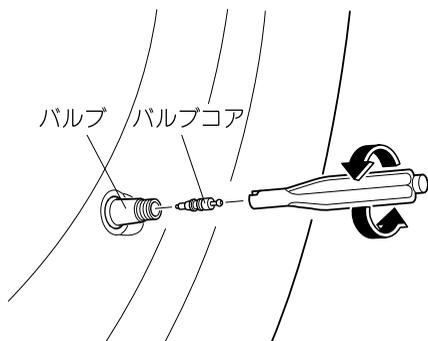
セダン

ハッチバック

Aタイプ

Bタイプ

6 修理剤のボトルをよく振ります。

⚠ 注意

注入ホースをねじ込んだ後にボトルを振ると、修理剤が注入ホースから飛び散るおそれがあります。修理剤が衣服などに付着すると取れないおそれがありますので、注入ホースをねじ込む前にボトルを振ってください。

 知識

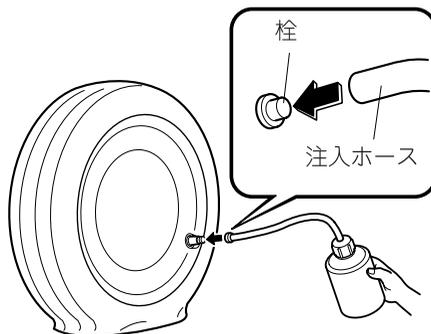
0°C以下の寒冷時では修理剤が固まりやすくなり、注入作業がしにくくなります。車内などで暖めると注入作業がしやすくなります。

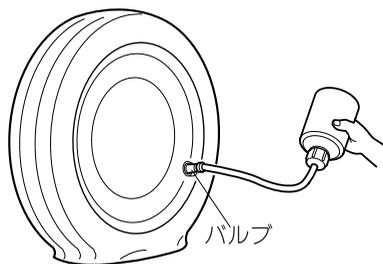
7 ボトルのキャップをはずします。内ぶたをつけたままの状態で注入ホースをボトルにねじ込むと、ボトルの内ぶたが破れます。

8 パンクしたタイヤのバルブからキャップを取りはずし、コアまわしの後ろでバルブ内のバルブコアを押してタイヤの空気を完全に抜きます。

9 コアまわしでバルブコアを左にまわし、バルブコアを取りはずします。

注意

バルブコアをはずすとき、タイヤに空気が残っているとバルブコアが飛び出すおそれがあります。バルブコアは慎重に取りはずしてください。

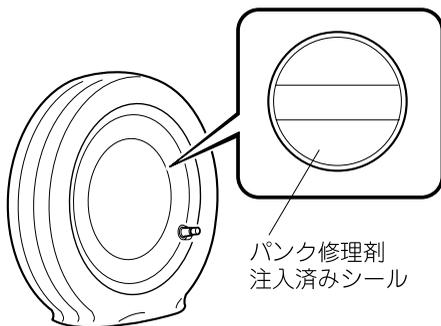
知識

バルブコアは汚れないように保管してください。

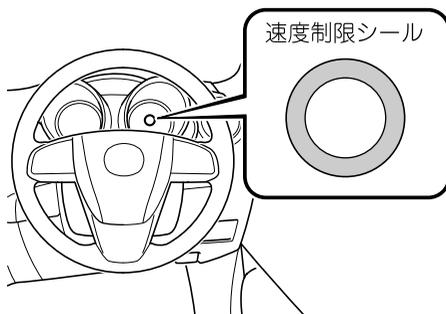
10 注入ホースの栓をはずし、注入ホースをバルブに差し込みます。

11 ボトルを逆さまにして持ち、手でボトルを圧迫し、修理剤を全てタイヤの中に注入します。

知識

一度使用した修理剤は再使用できません。新しい修理剤をマツダ販売店でお求めください。

12 注入ホースをバルブから引き抜き、コアまわしでバルブコアを右にまわし、バルブにバルブコアを取り付けます。

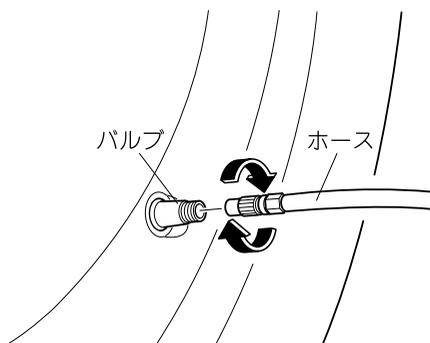
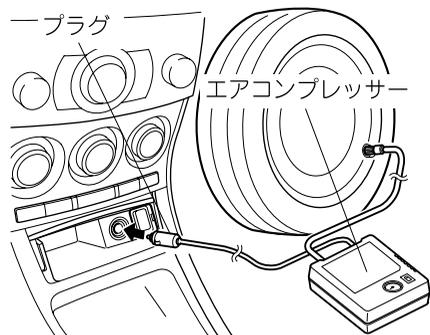
13 パンク修理剤注入済みシールをホイールの平らなところに貼ります。

知識

注入が完了した空ボトルは、タイヤ交換または恒久修理の際に修理剤の回収に使用しますので、ボトルは捨てずにマツダ販売店までお持ちください。

14 運転者のよく見えるところに速度制限シールを貼ります。

警告

■ハンドルのパッド部に制限速度シールを貼らないでください。

万一の場合エアバッグが正常に作動しなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。また、警告灯やスピードメーターが見えなくなる位置には貼らないでください。

15 エアコンプレッサーのホースをバルブに取り付けます。

16 エアコンプレッサーのプラグを車内の電源ソケットに差し込み、電源ポジションをACCにします。

⚠ 注意

- **電源ソケットにエアコンプレッサーのプラグを抜き差しするときは、エアコンプレッサーのスイッチがOFFになっていることを確認してください。**
- **エアコンプレッサーのON、OFFはエアコンプレッサー本体のスイッチで行なってください。**

17 エアコンプレッサーのスイッチをONにして、タイヤを適正空気圧まで昇圧します。

知識

- タイヤの適正空気圧は運転席ドアを開けたボディー側に貼付されているラベルで確認してください。
- エアコンプレッサーは長時間使用すると故障につながるおそれがありますので、10分以上連続して作動させないでください。
- タイヤ空気圧が昇圧できない場合は修理できません。もし、10分以内に適正空気圧にならなければ、タイヤがひどい損傷を受けている可能性があります。この場合は、本修理キットで応急修理することができません。マツダ販売店またはJAFなどに連絡してください。
- 空気を入れすぎたときはエアコンプレッサーのホースの口金を緩めて空気を抜いてください。

18 適正空気圧まで昇圧できたら、エアコンプレッサーのスイッチをOFFにしエアコンプレッサーのホースをバルブから抜きます。

19 バルブキャップを取り付けます。

20 修理剤をタイヤ内にゆきわたらせるため、直ちに走行を始めます。

⚠ 注意

80km/h以下の速度で慎重に運転してください。80km/h以上の速度で走行した場合、車体が振動することがあります。

21 10分間もしくは5km程度走行後に手順15の方法でタイヤにエアコンプレッサーを接続し、エアコンプレッサーに付属している空気圧計でタイヤ空気圧をチェックします。適正空気圧より低下していたら、手順16の作業から再度行ないます。

⚠ 警告

■ **空気圧が130kPa (1.3kgf/cm^2) 以下に低下していたら、本修理キットによる応急修理はできません。**

運転を中止してマツダ販売店またはJAFなどに連絡してください。

■ **手順15～21の作業を繰り返しても、空気圧の低下が認められる場合は、運転を中止してください。**

マツダ販売店またはJAFなどに連絡してください。

知識

タイヤ空気圧を空気圧計で確認するときは、エアコンプレッサーのスイッチをOFFにしてから確認してください。

22 空気圧が低下していなければ、応急修理完了です。

すみやかにマツダ販売店まで慎重に運転し、タイヤの交換を行なってください。

知識

- タイヤパンク応急修理キットで応急修理をしたタイヤは、新しいタイヤに交換することをおすすめします。修理･再使用については、マツダ販売店にご相談ください。
- ホイールは付着した修理剤をふき取れば再使用できます。ただし、バルブは新しいものと取り替えてください。

タイヤパンク応急修理キットの点検

タイヤパンク応急修理キットの点検は定期的に行なってください。

- 修理剤の有効期限の確認
- コンプレッサーの作動の確認

知識

修理剤には有効期限があります。有効期限がきれたものは使用できませんので、ボトルのラベルに記載されている有効期限を確認し、有効期限がきれる前にマツダ販売店で新しい修理剤をお求めください。

オーバーヒートしたとき

オーバーヒートについて

次のようなときは、オーバーヒートです。

- 高水温警告灯 (赤) が点灯し、エンジンの出力が急に低下したとき。
- エンジンルームから蒸気が出ているとき。

⚠ 警告

■エンジンルームから蒸気が出ているときは、ボンネットを開けないでください。

エンジンルーム内が熱いとき、ボンネットを開けると、蒸気や熱湯が噴き出してやけどなど、重大な傷害につながるおそれがあります。また、蒸気が出てない場合でも高温になっている部分があります。ボンネットを開けるときは十分に注意してください。

■ エンジンが十分に冷えるまではリザーバータンクのキャップを開けないでください。

エンジンが熱いときにキャップをはずすと、蒸気や熱湯が噴き出してやけどなど、重大な傷害につながるおそれがあります。

■ エンジンルーム内を点検するときは、ファンやベルトなどの回転部に触れないようにしてください。

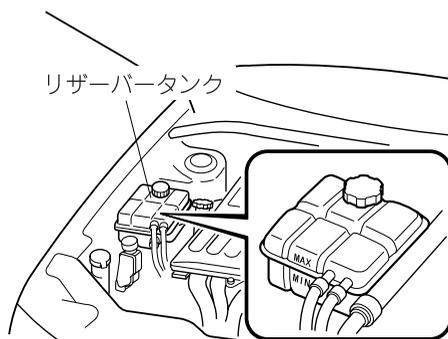
特に、エンジンルームが高温のときは、エンジンが止まっていてもファンが回転することがあるため、手や指などが巻き込まれるなど、重大な傷害につながるおそれがあります。

処置方法

1. 安全な場所に車を止めます。
2. エンジンルームから蒸気が出ていないかどうかを確認します。
   エンジンルームから蒸気が出ていないときは
   エンジンをかけたままボンネットを開け、エンジンを冷やします。
   エンジンルームから蒸気が出ているときは
   エンジンを止めてください。蒸気が出なくなるまで待ち、風通しをよくするためにボンネットを開け、エンジンを始動してください。
3. 電動ファンが作動していることを確認し、高水温警告灯 (赤) が消灯したらエンジンを止めます。

⚠ 注意

電動ファンが作動していないときは、エンジン温度がさらに上昇します。ただちにエンジンを止め、マツダ販売店にご連絡ください。

4. エンジンが十分に冷えてから、冷却水の量を点検します。量が不足しているときはリザーバータンクに冷却水を補充してください。

警告

■ **エンジンが十分に冷えるまではラジエーターとリザーバータンクのキャップを開けないでください。**

エンジンが熱いときにキャップをはずすと、蒸気や熱湯が噴き出してやけどなど、重大な傷害につながるおそれがあります。

知識

- 冷却水がない場合は、一時的に水を補充してください。
  一時的に水だけを補充したときは、冷却水の濃度をもとにもどしてください。
- 冷却水を補充しても少なくなるときは、冷却水のもれが考えられます。早めにマツダ販売店で点検を受けてください。

バッテリーがあがったとき

バッテリーあがりについて

次のような状態はバッテリーあがりです。

- スターターがまわらない。またはまわっても回転が弱く、なかなかエンジンがかからない。
- ホーンの音が小さい、または鳴らない。
- ランプ類がいつもより極端に暗い。

 警告

正しく安全にバッテリーを取り扱うために、バッテリー使用前または点検前には必ず次の注意事項をお読みください。

■バッテリーを取り扱うときは必ず保護メガネを着用してください。
バッテリー液には有毒で腐食性の高い希硫酸が含まれており、目に入ると失明など重大な傷害につながるおそれがあります。また、バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあります。

■バッテリーを取り扱うときはバッテリー液をこぼさないでください。
バッテリー液には有毒で腐食性の高い希硫酸が含まれており、目や皮膚に付着すると重大な傷害につながるおそれがあります。万一付着したときは、すぐに多量の水で洗浄し、応急処置が済んだら、医師の診察を受けてください。

■バッテリーの近くでお子さまを遊ばせないでください。
バッテリー液には有毒で腐食性の高い希硫酸が含まれており、目や皮膚に付着すると重大な傷害につながるおそれがあります。

■バッテリーを取り扱うときは、絶対に火気を近づけないでください。
バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険です。火気の発生を防ぐため、+ 端子や− 端子に工具などの金属部分が触れないようにしてください。また、ブースターケーブルの接続、取りはずしのときは、+ 端子がボディーや− 端子に触れないように十分注意してください。

■換気の悪い場所では、バッテリーの充電を行なわないでください。
バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険です。

■ブースターケーブルを使用してエンジンを始動する前に必ずバッテリー液の量を点検してください。
バッテリー液の量が下限 (LOWER LEVEL) より不足している状態でエンジンを始動すると、破裂 (爆発) につながるおそれがあり危険です。バッテリー液が不足しているときは、エンジン始動前に必ず補充液または蒸留水を補充してください。

処置方法

押しがけによる始動はできません。
別売のブースターケーブルを使用して、救援車 (他の車) のバッテリーと自車のバッテリーを接続してエンジンをかけます。
自車と同じ12Vバッテリーを搭載した救援車を依頼してください。

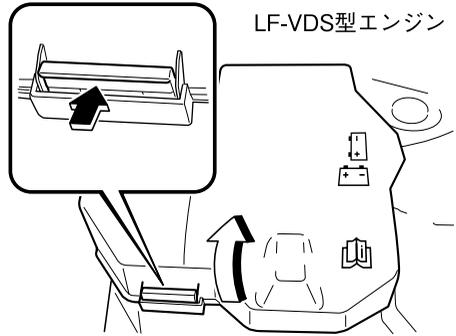
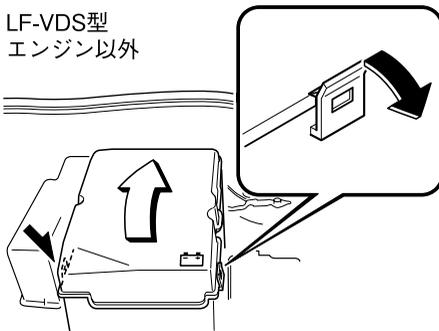
⚠ 注意

ブースターケーブルを接続するときは慎重に行なってください。ブースターケーブルがベルトなどの回転部に巻き込まれるおそれがあります。

1 自車のバッテリーと救援車のバッテリーが一番近い位置になるように、車を移動させます。

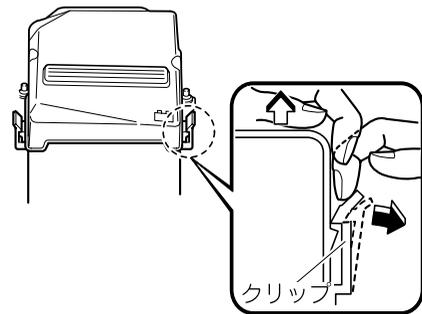
2 ヘッドランプやエアコンなどの電源が切ってあることを確認します。

3 バッテリーカバーを取りはずします。

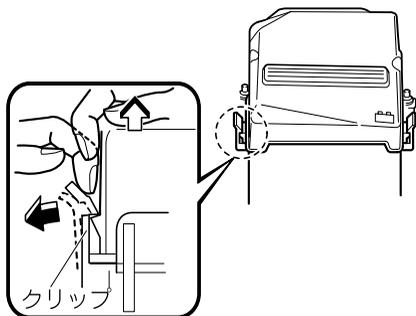
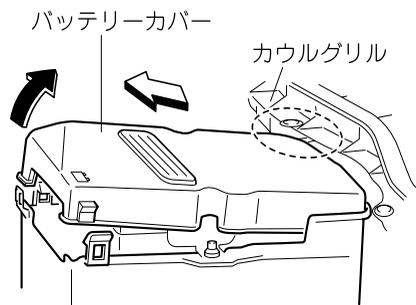
LF-VDS型
エンジン以外

LF-VDS型エンジン

⚠ 注意

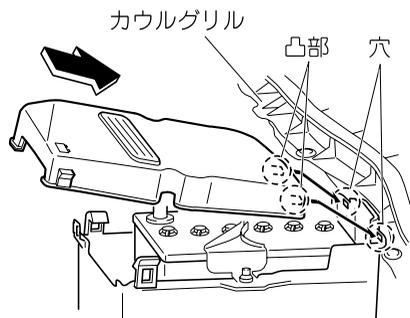
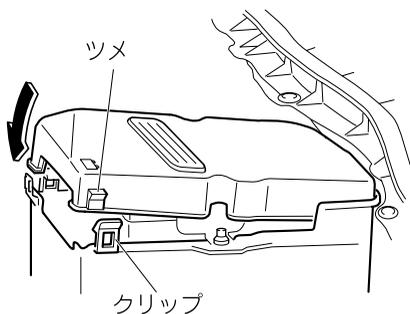
バッテリーカバーを取りはずす場合はドライバーやプライヤーなど、力のかかる工具を使わないでください。クリップに無理な力をかけると破損するおそれがあります。
破損や傷つきを防止するため、次の手順で脱着してください。
<u>取りはずすとき</u>

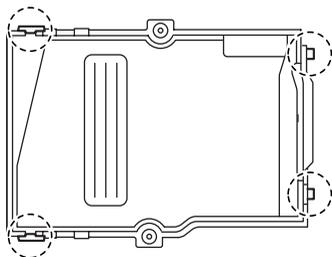
1 車両外側のクリップをゆっくり4mm程度広げ、バッテリーカバーを持ちあげてロック部分を解除します。

バッテリーがあがったとき

⚠ 注意

2　車両内側のクリップをゆっくり4mm程度広げ、バッテリーカバーを持ちあげてロック部分を解除します。

3　バッテリーカバーを、カウルグリルにあたらないよう持ちあげて、引き抜きます。

⚠ 注意

取り付けるとき

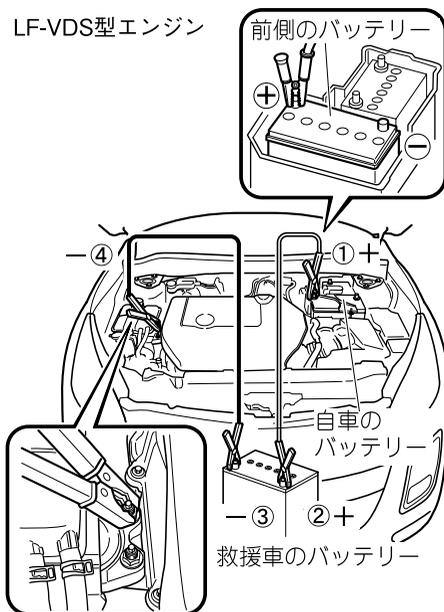
1　カウルグリルにあたらないよう注意しながら、バッテリートレイの穴にバッテリーカバーの凸部を挿しこみます。

2　バッテリーカバーのツメをクリップに取り付けます。

⚠ 注意

- **バッテリーカバーを取り付けたあとは、カバーが確実に固定されていることを確認してください。確実に固定されていないと走行中他の装置と接触し故障につながるおそれがあります。**

4 救援車のエンジンを止めて、ブースターケーブルを次の順で接続します。
ブースターケーブルを接続する前に各バッテリーの端子 (＋ 、−) の位置を確認してください。

1本目
① 自車のバッテリーの＋ 端子
② 救援車のバッテリーの＋ 端子

2本目
③ 救援車のバッテリーの− 端子
④ 図で表示の箇所 (アースを取る)

LF-VDS型エンジン以外

LF-VDS型エンジン

⚠ 警告

■ **バッテリーを取り扱うときは、絶対に火気を近づけないでください。**

バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険です。
また、火花の発生を防ぐため次の点を必ず守ってください。

- **④ の接続は自車バッテリーの− 端子につながないでください。**
- **ブースターケーブルの接続、取りはずしのときは、＋ 端子がボディーや− 端子に触れないように十分注意してください。**

5 救援車のエンジンをかけ、エンジン回転数を高めにします。

バッテリーがあがったとき

6 自車のエンジンをかけます。約3分間エンジンを回転させて、応急的に自車のバッテリーを充電します。

⚠ 警告

■充電中はバッテリーに近づかないでください。

バッテリー液は希硫酸です。目や皮膚に付着すると重大な傷害につながるおそれがあります。万一付着したときは、すぐに多量の水で洗浄し、応急処置が済んだら、医師の診察を受けてください。

7 ブースターケーブルを接続したときと逆の順で取りはずします。

8 早めにマツダ販売店で点検を受けてください。

知識

バッテリーがあがりやすいときは、マツダ販売店で点検を受けてください。

ランプ類、電気装置が作動しないとき

ランプ類が点灯しないときや電気装置が作動しないときは、ヒューズ切れや電球切れが考えられます。
まずヒューズを点検し、必要に応じて交換してください。

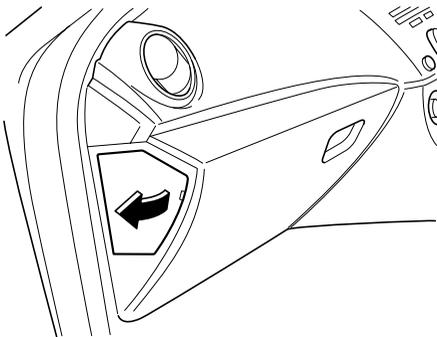
知識

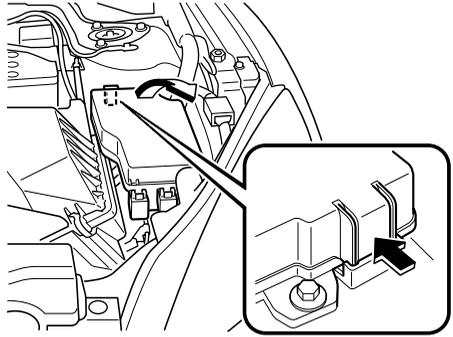
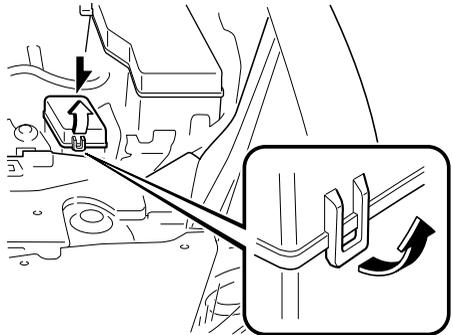
ヒューズは電気装置を過負荷から保護する働きをしています。

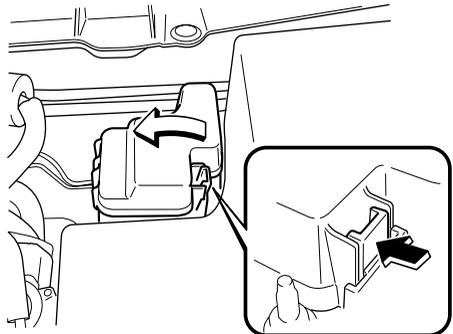
ヒューズの交換

1 電源ポジションをOFFにします。

2 ヒューズボックスのカバーを開きます。
ヒューズボックスは助手席グローブボックスの左横と、エンジンルーム内にあります。

室内ヒューズボックス

エンジンルーム内

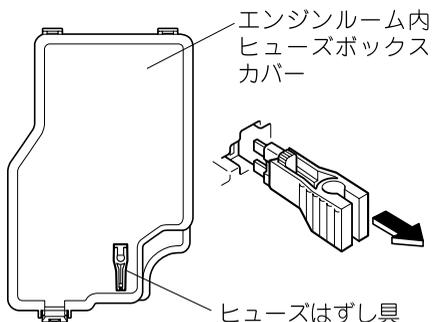
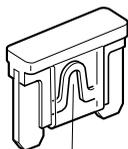
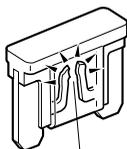
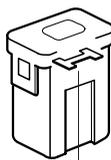
ヒューズボックス

リレーボックス (Z6-VE型エンジン、ZY-VE型エンジン)

リレーボックス (LF-VDS型エンジン)

必読！
安全装備
操作と取り扱い
快適カーライフ
万一のとき
車との上手なつきあいかた
サービスデータ
さくいん

ヒューズ切れ、電球切れのとき

知識

- 各ヒューズはグレードや仕様により無い場合があります。
- エンジンルーム内ヒューズボックスのカバーの裏側、室内ヒューズボックスのカバー表側に各ヒューズの規定容量が表示されています。

3 ヒューズの位置を確認し、故障の状況から、点検すべきヒューズを確認してください。
→334ページ「ヒューズの受け持つ装置」

4 ヒューズを抜き取ります。

5 ヒューズを点検し、切れている場合は、規定容量のヒューズと交換します。

警告

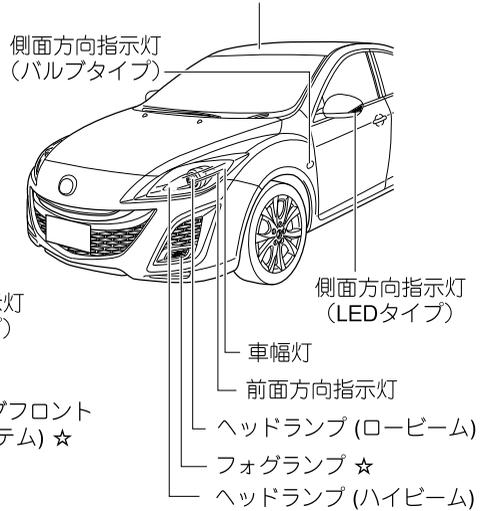
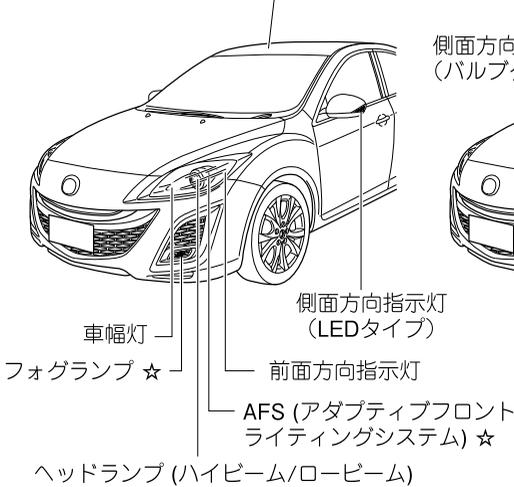
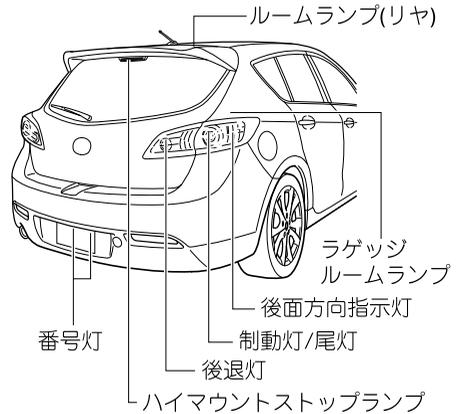
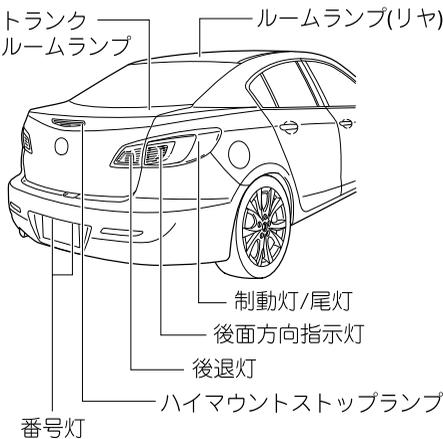
■規定容量を超えるヒューズを使用したり、ヒューズの代わりに針金や銀紙などを使用しないでください。

配線などが過熱し、焼損して火災になるおそれがあります。

知識

- ヒューズが切れていないとき、またはヒューズを交換してもランプ類が点灯しないときは、電球切れが考えられます。電球を点検し、切れているときは交換してください。
- ヒューズが切れていないとき、またはヒューズを交換しても電気装置が作動しないときは、マツダ販売店で点検を受けてください。
- ヒューズを交換してもすぐ切れる場合は、マツダ販売店で点検を受けてください。

電球(バルブ)の交換

ディスチャージヘッドランプ/AFS (アダプティブフロントライティングシステム) 装備車　　ハロゲンヘッドランプ装備車

セダン　　ハッチバック

☆印はグレードや仕様変更などにより装備の有無が異なります。

ヒューズ切れ、電球切れのとき

ヒューズが切れていないのにランプ類が点灯しないときは、電球切れが考えられます。電球を点検し、切れているときは交換してください。記載されていない電球の交換については、マツダ販売店にご相談ください。

警告

■ディスチャージヘッドランプの交換･修理をするときは、必ずマツダ販売店へご相談ください。

ヘッドランプにはディスチャージヘッドランプまたはハロゲンヘッドランプが装備されています。ディスチャージヘッドランプは高電圧を使用しているため、取り扱いを誤ると感電するおそれがあります。

注意

- **電球を交換するときは、各ランプを消灯させ、電球が冷えてから交換してください。やけどをするおそれがあります。**
- **電球および電球固定具の取り付けは確実に行なってください。確実に取り付けされていないと、水入りなどによる故障およびレンズ内面の曇りにつながるおそれがあります。**
- **ハロゲン球はガラス内部の圧力が高いため、落としたり、物をぶつけたり、傷をつけたりすると破損してガラスが飛散するおそれがあります。取り扱いには十分注意してください。また、素手で触れずにきれいな手袋を着用してください。**

知識

- ハロゲン球を素手で触れてはいけませんが、万一、誤ってハロゲン球に触れてしまったときは、水で薄めた中性洗剤 (約5%) をやわらかい布に含ませ、汚れをふき取ってください。
- 必ず同じW数の電球を使用してください。
- ヘッドランプ、制動灯などのランプは、雨天走行や洗車などの使用条件によりレンズ内面が一時的に曇ることがあります。これはランプ内部と外気の温度差によるもので、雨天時などに窓ガラスが曇るのと同様の現象であり、機能上の問題はありません。ただし、レンズ内面に大粒の水滴がついているときやランプ内に水がたまっているときは、マツダ販売店にご相談ください。

ディスチャージヘッドランプ/AFS (アダプティブフロントライティングシステム) 装備車

ヘッドランプ

ヘッドランプの上向き (ハイビーム)/下向き (ロービーム) にはディスチャージヘッドランプが装備されています。

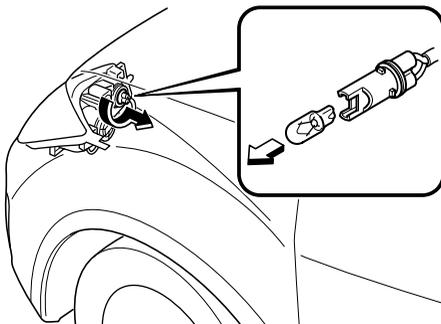
⚠ 警告

■ディスチャージヘッドランプの交換・修理をするときは、必ずマツダ販売店へご相談ください。

ディスチャージヘッドランプは高電圧を使用しているため、取り扱いを誤ると感電するおそれがあります。

車幅灯

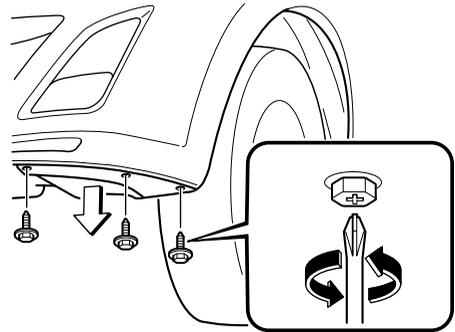
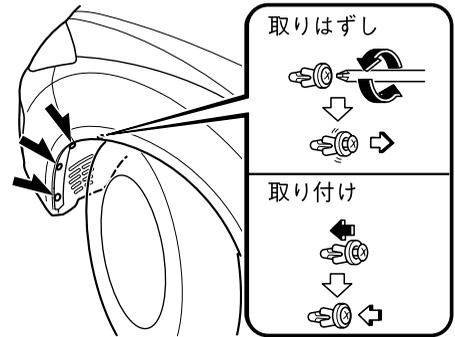
1 ボンネットを開けます。

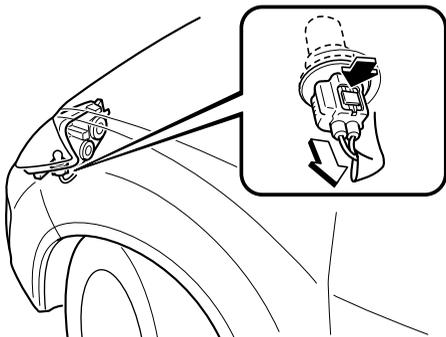
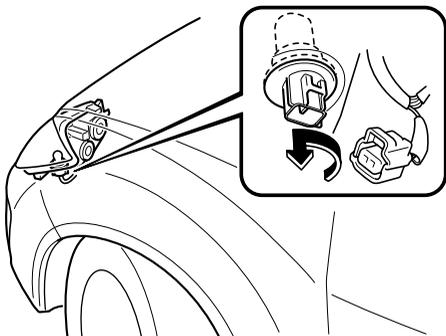
2 ソケットを反時計回りにまわして取りはずし、電球を抜き取ります。

3 電球を取り換えます。

4 はずした手順と逆の手順で取りつけます。

前面方向指示灯

1 エンジンをかけ、交換する側と反対の方向にハンドルをいっぱいにきり、エンジンをきります。

2 ファスナー、ネジをはずし、マッドガードをめくります。

ヒューズ切れ、電球切れのとき

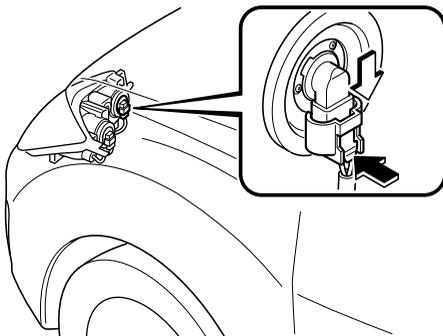
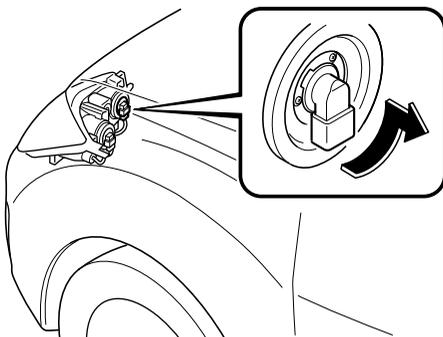
3 ツメを押し、コネクターを取りはずします。

4 ソケットを反時計回りにまわして取りはずし、電球を抜き取ります。

5 電球を取り換えます。

6 はずした手順と逆の手順で取りつけます。

ハロゲンヘッドランプ装備車

上向き (ハイビーム)

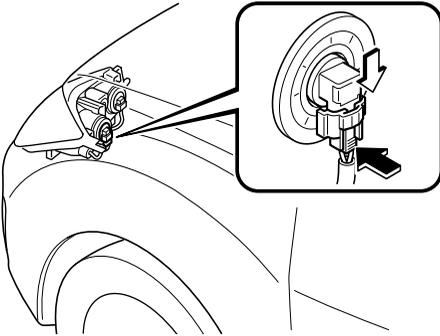
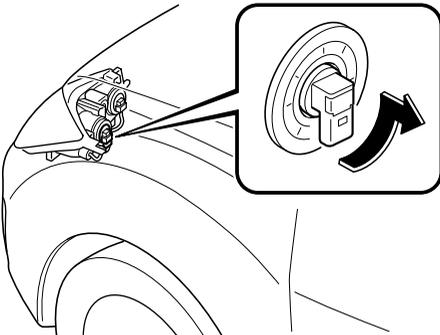
1 ボンネットを開けます。

2 ツメを押し、コネクターをはずします。

3 ソケットを反時計回りにまわして取りはずします。

4 電球を取り換えます。

5 はずした手順と逆の手順で取りつけます。

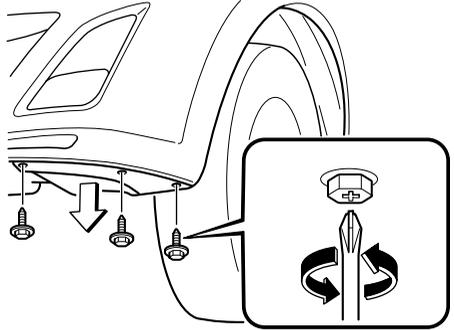
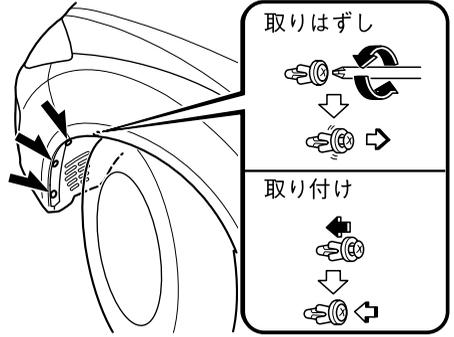
下向き (ロービーム)

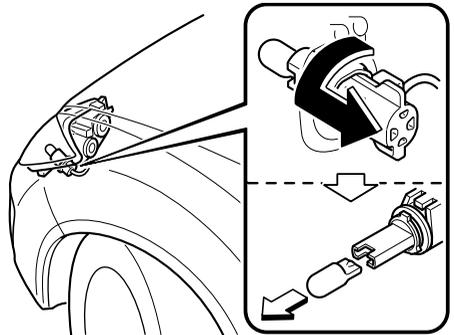
1 ボンネットを開けます。

2 ツメを押し、コネクターをはずします。

3 ソケットを反時計回りにまわして取りはずします。

4 電球を取り換えます。

5 はずした手順と逆の手順で取りつけます。

車幅灯

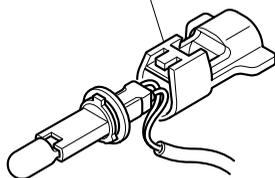
1 エンジンをかけ、交換する側と反対の方向にハンドルをいっぱいにきり、エンジンをきります。

2 ファスナー、ネジをはずし、マッドガードをめくります。

3 ソケットを反時計回りにまわして取りはずし、電球を抜き取ります。

4 電球を取り換えます。

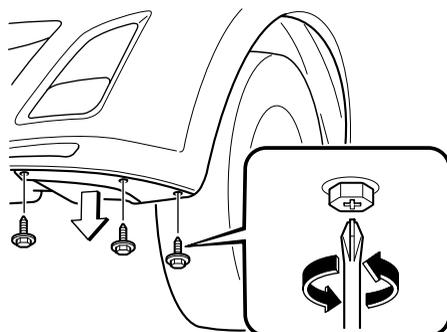
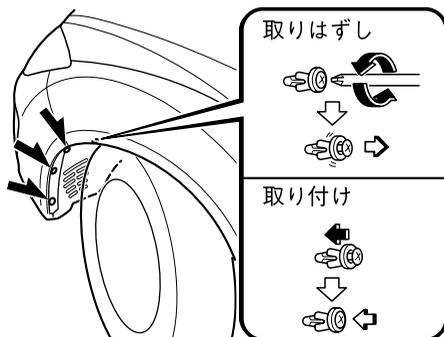
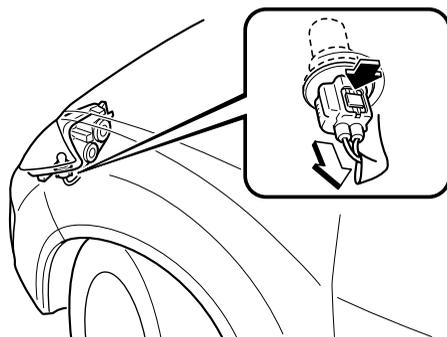
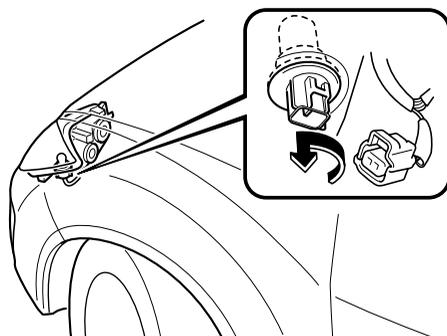
5 はずした手順と逆の手順で取りつけます。

ヒューズ切れ、電球切れのとき

知識

車幅灯を取りつけるときは、アダプターがソケットに装着されていることを確認してください。

前面方向指示灯

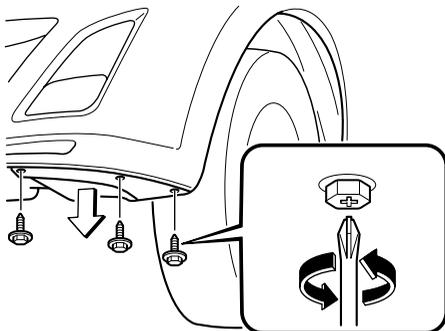
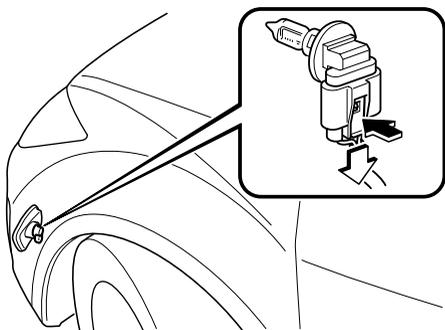
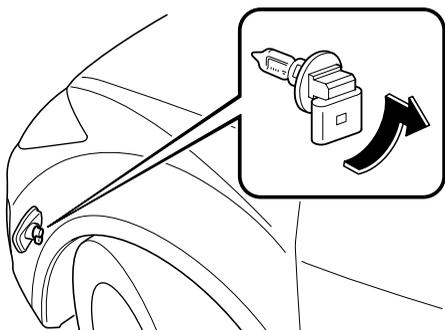
1 エンジンをかけ、交換する側と反対の方向にハンドルをいっぱいにきり、エンジンをきります。

2 ファスナー、ネジをはずし、マッドガードをめくります。

3 ツメを押し、コネクターを取りはずします。

4 ソケットを反時計回りにまわして取りはずし、電球を抜き取ります。

5 電球を取り換えます。

6 はずした手順と逆の手順で取りつけます。

フォグランプ

グレード/仕様別装備

1 ネジをはずし、マッドガードをめくります。

2 ツメを押し、コネクターをはずします。

3 ソケットを反時計回りにまわして取りはずします。

4 電球を取り換えます。

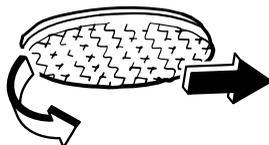
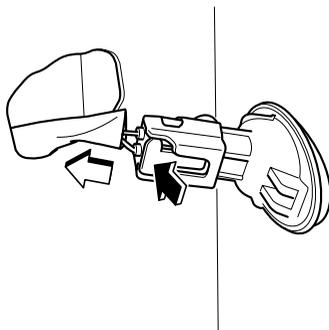
5 はずした手順と逆の手順で取りつけます。

側面方向指示灯

(LEDタイプ)

ドアミラー横にある側面方向指示灯はLEDタイプの電球のため交換できません。交換については、マツダ販売店へご相談ください。

(バルブタイプ)

1 車両の前後いずれかの方向へスライドさせ、スライドさせた方向と反対側を手前に引き、取りはずします。

2 ユニットからコネクターをはずします。

3 新しいユニットに取り換え、はずした手順と逆の手順で取りつけます。

ヒューズ切れ、電球切れのとき

知識

側面方向指示灯は電球 (バルブ) の交換はできません。ランプユニット本体の交換となりますので、側面方向指示灯を交換するときはマツダ販売店へご相談ください。

制動灯/尾灯

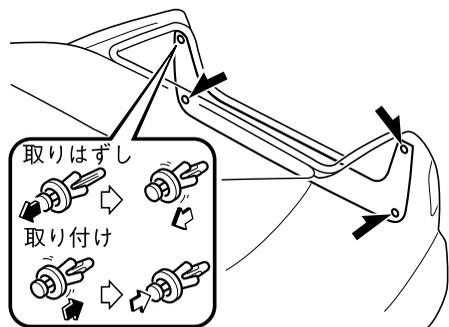
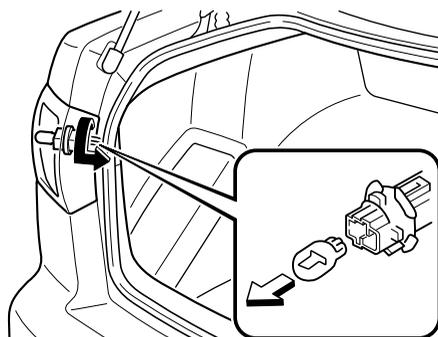
(LEDタイプ)

LEDタイプの電球のため交換はできません。交換については、マツダ販売店へご相談ください。

(バルブタイプ)

セダン

1 トランクを開けます。

2 ファスナーを取りはずしてトランクエンドトリムを取りはずします。

3 ソケットを反時計回りにまわして取りはずし、電球を抜き取ります。

4 電球を取り換えます。

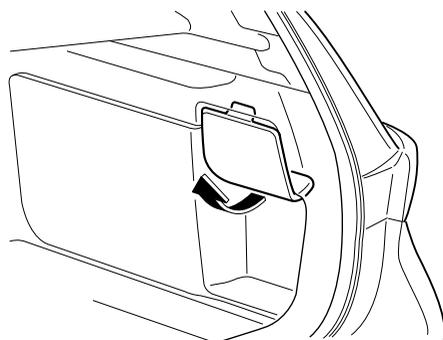
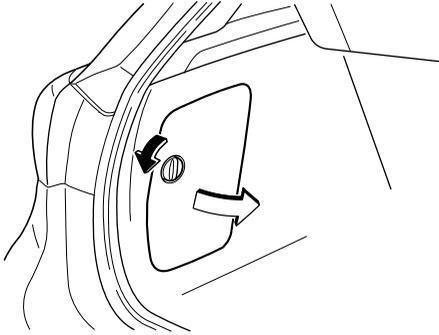
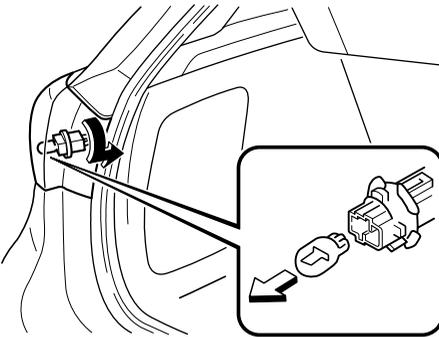
5 はずした手順と逆の手順で取りつけます。

ハッチバック

1 リヤゲートを開けます。

2 カバーを取りはずします。

右側

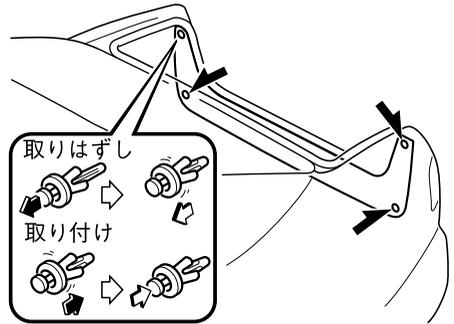
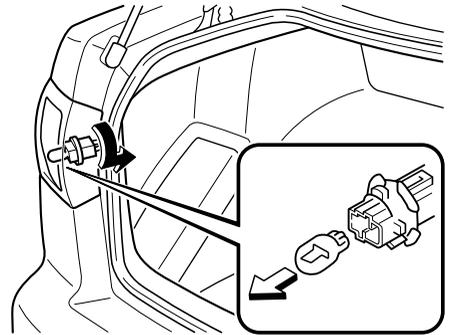
左側

3 ソケットを反時計回りにまわして取りはずし、電球を抜き取ります。

4 電球を取り換えます。

5 はずした手順と逆の手順で取りつけます。

後面方向指示灯

セダン

1 トランクを開けます。

2 ファスナーを取りはずしてトランクエンドトリムを取りはずします。

3 ソケットを反時計回りにまわして取りはずし、電球を抜き取ります。

4 電球を取り換えます。

5 はずした手順と逆の手順で取りつけます。

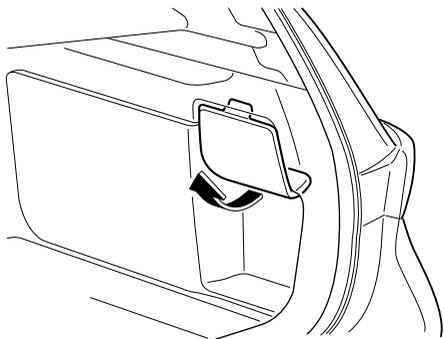
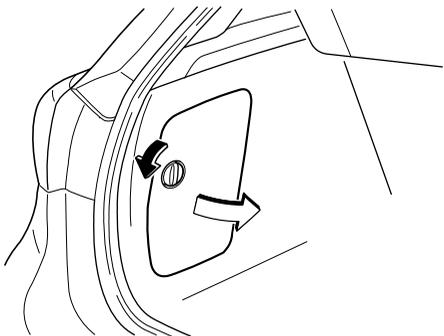
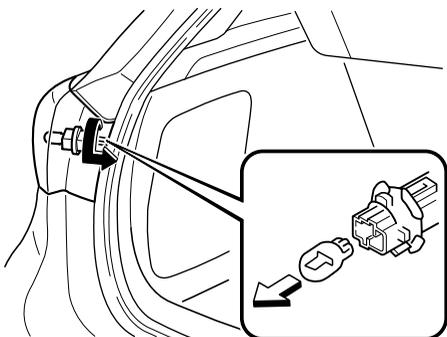
ハッチバック

1 リヤゲートを開けます。

2 カバーを取りはずします。

ヒューズ切れ、電球切れのとき

右側

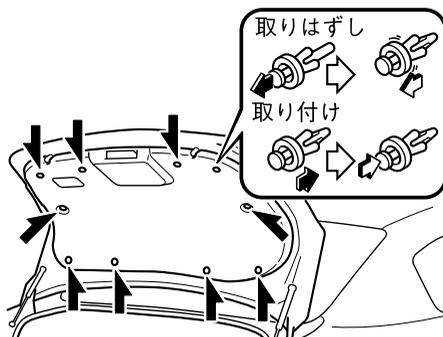
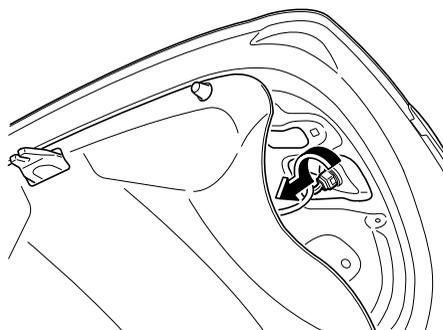
左側

3 ソケットを反時計回りにまわして取りはずし、電球を抜き取ります。

4 電球を取り換えます。

5 はずした手順と逆の手順で取りつけます。

後退灯

セダン

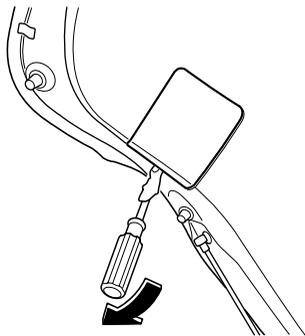
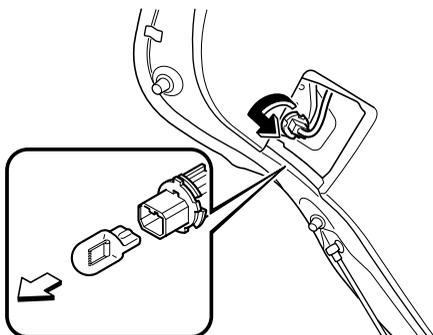
1 トランクを開けます。

2 ファスナーを取りはずしてトランクトリムをめくります。

3 ソケットを反時計回りにまわして取りはずし、電球を抜き取ります。

4 電球を取り換えます。

5 はずした手順と逆の手順で取りつけます。

ハッチバック

1 リヤゲートを開けます。

2 カバーを取りはずします。

3 ソケットを反時計回りにまわして取りはずし、電球を抜き取ります。

4 電球を取り換えます。

5 はずした手順と逆の手順で取りつけます。

ハイマウントストップランプ

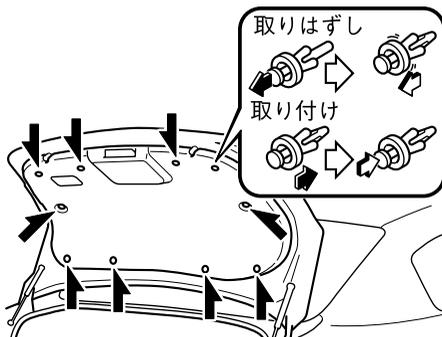
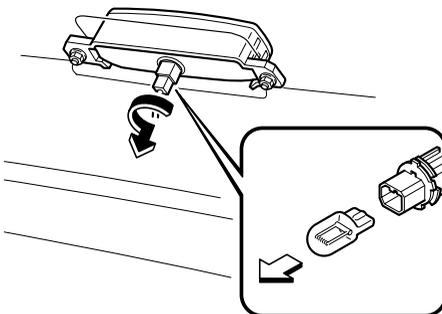
(LEDタイプ)

LEDタイプの電球のため交換はできません。交換については、マツダ販売店へご相談ください。

(バルブタイプ)

セダン

1 トランクを開けます。

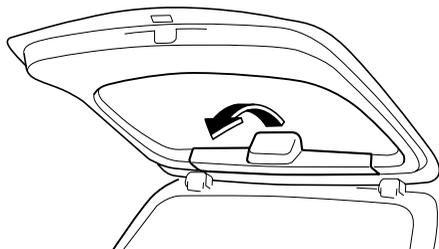
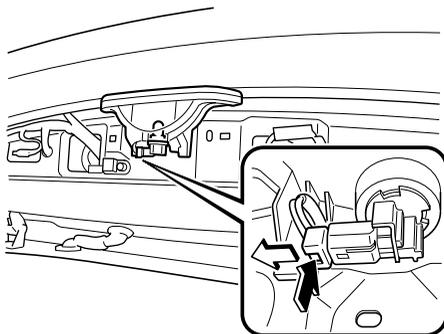
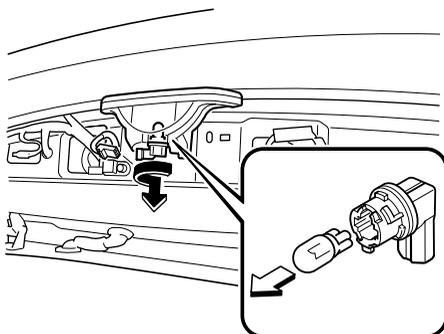
2 ファスナーを取りはずしてトランクトリムをめくります。

3 ソケットを反時計回りにまわして取りはずし、電球を抜き取ります。

4 電球を取り換えます。

5 はずした手順と逆の手順で取りつけます。

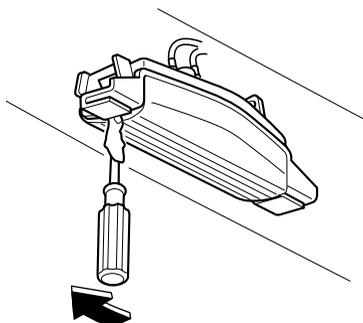
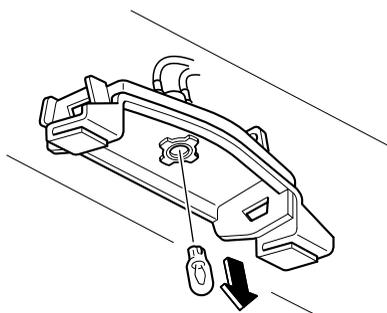
ハッチバック

1 リヤゲートを開けます。

2 カバーを取りはずします。

3 ツメを押し、コネクターをはずします。

4 ソケットを反時計回りにまわして取りはずし、電球を抜き取ります。

5 電球を取り換えます。

6 はずした手順と逆の手順で取りつけます。

番号灯

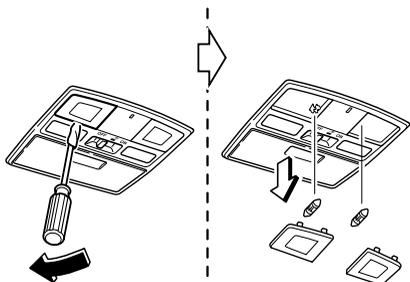
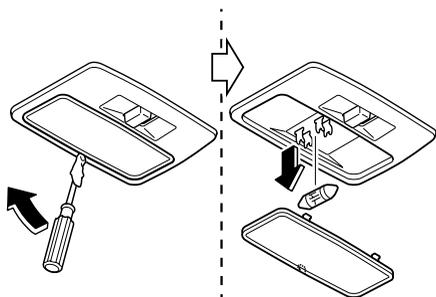
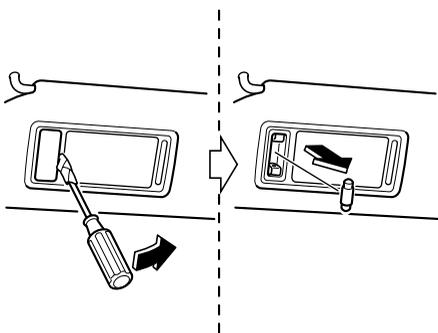
1 マイナスドライバーなどの先端に布を巻き、レンズを取りはずします。

2 電球を抜き取ります。

3 はずした手順と逆の手順で取りつけます。

ルームランプ/マップランプ (フロント)、バニティミラーランプ

1 マイナスドライバーなどの先端に布を巻き、レンズを取りはずします。

2 電球を抜き取ります。

ルームランプ/マップランプ(フロント)

マップランプ(リア)

バニティミラーランプ

3 電球を取り換えます。

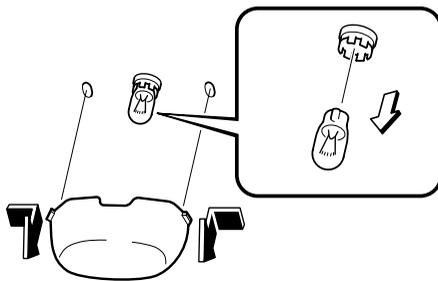
4 はずした手順と逆の手順で取りつけます。

⚠ 注意

レンズを取りはずすときは、マイナスドライバーなどの先端に布を巻いてご使用ください。マイナスドライバーが直接レンズに当たると、傷がつくおそれがあります。

トランクルームランプ(セダン)

1 レンズの両側を押さえ、レンズを取りはずします。

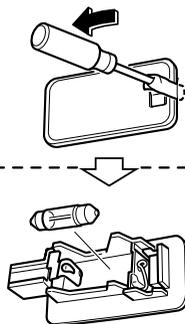
2 電球を抜き取ります。

3 電球を取り換えます。

4 はずした手順と逆の手順で取りつけます。

ラゲッジルームランプ(ハッチバック)

1 マイナスドライバーなどの先端に布を巻き、レンズを取りはずします。

ヒューズ切れ、電球切れのとき

2 電球を抜き取ります。

3 電球を取り換えます。

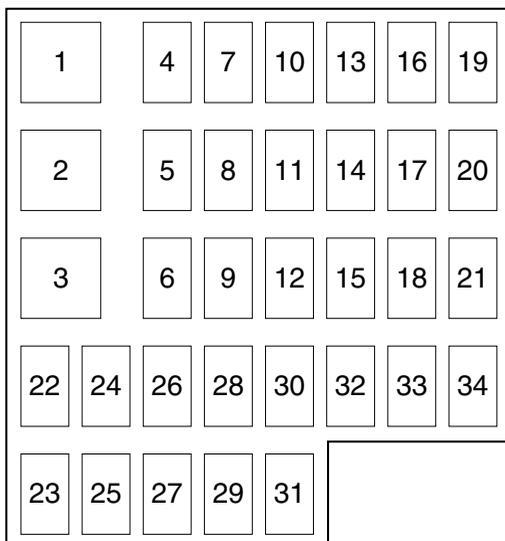
4 はずした手順と逆の手順で取りつけます。

 注意

レンズを取りはずすときは、マイナスドライバーなどの先端に布を巻いてご使用ください。マイナスドライバーが直接レンズに当たると、傷がつくおそれがあります。

ヒューズの受け持つ装置

室内ヒューズボックス

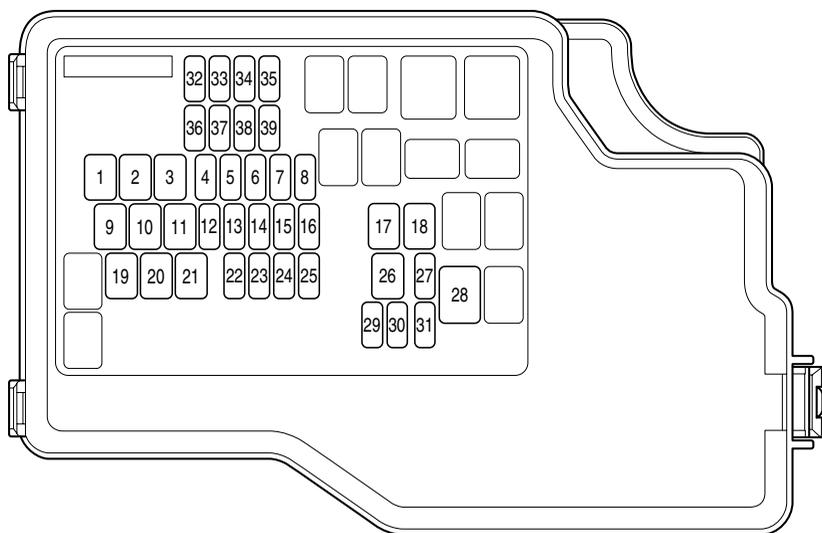
1 4 7 10 13 16 19
2 5 8 11 14 17 20
3 6 9 12 15 18 21
22 24 26 28 30 32 33 34
23 25 27 29 31

位置	表示	容量	保護装置
1	BOSE	30 A	オーディオ (Bose®サラウンドシステム装備車) グレード/仕様別装備
2	P SEAT	30 A	パワーシート グレード/仕様別装備
3	P.WIND	30 A	パワーウインドー
4	D.LOCK	25 A	パワードアロック
5	—	—	—
6	—	—	—
7	ESCL	15 A	ステアリングロック グレード/仕様別装備
8	SAS	15 A	エアバッグ

位置	表示	容量	保護装置
9	—	—	—
10	HAZARD	15 A	非常点滅灯
11	METER	15 A	メーター
12	OUTLET	15 A	電源ソケット
13	R.WIPER	15 A	リヤワイパー グレード/仕様別装備
14	CIGAR	15 A	電源ソケット
15	—	—	—
16	HEATER	10 A	ヒーター
17	MIRROR	10 A	電動ミラー
18	ST SIG	10 A	スターター
19	—	—	—
20	AUDIO	7.5 A	オーディオ
21	M.DEF	7.5 A	ミラーデフォッガー(曇り取り) グレード/仕様別装備
22	AFS	7.5 A	アダプティブフロントライティングシステム グレード/仕様別装備
23	—	—	—
24	ENG	20 A	エンジンコントロールシステム
25	—	—	—
26	—	—	—
27	—	—	—
28	—	—	—
29	—	—	—

ヒューズ切れ、電球切れのとき

位置	表示	容量	保護装置
30	P.WIND	25 A	パワーウインドー
31	—	—	—
32	F.WIPER	25 A	フロントワイパー/ウォッシャー
33	—	—	—
34	—	—	—

エンジンルーム内ヒューズボックス

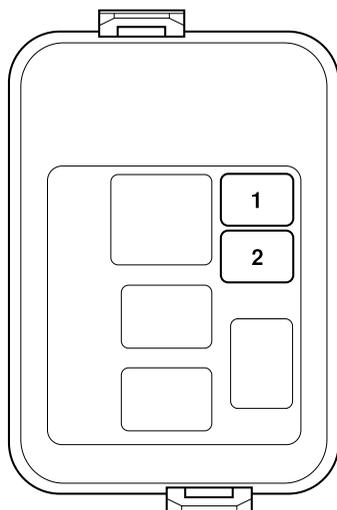
ヒューズボックス

位置	表示	容量	保護装置
1	FAN 2	40 A	クーリングファン グレード/仕様別装備
2	ENG MAIN	40 A	エンジンコントロールシステム
3	BTN 1	50 A	各種電源
4	A/C MAG	7.5 A	エアコン
5	H/L HI	20 A	ヘッドランプ (Hi)
6	FOG	15 A	フォグランプ グレード/仕様別装備
7	H/L WASH	—	—
8	SUNROOF	—	—
9	F.DEF RH	—	—

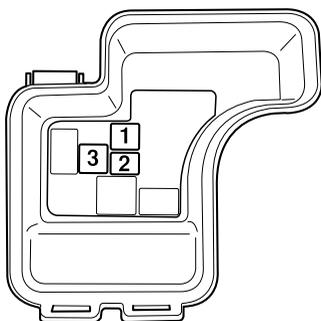
ヒューズ切れ、電球切れのとき

位置	表示	容量	保護装置
10	F.DEF LH	—	—
11	FAN 1	40 A	クーリングファン
12	ROOM	15 A	ルームランプ
13	TCM	15 A	TCM グレード/仕様別装備
14	DSC	20 A	DSC グレード/仕様別装備
15	BTN 2	7.5 A	各種電源
16	AT PUMP	25 A	ATポンプドライバー グレード/仕様別装備
17	HEATER	40 A	ヒーター
18	INJ	30 A	インジェクター グレード/仕様別装備
19	R.DEF	30 A	リヤウインドーデフォッガー (曇り取り)
20	IGKEY 2	40 A	エンジンスイッチ
21	IGKEY 1	40 A	エンジンスイッチ
22	HORN	15 A	ホーン
23	STOP	15 A	制動灯
24	ENG+B	10 A	エンジンコントロールシステム
25	FUEL PUMP	25 A	フューエルポンプ
26	ABS	40 A	ABSユニット
27	SEAT WARM	—	—
28	EHPAS	80 A	EHPAS グレード/仕様別装備
29	—	—	—
30	ABS IG	7.5 A	ABSユニット

位置	表示	容量	保護装置
31	—	—	—
32	H/L LO RH	15 A	ヘッドランプ 右 (Low)
33	H/L LO LH	15 A	ヘッドランプ 左 (Low)
34	ILLUMI	7.5 A	イルミネーション
35	TAIL	15 A	尾灯、番号灯、車幅灯
36	ENG INJ	15 A	エンジンコントロールシステム
37	ENG BAR	15 A	各種電源
38	ENG BAR 2	20 A	各種電源
39	ETV	15 A	エレクトリックスロットルバルブ

ヒューズ切れ、電球切れのとき

リレーボックス (Z6-VE型エンジン、ZY-VE型エンジン)

位置	表示	容量	保護装置
1	GLOW 3 FAN 2	30 A	クーリングファン
2	GLOW 2 FAN 3	30 A	クーリングファン

リレーボックス (LF-VDS型エンジン)

位置	表示	容量	保護装置
1	ST SUB	40 A	スターター
2	BATT 2	10 A	バッテリー
3	PWR DRV	30 A	電源ソケット

けん引してもらうとき

けん引はできるだけマツダ販売店またはJAFなどに依頼してください。特に、エンジンがかかっているのに車が動かないときや異常な音がするときは駆動装置の故障が考えられます。必ずマツダ販売店またはJAFなどに連絡してください。

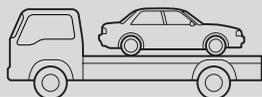
 警告

■長い下り坂を降りるときは、レッカー車でけん引してください。

ロープでけん引をすると、車間距離を保つためにフットブレーキを多用し、ブレーキが過熱して効かなくなります。このような状態でけん引を続けると、前の車に衝突するおそれがあります。

■4WD車のけん引は、前後輪すべてを持ち上げるか、前後輪接地の状態で搬送してください。駆動装置の故障時はトレーラーなどに搭載して搬送してください。

前輪または後輪だけを持ち上げた状態でけん引すると、駆動装置が破損したり、車輪が台車から飛び出すなど思わぬ事故につながるおそれがあります。

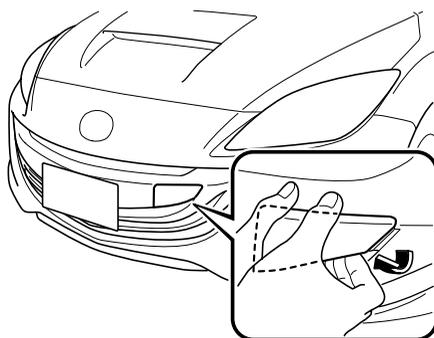
知識

金属製のチェーンやワイヤーロープなどを使用するときは、ロープやロープ先端についているフック部に布などを巻いてください。直接バンパーにあたると、傷がつくおそれがあります。

やむをえずロープでけん引してもらうときは、車両の前側にあるけん引フックを使用し、次の手順で行なってください。

フォグランプ装備車

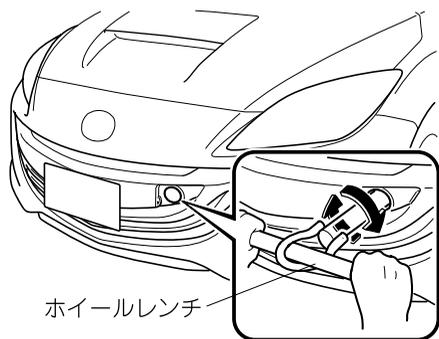
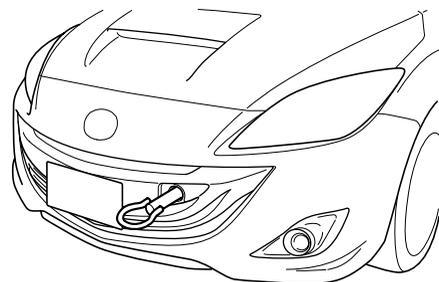
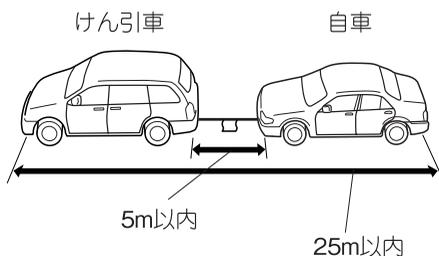
L3-VDT型エンジン

1. けん引フック、ホイールレンチをラゲッジルームから取り出します。
   →287ページ「工具、ジャッキ」
2. カバーを手前に引き、取りはずします。

注意

カバーはバンパーから完全に取り外し、紛失しないように保管してください。

知識

ホイールレンチなどを使用するときは、先端に布などを巻いてください。ホイールレンチなどが直接バンパーにあたると、傷がつくおそれがあります。

3 ホイールレンチを使ってけん引フックを確実に取り付けます。

4 けん引ロープをフックにかけます。

5 ロープは5m以内にして、中央に0.3m平方 (0.3m×0.3m) 以上の白い布を必ずつけてください。

6 けん引してもらう車はエンジンをかけ、チェンジレバー/セレクトレバーをNにいれます。エンジンがかからないときは、電源ポジションをACCの位置にします。

警告

■やむをえずエンジンがかかっていない状態でけん引される場合は、慎重に運転してください。

エンジンがかかっていないときは、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が重くなるなど運転操作が困難になり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

注意

電源ポジションをOFFの位置にしないでください。OFFの位置にするとハンドルがロックされ、操作できなくなります。

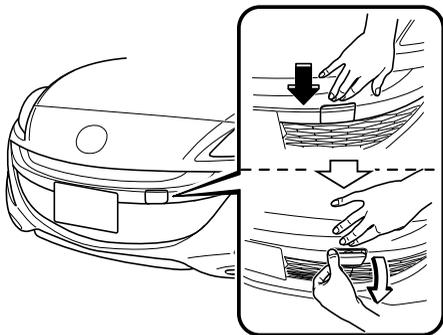
7 パーキングブレーキを解除します。

8 けん引する車の制動灯に注意し、ロープをたるませないように走行してください。

L3-VDT型エンジン以外

1 けん引フック、ホイールレンチをラゲッジルームから取り出します。
→287ページ「工具、ジャッキ」

けん引について

2 イラストのように、カバーに隣接しているバンパー部を押し隙間をつくってください。そして、隙間を手でひきカバーを取りはずしてください。

⚠ 注意

カバーはバンパーから完全に取りはずすことができません。無理に取りはずそうとすると破損するおそれがあります。

知識

ホイールレンチなどを使用するときは、先端に布などを巻いてください。ホイールレンチなどが直接バンパーにあたると、傷がつくおそれがあります。

3 ホイールレンチを使ってけん引フックを確実に取り付けます。

4 けん引ロープをフックにかけます。

5 ロープは5m以内にして、中央に0.3m平方 (0.3m×0.3m) 以上の白い布を必ずつけてください。

6 けん引してもらう車はエンジンをかけ、チェンジレバー/セレクトレバーをNにいれます。エンジンがかからないときは、電源ポジションをACCにします。

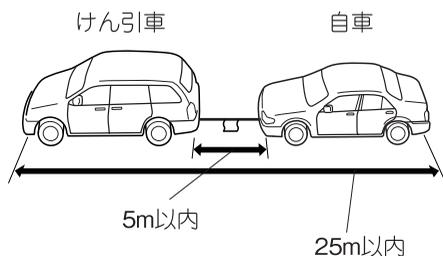
⚠ 警告

■ やむをえずエンジンがかかっていない状態でけん引される場合は、慎重に運転してください。

エンジンがかかっていないときは、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が重くなるなど運転操作が困難になり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

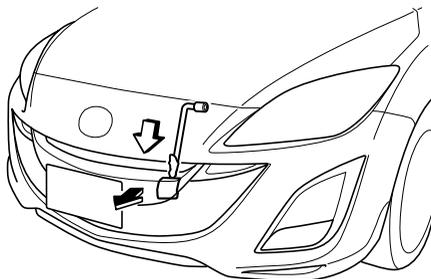
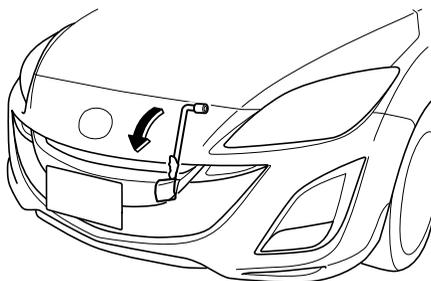
⚠ 注意

電源ポジションをOFFにしないでください。OFFにするとハンドルがロックされ、操作できなくなります。

7 パーキングブレーキを解除します。

8 けん引する車の制動灯に注意し、ロープをたるませないように走行してください。

フォグランプ非装備車

1 けん引フック、ホイールレンチをラゲッジルームから取り出します。
→287ページ「工具、ジャッキ」

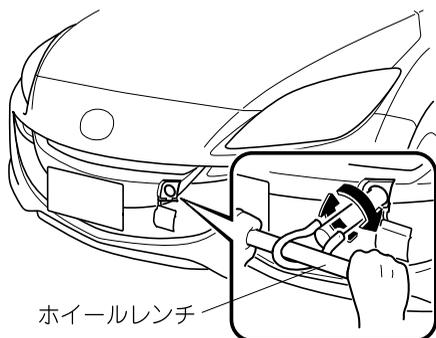
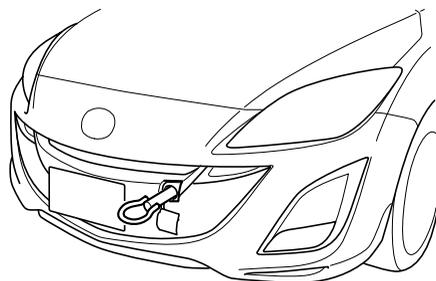
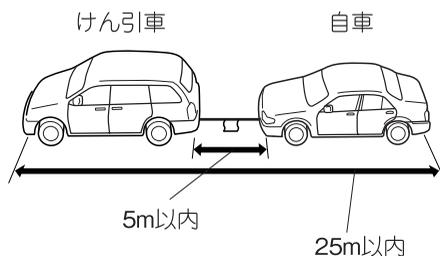
2 カバーを手前にひき、上の隙間にやわらかい布を巻いたホイールレンチなどを差し込んでください。

3 差し込んだホイールレンチなどを手前に倒し、カバーを取りはずしてください。

注意

カバーはバンパーから完全に取りはずすことができません。無理に取りはずそうとすると破損するおそれがあります。

知識

ホイールレンチなどを使用するときは、先端に布などを巻いてください。ホイールレンチなどが直接バンパーにあたると、傷がつくおそれがあります。

けん引について

4 ホイールレンチを使ってけん引フックを確実に取り付けます。

5 けん引ロープをフックにかけます。

6 ロープは5m以内にして、中央に0.3m平方 (0.3m×0.3m) 以上の白い布を必ずつけてください。

7 けん引してもらう車はエンジンをかけ、チェンジレバー/セレクトレバーをNにいれます。エンジンがかからないときは、電源ポジションをACCにします。

⚠ 警告

■ やむをえずエンジンがかかっていない状態でけん引される場合は、慎重に運転してください。

エンジンがかかっていないときは、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が重くなるなど運転操作が困難になり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

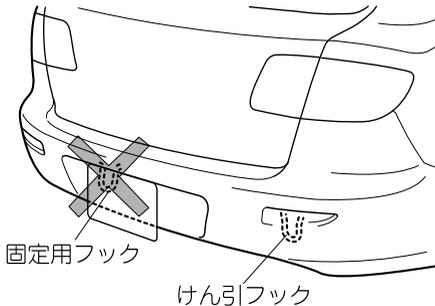
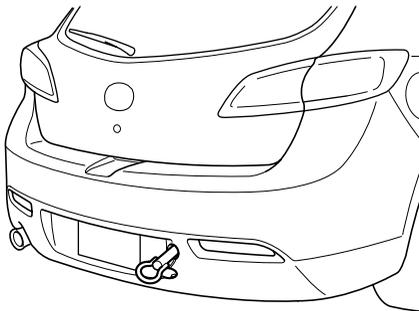
電源ポジションをOFFにしないでください。OFFにするとハンドルがロックされ、操作できなくなります。

8 パーキングブレーキを解除します。

9 けん引する車の制動灯に注意し、ロープをたるませないように走行してください。

故障車をけん引するとき

一般路上でやむをえず故障した車をロープでけん引するときは、後ろ側のけん引フックにロープをかけてけん引してください。

セダン

ハッチバック

⚠ 注意

けん引するときは次の点に注意してください。けん引フックや車体および駆動装置を損傷するおそれがあります。

- **自車の重量より重い車はけん引しないでください。**
- **急発進など、けん引フックやロープに大きな衝撃が加わる運転をしないでください。**
- **けん引フック以外にロープをかけないでください。**
- **左側 (助手席側) のフックは、船舶で車を輸送するときの固定用フックです。けん引には使用しないでください。**

知識

金属製のチェーンやワイヤーロープなどを使用するときは、ロープやロープ先端についているフック部に布などを巻いてください。直接バンパーにあたると、傷がつくおそれがあります。

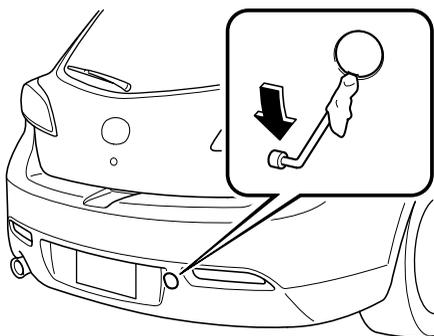
セダン

後ろ側のけん引フックはリヤバンパー下部の右側 (運転席側) にあります。

ハッチバック

1 けん引フック、ホイールレンチをラゲッジルームから取り出します。
→287ページ「工具、ジャッキ」

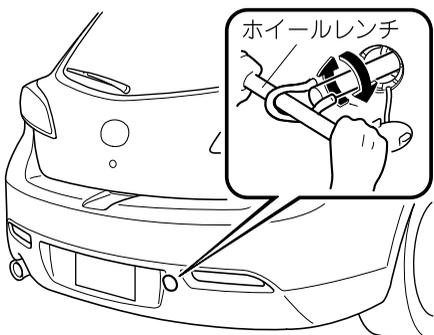
けん引について

2 ホイールレンチの先端に布を巻いてフタを取りはずします。

⚠ 注意

フタはバンパーから完全に取りはずすことができません。無理に取りはずそうとすると破損するおそれがあります。

知識

ホイールレンチを使用するときは、先端に布などを巻いてください。ホイールレンチが直接バンパーにあたると、傷がつくおそれがあります。

3 ホイールレンチを使ってけん引フックを確実に取り付けます。

万一事故が起きたとき

事故が起きたときは、あわてず次の処置をしてください。

1.事故の続発防止

他の交通のさまたげにならない安全な場所(路肩、空き地など)に車を移動させ、エンジンを止めます。

2.負傷者の救護

負傷者がいる場合は、医師、救急車などが到着するまでの間、可能な応急手当を行ないます。
この場合、とくに頭部に傷を受けているようなときは、むやみに動かさないようにします。ただし、後続事故のおそれがある場合は、安全な場所に移動させます。

3.警察への連絡

事故の発生場所、状況、負傷の程度などを報告し、指示を受けます。

4.相手の氏名、住所などの確認

5.マツダ販売店、保険会社への連絡

知識

軽いけがでも、必ず警察に届けましょう。また、外傷がなくても頭部などに強い衝撃を受けたときは、医師の診断を受けましょう。後遺症がでることがあります。

6 車との上手なつきあいかた

点検、整備

点検整備について

安全で快適な運転をするために、日常点検整備および定期点検整備を実施することが法律で義務づけられています。
安心してお車に乗っていただくために、また、大きなトラブルを防ぐ意味からも、定期的に点検整備を実施してください。
使用済バッテリーやタイヤ、エンジンオイルなどの廃液を処分するときは、マツダ販売店にご相談ください。

警告

■ **点検は平らな場所で、車に輪止めをしてから行なってください。**
車が不意に動き出すと、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ **エンジンルーム内を点検するときは、ファンやベルトなどの回転部に触れないようにしてください。**
手や指などが巻き込まれるなど、重大な傷害につながるおそれがあります。

注意

エンジンルーム内を点検するときは、エンジンの高温部に触れないようにしてください。やけどをするおそれがあります。

知識

新車登録後1か月 (または走行距離1,000km)、6か月 (または走行距離5,000km) は無料で点検が受けられます。

定期点検

12か月、24か月の定期点検整備はマツダ販売店で受けてください。

知識

- 点検の結果は別冊のメンテナンスノート内「定期点検整備記録簿および定期点検整備の記録」に記入してください。
- 一般的な使用よりも厳しい使われ方をした車はシビアコンディションとして早めに点検整備をする必要があります。
  くわしくは、別冊のメンテナンスノートに記載しています。

日常点検

お客様のお車の使用状況に応じて、お客様自身の判断で適切な時期に実施していただく点検です。
日常点検はお客様自身で実施可能な項目となっておりますので、長距離走行前や洗車時、給油時などを目安に実施してください。

「日常点検整備のしかた」については別冊のメンテナンスノートに記載しています。

知識

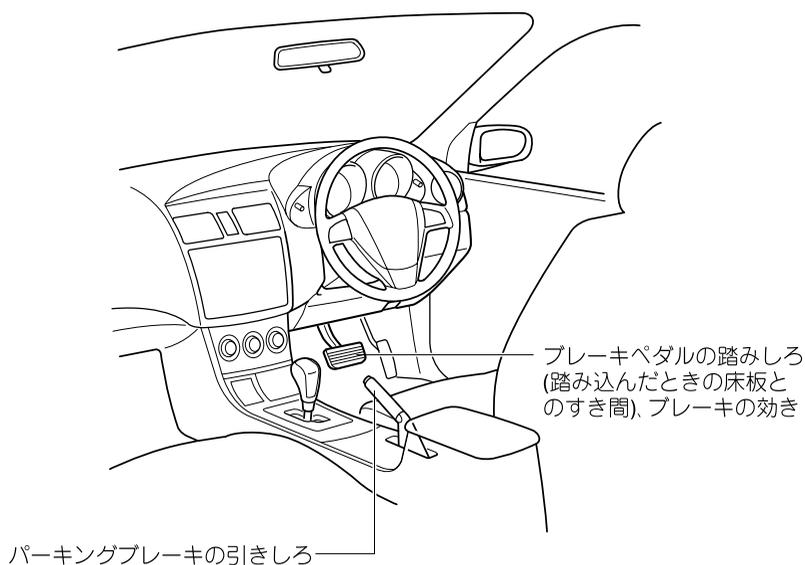
点検の結果は別冊のメンテナンスノート内「メンテナンスレコード」に記入してください。

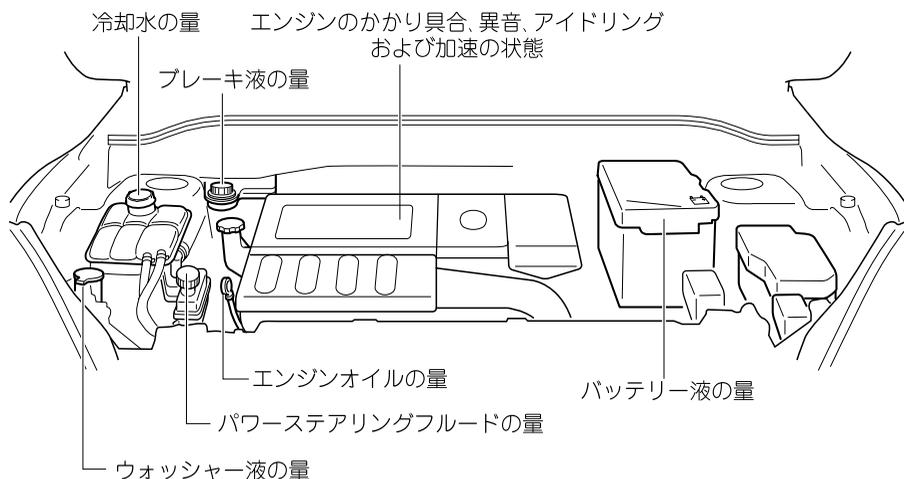
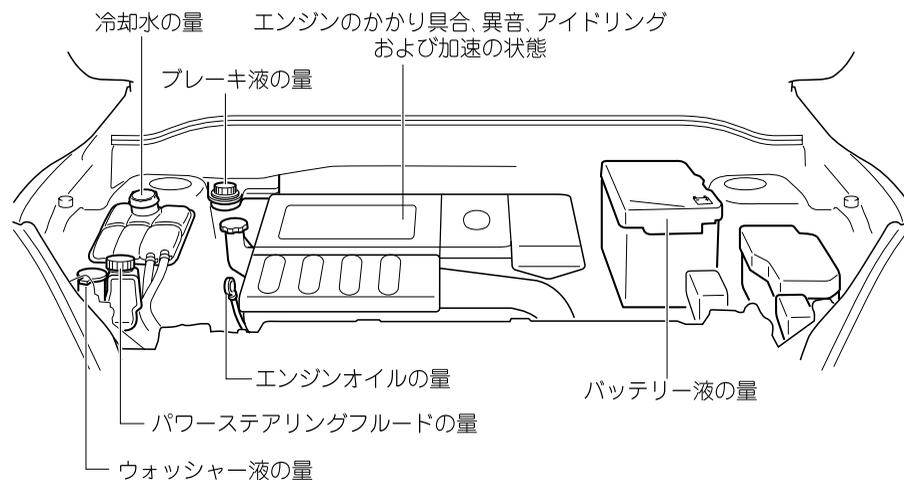
点検、整備

点検項目と点検箇所

運行において異常が見られた箇所

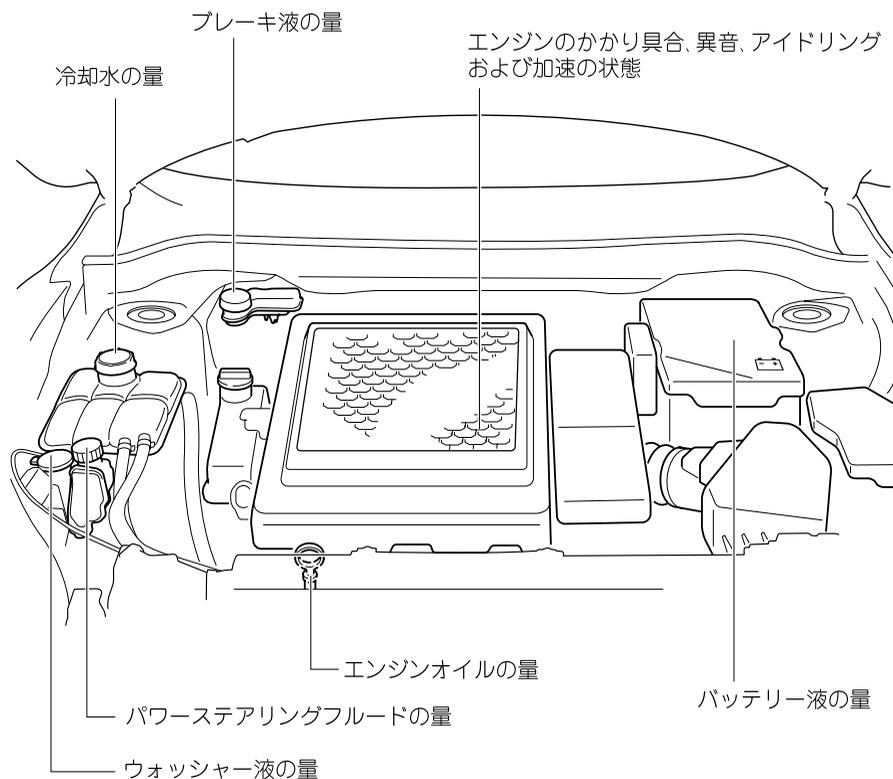
前回の運転中に異常を認めた箇所について運転に支障がないかを点検します。
　点検要領については別冊のメンテナンスノートに記載しています。

運転席にすわって

エンジンルームをのぞいて

Z6-VE型エンジン

ZY-VE型エンジン

点検、整備

LF-VE型エンジン

LF-VDS型エンジン

L3-VDT型エンジン

ブレーキ液の量

エンジンのかかり具合、異音、アイドリング
および加速の状態

冷却水の量

エンジンオイルの量

バッテリー液の量

パワーステアリングフルードの量

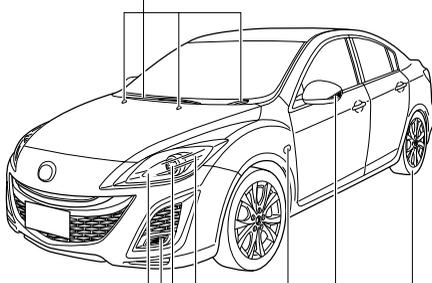
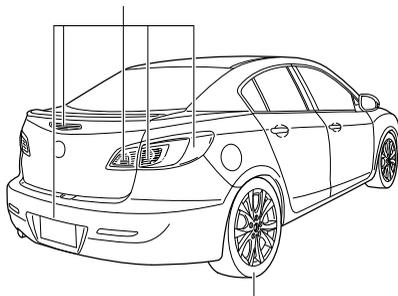
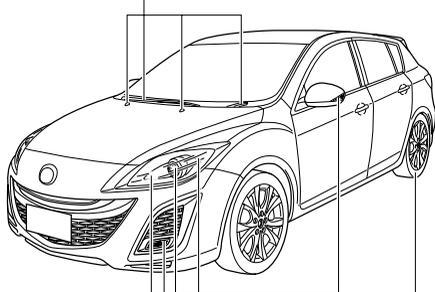
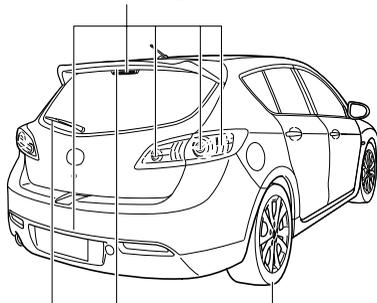
ウォッシャー液の量

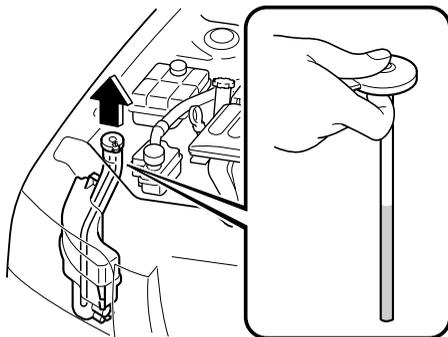
注意

エンジンルームの点検をしたときは、工具や布を置き忘れないようにしてください。置き忘れるとエンジンなどを損傷したり、火災につながるなど思わぬ事故につながるおそれがあります。

点検、整備

全体を見まわして

セダン

ハッチバック

ウォッシャー液の補充

ウォッシャー液が不足しているときは、純正ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考に濃度を調節し、補充してください。
ふたの穴を押さえたまま引き抜くことで、ウォッシャー液量を点検することができます。

注意

エンジンがかかっているときやエンジンが熱いときはウォッシャー液を補充しないでください。ウォッシャー液がエンジンなどにかかると、出火するおそれがあります。

知識

- ウォッシャータンクはフロントワイパー用とリヤワイパー用で兼用しています。
- ウォッシャー液のかわりに石けん水などを入れないでください。塗装のシミになるおそれがあります。
- 寒冷地では、ウォッシャー液をタンクいっぱいまで補充しないでください。

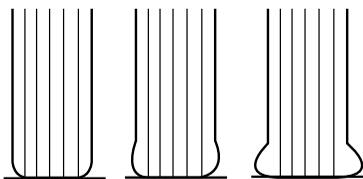
タイヤの点検

日常点検としてタイヤは定期的に点検してください。
点検要領については別冊のメンテナンスノートを参照してください。

空気圧の点検

警告

■ タイヤの空気圧が不足したままで走行しないでください。

タイヤの空気圧が不足していると車両の安定性を損なうばかりでなく、タイヤが偏摩耗したりします。また、タイヤの空気圧が不足したままで高速走行すると、タイヤがバースト (破裂) するなどして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- タイヤの空気圧は走行に伴い約1割程度上がることがあります。日常はタイヤが冷えている時にタイヤの接地部のたわみ状態を見て空気圧が適当であるかを点検します。
- ラジアルタイヤはたわみの状態での点検では空気圧が分かりにくいので、空気圧計で点検します。

- タイヤの空気圧は徐々に (自然に) 低下しますので、目安として月に一度空気圧計を使用して空気圧が適当であるかを点検します。
- 適正空気圧は、運転席ドアを開けたボディー側に貼付されているラベルで確認してください。
- スペアタイヤも時々点検します。年1回は空気圧計を使用して空気圧が適正であるかを点検します。
→296ページ「スペアタイヤ」

き裂、損傷の点検

タイヤの接地部全周や両側に著しいき裂や損傷およびクギ等の異物が刺さっていないかを目視で点検します。

警告

■異常があるタイヤを装着しないでください。

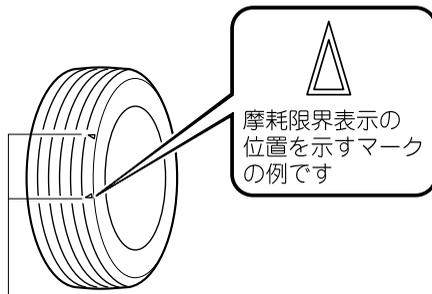
- 異常があるタイヤを装着すると、走行中にハンドルがとられたり、異常な振動を感じることがあります。
また、パンクやバースト (破裂) などにより思わぬ事故につながるおそれがあります。
走行中、異常な振動を感じた場合はマツダ販売店で点検を受け、正常なタイヤと交換してください。
- 異常のあるタイヤを装着していると、車の性能 (燃費·走行安定性·制動距離など) が十分に発揮できないばかりでなく、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、部品に悪影響をあたえるなど、故障の原因になるおそれがあります。

警告

■道路の路肩などにタイヤの側面を接触させたり、凹凸やわだちの乗り越しは避けてください。

タイヤの損傷、き裂などをまねくおそれがあります。

溝の深さ、異常摩耗の点検

タイヤの溝の深さが十分であるか、摩耗限界表示 (ウェアインジケーター) が現れていないか、また、タイヤに片減りや局部摩耗、段付き摩耗がないかを目視で点検します。

警告

■タイヤの溝の深さが少ないタイヤや摩耗限界表示 (ウェアインジケーター) が現れているタイヤを使用しないでください。

そのまま使用すると、制動距離が長くなったり、雨の日にハイドロプレーニング現象※により、ハンドル操作ができなくなったり、タイヤがバースト (破裂) するなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。摩耗限界表示が現れたらすみやかに正常なタイヤと交換してください。

※ぬれた路面を高速で走行すると、タイヤと路面の間に水の膜ができ、タイヤが浮いた状態になり、ハンドルやブレーキが効かなくなる現象。

知識

ウェアインジケーターは、タイヤの接地面にあり、他の部分より溝が1.6mmだけ浅くなっています。

車の手入れ

外装の手入れ

車を美しく保つためには日ごろの手入れが大切です。

- 保管、駐車は風通しのよい屋根のある場所をおすすめします。
- 走行後は、車体についたほこりをやわらかい布か毛ばたきで払い落としましょう。
- とび石などによる塗装の傷は腐食の原因となります。見つけたら早めに補修してください。
- 洗車やワックスがけ、装備品の手入れは定期的に行ないましょう。
- ベンジンやガソリンなどの有機溶剤は塗装を損傷するので付着させないでください。
  万一付着した場合はただちにふき取るか、洗車してください。
- 次のようなときは、早めに洗車などの手入れを行なってください。
  そのまま放置しておくと、塗装の変色や車体の腐食の原因となります。
  - 海岸地帯を走行したとき。
  - 凍結防止剤を散布した雪道を走行したとき。
  - ばい煙や粉じん、鉄粉、化学物質などの降下の多い場所を走行したとき。
  - 鳥のふん、虫の死がい、樹液、果実などが付いたとき。
  - コールタール、塗料、砂じん、コンクリートの粉などが付いたとき。
  - 泥、ほこりが著しく付いたとき。
  - 雨の中を走行したときや、雨にぬれたとき。

知識

工場から排出される化学物質や車の排気ガスなどが雨に溶けて降り注いだものを酸性雨といいます。
酸性雨をボディーに付着させたままにしておくと、塗装を傷つけるおそれがあります。早めに水で洗い流してください。

洗車するとき

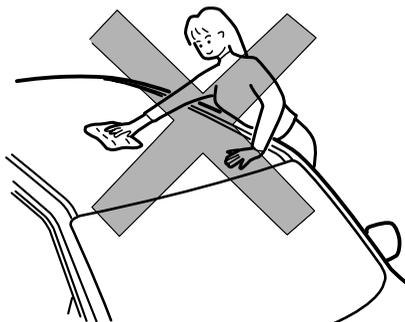
水洗いするとき

1. 車の足まわりに付いている泥を洗い落とします。
2. 車体上部から水をかけながら、やわらかいスポンジやセーム皮などで洗います。汚れがひどいときは洗車用洗剤を使用し、水で十分洗い流してください。
3. はん点が残らないように水をふき取ってください。

⚠ 注意

- **車の下まわりや足まわりを洗うときはけがをしないよう注意してください。**
- **オートワイパー装備車は、ワイパーレバーをOFFの位置にしてください。電源ポジションがONで、ワイパーレバーがAUTOの位置のとき、ワイパーが自動で作動することがあります。**
- **エンジンルーム内の電気部品に水をかけないでください。エンジンの始動不良や電気部品の故障につながるおそれがあります。**

⚠ 注意

- **洗車後は、ブレーキパッドがぬれているため、ブレーキの効きが悪くなっているおそれがあります。低速で走りながら、アクセルペダルを放してブレーキペダルを軽く数回踏んで、効きが回復するまでブレーキを乾かしてください。**
- **洗車やワックスがけを行なうときは、車体のルーフ部の一点に強い力をかけないようにしてください。強い力をかけると、万一の場合、車体がへこむことがあります。**

知識

洗車するときは、硬いブラシやたわしなどを使用しないでください。
塗装を傷つけるおそれがあります。

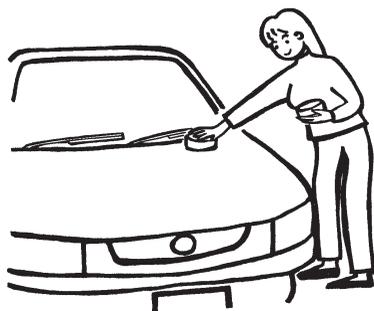
自動洗車機を使用するとき

- ドアミラーを格納してください。
- アンテナを取りはずしてください。
- 自動洗車機を使用すると、ブラシにより傷がつき塗装の光沢が失われたり、劣化を早めることがあります。
- スポイラー装備車は、洗車機によってはスポイラーがひっかかり洗車できない場合や損傷するおそれがあります。

車の手入れ

高圧洗車機を使用するとき

洗車機は機種によっては高温、高圧のものがあります。洗車ノズルを近づけすぎると、モールなど樹脂部分やシール材などが変形、損傷したり、室内に水が入るおそれがありますので、洗車ノズルと車体との距離は十分に離してください (30cm以上)。また、同じ場所を連続して洗浄しないでください。ドアのすき間や窓ガラスまわりは、特に注意して行ってください。

ワックスをかけるときは

- ワックスがけは月に一回程度、または水のはじきが悪くなったときに洗車してから行なってください。
- 直射日光を避け、ボディーが冷えているとき (体温以下が目安) に行なってください。

知識

- コンパウンド (みがき粉) 入りのワックスを使用すると、塗装の光沢が失われることがあります。
- ワックス容器に記載してある使用説明をよく読んでから使用してください。

ガラス、ミラーの手入れ

ガラスやミラーについた油膜を取るときは、純正ガラスクリーナーを使用してください。

 知識

フロントガラスに油膜があると、ワイパーがふき取りにくくなったり、雨の夜に対向車のライトなどが乱反射して見えにくくなることがあります。

ガラスの内側をふくときは、水やぬるま湯でぬらしたやわらかい布で、軽くふいてください。

⚠ 注意

熱線やアンテナ線を損傷するおそれがあるため、熱線やアンテナ線にそってふいてください。ガラスクリーナーなどを使用すると、熱線やアンテナ線をいためるおそれがあります。

アルミホイールの手入れ

グレード/仕様別装備

アルミホイールに海水や凍結防止剤を付着させたままにしておくと、腐食するおそれがあります。
できるだけ早く水洗いしてください。
汚れのひどいときは中性洗剤をしみこませたやわらかい布などでふき取ってください。

注意

中性洗剤以外は使用しないでください。ご使用の際には成分をご確認ください。変色·シミの原因となります。

知識

- アルミホイールは傷がつきやすいので、砂入り石けんや硬いブラシは使用しないでください。
- 自動洗車機を使用すると、ブラシにより傷がつくことがあります。

外装樹脂部品の手入れ

- バンパーなど樹脂部品の塗装面にガソリン、オイル、冷却水、バッテリー液などが付着すると変色、シミ、塗膜はがれなどの原因となります。すみやかに軟らかい布でふき取ってください。
- 高圧洗車機は機種によって洗浄水が高温、高圧になるものがあります。必要以上に洗車ノズルを近づけたり長時間水圧をかけると樹脂部品の変形や塗膜の損傷などの原因になることがありますのでご注意ください。
- コンパウンド (みがき粉) 入りのワックスを使用すると、塗膜を損傷するおそれがありますので使用しないでください。
- 電動またはエア工具を使用してコンパウンド (みがき粉) がけやワックスがけを行なうと摩擦熱が発生して、樹脂部品の変形や塗膜の損傷などの原因になることがありますので使用しないでください。
- プラスチックレンズを使用しているランプ類は、ガソリン、灯油、高濃度アルコール類、塗料、シンナー、強酸性洗剤、強アルカリ性洗剤などの化学液により表面が変色したりダメージを受けて、機能を著しく損なうおそれがあります。お手入れの際には使用しないでください。万一付着したときは、すみやかに水で洗い流してください。

内装の手入れ

知識

室内に水をかけないでください。
オーディオなどの電気部品に水がかかると故障の原因になります。

布張り部分の手入れ

汚れたままにしておくと、汚れが落ちにくくなったり、シミや変色を生じることがあります。早めに手入れを行なってください。

1 水で薄めた中性洗剤 (約5%) をやわらかい布に含ませ、軽くたたくようにして汚れた部分をふき取ります。

2 きれいな水にひたした布を固くしぼり、残った洗剤をふき取ります。

知識

- 硬いブラシや布で強くこすると、傷がつくことがあります。
- シンナー、ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤や、アルコール、塩素系漂白剤などでふかないでください。変色、シミの原因になります。

革張り部分の手入れ

グレード/仕様別装備

汚れたままにしておくと、汚れが落ちにくくなったり、シミや変色を生じることがあります。早めに手入れを行なってください。

1 掃除機などでホコリや砂を取り除きます。

2 純正専用クリーナーまたは水で薄めた中性洗剤 (約5%) をやわらかい布に含ませ、汚れをふき取ります。

3 きれいな水にひたした布を固くしぼり、残った洗剤をふき取ります。

4 乾いたやわらかい布で水分を取り、風通しのよい日陰で乾燥させます。
雨などでぬれたときも早めに水分をふき取り、乾燥させてください。

知識

- 天然素材のため、シボ (本革表面の凹凸) の不均一や牛革本来の傷が分かる場合があります。
- 品質を長く保つため、年に2回程度の定期的なお手入れをおすすめします。
- シート表面についた砂やホコリなどは、本革表面の保護膜を傷つけ早期摩耗の原因になります。
- 本革部分に油汚れなどが付くとカビやシミなどの原因になります。
- 硬いブラシや布で強くこすると、傷がつくことがあります。
- シンナー、ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤や、アルコール、塩素系漂白剤などでふかないでください。変色、シミの原因になります。
- シートがぬれたときはすぐに乾いた布で水分をふき取ってください。表面に水分が残っていると硬化、収縮など変質の原因になります。
- 直射日光に長時間さらすと、変質、縮みなどの原因になります。長時間駐車するときは、サンシェード (日除け) を使用するなどして直射日光をさえぎってください。
- ビニール製品を長時間シートの上に置かないでください。変質、変色の原因になります。室内が高温になっているとビニールが変質して本革部分に付着するおそれがあります。

樹脂部品の手入れ

樹脂部品に油脂類が付着すると、変色、シミ、ひび割れ、塗膜はがれの原因になります。
早めにやわらかい布などでふき取ってください。

注意

つや出し剤を使用しないでください。
含まれる成分によっては変色、シミ、ひび割れ、塗膜はがれの原因になります。

インストルメントパネル上面 (ソフトパッド部) の手入れ

ソフトパッド部の表皮には非常にやわらかい素材を使用しています。乾いた布などで強くこすると白い擦り傷となる場合があります。

1 水で薄めた中性洗剤 (約5%) をやわらかい布に含ませ、汚れをふき取ります。

2 きれいな水にひたした布を固くしぼり、残った洗剤をふき取ります。

知識

- 硬いブラシや布で強くこすると、傷がつくことがあります。
- シンナー、ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤や、アルコール、塩素系漂白剤などでふかないでください。変色、シミの原因になります。

シートベルトの手入れ

汚れたままにしておくと、汚れが落ちにくくなったり、ベルトの巻き取りが悪くなることがあります。早めに手入れを行なってください。

1 水で薄めた中性洗剤 (約5%) をやわらかい布に含ませ、軽くたたくようにして汚れた部分をふき取ります。

2 きれいな水にひたした布を固くしぼり、残った洗剤をふき取ります。

3 手入れのため引き出したシートベルトを巻き取らせるときは、十分に乾燥させ、水分が残っていないことを確認してください。

警告

■シートベルトにほつれ、すりきずなどの異常があるときは、マツダ販売店で交換してください。
そのままの状態で使用すると、万一の場合シートベルトの効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。

知識

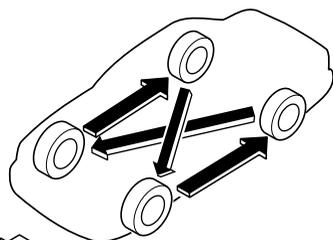
- 硬いブラシや布で強くこすると、傷がつくことがあります。
- シンナー、ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤や、アルコール、塩素系漂白剤などでふかないでください。変色、シミの原因になります。

その他の手入れ

タイヤの位置交換 (タイヤローテーション)

タイヤの偏摩耗を防ぎ、寿命をのばすために、約5,000km走行ごとにタイヤの位置を交換してください。

知識

タイヤパンク応急修理キット搭載車
お客様のお車にはスペアタイヤが標準で搭載されていないため、搭載されているジャッキではタイヤの位置交換を行なうことができません。タイヤの位置交換を行なうときはマツダ販売店にご相談ください。

警告

■ タイヤを交換するときは指定されたタイヤを装着してください。

指定された組み合わせ以外のタイヤを装着すると走行安定性が損なわれるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

注意

タイヤには、回転方向が指定されているものがあります。タイヤを交換するときは、タイヤ側面の回転方向を示す矢印に従って取り付けてください。

知識

- タイヤの位置交換を行なうときは、搭載されているジャッキとスペアタイヤを使用して1輪ずつ交換して下さい。
→299ページ「タイヤ交換」
- タイヤの位置交換を行うまえにタイヤの空気圧、摩耗を点検してください。
→359ページ「タイヤの点検」

冬にそなえて

エンジンオイルの準備

外気温に応じたエンジンオイルに交換してください。
→381ページ「エンジンオイル」

冷却水の濃度の調節

冷却水には、凍結を防止するために不凍液が入っています。
冬場になっても凍結しないよう冷却水の濃度を調節してください。

不凍液の割合	使用温度範囲 (外気温)
30%	−16°C以上
50%	−37°C以上

純正ロングライフクーラント(ゴールデン) FL22 を使用する場合
純正ロングライフクーラント(ゴールデン) FL22 は濃度調整済みの冷却水です。
薄めずそのままご使用ください。

冷却水量の点検や補充については別冊のメンテナンスノートに記載しています。
冷却水を交換する場合はマツダ販売店にご相談ください。

ウォッシャー液の濃度の調節

ウォッシャー液が凍結するのを防ぐため、ウォッシャー液容器に表示してある凍結温度を参考にして、外気温に応じた濃度に調節してください。
→359ページ「ウォッシャー液の補充」

バッテリー液の点検

気温が下がるとバッテリー性能が低下するためエンジン始動が困難になる場合があります。
バッテリー液の量、比重を点検し、必要に応じて液の補充をしてください。
点検、補充の要領は別冊のメンテナンスノートに記載しています。

冬用タイヤ、タイヤチェーンの準備

冬用タイヤに交換するときは、前後輪とも指定された同一サイズ、同一種類のものを使用してください。

警告

■ タイヤを交換するときは前後輪とも必ず指定された同一サイズ、同一種類のものを使用してください。
指定された組み合わせ以外のタイヤを装着すると走行安定性が損なわれるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

知識

18インチタイヤ装着車にはタイヤチェーンを装着することができません。タイヤチェーンを使用するときは、17インチ冬用タイヤに前後輪とも交換して、純正のタイヤチェーンを使用してください。詳しくはマツダ販売店にご相談ください。

タイヤチェーンはタイヤサイズに合った純正品を準備し、使用する前に一度装着してみてサイズを確認しておきましょう。
→372ページ「タイヤチェーンの取り付け」

運転する前に

ルーフに雪が積もっているときは

- 走行中、ガラスに雪が落ちると視界のさまたげとなり危険です。
走行前に取り除いてください。
- ルーフの雪を取り除くときは、アンテナに注意して取り除いてください。アンテナを損傷するおそれがあります。

ガラスに雪や霜がついているときは

視界を確保するため取り除いてください。プラスチックの板などを使用して取り除くことができます。プラスチックの板などを使用する時はガラスに傷をつけないように注意して取り除いてください。

足まわりなどに雪や氷が付着しているときは

部品に傷をつけないように注意して取り除いてください。

ドアなどが凍結しているときは

- ドアが凍結しているときは、お湯をかけて氷を溶かしてから開けてください。
無理に開けようとすると、ドアまわりのゴムがはがれたり、周辺部を損傷するおそれがあります。
- ドアのキー穴部にはお湯をかけないでください。凍結してキーが差しこめなくなるおそれがあります。
- お湯をかけたあとは、すぐに水分をふき取ってください。
- ワイパー、パワーウインドー、電動ドアミラーなどが凍結して動かない場合もお湯をかけて氷を溶かしてから操作してください。
無理に動かそうとすると故障の原因になります。

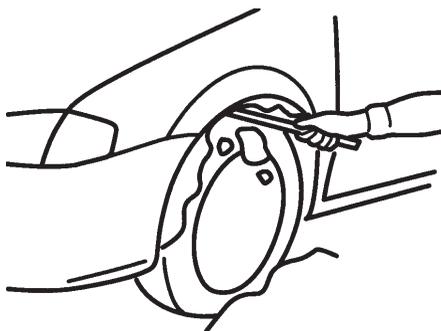
車に乗るときは

靴についた雪をよく落としてから乗車してください。
ペダル類を操作するときにすべったり、室内の湿気が多くなるため窓ガラスが曇ったりすることがあります。

走行するときは

すべりやすい路面を走行するときは

- 早めに冬用タイヤまたはタイヤチェーンを装着してください。
  →372ページ「タイヤチェーンの取り付け」
- 急発進、急ハンドルや急ブレーキを避け、ひかえめな速度で運転してください。
- 日陰や橋の上、水たまりなど、凍結しやすい場所にさしかかる前では速度を落とし、注意して走行してください。

ハンドルの切れ具合に注意

走行中、フェンダーの裏側に雪が付着して氷になり、ハンドルの切れが悪くなることがあります。
ときどき車を止めて点検し、氷塊が大きくなる前に取り除いてください。

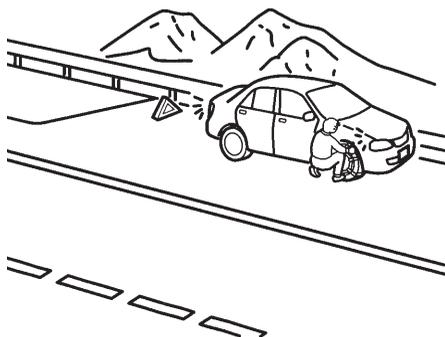
ブレーキの効き具合を確認

ブレーキ装置に雪や氷が付着すると、ブレーキの効きが悪くなるおそれがあります。
効きが悪いときは、低速で走りながらアクセルペダルを放してブレーキペダルを軽く数回踏んで、効きが回復するまでブレーキを乾かしてください。

積雪、寒冷時の取り扱い

駐車するときは

- 寒冷時はパーキングブレーキをかけると凍結して解除できなくなるおそれがあります。
  パーキングブレーキは使わず、マニュアル車はチェンジレバーを1またはRに、オートマチック車はセレクトレバーをPにいれてタイヤに輪止めをしてください。
- ボンネット側を風下に向けて駐車してください。風上に向けるとエンジンが冷えすぎて始動しにくくなることがあります。
- ワイパーアームは立てて駐車してください。寒冷時はワイパーゴムがガラスに凍りつくことがあります。

タイヤチェーンの取り付け

タイヤチェーンは4WD車も前輪に取り付けます。
タイヤチェーンはタイヤサイズにあった純正品を使用してください。タイヤチェーンに付属の取扱説明書にしたがって正しく取り付けてください。
タイヤチェーンの取り付けは、交通のさまたげにならず、安全に作業ができる平らな場所で行なってください。
路上で行なう場合は、非常点滅灯、停止表示板(停止表示灯)を使用してください。

⚠ 注意

- **標準タイヤのみタイヤチェーンの装着ができます。標準タイヤ以外のタイヤにタイヤチェーンを装着すると、タイヤチェーンがボディーなどに干渉し、傷をつけることがあります。くわしくはマツダ販売店にご相談ください。**
- **4WD車の前輪がパンクしたときは、タイヤパンク応急修理キットでパンクタイヤを修理し、タイヤチェーンを装着してください。**
  →302ページ「タイヤパンク応急修理キット」

⚠ 注意

- **応急用スペアタイヤにタイヤチェーンは装着できません。前輪がパンクしたときは応急用スペアタイヤを後輪に、はずした後輪を前輪に取り付け、前輪にタイヤチェーンを装着してください。**
- **純正品以外のタイヤチェーンを使用するとボディーなどに干渉し、傷をつけるおそれがあります。くわしくは、マツダ販売店にご相談ください。**
- **タイヤチェーンを装着して走行するときは、突起物や穴を乗り越えたり、急ハンドルや車輪がロックするようなブレーキ操作などをしないでください。極端に車体が沈み込んだ場合、ボデーなどに干渉し、傷をつけるおそれがあります。**
- **積雪路、凍結路以外ではタイヤチェーンを装着して走行しないでください。チェーンの摩耗を早める原因になります。また、4WD車は駆動系部品に悪影響をおよぼし故障につながるおそれがあります。**
- **タイヤチェーンを装着したときは、30km/h以下で走行してください。30km/h以上で走行すると、タイヤチェーンにかかる負担が大きくなるため、チェーンが切れやすくなります。**

知識

- お客様のお車にタイヤチェーンは標準で搭載されていません。必要に応じてマツダ販売店でお求めください。
- ホイールキャップ装着車は、キャップをはずしてからタイヤチェーンを取り付けてください。ホイールキャップに傷がつくおそれがあります。
- アルミホイール装着車にタイヤチェーンを取り付けると、ホイールに傷がつくおそれがあります。
- 18インチタイヤ装着車にタイヤチェーンを使用すると、ボディーなどに干渉し傷を付けることがあるため装着できません。タイヤチェーンを使用するときは、17インチ冬用タイヤに前後輪とも交換して、純正のタイヤチェーンを使用してください。詳しくはマツダ販売店にご相談ください。

寒冷地用ワイパーブレードについて

グレード/仕様別装備

降雪期にフロントガラスに雪が付着するのを防ぐために、寒冷地用ワイパーブレードをお使いください。
寒冷地用ワイパーブレードは通常のワイパーブレードの金属部分をゴムでおおってあります。
必要に応じてマツダ販売店でお求めください。

知識

高速走行時は、通常のワイパーブレードよりふき取りにくくなりますので、ワイパー使用時は速度を落として走行してください。

夏期の取り扱い

エアコンのチェック

エアコンの冷媒 (エアコンガス) が不足していると、冷房性能が低下します。
夏になる前にマツダ販売店で点検を受けておきましょう。

 知識

エアコンガスはHFC134a (R134a) を使用しています。補充、交換の際には必ずHFC134aを入れてください。エアコンガスは地球温暖化に悪影響をおよぼすため大気放出はしないでください。点検、補充、交換、廃棄についてはマツダ販売店にご相談ください。

炎天下に駐車したあとは

炎天下に駐車したあとは室内の温度が大変高くなります。このようなときは、窓ガラスを開けて、室内の熱気を逃がしてからエアコンを作動させてください。

オーバーヒートを防ぐために

冷却水の量が不足していないかこまめに点検してください。
点検要領は別冊のメンテナンスノートに記載しています。

雨の日の運転

ガラスが曇るときは

湿度の高い日はガラスが曇りやすくなります。このようなとき、エアコンを使用して曇りを取ることができます。エアコンを作動させると吹き出し風が除湿されるため、より効果的に曇りを取ることができます。
→222ページ「空調」
リヤガラスの曇りを取るときは、リヤウインドーデフォッガースイッチを押してください。
→186ページ「リヤウインドーデフォッガー (曇り取り) スイッチ」

フロントガラスの油膜をとるときは

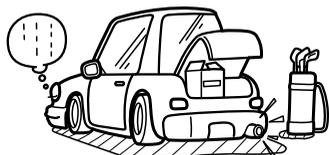
雨の夜は、フロントガラスに油膜があると、対向車のライトなどが乱反射して、見えにくくなることがあります。
ガラスクリーナーを使ってフロントガラスの表面をきれいにしてください。

経済的な運転

地球環境にやさしい、経済的な運転を心がけてください。

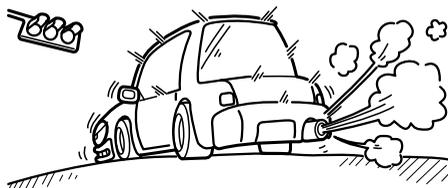
以下に示す数値は、対象車種2.0リットル乗用車 (AT) の燃費＝11.7km/l (10·15モード) が計算ベースです。 (社団法人 日本自動車工業会調べ)

アイドリングストップ

コンビニでの買い物、人待ちや荷降ろしなど、ちょっとした駐車のときにもエンジンを止めましょう。5分間アイドリングをやめると、約65mlの燃料を節約できます。

不要な荷物は積まない

荷物が多いほど、燃料を多く消費します。不要な荷物は降ろして走行しましょう。10kgの荷物を降ろして50km走ると、約15mlの燃料を節約できます。

空ぶかしをしない

空ぶかしは環境にも車にもよくありません。空ぶかしを10回やめると、約60mlの燃料を節約できます。

エアコンの使用は控えめに

エアコンの使用を控えると、燃料の節約になります。エアコンを5分間停止すると、約55mlの燃料を節約できます。

タイヤの空気圧を適正に

こまめに点検し、適正な空気圧に調整しましょう。適正値で50km走ると、50kPa減のときに比べて、約150mlの燃料を節約できます。

ゆとりある走行を

急発進、急加速、急ブレーキは避けましょう。急発進を10回やめると約170ml、急加速を10回やめると約110mlの燃料を節約できます。

経済的速度

一般道路で40km/h、高速道路で80km/h程度の等速走行が経済的です。

アクセルペダルの上手な踏みかた

加速終了時(オートマチック車)

アクセルペダルを少し大きめにもどしてみましょう。適切に無駄なく自動変速されるため、燃費がよくなります。

下り坂に入るとき、減速を始めるとき

早めにアクセルペダルをもどし、エンジンブレーキを使いましょう。アクセルペダルをもどすと燃料噴射が停止されるので、燃費がよくなります。

等速走行時

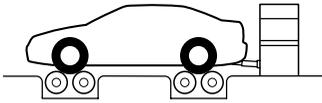
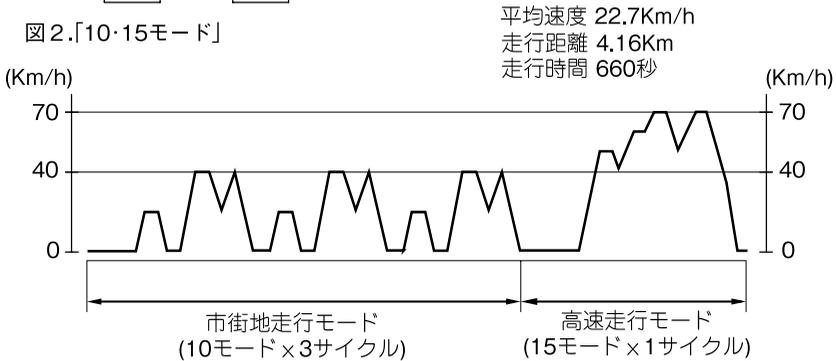
アクセルペダルの踏み加減を一定に保ちましょう。
アクセルペダルの踏み込み、踏みもどしは少ないほど燃料噴射が少なくなるため、燃費がよくなります。

環境保護のために

10･15モード燃費について

「10･15モード」とは

車両カタログに記載されている「10･15モード」燃費は、一定の条件に従って測定された燃費です。
このモードは都市内走行状態を再現したもので、図1のようにシャシーダイナモメーター上で実際の道路上の走行状態を再現し、エンジン暖機後、図2のようなパターンを走行するものです。

図1.シャシーダイナモメーター

「10･15モード」は、都市内走行状態を再現したものですが、あくまでも代表的な走行パターンです。そのため、実際の走行とは異なる場合が多く、
例えば

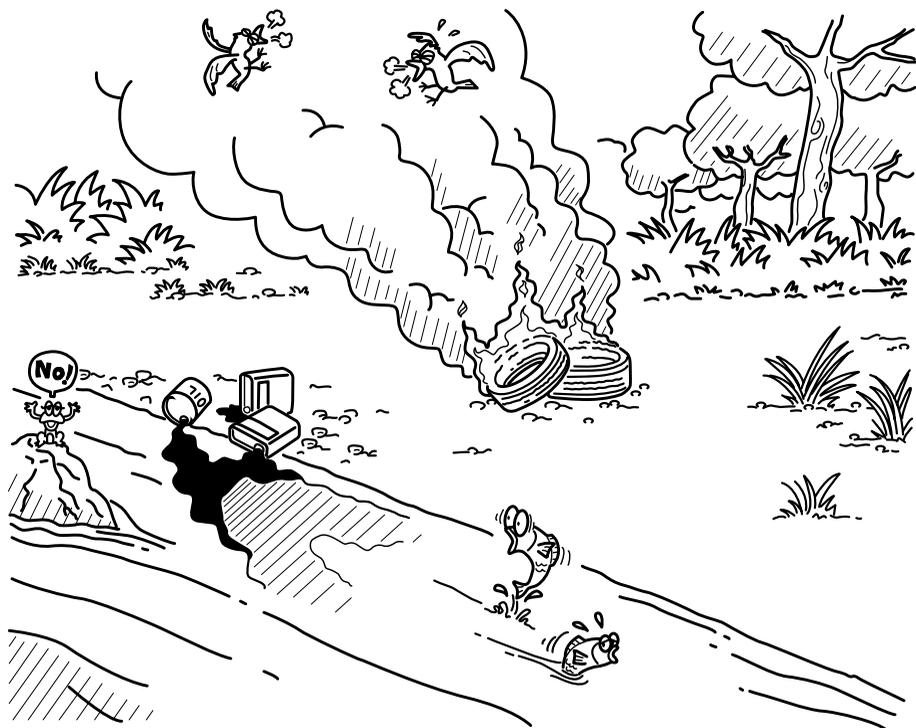
- 走行速度の平均が「10･15モード」より低い
- 停車比率(運転中に車が止まっている割合)が高い
- 急な加速を行った

など条件の違いにより燃費が悪くなります。
参考資料

- (社)日本自動車工業会:「あしたへECO-MOTION」
- (社)日本自動車連盟:「ECO MANUAL 車に関する環境エコ基礎知識集」

廃棄物を処理するときは

廃棄物については、法律上適切な処理が求められています。

- タイヤを燃やすと有毒なガスが発生するので、自己処理はしないでください。使用済みタイヤは新品タイヤを購入した販売店に処分を依頼してください。
- バッテリーは鉛や硫酸が使われています。使用済みバッテリーは新品バッテリーを購入した販売店に処分を依頼してください。
- エンジンオイルやクーラントが地下や川などに流れ出すと、環境を悪化させます。交換済みのエンジンオイルは新品エンジンオイルを購入した販売店に処分を依頼してください。また、クーラントを交換する場合はマツダ販売店にご相談ください。
- エアコンにはオゾン層を破壊しない代替フロンガスHFC134a (R134a) を使用しています。それでも代替フロンガスには地球を温暖化するはたらきがあります。ガスの大気放出を防止するため、エアコンの点検、修理はマツダ販売店か専門の修理業者に依頼してください。

燃料、オイル、液類

■燃料

項目		サービスデータ
使用燃料	L3-VDT型エンジン以外	無鉛レギュラーガソリン
	L3-VDT型エンジン	無鉛プレミアム (無鉛ハイオク) ガソリン
タンク容量 (参考値)	L3-VDT型エンジン以外	55L
	L3-VDT型エンジン	60L

■フューエルフィルター

項目	サービスデータ
交換時期	160,000km走行ごと

■エンジンオイル

オイル量の確認は、必ずレベルゲージで行なってください。
交換時期は走行kmまたは年月のどちらか早い方で交換してください。
寒冷地では、エンジンオイルが劣化しやすいので、早めにオイルを交換してください。

<table>
<tr><th colspan="3">項目</th><th colspan="2">サービスデータ</th></tr>
<tr><td rowspan="4">交換時期</td><td colspan="2" rowspan="2">L3-VDT型エンジン以外</td><td>標準</td><td>15,000kmまたは1年ごと</td></tr>
<tr><td>シビアコンディション*1</td><td>7,500kmまたは6か月ごと</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">L3-VDT型エンジン</td><td>標準</td><td>10,000kmまたは6か月ごと</td></tr>
<tr><td>シビアコンディション*1</td><td>5,000kmまたは3か月ごと</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="5">推奨オイル</td><td>純正モーターオイルゴールデンECO*2</td><td colspan="2">API SM/ILSAC GF-4、SAE 0W-20</td></tr>
<tr><td rowspan="3">純正モーターオイルゴールデンSM</td><td colspan="2">API SM/ILSAC GF-4、SAE 5W-20</td></tr>
<tr><td colspan="2">API SM/ILSAC GF-4、SAE 5W-30</td></tr>
<tr><td colspan="2">API SM/ILSAC GF-4、SAE 10W-30</td></tr>
<tr><td>純正モーターオイルゴールデンSL</td><td colspan="2">API SL/ILSAC GF-3、SAE 5W-30</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th colspan="3">項目</th><th>サービスデータ</th></tr>
<tr><td rowspan="6">交換量(参考値)</td><td rowspan="2">ZY-VE型エンジン、Z6-VE型エンジン</td><td>オイルのみ</td><td>3.7L</td></tr>
<tr><td>オイルとオイルフィルター</td><td>3.9L</td></tr>
<tr><td rowspan="2">LF-VE型エンジン、LF-VDS型エンジン</td><td>オイルのみ</td><td>3.9L</td></tr>
<tr><td>オイルとオイルフィルター</td><td>4.3L</td></tr>
<tr><td rowspan="2">L3-VDT型エンジン</td><td>オイルのみ</td><td>5.3L</td></tr>
<tr><td>オイルとオイルフィルター</td><td>5.7L</td></tr>
</table>

*1 シビアコンディションの条件については、別冊のメンテナンスノートに記載しています。

*2 純正モーターオイル ゴールデンECOはマツダオリジナルの最も省燃費性に優れたオイルです。

使用温度範囲

エンジンオイルは外気温に応じた粘度のものを次の表にもとづき使用してください。

■エンジンオイルフィルター

交換時期は走行kmまたは年月のどちらか早い方で交換してください。

項目		サービスデータ	
交換時期	L3-VDT型エンジン以外	標準	15,000kmまたは1年ごと
		シビアコンディション*	7,500kmまたは6か月ごと
	L3-VDT型エンジン	標準	10,000kmまたは6か月ごと
		シビアコンディション*	5,000kmまたは3か月ごと

* シビアコンディションの条件については、別冊のメンテナンスノートに記載しています。

■マニュアルトランスミッションオイル

項目		サービスデータ
推奨オイル		純正ロングライフ SAE 75W-80 (GL-4)
容量 (参考値)	5速トランスミッション	2.91L
	6速トランスミッション	2.5L

サービスデータ

■オートマチックトランスミッションフルード

液量の確認は、レベルゲージで行なってください。

項目	サービスデータ		
推奨フルード	2WD		純正ATF M-V
	4WD		純正ATF M-III
容量 (参考値)	2WD	4速トランスミッション	7.0L
		5速トランスミッション	8.14L
	4WD		8.0L

■CVTフルード

項目	サービスデータ
推奨フルード	Mobil CVTF 3320
容量 (参考値)	6.70L

■ディファレンシャルオイル (4WD)

項目	サービスデータ	
交換時期	標準	無交換
	シビアコンディション*	60,000km走行ごと
推奨オイル	純正ロングライフハイポイド SAE 80W-90 (GL-5)	
容量 (参考値)	1.0L	

* シビアコンディションの条件については、別冊のメンテナンスノートに記載しています。

■トランスファーオイル (4WD)

項目	サービスデータ
推奨オイル	純正ロングライフハイポイド SAE 80W-90 (GL-5)
容量 (参考値)	1.05L

■パワーステアリングフルード

液量の確認は、リザーバータンク表面のゲージで行なってください。

項目		サービスデータ
推奨フルード		純正ATF M-III、純正ATF M-V
容量 (参考値)	Z6-VE型エンジン	1.3L
	Z6-VE型エンジン以外	1.0L

■ブレーキ液

液量の確認は、リザーバータンク表面のゲージで行なってください。

項目	サービスデータ
交換時期	2年ごと (初回は3年)
推奨液	純正ブレーキフルードBF-3 (DOT-3)

サービスデータ

■冷却水

液量の確認は、リザーバータンク表面のゲージで行なってください。

項目		サービスデータ
交換時期	純正ロングライフクーラント	2年ごと (初回は3年)
	純正ロングライフクーラント (ゴールデン)*1	100,000km走行または4年ごと (初回は180,000km走行または9年)
推奨液		純正ロングライフクーラント、 純正ロングライフクーラント (ゴールデン)*1
容量 (参考値)	ZY-VE型エンジン、Z6-VE型エンジン	6.0L
	ZY-VE型エンジン、Z6-VE型エンジン以外	7.5L

*1 ラジエーターキャップまたはその付近に FL22 のマークがある場合は、純正ロングライフクーラント (ゴールデン) を使用してください。詳しくはマツダ販売店にご相談ください。

■ウォッシャー液

液量の確認は、レベルゲージで行なってください。

項目	サービスデータ
タンク容量 (参考値)	2.5L

各部の点検値、交換時期

■ブレーキペダル

項目	サービスデータ
遊び	4.0〜8.4mm
フロアマットとのすき間 (踏力147N {15kgf})	87.4mm以上

■パーキングブレーキ

項目	サービスデータ
引きしろ (操作力98N {10kgf})	2〜6ノッチ

■クラッチペダル

項目	サービスデータ
遊び	15mm以下
フロアマットとのすき間 (クラッチが切れたとき)	66.1mm以上

■オルタネーターベルト

項目	サービスデータ
たわみ量	自動調整式 (使用限度をこえているものは交換)

■エアクリーナーエレメント

項目	サービスデータ	
交換時期	標準	50,000km走行ごと
	シビアコンディション*	25,000km走行ごと

* シビアコンディションの条件については、別冊のメンテナンスノートに記載しています。

電気部品/電球 (バルブ)

■スパークプラグ

項目			サービスデータ
型式	イリジウムプラグ*2	ZY-VE型エンジン	ZY51 18 110*1、ZYY1 18 110
		LF-VE型エンジン	LFG1 18 110*1、L3Y2 18 110
		LF-VDS型エンジン	L3G2 18 110*1、L3Y1 18 110
		L3-VDT型エンジン	L3BD 18 110*1、L3YD 18 110
	イリジウムプラグ以外*2	Z6-VE型エンジン	BP01 18 110*1、BP02 18 110*1、BP13 18 110*1、BPY1 18 110、BPY2 18 110
電極のすき間	ZY-VE型エンジン		1.0〜1.1mm
	Z6-VE型エンジン		1.0〜1.1mm
	LF-VE型エンジン		1.25〜1.35mm
	LF-VDS型エンジン		1.25〜1.35mm
	L3-VDT型エンジン		0.6〜0.7mm

*1 工場装着

*2 スパークプラグの種類については、スパークプラグ本体で確認してください。

注意

イリジウムプラグは、ワイヤーブラシなどによる清掃は行なわないでください。イリジウム合金チップおよび白金チップの微粒子膜が損傷または脱落するおそれがあります。

■バッテリー

項目			サービスデータ
型式、容量	ZY-VE型エンジン、Z6-VE型エンジン		75D23L、52AH (5時間率)
	LF-VE型エンジン、L3-VDT型エンジン		55D23L、48AH (5時間率)
	LF-VDS型エンジン	メインバッテリー	N-55、36AH (5時間率)
		サブバッテリー	26B17L、21AH (5時間率)

■電球 (バルブ) の容量

<table>
<tr><th colspan="4">電球 (バルブ)</th><th>W数 (12V用)</th></tr>
<tr><td rowspan="3">ヘッドランプ</td><td colspan="2" rowspan="2">ディスチャージヘッドランプ
非装備車</td><td>上向き (ハイビーム)</td><td>60W</td></tr>
<tr><td>下向き (ロービーム)</td><td>55W</td></tr>
<tr><td colspan="3">ディスチャージヘッドランプ装備車</td><td>35W</td></tr>
<tr><td rowspan="2">フォグランプ
グレード/仕様別装備</td><td colspan="3">L3-VDT型エンジン以外</td><td>51W</td></tr>
<tr><td colspan="3">L3-VDT型エンジン</td><td>55W</td></tr>
<tr><td colspan="4">車幅灯</td><td>5W</td></tr>
<tr><td colspan="4">前面方向指示灯/非常点滅灯</td><td>21W</td></tr>
<tr><td colspan="3" rowspan="2">側面方向指示灯/非常点滅灯</td><td>バルブタイプ</td><td>5W[*1]</td></tr>
<tr><td>ミラー内蔵タイプ</td><td>LED[*2]</td></tr>
<tr><td colspan="4">後面方向指示灯/非常点滅灯</td><td>21W</td></tr>
<tr><td rowspan="2">制動灯/尾灯</td><td colspan="3">バルブタイプ</td><td>21/5W</td></tr>
<tr><td colspan="3">LEDタイプ</td><td>LED[*2]</td></tr>
<tr><td colspan="4">後退灯</td><td>21W</td></tr>
<tr><td colspan="4">番号灯</td><td>5W</td></tr>
<tr><td rowspan="4">ハイマウントストップランプ</td><td colspan="3">セダン</td><td>21W</td></tr>
<tr><td rowspan="3">ハッチバック</td><td rowspan="2">バルブタイプ</td><td>Aタイプ</td><td>16W</td></tr>
<tr><td>Bタイプ</td><td>21W</td></tr>
<tr><td colspan="2">LEDタイプ</td><td>LED[*2]</td></tr>
<tr><td colspan="4">ルームランプ/マップランプ (フロント)</td><td>8W</td></tr>
<tr><td colspan="4">ルームランプ (リヤ)</td><td>10W</td></tr>
<tr><td colspan="4">トランクルームランプ (セダン)</td><td>3W</td></tr>
</table>

電球 (バルブ)	W数 (12V用)
ラゲッジルームランプ (ハッチバック)	5W
バニティミラーランプ グレード/仕様別装備	2W

*1 電球 (バルブ) の交換はできません。ランプユニット本体の交換となります。

*2 LEDはLight Emitting Diodeの略で発光するダイオードです。

ハイマウントストップランプ

Aタイプ

Bタイプ

■ヒューズ

→334ページ「ヒューズの受け持つ装置」

タイヤ/ホイール

■タイヤ/ホイールサイズ

標準タイヤ

タイヤサイズは、運転席ドアを開けたボディー側に貼付されているラベルで確認してください。

(L3-VDT型エンジン以外)

タイヤサイズ	ホイール		
	サイズ	インセット(オフセット)	ピッチサークル直径
195/70R15 92H	15×6J	50.0mm	114.3mm
195/65R15 91H	15×6J		
205/55R16 91V	16×6-1/2J		
205/50R17 89W	17×7J	52.5mm	

(L3-VDT型エンジン)

タイヤサイズ	ホイール		
	サイズ	インセット(オフセット)	ピッチサークル直径
225/40R18 88Y	18×7-1/2J	52.5mm	114.3mm

応急用スペアタイヤ

グレード/仕様別装備

タイヤサイズ	ホイール		
	サイズ	インセット(オフセット)	ピッチサークル直径
T115/70D15 90M	15×4T	45.0mm	114.3mm
T135/90D16 102M	16×4T		

スペアタイヤの代わりにタイヤパンク修理キットが搭載されている車両があります。

■タイヤ空気圧

標準タイヤ

適正空気圧は、運転席ドアを開けたボディー側に貼付されているラベルで確認してください。
→18ページ「日常点検としてタイヤを定期的に点検する」

(L3-VDT型エンジン以外)

タイヤサイズ	タイヤ空気圧	
	前輪	後輪
195/70R15 92H	220 kPa (2.2 kgf/cm^2)	220 kPa (2.2 kgf/cm^2)
195/65R15 91H	230 kPa (2.3 kgf/cm^2)	230 kPa (2.3 kgf/cm^2)
205/55R16 91V	240 kPa (2.4 kgf/cm^2)	230 kPa (2.3 kgf/cm^2)
205/50R17 89W	230 kPa (2.3 kgf/cm^2)	230 kPa (2.3 kgf/cm^2)

(L3-VDT型エンジン)

タイヤサイズ	タイヤ空気圧	
	前輪	後輪
225/40R18 88Y	240 kPa (2.4 kgf/cm^2)	230 kPa (2.3 kgf/cm^2)

応急用スペアタイヤ

グレード/仕様別装備

タイヤサイズ	タイヤ空気圧
T115/70D15 90M	420 kPa (4.2 kgf/cm^2)
T135/90D16 102M	

スペアタイヤの代わりにタイヤパンク修理キットが搭載されている車両があります。

■ブレーキディスクの摩耗限度情報

ブレーキディスクの使用限度値とその測定方法に関する情報が必要な場合は、マツダ販売店にご相談ください。

設定変更 (カスタマイズ機能)

以下の機能の設定をマツダ販売店で変更することができます。詳しくはマツダ販売店にご相談ください。

機能	内容	初期設定	変更内容
キー抜き忘れ防止チャイム	キー抜き忘れ防止チャイムの音量を変更できます。	音量大	音量小
ランプ消し忘れ防止チャイム*1	ランプ消し忘れ防止チャイムの音量を変更できます。	音量大	音量小/なし
方向指示器のブザー音	方向指示器のブザーの音量を変更できます。	音量大	音量小/なし
イルミネーテッドエントリーシステム	ドアを閉めてからルームランプが消灯するまでの時間を変更できます。	15秒	7.5秒/30秒/60秒
	運転席ドアを解錠してからルームランプが消灯するまでの時間を変更できます。	30秒	7.5秒/15秒/60秒
	電源ポジションをOFFにしたとき (アドバンストキー非装備車はエンジンスイッチからキーを抜いたとき)、ルームランプが点灯しないようにできます。	ON	OFF
	運転席ドアを解錠したとき、ルームランプが点灯しないようにできます。	ON	OFF
	ドアが確実に閉まっていないとき、ルームランプが自動的に消灯しないようにできます。	ON	OFF
	ドアが確実に閉まっていないとき、ルームランプが自動的に消灯するまでの時間を変更できます。	30分	10分/60分

機能	内容	初期設定	変更内容
キーレスエントリーシステム	アンロックスイッチを押して解錠した後、ドアまたはリヤゲート/トランクを開けなかった場合に自動的に施錠される時間を変更できます。	30秒	60秒/90秒
	施錠/開錠したときに、非常点滅灯が点滅しないようにできます。	ON	OFF
アドバンストキーレスエントリー&プッシュボタンスタートシステム	オートロック機能を作動させることができます。	OFF	ON
	アドバンストキー電池切れ表示が作動しないようにできます。	ON	OFF
	施錠/解錠時のチャイムの音量を変更できます。	音量大	音量小/なし
	警報音の音量を変更できます。	音量大	音量小
	アドバンストキーレスエントリー&プッシュボタンスタートシステム機能を作動させないようにできます。	ON	OFF
	リクエストスイッチを押して解錠した後、ドアまたはリヤゲート/トランクを開けなかった場合に自動的に施錠される時間を変更できます。	30秒	60秒/90秒
	電源ポジションをACC (オートマチック車はセレクトレバーがPの位置になっていること) で放置した場合、約1時間で電源ポジションがOFFになる機能を作動させないようにできます。	ON	OFF
	電源ポジションを切り替える順序を変更します。	ON→OFF	ON→ACC→OFF
オートライト機能	ヘッドランプが早めに点灯するようにできます。	通常の暗さで点灯	早めに点灯

*1 オートライト非装備車

A

C

D

E

I

S

T

ア

ア

イ

ウ

ウ

エ

オ

オ

カ

キ

ク

ケ

ス

セ

ソ

タ

タ

チ

テ

テ

ト

ト

ナ

ニ

ネ

ハ

ハ

ヒ

ヒ

フ

ラ

リ

ル

レ

ワ